

大 学 院 履 修 案 内

平 成 21 年 度
(2 0 0 9 年 度)

慶 應 義 塾 大 学
文 学 研 究 科

本案内は、大学院文学研究科における履修の方法、手続きと講義内容を記載したものです。学生諸君は本案内を熟読したうえで、履修する授業科目を申告してください。

履修申告を期日に行わない者は、退学の処置にすることがあります（学則 161 条）。

申告後の履修科目変更、追加、取消は認めません。又、履修届の閲覧も認めませんので「履修届」の本人用控え（コピー）を手許に残し、後日送付する確認表と合わせて確認の上、年度末まで必ず保管して下さい。この確認を怠った為に生じた不利益（申告漏れ、科目間違い等）については学校側は一切責任を持ちません。確認期間は送付後約一週間（詳しくは掲示により指示します）で、この期間経過後は、確認を終了したものと見做します。

申告をしていない授業科目を受験しても一切無効であり、単位は取得できません。

※ 修了後も本冊子を必要とする場合がありますので、大切に保管してください。

三田キャンパスガイド

主な事務室と事務取扱時間

事務室	主な業務	事務取扱時間	場所
学事センター	履修・授業・成績	授業期間中 平日 8:45～16:45 ※休業期間中の11:30～12:30は閉室	5月下旬以前 南校舎地下1階 5月下旬以後 大学院校舎1階
学生総合センター	学生生活・奨学金・就職		5月下旬以前 南校舎地下1階 5月下旬以後 仮設A棟
	学生相談	平日 9:30～11:30/12:30～16:30	西校舎地下2階
国際センター	留学	授業期間中 平日 8:45～16:45 ※休業期間中の11:30～12:30は閉室	5月下旬以前 南校舎1階 5月下旬以後 未定
教職課程センター	教職課程		南館地下1階
保健管理センター	健康診断・ヘルスケア	平日 8:45～11:30/13:00～16:15	北館1階
三田ITC	keio.jp, PC関連	授業期間中 平日 8:45～18:15 ※休業期間中は8:45～17:00	大学院校舎地下1階

- ※ 南校舎の建て替え工事に伴い、学事センターと学生総合センター、国際センターの事務室はそれぞれ5月下旬までに移転する予定です。詳細は掲示とホームページで適時お知らせします。
- ※ 土曜、日曜、祝日、大学が定める休日および大学の事務一斉休業期間（三田）は閉室します。
大学が定める休日 … 1月10日（福澤先生誕生記念日）、4月23日（開校記念日）
大学の事務一斉休業期間（三田）… 8月中旬（8/9（日）～8/15（土））および年末年始（12/29（火）～1/5（火））
- ※ 変更等は適時ホームページ「塾生の皆様へ」でお知らせします。

振鈴表

時限	授業期間	定期試験期間	
	三田・日吉	三田	日吉
第1時限	9:00～10:30	9:00～10:30	9:30～10:30
第2時限	10:45～12:15	10:45～12:15	10:50～11:50
第3時限	13:00～14:30	13:00～14:30	12:50～13:50
第4時限	14:45～16:15	14:45～16:15	14:10～15:10
第5時限	16:30～18:00	16:30～18:00	15:30～16:30
第6時限	18:10～19:40	18:15～19:45	16:50～17:50
第7時限	19:50～21:20		

掲示板

大学院の掲示板は大学院校舎1階に研究科ごとに設置されています。学部の掲示板は西校舎正面入口と西校舎地下1階、地下2階にあります。他研究科、学部設置科目を履修した場合は、その科目を設置している研究科、学部の掲示板を確認してください。諸研究所・センターの設置科目・講座等については、各研究科掲示板の右側にある「共通」掲示板と、西校舎の学部共通掲示板を確認してください。他地区設置科目を履修した場合はその科目を設置している地区の掲示板を確認してください。主な掲示内容は、授業の休講・補講、時間割の変更、教室の変更、緊急通達、各種試験の実施要項、学事日程、呼出等です。掲示内容の一部については学事Webシステム、塾生ページでも確認できます（「第4 Webシステム」の項を参照してください）。

学事センター（文学研究科担当）からのお知らせ：<http://www.gakuji.keio.ac.jp/mita/bunken/index.html>

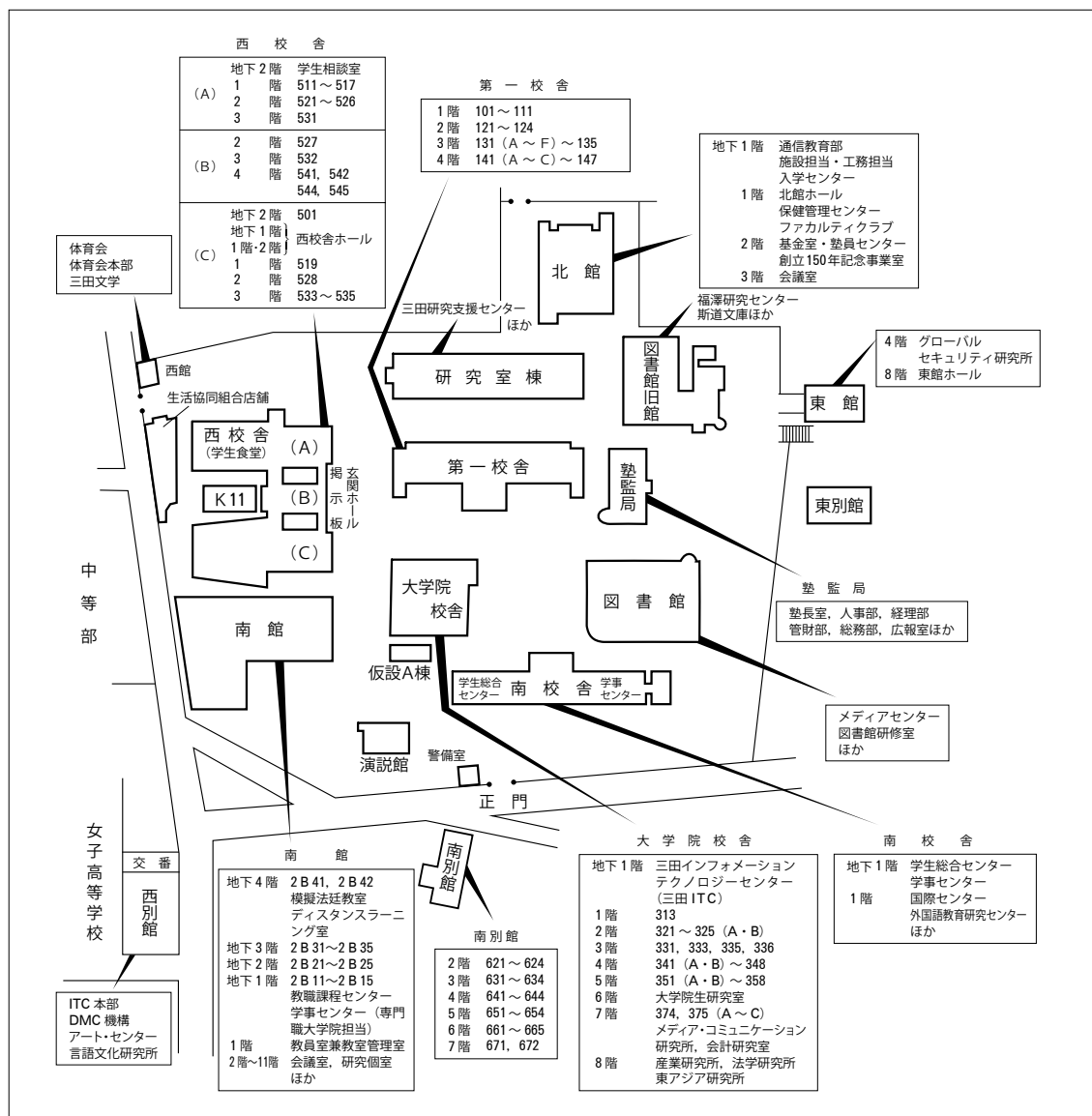
校舎と教室番号

第一校舎	大学院校舎	西校舎	南館	※南別館	※仮設教室
101～147	313, 321-A～375-C	501～545 西校舎ホール	2B11～2B42	621～672	K11

- ※ 「仮設教室」は、「西校舎」地下2階の出口近辺に、2009年4月に竣工する予定です。
- ※ 「南別館」は正門を出て直進数十メートルの距離にありますが、時間には十分な余裕をもって移動してください。信号待ち、混雑状況等によっては、定刻に間に合わないことも考えられます。

三田キャンパスマップ（2009年4月現在）

- ※ 「南校舎」は、2009年の5月下旬以降に建て替え工事に入る予定です。建て替え工事期間中の代替教室や各事務室の移転先等について、掲示やHPで確認してください。
- ※ 「南別館」は正門を出て直進数十メートルの距離にありますが、信号待ちのある国道を横断してはなりません。



その他

(1) PC アカウント・パスワード

三田キャンパス内のPCを利用するためには、三田ITCでアカウントとパスワードを作成する必要があります。他地区のアカウントとパスワードでログインすることはできません。

(2) PC を利用できる場所

PCは第一校舎、大学院校舎、メディアセンター、南館図書室、東館等に設置されています。

(3) 証明書自動発行機

証明書自動発行機は学事センター内に1台、南校舎中庭側に3台設置されています。ただし、南校舎建て替え工事の開始にあわせ、設置場所を移転します。詳細は、掲示やホームページで確認してください。

(4) コピー

コピーは生協購買部、生協食堂、メディアセンター等で行うことができます。

(5) 食堂

三田キャンパス内には、西校舎に、「山食（やましょく）」と「生協食堂」の2つの食堂があります。

目次

三田キャンパスガイド

- 主な事務室と事務取扱時間
- 振鈴表
- 掲示板
- 校舎と教室番号
- 三田キャンパスマップ
- その他

第1 学事関連スケジュール (三田) …… 6

第2 学 籍 (休学・留学・退学) …… 8

- 1 休 学 …… 8
- 2 留 学 …… 8
- 3 退 学 …… 8
- 4 再入学 …… 8
- 5 退学処分について …… 8
- 海外の教育機関に留学する場合の取扱い …… 9

第3 学生証・諸届・証明書 …… 10

- 1 学生証 …… 10
- 2 住所変更 (本人・保証人) …… 10
- 3 保証人変更 …… 10
- 4 改姓・改名 …… 10
- 5 国籍変更 …… 10
- 6 通学区間の変更 …… 10
- 7 証明書 (成績証明書・学割証等) …… 10

第4 Webシステム …… 12

- 1 Web システム概要 …… 12
- 2 Web システム操作上の注意 …… 13
- 3 パスワード再発行 …… 13

第5 履修・授業・成績 …… 14

- 1 履修申告 …… 14
- 2 教員を訪ねる場合 …… 18
- 3 教室使用申請 (三田) …… 18
- 4 緊急時における授業の取扱い …… 18
- 5 早慶野球戦時における授業の取扱い …… 18
- 6 成 績 …… 18

第6 試 験 …… 19

- 1 試 験 …… 19
- 2 レポート …… 19

第7 学生総合センター …… 20

- 1 窓口案内 …… 20
- 2 学生生活支援 …… 20
- 3 遺失物の取扱い …… 21

- 4 奨学金 …… 21
- 5 就職・進路支援 …… 21
- 6 学生相談室 …… 21
- 7 学生健康保険互助組合 …… 21
- 8 学生教育研究災害傷害保険 …… 22
- 9 任意加入の補償制度 …… 22
- 定期健康診断 …… 23

第8 履修要項 …… 24

- 1 課程修了にいたるまでの要件 …… 24
- 2 学位請求論文の提出について …… 24
- 3 単位取得退学および在学期間延長 …… 25
- 4 他大学大学院との相互科目履修 …… 26
- 5 文学研究科と経済学研究科の
ジョイントディグリーについて …… 27

第9 講義要綱 …… 29

- 修士課程設置 哲学・倫理学専攻 …… 30
- 美学美術史学専攻 …… 40
- 史 学 専 攻 …… 50
- 国 文 学 専 攻 …… 62
- 中国文学専攻 …… 73
- 英米文学専攻 …… 76
- 独 文 学 専 攻 …… 85
- 仏 文 学 専 攻 …… 91
- 図書館・情報学専攻 …… 95
- 後期博士課程設置 哲学・倫理学専攻 …… 105
- 美学美術史学専攻 …… 109
- 史 学 専 攻 …… 112
- 国 文 学 専 攻 …… 115
- 中国文学専攻 …… 117
- 英米文学専攻 …… 118
- 独 文 学 専 攻 …… 120
- 仏 文 学 専 攻 …… 123
- 図書館・情報学専攻 …… 125
- 修士課程・後期博士課程共通 …… 128
- プロジェクト科目 (文学研究科・社会学研究科共通)
- 未来先導チェアシップ講座 (大和証券寄附講座)
- 「文明のサイヤンスー人文・社会科学と
古典的教養の新たな継承—」

第10 諸研究所設置講座 …… 131

- 1 国際センター …… 131
- 2 アート・センター …… 159

他大学大学院との相互科目履修に関する協定 …… 160

関係規程抜粋 …… 162

学位請求論文製本表紙見本 …… 171

<平成21年度(2009年度)>

春 学 期	4月1日(水) 12:30~	成績証明書発行開始
	3日(金) 10:45~12:15	情報処理教育室設置講座ガイダンス(515番教室)
	6日(月) 10:45~12:15	国際センター在外研修プログラムガイダンス(526番教室)
	14:45~15:45	教育実習事前指導 I (2009年度実習予定者)(519番教室)
	7日(火) 9:00~	大学院入学式(西校舎ホール)
	11:30~13:00	履修案内等資料配付(133番教室) ※アート・マネジメント分野(修士), 情報資源管理分野(修士), 図書館・情報学専攻(後期博士)は除く。
	12:30~13:00	アート・センターガイダンス(524番教室)
	13:30~	文学研究科全体ガイダンス(教室は当日掲示します) ※アート・マネジメント分野(修士), 情報資源管理分野(修士), 図書館・情報学専攻(後期博士)は除く。
	18:00~18:30	アート・マネジメント分野(修士)資料配付(大学院校舎1階入口付近) 情報資源管理分野(修士), 図書館・情報学分野(後期博士)資料配付(大学院校舎1階入口付近)
	18:30~	アート・マネジメント分野(修士)ガイダンス(313番教室) 情報資源管理分野(修士), 図書館・情報学分野(後期博士)ガイダンス(325B番教室)
	16:30~18:00	教職課程ガイダンス(大学院生対象)(515番教室)
	8日(水)	春学期授業開始
	10日(金) 16:00~16日(木) 10:00	Webによる履修申告期間
	10日(金) 16:00~22日(水) 16:45まで	Webによる履修申告者「登録科目一覧」(指導教授の承認印を得たもの)提出期間(学事センター文学研究科窓口)
	15日(水)~16日(木) 10:00	用紙による履修申告日(Webによる履修申告ができない学生のみ)(学事センター文学研究科担当窓口)
	20日(月) 9:00(予定)	学事 Web システム履修科目確認画面稼働開始
	23日(木)	開校記念日【休講】
	30日(木)	在学料等納入期限(全納または春学期分納)
	4月下旬・5月上旬	定期健康診断
	5月初め	履修申告科目確認表送付(本人宛)
	7日(木)~	修士課程2年生 修了見込証明書発行開始
		後期博士課程3年生 教育課程終了(単位取得退学)見込証明書発行開始
	7日(木), 8日(金), 11日(月)<予定>	履修エラー修正期間(期間は履修申告科目確認表に記載して案内します)◆期間外の修正は受けません◆
	下旬	早慶野球戦
	7月10日(金)	春学期補講日
	15日(水)	春学期授業終了
	16日(木)~27日(月)<予定>	春学期末定期試験(この期間の授業はありません)
	28日(火)~9月23日(水)	夏季休業(8月9日(日)~8月15日(土)三田キャンパス一斉休業)

秋 学 期	9月上旬	春学期学業成績表送付(本人宛)
	9月18日(金)	9月学位授与式
	25日(金)	秋学期授業開始(※文学研究科の秋学期ガイダンスはありません)
	10月30日(金)	在学料等納入期限(秋学期分納)
	10月下旬~11月上旬	早慶野球戦
	11月中旬	修士論文題目届提出
	11月18日(水)1・2時限	秋学期補講日①
	18日(水)3時限~24日(火)	三田祭(準備,本祭,後片付けを含む)【休講】
	30日(月)	休学願提出期限
	12月23日(水)~1月5日(火)	冬季休業(12月29日(火)~1月5日(火)三田キャンパス一斉休業)
	1月6日(水)	秋学期授業開始
	10日(日)	福澤先生誕生記念日【休講】
	15日(金)	秋学期月曜代替講義日
	20日(水)	秋学期補講日②
	20日(水)	秋学期授業終了
	21日(木)~2月3日(水)	秋学期末定期試験(この期間の授業はありません)
	29日(金)10:00~14:00<予定>	修士学位論文提出
	2月3日(水)	福澤先生命日
	上旬~3月下旬	春季休業
	下旬	修士論文面接
	26日(金)	在学期間延長願・単位取得退学届提出締切(後期博士課程3年生)
	3月10日(水)	修士課程修了者発表
	中旬	学業成績表送付(本人宛)
	29日(月)	3月学位授与式

注意事項

- ・代替講義日：月曜代替講義日(1/15(金))には、実際の曜日に関わらず、月曜開講の授業が行われます。月曜開講の授業を履修している学生は注意してください(代替講義日には、月曜以外の曜日の授業は行われません。ただし補講が行われる場合があります)。
- ・補講日：補講日(7/10(金), 11/18(水)午前, 1/20(水))には、実際の授業開講曜日に関わらず、補講を行うことがあります。補講実施科目については、休講・補講掲示で確認してください(補講日に設定されている曜日の授業は、補講にならない限り行われません)。また、補講日以外の通常授業時でも補講を行うことがありますので、掲示板をよく確認してください。
- ・土曜・日曜・祝日・義塾が定めた休日および大学事務室の閉室期間には、学事センター窓口業務を執り行いません。証明書発行等も行わないので注意してください。なお、ここに記載されている期間以外でも窓口を閉めることがあります。決定次第、掲示およびHPにてお知らせします。(窓口案内：<http://www.gakuji.keio.ac.jp/mado/index.html>)
- ・諸般の事情により、日程・教室等が変更されることがあります。変更があった場合は、学内掲示板にてお知らせします。掲示に注意しなかったために、自身が不利益をこうむることもありますので、必ず注意してください。
- ・共通掲示板、学部掲示板、諸研究所掲示板等にも注意してください。

1 休学(学則第125条)

(1) 休学願

「休学願」提出期日：当該年度の11月末日の事務取扱日

休学希望者は、期日までに指導教授と面接し、所定の「休学願」に指導教授の承認印を受け、学事センターに提出してください。

病気・怪我を理由に休学をする場合は、医師の診断書が必要です。

休学は1年単位の申請となります(4月1日～翌年3月31日)。休学が次の年度に及ぶ場合はあらかじめ「休学願」を提出してください。

(2) 就学届

休学期間が終了し、再び学業に戻る場合は、速やかに所定の「就学届」を提出してください。

病気・怪我を理由に休学をしていた場合は、病気・怪我が回復した旨の医師の診断書が必要です。

2 留学(学則第124条)

(1) 国外留学申請

研究科委員会が教育上有益と認めるときは、休学することなく外国の大学の大学院に留学することを許可することがあります。この場合は1年間に限り留学期間を在学期間に算入することができます。また留学中に外国の大学院で履修した授業科目の単位のうち10単位を超えない範囲で、修得単位が課程修了に必要な単位として認定されることがあります。いずれの場合も、指導教授の承認印を受けた所定用紙を学事センターに提出し、研究科委員会の承認を得る必要があります。なお、その際単位認定希望者は、単位取得を証明する書類を添付してください。留学を希望する場合は、あらかじめ学事センターで確認・相談のうえ必要書類を用意し、所定の「国外留学申請書」を学事センターに提出してください。また、指導教授と面接し、研究科委員会での承認も必要です。これらを含めて出発の1ヶ月前までに済ませてください。

研究科委員会で上記の留学として認定されなかった場合には、休学による留学になります。この場合には留学期間は在学期間に算入されず、外国の大学院で修得した単位も単位認定されません。

その他留学に関する詳細については「海外の教育機関に留学する場合の取扱い」(次項)を参照してください。

(2) 留学期間の延長

留学期間を延長する場合は、再度上記(1)と同様の手続きをとってください。

(3) 就学届

留学期間が終了し再び学業に戻る場合は、速やかに所定の「就学届」を提出してください。

3 退学(学則第126条)

事情により退学をする場合は、指導教授と面談のうえ、所定の「退学届」を学事センターに提出し、学生証を返却してください。「退学届」には、退学の具体的理由、保証人連署、本人および保証人の捺印が必要です(本人と保証人は異なる印を使用してください)。

4 再入学(学則第127条)

退学した者が再入学しようとする場合には、事情を考慮した上で認めることがあります。文学研究科において、退学後再入学を希望する場合には、退学の時点で文学研究科委員会における「再入学を伴う退学」の承認が必要となります。再入学にあたっては、入学考査料および入学金が必要となります。なお、「再入学を伴う退学」が承認されても、無条件で再入学が認められることにはなりません。

具体的な手続きに関しては、指導教授および学事センターに問い合わせてください。

5 退学処分について(学則第128条・第161条)

(1) 修士課程において4年、後期博士課程において6年の在学最長年限を超える者は学則第128条により退学処分となります。ただし、休学期間は在学年数に算入しません。

(2) 大学の学則もしくは諸規則に違反したと認められた場合、履修申告を期日までに提出せず休学・退学の願い出もなく修学の意志が確認できない場合などには学則第161条により退学処分となります。

海外の教育機関に留学する場合の取扱い

在学期間中に留学を希望する場合、「留学」と「休学」に分けられます。

		留 学	休 学
種 類		研究科委員会において適正と認められた海外の大学で正式な手続を経て正規生と同じ授業を受ける場合（「編入制度による留学」「STUDY ABROAD PROGRAM」等）。 なお、留学は①「交換留学」②「奨学金による留学」③「私費留学」の3つに区別しています。	・語学研修（その他左記の留学として認定されない海外研修など） ・病気による休学（医師の診断書を添付してください） ・一身上の都合による休学
期 間	申 請 期 間	「留学」の開始日から半年以上1年まで。 「留学」は年度途中に開始し、年度の途中で終了することが可能です。 (例) 2009.9.22～2010.9.21	休学は1年単位の申請となります（4月1日～翌年3月31日）。 *休学の開始日がいつであっても、その年度は在学期間に算入されません。 *複数年度にわたって休学する場合は、新年度に再度休学願を提出してください。 *休学願の提出締切はその年度の11月末日です（ただし、履修申告をせずに休学する場合は、履修申告期間最終日までに休学願を提出してください）。
	延 長	2回まで可能（最長で留学開始日から3年間まで） それ以降は「休学」となります。 *「留学」を延長する場合は「国外留学申請書（延長）」を提出してください。	留学の延長が出来ない場合（左記の延長期間を過ぎても留学継続を希望する場合など）の休学期間は、直近の留学申請期間終了日翌日より年度末までとなります。
学 費 ・ 渡 航 費	学 費 減 免 措 置	【交換留学・奨学金による留学】 留学1年目は減免措置はありません。「留学」の延長が認められ、その許可された延長期間が留学開始日から起算して1年6カ月以上2年以内の場合は、留学開始日から1年を経過した日の属する年度の授業料（在学料）および実験実習費の半額を免除します。また、留学の再延長が認められ、その許可された延長期間が留学開始日から起算して2年6カ月以上3年以内の場合は、留学開始日から2年を経過した日の属する年度の授業料（在学料）および実験実習費の半額を免除します（減免額が返金されます。留学許可通知と共に申請書類を保証人宛に送付します）。 【私費留学】（留学開始日が平成18年4月1日以降の者のみ適用） 「私費留学」により在学しなかった期間（学期単位）に対し、その学期の属する年度の在学料および実験実習費について、年額の4分の1を学期毎に免除します。免除される期間は最長6学期までです。ただし、留学期間中に交換または奨学金による留学が含まれる場合は、その期間に該当する学期を含んで6学期までとします。詳細は、学事センター窓口にて確認してください。	*語学研修、その他留学と認定されない場合の減免制度はありません。 *ただし、上記以外で特別事情のある者および1年以上の休学者については、別に定めるところにより授業料その他が減免される事があります。詳細は、学生総合センターに確認してください。
	渡 航 費	「交換留学」および「奨学金による留学」の場合には渡航費が補助される場合があるので、国際センターで所定用紙を受け取ってください。	
単 位 取 得 ・ 認 定	は 留 学 中 の 履 修 を	年度の途中から「留学」する場合は、「留学」前に履修申告をした「通年」科目を「留学」後継続履修し、単位取得することが可能です（ただし、同一科目名・同一担当者に限る※）。必ず「留学」前に各科目担当者へ「留学」終了後に継続して履修する意志があることを伝えてください。 ※教職課程センター設置科目については、継続が認められる場合があります。教職課程センター窓口にて確認してください。	休学中の年度は履修できません。 【年度始めに休学申請をした場合】 履修申告は不要です。休学届を履修申告期間最終日までに提出してください。 【年度途中で休学申請をした場合】 4月に履修申告した科目は全て削除されます。
	単 位 認 定	10単位を超えない範囲で、学則の規定する単位に認定することがあります。認定を希望する場合は、就学後学事センターで所定の用紙を受け取ってください。	単位認定はありません。
就 学 後		「留学」終了後は、速やかに就学届を提出してください。なお、就学後の行事日程については、年度末に郵送される学事関連スケジュール表を参照してください。	「休学」終了後は、速やかに就学届を提出してください（病気による休学については、医師による病気が回復した旨の診断書を添えてください）。なお、就学後の行事日程については、年度末に郵送される学事関連スケジュールを参照してください。
へ 在 の 学 算 年 入 数		「留学」の期間は1年間に限り在学年数に算入することができます。希望者は「留学」終了後、必要な書類等をそろえて学事センター窓口へ申し出てください。ただし、遅及修了は認められません。	「休学」の期間は在学年数に算入されません。ただし、実質的な在学年数にかかわらず、休学中も最高学年まで進級します。

1 学生証

学生証は本大学大学院生であることを証明する身分証明書です。様々な場面で必要になるので常に携帯してください。

(1) 再交付

学生証または学生証裏面シールを紛失、汚損した場合は、速やかに学事センターで再交付を受けてください。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

－必要書類（＜所定用紙＞は学事センターにあります）

学生証、証明書用写真（縦4cm横3cm、カラー光沢仕上げ、脱帽・上半身正面・背景なし、3ヶ月以内に撮影されたもの）、手数料2,000円（証紙※証紙は学事センター内の券売機で販売しています）、学生証再交付願＜所定用紙＞

(2) 学生証の返却

再交付を受けた後に前の学生証が見つかった場合、また、退学・修了等で離籍した場合はただちに学事センターへ返却してください。

(3) 国際学生証

国際学生証については生協事務室に問い合わせてください。（TEL:03-3455-6651）

2 住所変更（本人・保証人）

住所（本人・保証人）を変更した場合は、速やかに学事センターへ届け出てください。住居表示・地番変更の場合も届け出てください。本人の住所変更の場合、学生証裏面シールの記載事項変更も同時に行い、窓口で証明印を受けてください。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

－必要書類（＜所定用紙＞は学事センターにあります）

学生証、在学カード＜所定用紙＞

3 保証人変更

保証人を変更する場合は、速やかに学事センターへ届け出てください。保証人は日本国内に居住し一家計を立てている成年者で、本人の学費と一身上に関する一切の責任を負うことのできる者とし、父または母としてください。父母が保証人となり得ない場合は、兄、姉、伯父、伯母等後見人またはこれに準ずる方としてください。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

－必要書類（＜所定用紙＞は学事センターにあります）

学生証、保証人変更届＜所定用紙＞、在学カード＜所定用紙＞、誓約書（本人・新保証人押印）＜所定用紙＞、新保証人の住民票

4 改姓・改名

改姓・改名をした場合は、速やかに学事センターへ届け出てください。届出後、履修中の科目担当者に必ずその旨申し出てください。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

－必要書類（＜所定用紙＞は学事センターにあります）

学生証、改姓（名）届＜所定用紙＞、在学カード＜所定用紙＞、誓約書（本人・保証人押印）＜所定用紙＞、学生証再交付願（写真貼付＜縦4cm横3cmカラー光沢仕上げ、脱帽・上半身正面・背景なし、3ヶ月以内に撮影されたもの＞、手数料不要）＜所定用紙＞、新姓名の戸籍抄本

5 国籍変更

国籍を変更した場合は、速やかに学事センターへ届け出てください。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

－必要書類

学生証、戸籍謄本（コピーでも可）、住民票

6 通学区間の変更

住所変更等に伴い学生証裏面に記入している通学区間を変更する場合は、速やかに学事センターへ届け出てください。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

通学定期券の発売区間は「自宅最寄駅」から「学校最寄駅」の最も経済的な経路による区間に限ります。学生証裏面シールの通学区間欄は、必ず「自宅最寄駅」から「学校最寄駅」を明記してください。なお、通学区間が適正でない場合は、通学定期券の発売が停止されます。

－必要書類

学生証

7 証明書（成績証明書・学割証等）**(1) 証明書自動発行機**

設置場所と利用時間（他キャンパス（日吉・矢上・藤沢・芝共立）に設置されている発行機も利用できます。）

- 南校舎 1 階 (中庭側) 月～土 9:00-20:00 ※授業・定期試験のない土曜日は利用できません。
 - 学事センター内 月～金 8:45-16:45 ※授業・定期試験のない日は 8:45-11:30/12:30-16:45
- 5 月下旬からの南校舎建て替え工事に伴う設置場所の移転先情報や、メンテナンス・故障等による利用停止情報等は、適時 HP 等でお知らせします。 <http://www.gakuji.keio.ac.jp/academic/shoumei/index.html>

(2) 証明書の厳封

厳封を希望する場合は自動発行機ではなく窓口で申し込んでください。発行済みの証明書を後から厳封することはできません。なお、厳封には手数料はかかりませんが、発行する証明書の枚数分の手料は必要です。

(3) 代理人による申請

代理人による証明書の申請は、学生本人が大学に行くことが困難な場合 (留学中、入院中等) に限り受け付けます。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

- 必要書類

本人の学生証の写し、委任状、代理人の身分証明書

※委任状に所定の書式はありません。例を参照のうえ、学生本人の意思が確認できるように作成してください。

[例] 委任状

私「(本人氏名)」は、「(代理人氏名)」に、証明書の申込みと受け取りを一任します。

20××年○月△日・本人署名・捺印

※身分証明書とは、慶應義塾大学学生証、免許証、パスポート、健康保険証、外国人登録証明書、住民基本台帳カード (写真付のもの) を原則とします。社員証、他大学学生証等は受け付けません。

(4) 証明書一覧

証明書	言語	手数料	発行場所	発行日数	発行開始日	備考
在学証明書	和文	200円	自動発行機	即日	4月1日	
	英文					
成績証明書	和文	200円	自動発行機	即日	4月1日	
	英文					
修士課程修了見込証明書	和文 英文	200円	自動発行機	即日	5月7日	修士課程 2 年生のみ発行されます。
修士課程修了見込証明付成績証明書	和文	400円	自動発行機	即日	5月7日	修士課程 2 年生のみ発行されます。
教育課程終了見込証明書 (単位取得退学見込証明書)	和文	200円	窓口	数日 ^(注)	—	
	英文					
履修科目証明書	和文	200円	自動発行機	即日	6月1日	
	英文	200円	窓口	即日		
健康診断証明書	和文	200円	自動発行機	即日	6月中旬	受診した年度の年度末まで発行できます。
	英文					
学割証	和文	無料	自動発行機	即日	4月1日	定期健康診断を未受診の場合は発行できません。1 人 1 日 10 枚まで発行できます。
通学証明書	和文	無料	窓口	即日	—	学生証で購入できない区間またはバスを利用する際に必要な証明書です
各種資格試験等受験用単位取得証明書 提出先所定の用紙(リクエストフォーム) に証明を要するもの	和文	200円	窓口	数日 ^(注)	—	
	和文	200円	窓口	数日 ^(注)	—	
博士学位申請中証明書	和文	200円	窓口	数日 ^(注)	—	
	英文					
前学籍 (学部) 成績証明書	和文 英文	400円	自動発行機	即日	—	1978 年 3 月 31 日以降の学部卒業者のみ。
前学籍 (学部) 卒業証明書	和文 英文	400円	自動発行機	即日	—	
前学籍 (修士) 成績証明書	和文 英文	400円	自動発行機	即日	—	1991 年 3 月 31 日以降の修士修了者のみ。
前学籍 (修士) 修了証明書	和文 英文	400円	自動発行機	即日	—	

(注) 発行までに時間がかかる場合がありますので、余裕を持って申請してください。

※証明書発行には学生証が必要です。

※2002年度以前の入学者が初めて英文の証明書の発行を必要とする場合は、窓口に出してください (2004年 4 月以降、窓口で一度英文証明書の交付を受ければ、その翌日から証明書自動発行機での発行が可能になります)。

※学割証の有効期限は発行日から 3 ヶ月以内です (有効期間内でも学籍を失った場合は無効)。必要な枚数だけ発行を受けるようにしてください。

※特別学割証と団体旅行申込書 (団体割引) を発行する場合は、窓口に出してください。

※学費未納の場合は、すべての証明書が発行できません。

1 Webシステム概要

インターネットに繋がるパソコンがあれば、各種サービスを利用できます。

「塾生の皆様へ」ホームページ	
URL	http://www.gakuji.keio.ac.jp/
概要	塾生の皆様に向けて各種情報を提供するポータルサイトです。最新のお知らせや各種ホームページのリンク等を提供しています。
主な提供サービス	<ul style="list-style-type: none"> ■ 授業 / 履修 / 試験 ・ 履修案内 / 講義要綱 / 時間割 (PDF) の公開等 ■ 学生生活 / 進路 ・ 窓口利用案内 / イベントや奨学金についての情報等

学事 Web システム	
URL	http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/
ID/パスワード	学籍番号 / 学事 Web パスワード
マニュアル	http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/
概要	履修申告や登録済科目の確認、休講・補講情報の確認等ができます。学事 Web システムを利用するためには ID (学籍番号) と事前に通知した学事 Web パスワードが必要です。パスワードを忘れた場合は学生証持参の上、学事センター窓口までお越しください。
主な提供サービス	<ul style="list-style-type: none"> ■ 履修申告 時間割や登録番号から科目を選択し履修申告を行うシステムです。履修申告期間に何度でも申告内容の修正が行えます。受付期間中に時間割が変更する場合があります。各キャンパスの掲示板に注意し、必要があれば締め切りまでに申告の修正を行ってください。 ■ 履修確認 一定の期間に履修中科目の一覧を表示します。ただし、表示される履修中科目は暫定的な内容となります。最終的な履修科目は、履修申告科目確認表で確認してください。 ■ 休講・補講 休講・補講のある授業の一覧が表示されます。携帯端末からも利用できます。ただし、公式の情報は科目設置の各キャンパスの掲示板とします。休講・補講情報は変更することがありますので、直前にも掲示板を確認するようにしてください。 ■ 連絡・呼出 事務室からのお知らせやキャンパスの掲示板に掲示される呼出がある場合は、学事 Web システムにログインした直後にメッセージが表示されます。連絡・呼出は、携帯端末からのログイン時にも表示されます。

keio.jp (共通認証システム)	
URL	http://keio.jp/
ID/パスワード	慶應 ID / パスワード
マニュアル	http://keiojp.itc.keio.ac.jp
概要	共通の ID (慶應 ID) で様々なサービスを提供するためのシステムです。利用するには、慶應 ID の取得 (アクティベーション) が必要です。また、一部のサービスでは、厳密に個人認証を行うために第 2 パスワードとして学事 Web パスワードが必要となる場合もあります。
主な提供サービス	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学業成績表閲覧 ※学事 Web パスワードを第 2 パスワードとして利用 学部生は保証人, 大学院生は本人へ郵送した学業成績表の原本から、個人を特定できる項目を除いた学業成績表の閲覧が可能です。利用可能期間は、学部・研究科、学年等で異なります。詳細は「塾生の皆様へ」ホームページで告知します。 ■ 健診結果お知らせ ※学事 Web パスワードを第 2 パスワードとして利用 当該年度に受診した学生のみ健康診断の結果の閲覧ができます。閲覧開始時期は健診受診時にお知らせします。結果についての質問等は保健管理センターにお問い合わせください。 ■ 就職・進路支援システム 進路希望, 進路届, 就職体験記, 求人票等 ■ その他 ・ 慶應メール / 教育支援システム等 (詳しくは上記のマニュアルページでご確認ください)
慶應 ID 取得	慶應 ID を取得していない方は「アクティベーション」を行ってください。その際に個人認証として学籍番号と学事 Web パスワードが必要です。詳細は、以下を参照してください。 http://keiojp.itc.keio.ac.jp/manual/activation/stdact.html アクティベーションは 1 度しかできません。慶應 ID や設定したパスワードを忘れてしまった場合は、各キャンパスの ITC 窓口にお問い合わせください。

2 Webシステム操作上の注意

- (1) 複数のブラウザーを起動して同時にログインしないでください。
- (2) Web システムにログインした後は、ブラウザーの [戻る] および [進む] ボタンは使用しないでください。誤ってクリックしてしまい画面が正しく表示されなくなった場合には、[更新] ボタンを押してリロードしてください。
- (3) Web システムへログインしたまま長時間画面の前から離れた際に他人に悪用されないようにする等のセキュリティ上の目的で、長時間同じ画面が表示された場合は、次の画面には進めないようになっています。そのような場合は、一旦ブラウザーを終了し、10 秒程度待ってから再度ブラウザーを起動し直してください。
- (4) 氏名等に難しい字が使われている場合、画面上にうまく表示できない場合がありますが、システム上問題はありません。
- (5) Web システムは、推奨された環境ではない場合や各種設定 (Cookie, SSL, Proxy 等) を正しく行わない場合は、ログインできないことがあります。推奨環境、設定方法、操作方法については、各 Web システムのマニュアルを参照してください。

3 パスワード再発行

各 Web システムのパスワード再発行窓口は以下のとおりです。

	ログイン ID	ログインパスワード	再発行窓口	必要書類
学事 Web システム	学籍番号	学事 Web システムパスワード	学事センター	学生証
keio.jp (共通認証システム)	慶應 ID	keio.jp パスワード	三田 ITC	学生証・慶應 ID
塾生の皆様へ	不 要	不 要	—	—

三田キャンパス内の PC を利用するための ID およびパスワードは三田 ITC で再発行できます。

1 履修申告

(1) Webによる履修申告方法

秋学期科目も含めて、下記期間に履修申告を行います。(秋学期には履修申告期間はありません)

学事 Web システムによる申告期間 4月10日(金) 16:00 ~ 4月16日(木) 10:00

※ 「Web による履修申告」を行った学生は、必ず Web 申告の際に画面に表示される「登録科目一覧」画面をプリントアウトし、右上の「指導教員欄」および認定科目 (B 欄分野番号 12) の科目名欄に指導教授の承認印を受けた用紙を 4月22日(水) 16:45 までに、三田学事センター文学研究科担当窓口へ提出すること

学事 Web システム URL <http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>

※ 操作方法・注意は学事 Web システムのオンラインマニュアルを参照してください。

※ 留学 (学則 124 条) が認められた者および留学予定者の履修申告については、学事センター文学研究科係まで問い合わせてください。

① 履修申告期間前

- a 最新の学業成績表ですでに取得している科目・単位を確認し、本項や「第 8 履修要項」の項を正確に理解し、「第 9 講義要綱」等本冊子の各部を参照のうえ、今年度の履修計画をたててください。
- b 履修に関する疑問点その他を指導教授および学事センターで確認しておいてください。
- c 住所等が変わっている場合は、「第 3 学生証・諸届・証明書」の項を参照し、「住所変更届」等を提出してください。履修・修了等にかかわる連絡は、大学に届出のある住所に郵送します。

② 履修申告期間中

- a 学事 Web システムにより履修申告をしてください。
期間最終日に初めて申告するのではなく、期間中の早い時期に申告してください。期間中は何度でも申告内容の修正ができます。なお、毎日午前 4 時から 1 時間程度は定期メンテナンスのためシステムの稼働を停止します。
- b 時間割が変更すること等がありますので、随時掲示版等で最新の情報を確認してください。
※登録していない授業科目を受験しても一切無効です。単位は取得できません。
※期日までに履修申告をしない場合は、修学の意志がないものとして退学処分になります。(学則第 161 条)
※やむを得ない理由がある場合は、Web によらずに履修申告をすることができます。本項 (4) の「履修申告用紙による履修申告」を参照してください。

③ 履修申告期間後

- a 履修の変更・追加・取消は原則として認めません。また、履修内容の閲覧・照会にも応じません。学事 Web システムによる登録科目の一覧画面を印刷し、時間割とともに控えとして保管してください。
- b 5 月上旬に、「履修申告科目確認表」(申告した科目のリスト) を、大学に届出のある本人の住所宛に郵送します。登録エラーや科目間違い等の有無を確認のうえ、修正期間 (5 月 7, 8, 11 日を予定) 中に学事センター窓口へ申し出て修正を行ってください。また、「履修申告科目確認表」は年度末までに大切に保管してください。
- c 修正期間経過後は本年度の履修確認が終了したものとみなし、履修内容は確定されます。以上を怠ったために生じた問題 (申告漏れ、科目間違い等により、結果として修了単位不足となる、住所変更届が未提出であったために確認表が届かない等) について大学は一切責任を持ちません。

(2) 履修科目の登録方法

- ① 授業科目名、担当者名と登録番号 (5 桁) を十分確認してください。
- ② 1 つの授業科目には 1 つの登録番号が付いています。集中講義等、曜日・時限が複数にわたって開講している授業科目についても、登録番号は 1 つだけです。その登録番号を 1 つ登録することで他の時限についても登録されます。この場合、どの曜日・時限にも別の科目を登録することはできません。

- ③ 履修科目により、登録番号を登録するだけで自動的に分野が登録される場合（「A欄」申告）と、各自分野を選択しなければならない場合（「B欄」申告：2桁のB欄分野番号を登録）があります。どちらの欄で登録するかは、「(3) A欄・B欄について」を参照してください。

(3) A欄・B欄について

履修申告欄は、A欄・B欄によって構成されています。どちらの欄で申告するかは以下のとおりです。

〈A欄に記入する科目〉

自身が所属する課程・専攻（分野）設置科目

〈B欄に記入する科目〉

上記以外の科目（認定科目、研究所等設置科目、自由科目として申告する科目）

なおB欄で申告する際は、以下の「分野表」のB欄分野番号を指定の上、登録してください。

〈分野表〉

【修士課程在籍者】

修了必要 単位数	種 類	B欄 分野番号	分野コード	A欄・B欄の区別
32単位	文学研究科 修士課程所属専攻(分野) 設置科目	—	01-01-01	A欄で申告すると自動的に01-01-01の 分野で登録されます。
	上記以外の認定科目 ※指導教授の承認印が必 要です	12	01-02-01	B欄で、B欄分野番号を指定した上で 登録してください。
	他 大 学 交 流 科 目	—	01-03-01	履修上限：8単位まで（課程修了に必 要な単位として認定） 他大学大学院設置科目履修申告用紙に 記入の上、期間内に提出してくださ い。許可された科目の履修申告は学事 センターが行います。
—	自 由 科 目	99	09-01-01	B欄で、B欄分野番号を指定した上で 登録してください。

※ 修士課程の学生は、後期博士課程設置科目を履修することはできません。

【後期博士課程在籍者】

修了必要 単位数	種 類	B欄 分野番号	分野コード	A欄・B欄の区別
12単位	文学研究科 後期博士課程所属専攻 設置科目	—	01-01-01	A欄で申告すると自動的に01-01-01の 分野で登録されます。
	上記以外の認定科目 ※指導教授の許可が必要 です	12	01-02-01	B欄で、B欄分野番号を指定した上で 登録してください。
—	自 由 科 目	99	09-01-01	B欄で、B欄分野番号を指定した上で 登録してください。

〈認定科目〉（B欄分野番号12）

研究上適当と認められた場合に限り、大学院学則（修士は11条、後期博士は18条）に定める所属専攻（分野）設置科目以外の科目をこの分野で登録出来ます。課程修了に必要な単位として計算されますので、この登録には指導教授の許可が必要となります。履修申告を行う時に、各科目の科目名欄に承認印を受けてください（「(5) 指導教授の承認印について」参照）。許可が無い場合は、自由科目として登録してください。

〈自由科目〉(B欄分野番号 99)

課程修了に必要な単位としては計算されません。

※文学部設置科目を認定科目または自由科目で履修申告する場合には、07 学期(2, 3 年生用)の時間割表から履修してください(04 学則(4 年生用)の科目は履修できません)。

また、文学部以外の学部の科目を履修する場合も最新学則の科目を履修してください。

(4) 履修申告用紙による履修申告

やむを得ない理由で Web による履修申告が行えない場合には、用紙によって履修申告をしてください。学事 Web システムによる申告と併用はできません(すべての科目をどちらか一方の方法により申告してください)。履修申告用紙による申告日は、4 月15日(水)～16日(木) 10:00 まで。「指導教授印」欄および認定科目(B欄分野番号 12)の科目名欄に指導教授の承認印を受けた上で提出してください。(「(5) 指導教授の承認印について」参照)

希望者は以下の注意事項を把握したうえで学事センターに所定の申告用紙の入手を申し出てください。なお、履修申告用紙提出後の履修科目の変更・追加・取消は認められません。また、履修申告用紙の閲覧、履修科目の照会にも応じませんので各自提出する用紙の控え(コピー)を必ず手元に残すようにしてください。

- ① HB か B の鉛筆を使用してください。
- ② 研究科、専攻(分野)、学年、氏名、学籍番号および提出日を記入してください。学籍番号は数字で記入するとともに、該当する数字をマークしてください。修士または博士どちらかに○印をつけてください。なお学科・組の記入は必要ありません。
- ③ A 欄記入上の注意事項
 - a 形態欄：その科目の形態(春学期・秋学期・通年)を○で囲み、曜日・時限を記入します。
 - b 科目名・教員名を記入します。複数の教員が担当する科目は、時間割上段に記載されている教員名を記入します。
 - c 登録番号欄：履修する授業科目の時間割表記載の登録番号 5 桁を記入し、マークします。
- ④ B 欄記入上の注意事項
 - a 形態欄：その科目の形態(春学期・秋学期・通年)を○で囲み、曜日・時限を記入します。
 - b 科目名・教員名を記入します。複数の教員が担当する科目は、時間割上段に記載されている教員名を記入します。
 - c 登録番号欄：履修する授業科目の時間割表記載の登録番号 5 桁を記入し、マークします。
 - d 分野欄：2 桁の履修申告用 B 欄分野番号を記入し、マークします。
- ⑤ 科目名・教員名・登録番号などを記入しても、マークの塗り忘れや、塗り間違いがあると、科目が登録されなかったり、異なる科目が登録されたりしますので、十分注意してください。
- ⑥ 「無効マーク」(A 欄・B 欄に共通)にマークすると、その枠内を無効にすることができます。訂正は消しゴムを使用して修正することができますが、跡が残ったり、黒くこすれたりした場合は、「無効マーク」を利用してください。
- ⑦ 履修申告用紙の再交付について
 - a 履修申告用紙提出前の科目の訂正および変更等は、なるべく無効マーク欄を使用して無効にしたうえで正しい科目を登録してください。それでも訂正し切れない場合は交換しますので、その履修申告用紙を持参のうえ、学事センターに申し出てください。
 - b 交付された履修申告用紙では記入欄が足りない場合も学事センターに申し出てください。

(5) 指導教授の承認印について

〈Web 履修申告の場合〉

Web による履修申告期間は 4 月10日(金)16:00～16日(木)10:00 までですが、Web 登録時に下記の画面をプリントアウトして、「指導教員」欄および認定科目(B欄分野番号 12)の科目名欄に指導教授の承認印を受けて、4 月22日(水)16:45 までに学事センター文学研究科窓口提出してください。指導教授の承認印のないものは受けつけません。

<Web 履修「登録科目一覧」の画面イメージ> (実際の画面はレイアウトが変更される場合があります)

履修申告 [2009/04/16 9:00:00]

学籍番号	80809999	課程	修士	学部	文研	学科	哲学	学年	2	氏名	慶應 太郎	指導教員 <input type="checkbox"/>
------	----------	----	----	----	----	----	----	----	---	----	-------	--------------------------------------

この欄に指導教授の承認印を受けてください。

・印刷はこの画面で行ってください。(この画面以外の印刷での問い合わせは受付できない場合があります)
 ・履修申告時、学習指導ならびに指導教授の承認を必要とする場合は、このページを印刷し、承認印をもらってから事務室に提出してください。

科目を追加・修正する(科目選択へ)
終了する(メニュー画面へ)

現在の登録状況

・現在以下のように登録されています。

曜	時	学期	形態	登録 No.	欄	B欄	地区	学部	科目名	担当者	分野	単位	状態	エラー
月	1	春		11111	A欄		三田	文研	[月1] 哲学特殊講義5	〇〇〇〇	01-01-01	2.0	登録済	
		秋		22222	A欄		三田	文研	[月1] 哲学特殊講義6	〇〇〇〇	01-01-01	2.0	登録済	
木	2	春		33333	B欄	12	三田	文	[木2] 心の哲学1	〇〇〇〇	01-02-01	2.0	登録済	
		秋		44444	B欄	12	三田	文	[木2] 心の哲学2	〇〇〇〇	01-02-01	2.0	登録済	
火	4	秋		55555	B欄	99	三田	教職	[火4] 教育方法論	〇〇〇〇	09-01-01	2.0	登録済	

認定科目(B欄12)は、科目名の横に指導教授の承認印を受けてください。

<用紙による履修申告の場合>

履修申告用紙の「指導教授承認印」欄および認定科目(B欄分野番号12)の欄に指導教授の承認印を受けて、4月15日(水)～16日(木)10:00に学事センター文学研究科担当窓口提出してください。

※承認印は、マーク欄にかからないようにしてください

〔記入例〕 履修申告用紙

提出日 年 月 日

<p>1. 登録欄には、曜日・学期、科目名、教員名、登録番号を記入し、形態「春・秋・選考」(春・秋・選考を含む)のいずれかにマルをし、登録番号5桁をマークしてください。(B欄の場合は、分野も記入・マークしてください。)</p>	<p>2. マークにはHBかBの黒色鉛筆を使用してください。(ボールペン、サインペン、万年筆は不可)</p> <p>3. 折り曲げたり、汚したりしてはいけません。</p>	<p>4. 訂正する際は、消しゴムできれいに消すか、「無効マーク」にマークし、別の欄に書き直してください。(「無効マーク」にマークした欄の内容は無視されます。)</p> <p>5. 所定欄以外には、マークしたり記入したりしてはいけません。</p>	<p>学 籍 番 号</p> <p>80809999</p>
<p>特記欄</p>	<p>指導教授承認印</p> <p style="font-size: 2em;">印</p>	<p>学 部 (博士)</p> <p>学 科 (哲学・倫理学)</p> <p>2 学 年 組</p> <p>氏 名 慶 應 太 郎</p>	

裏面

欄	哲学特殊講義Ⅰ				哲学特殊講義Ⅱ				心の哲学Ⅰ				心の哲学Ⅱ				教育方法論			
	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
登録番号	△△△△	△△△△	△△△△	△△△△	△△△△	△△△△	△△△△	△△△△	△△△△	△△△△	△△△△	△△△△	△△△△	△△△△	△△△△	△△△△	△△△△	△△△△	△△△△	△△△△
登録番号	01000	01000	01000	01000	01000	01000	01000	01000	01000	01000	01000	01000	01000	01000	01000	01000	01000	01000	01000	01000
分野	01	01	01	01	01	01	01	01	01	01	01	01	01	01	01	01	09	09	09	09
単位	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
状態	登録済	登録済	登録済	登録済	登録済	登録済	登録済	登録済	登録済	登録済	登録済	登録済	登録済	登録済	登録済	登録済	登録済	登録済	登録済	登録済

2 教員を訪ねる場合

授業のある日に研究室か教員室を訪ねてください。学事センターで仲介等はいりません。

- (1) 三田所属専任教員（教授・准教授・専任講師・助教） …… 研究室（研究室棟または南館）
 - (2) 他地区所属専任教員および塾外からの出講者（講師） …… 教員室（南館1階または南別館1階）
- ※専任教員か講師か不明な場合はシラバス等で確認してください。

3 教室使用申請（三田）

(1) 研究会の教室使用申請

所定の「学内集会届」を窓口へ提出し、「申請者控」を後日窓口で受け取ってください。なお、休業期間中の利用申請には、「学内集会届」に研究会担当教員の捺印が必要です。

使用不可期間 ……	土曜・日曜・祝日、大学が定めた休日、定期試験期間中
受付窓口 ……	三田学事センター教室担当
申込期日 ……	使用希望日の2週間前から事務取扱日換算の前日まで

(2) 公認学生団体の教室使用申請

「第7 学生総合センター」の項を参照してください。

(3) 外部団体の教室使用申請

詳細は管財部管財担当に問い合わせてください。施設使用費等が必要となります。
※他地区の教室利用については、各地区で申請方法等を確認してください。

4 緊急時における授業の取扱い

政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合や、各種自然災害・大規模な事故等による鉄道等交通機関の運行停止、その他緊急事態が発生した場合の授業の取扱いは次のとおりとします。

(1) 政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合

首都圏・東海地方を中心とする大規模な地震発生が予想され、政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合は、ただちに全学休校とします。なお、地震が発生することなく「東海地震注意情報」が解除されたときの対応については、ホームページ等を通じてお知らせします。

(2) 鉄道等交通機関の運行停止やその他緊急事態発生の場合

台風・大雨・大雪・地震等の各種自然災害や大規模な事故等による鉄道等交通機関の運行停止、その他緊急事態の発生により、休講措置をとらざるを得ない場合はホームページ等を通じてお知らせします。

URL <http://www.gakuji.keio.ac.jp/index.html>

<その他の注意事項>

授業開始後に緊急事態が発生した場合は、状況により授業の短縮や早退など別途措置を講じます。

掲示や構内放送、上記のホームページによる大学からの指示に従ってください。

5 早慶野球戦時における授業の取扱い

授業は1時限のみとし、2時限以降は応援のため休講とします。雨天中止による延期や、同点終了による3回戦以降もこれに準じます。試合結果は、東京6大学野球連盟オフィシャルサイトで確認してください (<http://www.big6.gr.jp/>)。雨天等による当日試合中止の判断は、明治神宮野球場(神宮球場)の判断によります。(神宮テレフォンサービス: TEL 03-3236-8000)

ただし、アート・マネジメント分野(修士課程)、情報資源管理分野(修士課程)、図書館・情報学専攻(後期博士課程)については、通常通り授業を行います。

6 成績

(1) 成績評語

学業成績の評語はA・B・C・Dの4種で示すことを基本とし、A・B・Cを合格、Dを不合格とします。ただし、特定の科目は、評語をP・Fの2種とし、この場合、Pを合格、Fを不合格とします。さらに、他大学等で履修した科目をA・B・CまたはPの評語を用いず認定する場合は、これをGとします。

(2) 学業成績表

学業成績表を春学期終了科目については9月上旬に、通年(セット)科目や秋学期終了科目も含めた当該年度最終の学業成績表については3月中旬に本人宛に郵送します。学業成績表はいかなる事情があっても再発行しません。

(3) Web 閲覧

特定期間内に学業成績表をWebで閲覧可能です。利用にあたっては「keio.jp」のID・パスワードおよび「学事Webシステム」のパスワードが必要です。閲覧期間等の詳細は「塾生の皆様へ」ホームページで告知します。なお、パスワードの再発行等、Webシステムの利用案内については、「第4 Webシステム」の項を参照してください。

(4) 学業成績証明書

学業成績証明書を発行する時期は翌年度以降(4月以降)です。ただし、修士修了決定者については事前申請により学位授与式の日以降に発行します。詳細は1月に掲示します。学位授与式の日程については、「第1 学事関連スケジュール(三田)」の項を参照してください。

1 試験

試験は、随時授業時間内に行われます。別途指示がある場合には掲示されることがありますので、掲示板にも留意してください。なお、学部と併設する修士課程の科目については学部に基づき定期試験を行うことがあり、追加試験の対象ともなります。掲示を確認してください。日程は「第1 学事関連スケジュール(三田)」の項を参照してください。

※定期試験時間割、持ち込み指示、受験に関する注意事項等の詳細を掲示で必ず確認してください。

※定期試験・追加試験のURL：<http://www.gakuji.keio.ac.jp/academic/shiken/index.html>

<定期試験に関する注意>

- a 受験に際しては不正行為のないように、真摯な態度で臨んでください。
- b 答えは必ず提出しなければなりません。持ち帰った場合は不正行為と判断され、処分の対象とされます。
- c 学生証を必ず携帯し、提示してください。
- d 試験当日、万一学生証を携帯しなかった場合は、学事センターで必ず仮学生証(発行当日に限り全キャンパスで有効、図書館入館も可)の交付を受けてください。なお、仮学生証の発行には、手数料500円が必要となります。
- e 学生証または仮学生証を携帯せずに試験教室に入室することは一切認められません。
- f 仮学生証発行手続により、試験教室への入室が遅れても試験時間の延長はありません。また、追加試験の対象とはなりません。
- g 答案用紙の担当者および科目名ならびに学籍欄の記入事項はすべて略さず正確に記入してください。記入がない場合、成績はつきません。
- h 試験開始後20分までの遅刻の場合は、試験を受験することができます(試験期間の延長はありません)。ただし、遅刻理由が電車遅延等追加試験の対象となるものの場合、当該試験をそのまま受験するのか、それとも追加試験の申請をするのかは、本人の判断に依ります。電車遅延発生に伴い試験開始時間を遅らせる場合がありますので、必ず試験会場に向かって試験監督の指示に従ってください。
- i 試験開始後の体調不良等の理由で途中退室する場合は、追加試験の対象とはなりません。

2 レポート

レポート提出は、教室および研究室等で直接教員に提出する場合と、学事センターに提出する場合があります。学事センターへの提出を指示された場合は、以下を厳守してください。

- ① 指定された期間に指定された場所へ提出してください。それ以外は受け付けません。
- ② 一度提出したレポートの変更・訂正は、提出期間内でも認めません。
- ③ 学事センターへ提出を指示された場合は、所定のレポート提出用紙(2枚複写式)に必要な事項を記入し、レポートに添付して提出してください(2枚とも)。レポート提出用紙は学事センターにあります。
- ④ 学事センターレポートボックス受付時間(時間厳守)

受付曜日： 火・水曜日 または 木・金曜日

受付時間： 8:45～16:45

※受付曜日・時間等を変更する場合は、掲示等でお知らせします。

※授業期間中であっても、都合により閉室することがあります。

1 窓口案内

(1) 学生生活支援

課外活動, 課外教養, 奨学金, 学生健康保険互助組合等に関することを取り扱っています。

(2) 就職・進路支援

就職・進路相談, OB・OG情報, 就職ガイダンス, 求人情報等に関することを取り扱っています。

(3) 学生相談室

さまざまな悩みや相談を受け付けています。

2 学生生活支援

(1) 学生食堂の使用申請

対 象 …… 公認学生団体・研究会・教職員・塾員等のパーティー

使用可能期間 …… 日曜・祝日以外

手 続 …… 窓口に「学内集会届」を提出
予約後2週間以内に「学内集会届」にて正式申込をしてください。

備 考 …… 「学内集会届」が提出されなかった場合, 予約が取り消されます。食事の内容等については「学内集会届」提出後に, 当該食堂に直接相談をしてください。

(2) 学外行事の届出, 団体割引の届出

対 象 …… 公認学生団体や研究会の学外行事 [例] 合宿, コンサート, 懇親会

手 続 …… 窓口に「学外行事届」を提出

申 込 期 日 …… 行事の4日前(土・日・祝日を除く)まで

備 考 …… 受理されると傷害保険の対象となります(学生教育研究災害傷害保険の項参照)。
また, 団体割引やゴルフ場使用税免除に関する証明も受け付けます。

(3) 備品借用の申請

対 象 …… 備品借用 [例] ステッカー, ワイヤレスマイク, 塾旗, 水差, 椅子, 机等

手 続 …… 窓口に「借用書」を提出

申 込 期 日 …… 借用希望日の4日前(土・日・祝日を除く)まで

(4) 掲示・チラシ配布の申請

対 象 …… ポスターの掲示やチラシ・パンフレットの配布

手 続 …… 窓口に「届出書」を提出

申 込 期 日 …… 行事の4日前(土・日・祝日を除く)まで

(5) 伝言板および「DENGON」

対 象 …… 塾生間の連絡用

手 続 …… 窓口に申し出て「掲示物受付簿」を記入

備 考 …… A4用紙1枚のみ掲示可能

(6) 車輛入構の申請

塾生の車輛入構は認められていません。やむを得ず車輛入構の必要がある場合のみ下欄を参照してください。

手 続 …… 窓口に「届出書」を提出

申 込 期 日 …… 入構希望日の4日前(土・日・祝日を除く)まで

(7) 大学生生活懇談会

講演会や見学会をはじめ, スキー企画等さまざまな催物を随時開催しています。企画内容については構内のチラシやポスター, 学生総合センターホームページを参照してください。

(8) 配布物・閲覧物関係

財団法人セミナーハウスの利用案内や展覧会等の割引券・招待券を置いています。また, ボランティア募集や公募関係の案内もファイル等で公開しています。

3 遺失物の取扱い

届出のあった遺失物は、学生総合センター学生生活支援窓口にて保管しています。

ただし、学生証のみの拾得については、学事センター（総合窓口）にて保管します（学生証が、財布や定期入れ等に入っている場合は、学生総合センターで保管されます）。

4 奨学金

(1) 「奨学金案内」

学生総合センターで「奨学金案内」を配布し、「奨学金案内」にて別途詳細を案内しています。「奨学金案内」は、概ね4月初旬に配布し、配布後に随時出願受付を行います。

(2) 主な奨学金の概略

募集日程は、その都度西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

慶應義塾大学大学院奨学金〔給付〕… 5月中旬に出願受付を行います。

日本学生支援機構奨学金〔貸与〕… 4月上旬から中旬に出願受付を行います。第一種（無利子）と、第二種（有利子）があり、その他に家計急変者を対象とした緊急採用（第一種）・応急採用（第二種）もあります。

地方公共団体、社・財団法人等の… 募集は主に4・5月に行います。
各種奨学金〔給付・貸与〕

指定寄付奨学金〔給付〕… 募集は主に4月に行います。

(3) 奨学融資制度（利子給付奨学金制度付き学費ローン）

学生諸君の学費の調達の手助けになるよう配慮した制度で、学生本人に金融機関が低金利で学費を直接貸し出しする方式です。在学生であれば、誰でも申請することが可能です。在学中の借りに伴う利子は、本人の申請に基づいて規程に従い、慶應義塾が奨学金として給付します。入学年度等により、適用制度が異なりますので、詳細は奨学金窓口までお問い合わせください。

5 就職・進路支援

就職・進路支援は、就職活動に関するさまざまな情報を収集して提供しています。企業からの求人票・説明会案内をはじめ、会社案内、OB・OG情報、インターンシップ情報等を、学生総合センター事務室、就職資料室にて、提供しています。また、keio.jp上から求人票や就職活動体験記を閲覧することもできます。

修士1年生に対しては、10月から2月にかけて多様な専門家等による講演会、就職ガイダンス、公務員志望者のための説明会、OB・OGや内定者によるパネルディスカッション等をキャンパス内で開催しています。また、就職活動の進め方を解説した『就職ガイドブック』を作成し、修士1年生全員に配布しています。皆さんが就職活動をする中でわからないこと、困ったこと等があった場合には、いつでも個別相談にも応じています。

6 学生相談室

学生相談室は、学生生活を送っていく中で出会うさまざまな事柄について、気軽に相談できる場所です。相談には、可能な限りその場で応じますが、原則として予約制となります（電話予約可）。相談内容については、固く秘密を守ります。友人や家族と一緒に来談されても結構です。また、相談内容によっては、必要に応じて他部署・他機関への紹介も行います。また、学生相談室では、カウンセリングだけでなくより豊かで充実したキャンパスライフをおくれるよう、さまざまなグループ企画を用意しています。参加ご希望の方はお問い合わせください。

7 学生健康保険互助組合

保険証を提示し、病院や診療所で受診した場合、学生健保から医療費給付が受けられます。給付手続は、医療機関によって異なりますので、以下に従って手続してください。なお、給付方法は銀行振込（ゆうちょ銀行は不可）となりますので、口座登録が必要です。

- 慶應病院で受診した場合 … 病院で診察を受ける際、保険証と学生証を提示してください。また「医療給付金振込口座届」を学生生活支援窓口へ提出し、振込口座を登録してください。通院は受診月の翌月20日に、入院は翌々月20日に給付金が振り込まれます。
- 一般病院で受診した場合 … 学生生活支援窓口においてある「医療費領収証明書」に、病院で1か月ごとの診療内容を記入してもらい、塾生記入欄には各自記入して、学生生活支援窓口へ提出してください。ただし、「学生氏名」「保険点数または保険適用金額」「負担割合」の3点が明示された領収証が発行されている場合は領収証の添付でかまいませんが、必ず「医療費領収証明書」に保険者番号、傷病名等を記入して提出してください。受診月を含め、4カ月以内に提出されない場合は無効となります。振込日は証明書を提出した月の翌月20日です。

組合ではこのほか、契約旅館に対する宿泊費補助や、海の家、スキーハウスの開設等を行っています。また、日吉塾生会館内にトレーニングルームを設置しています。

その他、入学時に配布した「健保の手引き」でさまざまな案内をしていますので、詳細を確認してください。「健保の手引き」は学生総合センター窓口でも閲覧可能です。

8 学生教育研究災害傷害保険

教育研究活動中の不慮の災害事故補償のために、大学で保険料の全額を負担し、日本国際教育支援協会の「学生教育研究災害傷害保険」に加入しています。この保険の適用を受ける「教育研究活動中」とは次の場合をいいます。

(1) 正課を受けている間

講義、実験・実習、演習または実技による授業（総称して以下「授業」といいます）を受けている間をいい、次に掲げる間を含みます。

- ① 指導教員の指示に基づき、卒業論文研究または学位論文研究に従事している間。ただし、もっぱら被保険者の私生活にかかわる場所において、これらに従事している間を除きます。
- ② 指導教員の指示に基づき、授業の準備もしくは後片付けを行っている間、または授業を行う場所、大学の図書館・資料室もしくは語学学習施設において研究活動を行っている間。

(2) 学校行事に参加している間

大学の主催する入学式、オリエンテーション、卒業式等の教育活動の一環としての各種学校行事に参加している間。

(3) (1)(2) 以外で学校施設内にいる間

大学が教育活動のために所有、使用または管理している施設内にいる間。ただし、寄宿舎にいる間、大学が禁じた時間もしくは場所にいる間、大学が禁じた行為を行っている間を除きます。

(4) 学校施設外で大学に届け出た課外活動を行っている間

大学の規則に則った所定の手続により、大学の認めた学内学生団体の管理下で行う文化活動または体育活動を行っている間。ただし山岳登山やハングラライダー等の危険なスポーツを行っている間を除きます。

保険金は本人（被保険者）の申請に基づき支払われますので、上記活動中に万一事故にあった場合は、学生生活支援窓口で相談のうえ、所定の手続を行ってください。また、本保険の適用が円滑に行われるよう、ゼミ合宿を学外で行う場合、および公認学生団体が学外で活動する場合は、その都度「学外行事届」を提出してください。

その他この保険に関する詳細については、直接学生生活支援窓口で尋ねてください。

9 任意加入の補償制度

任意加入の補償制度としては、以下の2種類があります。資料請求や加入希望の場合は直接連絡をしてください。

(1) 「学生総合補償制度」

(株)慶應学術事業会（慶應義塾関連会社） TEL 03-3453-3846

(2) 「学生総合共済」・「学生賠償責任保険」

慶應生活協同組合 TEL 045-563-8489

定期健康診断

定期健康診断は学校保健法に基づいて全学年を対象に年1回実施しています。大学院学則第159条(学部学則179条)にも「学生は毎年健康診断を受けなければならない」と定められていますので必ず受診してください。未受診の場合には「体育実技」の履修および健康診断証明書・学割証(学校学生生徒旅客運賃割引証)の発行はできません。

なお、アート・マネジメント分野(修士課程)、情報資源管理分野(修士課程)、図書館・情報学専攻(後期博士課程)在籍の学生で、定期健康診断を期間内に受けることができず、企業等で既に健康診断等を受けられた方は、保健管理センター(三田分室)にその旨、お申し出ください。

また学内における麻疹の集団感染を予防するために、母子健康手帳等を確認し、ワクチン未接種でかつ罹患したことのない方、あるいはワクチンを1回接種し10年以上経過した方は、かかりつけ医師と相談し、ワクチン接種を受けることをお勧めします。また、風疹・水痘(みずぼうそう)・流行性耳下腺炎(おたふく)等の感染症予防についてもかかりつけ医師とご相談ください。学内集団感染予防のため、ご協力ください。

<保健管理センター(三田分室)>

受付時間 月～金 8:45～16:15(診療時間とは異なりますので、ご注意ください)

TEL: 03-5427-1607 E-mail: hc@info.keio.ac.jp

1 課程修了にいたるまでの要件

課程修了の認定は、研究科委員会が行う。(学則第 109 条)

(1) 修士課程

文学研究科修士課程に 2 年以上在籍し、32 単位以上の授業科目を修得し、かつ研究上必要な指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。(学則第 11 条・15 条・109 条参照)

(2) 後期博士課程

文学研究科後期博士課程に 3 年以上在籍し、原則として各年度 2 科目 4 単位以上を 3 年にわたり履修、指導教授の担当する 2 科目を含め、合計 6 科目 12 単位以上の授業科目を修得した上、学位論文(博士論文)の審査及び最終試験に合格することとする。(学則第 18 条・19 条・109 条参照)

なお、上記要件のうち、学位論文の審査及び最終試験を除き、所定の教育課程を終えた段階で修了する場合「単位取得退学者」として扱われます。(「3 単位取得退学および在学期間延長」参照)

2 学位請求論文の提出について**(1) 修士論文の提出と修士学位の授与**

修士の学位は、大学院前期博士課程、大学院修士課程を修了した者に与えられる。(学位規程第 3 条)

第 3 条の規定に基づき修士学位を申請する者は、学位論文 3 部を指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。(同第 7 条①)

修士論文提出に関しての手順は次のとおりです。

① 修士論文題目届(11月中旬予定)

指導教授と相談のうえ、修士論文の提出が許可された場合は、所定用紙(学事センターで交付)にて論文題目を届け出てください。詳細については 10 月中旬に掲示にて指示します。

なお、論文題目届を提出した後は、題目(副題目も含む)は原則変更できません。また、この届を提出した後に論文提出を辞退する場合は、必ず文書(様式任意・指導教授承認印が必要)にて学事センターに申し出てください。

② 論文提出(1月下旬予定)

提出日、提出方法については掲示にて指示します。なお、論文題目については(1)で提出した題目(副題目も含む)と同じものとします。

③ 修士論文面接(2月下旬または3月初旬予定)

提出された論文をもとに面接が行われます。面接日時については、掲示で指示します。

(2) 博士論文の提出と博士学位の授与**① 課程による博士学位の授与(「課程博士」)**

博士の学位は、大学院後期博士課程を修了した者に与えられる。(学位規程第 4 条)

第 4 条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文 3 部および所定の書類を添え、指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。(同第 7 条②)

なお課程による博士学位は原則として、修了に必要な単位を取得し、在学中に学位論文を提出し、かつ文学研究科委員会にて受理され、合格した場合に与えられますが、後期博士課程入学後 6 年以内に学位論文が文学研究科委員会にて受理されれば、課程博士として申請することができます。

これは、在学期間内の文学研究科委員会にて論文受理後、審査の途中で退学を希望する場合や、後期博士課程入学後 6 年の期間内に学位論文が提出され、同期間内の文学研究科委員会にて受理された場合などが該当します。

② 論文による博士学位の授与(「論文博士」)

博士の学位は、研究科委員会の承認を得て学位論文を提出して論文の審査に合格し、かつ大学院後期博士課程の修了者と同等以上の学識があることを確認(以下「学識の確認」という)された者に与えられる。(学位規程第 5 条)

第 5 条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文 3 部および所定の書類を添え、その申請する学位の種類を指定して、学長に提出しなければならない。(同第 8 条)

博士論文を提出する場合は、学事センター窓口で提出書類、手続方法について確認してください。なお、博士論文の審査については、「博士の学位論文の審査並びにこれに関連する試験および学識の確認等は、論文受理後1年以内に終了するものとする」(学位規程第10条②)と規定されています。

(3) 論文体裁

学位請求論文については三田メディアセンター(図書館)および国立国会図書館(博士論文のみ)に所蔵しますので、以下の体裁に整えるよう協力をお願いします。なお、資料等の都合で規定の大きさに入らない場合は、巻末の表紙見本に従って表紙を付けて製本してください。

- ① 本文の縦書き・横書きにかかわらず、原則として縦A4版で製本してください。(縦書きの場合は右綴じ、横書きの場合は左綴じとなります)
- ② 製本の表紙は、本文が縦書きの場合は縦書き、横書きの場合は横書きとします。
- ③ 製本の背文字は、本文の縦書き、横書きにかかわらず縦書きとしてください。
一部英単語が入る場合は、英単語のみ横書きとし、他の日本語は縦書きとしてください。
- ④ 製本はハードカバーで黒を原則とし、白文字を使用してください。
- ⑤ 表紙の見本をこの案内の巻末に示します。既に公刊されている書物等を学位請求論文とする場合についてはこの限りではありません。

(4) 三田メディアセンターからの学位論文利用許諾協力依頼

三田メディアセンター(図書館)では学位論文を保存し、利用に供しています。メディアセンターが利用者に提供するサービスのうち以下の項目については、事前に著作権者からの許諾を必要としています。学位論文を学事センターに提出する際に、「学位論文利用許諾書」に必要事項を記入のうえ、一緒に提出してください。なお、学位授与にいたらなかった場合は、メディアセンターが責任をもって廃棄します。

許諾を必要とする項目

- ・修士論文提出者：「館外への貸出」、「複写」、「電子媒体の公衆送信」※
 - ・博士論文提出者：「論文全体の2分の1以上の分量の複写」、「電子媒体の公衆送信」※
- (※は将来的に可能性がある利用方法です)

3 単位取得退学および在学期間延長(後期博士課程のみ)

(1) 単位取得退学

大学院後期博士課程修了に必要な単位を取得し、規定の在学年数(3年)を満了した場合、単位取得退学者として教育課程を終了することができます。

上記の条件に該当し、単位取得退学を希望する場合は、指導教授の承認を得たうえで、2月末日までに、「単位取得退学届」を学事センターに提出してください。

なお、「単位取得退学届」は学事センターで所定用紙を受け取ってください。ホームページ上からダウンロードすることも可能です。

<単位取得退学者のメディアセンターの利用について>

3年以内に博士論文を提出する目処がある場合に限り、三田メディアセンターの図書貸出を受けることができる「塾員貸出券」(有料)を発行しています。詳細は三田メディアセンター1階メインカウンターまでお尋ねください。

有効期間：申込日より6ヶ月もしくは1年

サービス範囲：三田メディアセンターに関しては大学院生と同等の貸出規則を適用する。日吉、理工学、湘南藤沢の各メディアセンター、白楽サテライトライブラリーへの入館・閲覧、他大学図書館への紹介状の発行が可能。

(2) 在学期間延長許可願

3年間の在学中に後期博士課程修了に必要な単位を取得した者で、博士論文作成にまだ時間を要する場合、1年を単位として在学最長年限(6年)を越えない範囲で在学期間の延長を許可することができます(通常3回まで)。その場合は、指導教授の承認を得たうえで、2月末日までに「在学期間延長許可願」を学事センターに提出してください。

所定用紙は、学事センター文学研究科窓口で受け取るか、ホームページからダウンロードしてください。なお、在学期間延長中の休学・留学は、在学期間延長の回数にカウントされますので、注意してください。在学期間延長中に休学・留学する場合でも、在学期間延長届の提出は必要です。

以上の取扱いについては巻末諸規程抜粋を併せて参照してください。

- | | | |
|------|-----|--|
| 関連規程 | 1-1 | 学位規程(抜粋) |
| | 1-2 | 学位の授与に関する内規 |
| | 4-1 | 大学院在学期間延長者取扱い内規 |
| | 4-2 | 大学院在学期間延長者並びに年度途中の修了者に対する在学科その他の学費に関する取扱内規 |

4 他大学大学院との相互科目履修

修士課程在学中に、8単位^(注)を上限として早稲田大学大学院文学研究科・学習院大学大学院人文科学研究科・早稲田大学大学院教育学研究科の設置科目を履修することができます。また哲学・倫理学専攻の修士課程では、上記の相互履修科目と合わせて8単位^(注)までの範囲で上智大学大学院哲学研究科の設置科目を履修することができます。

また、この科目は課程修了に必要な単位とすることができます。

巻末の「他大学大学院との相互科目履修に関する協定」を参照してください。

(注)「留学に伴う単位認定」も行う場合は、両方をあわせて10単位が上限となります。

<他大学大学院との交流手続の方法>

- ① 「他大学大学院設置科目履修申告用紙」(A4横の白紙)
 - ② 「大学院交流学生履修届」(A・B・Cの三票が1枚になったA4縦の青紙)
- 以上2枚の所定用紙を学事センター文学研究科担当窓口で受け取る。



「大学院交流学生履修届」(A・B・C全票)に必要な事項(学籍・氏名・住所・科目)を記入し、指導教授承認印欄に指導教授の印をもらう。



- ① 「他大学大学院設置科目履修申告用紙」を学事センター文学研究科担当窓口へ提出する。
- ② 相手校で当該授業に出席して、「大学院交流学生履修届」(A・B・C全票)の担当者欄に講義担当者の承認印を受けた上で、指示された期間中に相手校事務室へ提出し、相手校事務室の割印を受けた「大学院交流学生履修届」(A票)のみを受け取る。

【履修届受付期間：2009年4月10日(金)～4月16日(木)※】

※ただし、上智大学大学院の授業開始は4月13日(月)です。履修届受付期間は4月13日(月)～17日(金)となります。



履修が許可された場合、三田学事センター文学研究科窓口にて、5月14日(木)より「大学院交流学生履修届」(A票)を確認の上、相手校発行の「交流学生登録証」をお渡します。

<注意事項>

- ① 相手校の学科目を履修する場合は、必ず予め指導教員の承認をうけてください。これは履修決定以前の聴講の場合でも同様です。
- ② 万一、履修を途中でやめるときは、速やかに講義担当者、相手校事務室および指導教員、三田学事センター文学研究科担当に連絡してください。ただし、履修申告の削除はできません。

5 文学研究科と経済学研究科のジョイントディグリーについて

文学研究科および経済学研究科双方の専門に関心をもつ修士課程学生を対象に、ジョイントディグリー制度を設けることになりました。これにより、文学および経済学の2つの修士学位を2年ないし3年間で取得することができるようになります。

※ ジョイントディグリー制度： ある分野で学位を授与された後に別の分野で教育を受け学位を授与されるというように、一定期間において複数学位を取得できる履修形態を指します。

※※ 以下、最初の修士学位を取得する研究科を「第1研究科」、二つ目の修士学位を取得する研究科を「第2研究科」と呼びます。

※※※ 通常は第1研究科で2年、第2研究科で1年の計3年間で2つの修士学位を取得することになります。2年間で2つの修士学位を取得できるのは、第1研究科を「1年間修士修了制度」を利用して修了した場合です。1年間修士修了制度を利用できるかどうかについては、第1研究科に入学後、指導教授に確認してください。

(1) 概要

第1研究科の修士課程第2学年在学時に、第2研究科のジョイントディグリー取得希望者向け入学試験に出願し、合格します。合格後には、第1研究科で予め自由科目として取得しておいた第2研究科設置科目の単位認定を最大12単位まで受けることができる他、第1研究科において履修・合格した第1研究科設置科目の単位についても、最大10単位まで、第2研究科を修了するための単位として認定を受けることができます。入学後は、第2研究科の修了要件ののっとり履修し修士学位取得を目指します。

なお、文学研究科美学美術史学専攻（アート・マネジメント分野）および図書館・情報学専攻（情報資源管理分野）については社会人を対象として設置されていることからジョイントディグリー制度の対象には含まれません。

(2) 各研究科の修了要件

ジョイントディグリー制度が適用される学生であっても、以下の各修了要件の変更は行いません。

	文学研究科	経済学研究科
修了要件	32単位	30単位
その他要件	以下の要件を充足 ・各専攻に設置された科目から32単位以上	以下の要件を充足 ・基礎科目：8単位以上 （同一科目4単位を限度） ・専攻科目：10単位以上 ・演習科目：8単位以上

(3) 入学試験

双方の研究科は、ジョイントディグリー取得希望者向けに一般入試とは別に入学試験を設定します。この入学試験に応募できる学生は、第1研究科第2学年在学者とし、当該年度末に第1研究科を修了見込みで、第2研究科でのジョイントディグリー取得を希望する者としてします。入学試験は、双方の研究科における一般入試と並行して行ない、面接試験（第2次試験）のみによって実施します。入学試験の実施時期は2010年度入試〔2010年3月実施〕を予定しています。

なお、一方の研究科を修了後、一定の期間を空けた後にこの入試制度により出願することは認めません。

講義要綱・シラバス

文学研究科設置科目の単位数は、全て2単位です。

修士課程設置科目

哲学・倫理学専攻

哲学特殊講義Ⅰ（春学期）

科学の中の確率

教授 西脇 与作

授業科目の内容：

科学の理論と観察の両方で確率や統計が用いられる場合が多い。この授業では確率のもつ様々な側面を取り上げ、考えてみたい。確率の基本を解説した上で、関連する論文を読みながら、議論したい。

哲学特殊講義Ⅱ（秋学期）

科学と確率

教授 西脇 与作

授業科目の内容：

春学期の継続で、確率に関する主要論文をさらに検討し、確率の非古典的な使われ方をさぐってみる。

哲学特殊講義Ⅲ（春学期）

現代論理とその応用

教授 岡田 光弘

講師 竹村 亮

授業科目の内容：

現代論理学の諸問題と修士課程（哲学特殊）との共通証明論、線形論理等を中心とした現代論理的諸手法の導入と、論理哲学、情報科学、認知科学、AI等への応用を行う。又、フッサール論理哲学、アリストテレスの論理学等についても現代論理的観点から検討する。

哲学特殊講義Ⅳ（秋学期）

現代論理とその応用

教授 岡田 光弘

講師 竹村 亮

授業科目の内容：

現代論理学の諸問題と修士課程（哲学特殊）との共通春学期に引き続き、証明論、線形論理等を中心とした現代論理的諸手法の導入と、論理哲学、情報科学、認知科学、AI等への応用を行う。又、フッサール論理哲学、アリストテレスの論理学等についても現代論理的観点から検討する。

哲学特殊講義Ⅴ（春学期）

ドゥルーズ哲学研究

講師 國分 功一郎

授業科目の内容：

ジル・ドゥルーズ(1925-1995)の哲学について解説していきます。またドゥルーズを通じて、いわゆる「フランス現代思想」の課題が何であったのかについても考えていきます。

哲学特殊講義Ⅵ（秋学期）

ドゥルーズ哲学研究

講師 國分 功一郎

授業科目の内容：

ジル・ドゥルーズの哲学について解説していきます。またドゥルーズを通じて、いわゆる「フランス現代思想」の課題が何であったのかについても考えていきます。

哲学特殊講義Ⅶ（春学期）

教授 斎藤 慶典

授業科目の内容：

フッサール現象学にかかわるドイツ語文献の精読を中心に、参加者による研究発表を随時おり込みながら授業を行ないます。今年度の使用テキストは以下の通りです。

哲学特殊講義Ⅷ（秋学期）

教授 斎藤 慶典

授業科目の内容：

「哲学特殊講義Ⅶ」と同じ。

哲学特殊講義Ⅸ（春学期）

様相論理入門～意味論を中心に～

講師 串田 裕彦

授業科目の内容：

現代の様相論理の意味論的側面を中心に、基礎から発展的内容までを概観する。S4、S6など基礎的な論理体系に関する可能世界モデルに習熟し、いくつかのメタ定理のモデルを使った証明を理解する。そして最近の発展的な話題として、Priorに淵源するハイブリッド論理、Artemovの証明の論理（正当化の論理）やBeklemichevによる（様相論理の）算術証明論への応用などを取り上げ、論理的諸問題を検討する。

哲学特殊講義Ⅹ（秋学期）

様相論理入門～意味論を中心に～

研究員 串田 裕彦

授業科目の内容：

「哲学特殊講義Ⅸ」と同じ。

哲学特殊講義XI (春学期)

『純粋理性批判』研究

講師 山根 雄一郎

授業科目の内容:

「演繹論」(第二版)の講読。演習形式で行う。

英訳による参加の場合、本演習を機会にドイツ語を習得する意志を有することを条件とする。

哲学特殊講義XII (秋学期)

『純粋理性批判』研究

講師 山根 雄一郎

授業科目の内容:

春学期の続き。

哲学特殊講義XIII (春学期)

旧約聖書ヘブル語原典研究 (詩文テキスト)

講師 津村 俊夫

授業科目の内容:

春学期は、詩篇を講読しながら、ヘブル詩の並行法について学び、秋学期には、雅歌の原典講読を行なう。

哲学特殊講義XIV (秋学期)

講師 津村 俊夫

授業科目の内容:

「哲学特殊講義XIII」参照。

哲学特殊講義XV (春学期)

『イデーニ I』を読む

教授 齋藤 慶典

授業科目の内容:

フッサール『純粋現象学と現象学的哲学のための諸考案・第1巻』(通称『イデーニ I』, 1913年刊)より、今年度はその第4編「理想と現実」、第1章「ノエマ的意味と、対象への関係」、第2章「理性の現象学」、第3章「理性論的な問題 探究の普遍性と諸段階」を取り上げ、「現象学」という発想の全体像を検討します。授業は、あらかじめ分担を定められた担当者によるテキスト当該部分のレジюмеと問題提起をもとに、参加者全員によるディスカッションを中心に行ないます。テキストは以下の邦訳版を使用し、必要に応じて原著を参照します(ただし、受講者のドイツ語能力を前提にはしません)。

哲学特殊講義XVI (秋学期)

教授 齋藤 慶典

授業科目の内容:

「哲学特殊講義XV」を参照してください。

哲学特殊講義演習 I (春学期)

教授 齋藤 慶典
理工学部 専任講師 荒金 直人

授業科目の内容:

博士課程「哲学特殊研究III」と同じ。

哲学特殊講義演習 II (秋学期)

教授 齋藤 慶典
理工学部 専任講師 荒金 直人

授業科目の内容:

博士課程「哲学特殊研究III」と同じ。

哲学特殊講義演習 III (春学期)

Selected Topics in Transcendental Idealism and Contemporary Metaphysics

教授 飯田 隆
准教授 エアトル, ヴォルフガング

授業科目の内容:

In recent years Kant's transcendental idealism has been investigated by those with an interest in contemporary metaphysics and this development has produced a number of quite challenging claims, like the one which takes transcendental idealism to be essentially an account of fundamentally different types of properties. These discussions provide us with the opportunity to look at a number of key metaphysical topics such as (1) the distinction of primary and secondary qualities, in analogy to which some commentators try to interpret transcendental in the first place, (2) the ontology of causal powers and along with it, (3) the status of laws of nature, (4) the notorious and in a sense ubiquitous issue of supervenience and many more.

Although the interaction of Kantian and contemporary metaphysics has turned out to be rather productive, it is indispensable to keep an eye on the historical setting of Kant's claims. As we shall see, Kant needs to be understood as moving within the framework of classical ontology, sometimes of course fine tuning it to a considerable extent.

That said, the guiding idea of the seminar is to move from contemporary metaphysical accounts back to Kant and vice versa in order to mutually elucidate them in terms of the other. In the course of this procedure, we will also take a look at Kant's philosophy of space and time, contemporary accounts of the ontology of spatio-temporal objects and possibly, even the transcendental deduction of the categories.

哲学特殊講義演習Ⅳ（秋学期）

Selected Topics in Transcendental Idealism and
Contemporary Metaphysics

教授 飯田 隆
准教授 エアトル, ヴォルフガング

授業科目の内容：

「哲学特殊講義演習Ⅲ」と同じ。

哲学特殊講義演習Ⅴ（春学期）

イスラーム哲学の源流から完成形まで

教授 堀江 聡

授業科目の内容：

9世紀バグダードにおいてギリシア哲学の移入を先導した、アラブ最初の哲学者アル=キンディーの主著『第一哲学』をアラビア語原典で講読します。アラビア語をまったく知らない学生にアラビア文字のイロハと、テキストを読む上で必要最低限の文法の手ほどきをしたあとは、教室で一緒に辞書を繙いて、手取り足取りそれぞれ家庭教師のごとく教え導くことになるでしょう。

哲学特殊講義演習Ⅵ（秋学期）

イスラーム哲学の源流から完成形まで

教授 堀江 聡

授業科目の内容：

「哲学特殊講義演習Ⅴ」と同じ。

哲学原典研究Ⅰ（春学期）

休講

哲学原典研究Ⅱ（秋学期）

教授 飯田 隆

授業科目の内容：

参加者による研究発表と討論から成る授業です。

哲学原典研究Ⅲ（春学期）

教授 中川 純 男

授業科目の内容：

アウグスティヌス『告白』をラテン語で講読する。ラテン語の読解力と共に哲学文献の分析手法を身につけることを目的とする。

哲学原典研究Ⅳ（秋学期）

教授 中川 純 男

授業科目の内容：

アウグスティヌス『告白』をラテン語で講読する。ラテン語の読解力と共に哲学文献の分析手法を身につけることを目的とする。

哲学原典研究Ⅴ（春学期）

プラトン『国家』講読

教授 堀江 聡
教授 納富 信留
講師 栗原 裕次

授業科目の内容：

『国家』はプラトン中期の代表作であり、正義論から教育論、文芸批評、心理学、存在論、認識論、政治学、学問論、快樂論ときわめて幅広いテーマを論じる、全10巻の大著である。本演習では、2010年夏に慶應大学で開催される、第9回国際プラトン学会シンポジウム（『国家』がテーマ）をにらんで、数年前からS.R.Slingsの新しい校訂版を読み進めており、昨年度までで第7巻後半まで進んでいる。本年度は第7巻の残り（数学教育）と第8巻以降の国制墮落論に入る。ギリシア語の基本的な読解と内容の理解を柱とし、毎回2章ずつ（4～5ページ）のギリシア語テキストを読みながら議論していく。

『国家』については、新プラトン主義者プロクロスによる註釈が残っており、本文と並行して関連箇所にあたる必要がある。Procli dialochi, *In Platonis Rem Publicam Commentarii*, ed., G. Kroll, vol.1, Amsterdam, 1965 (Leipzig, 1898). その翻訳・訳註として、Proclus, *Commentaire sur la République*, traduction et notes par A.J. Festugière, tome II, Proclo, *Commento alla Repubblica di Platone*, a cura di Michele Abbate, Testo Greco a fronte, Milano, 2004を参照する。

哲学原典研究Ⅵ（秋学期）

プラトン『国家』講読

教授 堀江 聡
教授 納富 信留
講師 栗原 裕次

授業科目の内容：

春学期に引き続いて、プラトン『国家』を読み進める。詳細は担当者に問い合わせること。

倫理学特殊講義ⅠA（春学期）

教授 谷 寿美

授業科目の内容：

Serge Boulgakov “La Sagesse de Dieu” 1983, *L’age d’homme* を中心とするロシア宗教思想関連の文献を講読していきます。

倫理学特殊講義ⅠB（春学期）

道徳心理学と原則なき倫理学の可能性

講師 河野 哲也

授業科目の内容：

従来、倫理学は、カント主義せよ功利主義にせよ、道

徳性を法に近いものとして、原則を有すべきものとして理解してきました。しかしながら、徳性を、行為を事後に裁く原則としてではなく、日々の行動なかで行為を導くものとして考えたならば、むしろ原則は道徳的行動を阻害する非現実的なものなのではないでしょうか。

本講義では、善悪に関して個別主義的な実在論の立場を展開し、徳性の実在論、規範性の起源、徳性と人間心理の関係などのテーマを考察しながら、人間に道徳的行動を促す原則なき倫理学の可能性について論じていきたいと思います。

倫理学特殊講義 I C (春学期)

近代倫理思想の基底—「自己愛」概念の変容—

講師 坂倉裕治

授業科目の内容:

自己の探求は、西洋哲学の重要な問いのひとつであり続けている。この講義では、18世紀フランスで活躍した思想家ルソーのテキストを、思想的コンテキストのなかに置き直して読み解く。この作業を通じて、近代思想の特徴について考察するとともに、思想史研究の方法(作法)について学ぶ。本年度は、神と人間の関係に注目して、17・18世紀の神学論争を通じて蓄積された「神への愛」と「自己愛」の関係をめぐる道徳論議とつきあわせながら、ルソーの著作を読み解いていく。講義とテキストの講読を組み合わせながらすすめる予定である。秋学期の倫理学特殊講義 II C に接続する。

倫理学特殊講義 II A (秋学期)

教授 谷 寿 美

授業科目の内容:

「倫理学特殊講義 I A」と同じ。

倫理学特殊講義 II B (秋学期)

道徳心理学と原則なき倫理学の可能性

講師 河野哲也

授業科目の内容:

従来、倫理学は、カント主義せよ功利主義にせよ、徳性を法に近いものとして、原則を有すべきものとして理解してきました。しかしながら、徳性を、行為を事後に裁く原則としてではなく、日々の行動なかで行為を導くものとして考えたならば、むしろ原則は道徳的行動を阻害する非現実的なものなのではないでしょうか。

本講義では、善悪に関して個別主義的な実在論の立場を展開し、道徳性の実在論、規範性の起源、道徳性と人間心理の関係などのテーマを考察しながら、人間に道徳的行動を促す原則なき倫理学の可能性について論じていきたいと思います。

倫理学特殊講義 II C (秋学期)

近代倫理思想の基底—「自己愛」概念の変容—

講師 坂倉裕治

授業科目の内容:

春学期の倫理学特殊講義 I C に引き続き、ルソーのテキストを思想的コンテキストのなかに置き直して読み解く。本年度は、神と人間の関係に注目して、17・18世紀の神学論争を通じて蓄積された「神への愛」と「自己愛」の関係をめぐる道徳論議とつきあわせながら、ルソーの著作を読み解いていく。講義とテキストの講読を組み合わせながらすすめる予定である。

倫理学特殊講義 III A (春学期)

中世の存在論と倫理学

教授 山内志朗

授業科目の内容:

Etienne Gilson, *L'être et l'essence*, seconde ed., J. Vrin, 1987. を購読していく。

倫理学特殊講義 III B (春学期)

Kant: *Die Religion innerhalb der Grenzen der bloßen Vernunft I*

准教授 エアトル, ヴォルフガング

授業科目の内容:

In the opinion of many commentators, the spirit of Kant's philosophy is anti-metaphysical, anti-theological and diametrically opposed to a religious point of view. Taking a look into Kant's writings, however, it becomes clear rather quickly that the frequent remarks about God cannot be a mere concession to the feeble minded readers, as Heine and Schopenhauer wanted to make us believe. Rather, for Kant religion is an integral element in the realization of the demands of morality. But in order to be compatible with the autonomy of practical reason, religion itself needs to be subjected to the process of enlightenment and philosophical critique.

This is precisely what Kant is doing in his late work under consideration. As it will turn out he (rather than Hegel) is giving us something like a rational reconstruction of Christianity. This reconstruction provides us with the full picture of Kant's moral theory, which can only be fully understood in the overall framework of his practical philosophy.

In this respect, the following features of his moral theory are of particular interest: 1) its anti-individualistic nature, 2) the reconciliation of a cosmopolitan dimension with the particularity of political entities, 3) the interplay of ethics

and law in bringing about perpetual peace, 4) the role of the rationally reconstructed theological virtues in moral motivation’.

We will also take a fresh look at the famous royal reprimand which this work provoked and which forced Kant to promise not to publish anything dealing with religious questions again. Usually, this incident is seen as a close parallel to the cases of Wolff’s dismissal from Halle earlier and Fichte’s removal from Jena later. As we shall see, though, this standard interpretation is highly questionable.

In the spring term we will look at the first and the second “piece” of the text which deal with the notion of radical evil in human nature – a doctrine which many commentators find rather irritating – and with the doctrine of Christ as the personified idea of the principle of good respectively.

倫理学特殊講義Ⅲ C (春学期)

幸福をめぐる問題

商学部 教授 成田 和信

授業科目の内容 :

この授業では、現代の英語圏での議論を参照しながら、「幸福」をめぐる問題を検討します。現代の英語圏では、「幸福と何か」をめぐる提出されている理論を、心的状態説、欲求実現説、客観説の3つに分類しています。まずは、この3つの説がどのようなものなのかを、Shelly Kagan や Derek Parfit の文献を読むことで概観し、議論の出発点となる枠組みを獲得します。その後、春学期では、欲求実現説を検討します。

倫理学特殊講義Ⅳ A (秋学期)

中世の存在論と倫理学

教授 山内 志朗

授業科目の内容 :

「倫理学特殊講義Ⅲ A」の続講。

倫理学特殊講義Ⅳ B (秋学期)

Kant: Die Religion innerhalb der Grenzen der bloßen Vernunft II

准教授 エアトル, ヴォルフガング

授業科目の内容 :

In the autumn term we turn to pieces three and four. Piece three deals with the role of the ethical community, i.e. the enlightened universal church – encompassing all Christian and possibly also non-Christian creeds – in the realization of the highest good. Piece four consists of an account of the requirements religion must meet in order to be in accordance

with critical philosophical principles. This involves rather straightforward claims about which aspects of established religion need urgent reform or even abolishment.

倫理学特殊講義Ⅳ C (秋学期)

幸福をめぐる問題

商学部 教授 成田 和信

授業科目の内容 :

春学期に引き続いて、現代の英語圏の議論を参照しながら、幸福をめぐる問題を検討します。秋学期には、客観説を吟味します。さらに、「個人的関係」や「生きがい」や「主観的価値」といった周辺概念へも話を拡大し、考察を深めていければよいと思っています。

倫理学特殊講義演習Ⅰ A (春学期)

倫理学の諸問題

教授 樽井 正義

教授 谷 寿美

教授 山内 志朗

准教授 エアトル, ヴォルフガング

准教授 柘植 尚則

准教授 奈良 雅俊

授業科目の内容 :

倫理学専攻のすべての教員と大学院生が参加し、学生による報告と全員による討論という形で授業を行う。学生は、論文の作成に向けた中間発表を行い、その成果を論文として提出することが求められる。

倫理学特殊講義演習Ⅰ B (春学期)

カント政治哲学研究

教授 樽井 正義

授業科目の内容 :

Immanuel Kant: Zum ewigen Frieden. 1795 を講読する。

倫理学特殊講義演習Ⅱ A (秋学期)

倫理学の諸問題

教授 樽井 正義

教授 谷 寿美

教授 山内 志朗

准教授 エアトル, ヴォルフガング

准教授 柘植 尚則

准教授 奈良 雅俊

授業科目の内容 :

「倫理学特殊講義演習Ⅰ A」と同じ。

倫理学特殊講義演習ⅡB（秋学期）

社会哲学・生命倫理学研究

教授 樽井正義

授業科目の内容：

履修者が設定する社会哲学・生命倫理学の個別課題について、基本文献の購読とレポートの報告・討論を通じて、論文作成指導を行う。

倫理学特殊講義演習Ⅲ（春学期）

近代イギリス道徳哲学研究

准教授 柘植尚則

授業科目の内容：

この授業では17～19世紀の近代イギリス道徳哲学について考察する。近代イギリス思想が共通の課題としたのは「人間本性」であった。多くの思想家が人間本性について考察し、それに基づいて倫理・法・政治・経済・社会について考察を進めている。こうした考察は「道徳哲学」と呼ばれており、それが近代イギリス思想の一つの伝統であった。授業では、近代イギリス道徳哲学の古典を講読し、それについて議論しながら、人間本性論を中心に近代イギリス道徳哲学の諸潮流について検討する。本年度は、John Stuart Mill, *Utilitarianism* を取り上げる。

倫理学特殊講義演習Ⅳ（秋学期）

近代イギリス道徳哲学研究

准教授 柘植尚則

授業科目の内容：

「倫理学特殊講義演習Ⅲ」と同じ。

倫理学原典研究Ⅰ（春学期）

リクールの倫理思想の研究

准教授 奈良雅俊

授業科目の内容：

昨年度に引き続き、リクールの『他としての自己—自身』を原書で講読します。第8研究「自己と道徳的規範」を講読します。

倫理学原典研究Ⅱ（秋学期）

リクールの倫理思想の研究

准教授 奈良雅俊

授業科目の内容：

ジャン・グレーシュの『ポール・リクール 意味の道程』を原書で講読します。

倫理学原典研究Ⅲ（春学期）

Selected Topics in Transcendental Idealism and Contemporary Metaphysics

教授 飯田隆

准教授 エアトル, ヴォルフガング

授業科目の内容：

In recent years Kant's transcendental idealism has been investigated by those with an interest in contemporary metaphysics and this development has produced a number of quite challenging claims, like the one which takes transcendental idealism to be essentially an account of fundamentally different types of properties. These discussions provide us with the opportunity to look at a number of key metaphysical topics such as (1) the distinction of primary and secondary qualities, in analogy to which some commentators try to interpret transcendental in the first place, (2) the ontology of causal powers and along with it, (3) the status of laws of nature, (4) the notorious and in a sense ubiquitous issue of supervenience and many more.

Although the interaction of Kantian and contemporary metaphysics has turned out to be rather productive, it is indispensable to keep an eye on the historical setting of Kant's claims. As we shall see, Kant needs to be understood as moving within the framework of classical ontology, sometimes of course fine tuning it to a considerable extent.

That said, the guiding idea of the seminar is to move from contemporary metaphysical accounts back to Kant and vice versa in order to mutually elucidate each terms of the other. In the course of this procedure, we will also take a look at Kant's philosophy of space and time, contemporary accounts of the ontology of spatio-temporal objects and possibly, even the transcendental deduction of the categories.

倫理学原典研究Ⅳ（秋学期）

Selected Topics in Transcendental Idealism and Contemporary Metaphysics

教授 飯田隆

准教授 エアトル, ヴォルフガング

授業科目の内容：

「倫理学原典研究Ⅲ」と同じ。

美学美術史学専攻

美学特殊講義Ⅰ（春学期）

ディドロの絵画論

講師 佐々木 健一

授業科目の内容：

ディドロは近代美術評論の先駆者の1人に数えられる。それは主として龐大なサロン評に基づく評価だが、かれにはその批評経験に立脚し、その基礎づけを行なった『絵画論』がある。そこに展開されている思想は、ディドロの哲学全体と深く連関し、更に時代の思潮、その中での美学の位置の問題へとつながる射程をもっている。この授業では、テキストを丹念に読みつつ、そこに含まれる問題を掘りおこし、最後に『絵画論』の美学の総括を試みる。

美学特殊講義Ⅱ（秋学期）

文藝作品とレトリック

講師 松尾 大

授業科目の内容：

文藝において働いているレトリックを美学的に考察する。

美学特殊講義演習ⅠA（春学期）

古典詩論研究5

講師 藤田 一美

授業科目の内容：

古代哲学における文藝の位置を確認するために主としてプラトンの『国家』やアリストテレスの『詩学』『弁論術』を細かく読んでゆきます。

なお、古典語未習者の参加を認めます。場合によっては日本語文献を主たるテキストとして用います。

美学特殊講義演習ⅠB（春学期）

教授 大石 昌史

授業科目の内容：

美学に関する一定のテーマについて専門的な内容の講義を行う。大学院生を対象とする講義の目的は、定説化した知識の整理や伝達ではなく、参考文献の批判的な紹介やテキスト解釈上の問題点の指摘を通じて、美学研究の具体例を示すことにある。論文の作成については随時指導する。

本年度のテーマは、ガイダンスおよび第1回目の授業時に説明する。

美学特殊講義演習ⅡA（秋学期）

古典詩論研究6

講師 藤田 一美

授業科目の内容：

春学期につづき、古代哲学における文藝の位置を確認するために主としてプラトンの『国家』やアリストテレスの『詩学』『弁論術』を細かく読んでゆきます。

なお、古典語未習者の参加を認めます。場合によっては日本語文献を主たるテキストとして用います。

美学特殊講義演習ⅡB（秋学期）

教授 大石 昌史

授業科目の内容：

美学・芸術学における基本的な文献の講読・注釈演習、および、参加者による各自の研究テーマに関する口頭発表という授業形態をとる。参加者各人の関心を考慮しながら、美学および芸術学諸分野から著作・論文を選択し、その講読を通じて、翻訳・注釈の実践的な訓練を行う。また、各人の修士論文のテーマに即した口頭発表の原稿作成に際して、事前事後に、その主張・構成・表現等に関する助言・添削指導を行う。

美術史特殊講義Ⅰ（春学期）

休講

美術史特殊講義Ⅱ（秋学期）

教授 林 温

授業科目の内容：

修士論文作成を目指す学生を対象に、美術史学の研究方法を講義します。

美術史特殊講義Ⅲ（春学期）

彫刻論・イメージ論

教授 遠山 公一

授業科目の内容：

イメージの中で、特に立体物についての議論を検証する。古今の彫刻論の読解、あるいは個々の彫刻家・彫刻作品の研究をも含むが、より広く視野に立って、例えば素材や色彩・ディスプレイをめぐる議論、パラゴネや技法論をも検証する。

美術史特殊講義Ⅳ（秋学期）

イメージ論・彫刻論

教授 遠山 公一

授業科目の内容：

美術史特殊講義演習Ⅲを履修することを前提とする。イメージのもつ象徴的、呪術的力を中心に考える。呪術的力をもつと信じられた対象の多くが立体物である。

したがって、あらゆる素材の、あらゆる立体物（聖遺物、ミイラ、絵馬、人形）をも視野に入れる。

美術史特殊講義Ⅴ（春学期）

名誉教授 前田 富士男

授業科目の内容：

バウハウスのクレー、カンディンスキー、イッテン、モホイ＝ナジらの造形論を検討する。

美術史特殊講義Ⅵ（秋学期）

名誉教授 前田 富士男

授業科目の内容：

美術史特殊講義Ⅴの受講を前提とする。内容は特殊講義Ⅴと同じ。参加者の研究発表を中心とする。

美術史特殊講義演習Ⅰ（春学期）

准教授 内藤 正人

授業科目の内容：

既存の論文・文献史料の講読を通じて、美術史的な論文作成への多様なアプローチを学ぶ。また、折に触れて実作品や資料の検討などの実践学習を重ねながら、個々の専門性をさらに高める訓練をおこない、論文作成を指導する。

美術史特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

准教授 内藤 正人

授業科目の内容：

「美術史特殊講義演習Ⅰ」と同じ。

美術史特殊講義演習Ⅲ（春学期）

休講

美術史特殊講義演習Ⅳ（秋学期）

休講

音楽学特殊講義Ⅰ（春学期）

音楽学の方法論

教授 三宅 幸夫

授業科目の内容：

本講義は、音楽学で修士論文を書くための研究会と理解してください。論文の題目は自由ですが、学問的方法論を身につけるためには、批判に値する先行研究がある分野が望ましいと思います。また必要な場合は、修士論文の個別指導もおこないます。

音楽学特殊講義Ⅱ（秋学期）

音楽学の方法論

教授 三宅 幸夫

授業科目の内容：

「音楽学特殊講義Ⅰ」と同じ。

音楽学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

作曲家研究の分野と方法

准教授 西川 尚生

授業科目の内容：

作曲家研究の諸分野（伝記研究、様式研究、作品成立史の研究、演奏実践の研究、受容研究等）とその方法論について学ぶ。毎回、古典的作曲家（バッハ、モーツァルト、ベートーヴェン等）に関する基本文献を講読し、作曲家研究の現状と問題点について考察するが、それと並行して履修者には各人の研究テーマに即した課題を与え、口頭発表をしてもらう予定である。

音楽学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

音楽文献学の方法

准教授 西川 尚生

授業科目の内容：

音楽作品を扱う上で重要な、いわゆる史料批判（Quellenkritik）の方法についての講義と実習をおこなう。手稿譜と歴史的印刷譜の調査・研究の方法、および楽譜校訂の方法を身につけてもらうことが目的だが、具体的には以下のような項目を含むものとなるだろう。

講義

- ・自筆譜の文献学的調査：用紙（透かし）、インク、ラストラール
- ・筆跡と作曲年代の問題（筆跡年代学）
- ・自筆譜（スケッチ、草案譜、浄書譜）の読解
- ・筆写譜におけるオーセンティシティー
- ・楽譜出版社と版番号
- ・歴史的印刷譜におけるオーセンティシティー
- ・音楽作品の真偽判定
- ・「全集版」の校訂

実習

- ・三田メディアセンター所蔵の貴重資料（リストの歌曲自筆譜、ベートーヴェンの第9交響曲初版譜）と担当者所蔵の手稿譜を使っての調査実習
- ・楽譜校訂

芸術学研究ⅠA（春学期）

音楽分析

講師 小鍛冶 邦隆

授業科目の内容：

バッハ《平均律クラヴィーア曲集第二巻》全曲を取り

あげ、その音楽的発想と書法を分析する。

芸術学研究ⅠB（春学期）

近現代における文化芸術消費の特質と構造

教授 美山良夫

授業科目の内容：

近現代における文化芸術消費の特質と構造について検討する。この問題あるいは関連領域にはボードリヤールやブルデューらによる論考がつねに参照されるが、今年度はアーバン・ツーリズムを切り口に、歴史的・具体的な事例をもとに考察することにする。近現代の消費構造につながるパッサージュ、百貨店の成立等をふまえて今日の美術館、劇場のその他のケースを検証する中で、それらが芸術創造に照射した部分がどこにあったのかを考えることも、講義のねらいである。

芸術学研究ⅡA（秋学期）

音楽分析

講師 小鍛冶 邦 隆

授業科目の内容：

春学期と同じ。

芸術学研究ⅡB（秋学期）

近現代における文化芸術消費の特質と構造

教授 美山良夫

授業科目の内容：

「芸術学研究ⅠB」に同じ。

芸術学研究Ⅲ（春学期）

イタリア語による原典の講読

名誉教授 末 吉 雄 二

授業科目の内容：

イタリア語による美術史論文の読解力を高め、中世より初期バロックに至るイタリア美術史上の様々な問題に対する関心を涵養することを目的とする。今日、美術史研究の領域は作品・作家研究にとどまらず、拡大・多様化しており、さまざまな研究テーマが重層・錯綜している。短い論文を多読することで観点の多様性を確保したい。

芸術学研究Ⅳ（秋学期）

イタリア語による原典の講読

名誉教授 末 吉 雄 二

授業科目の内容：

「芸術学研究Ⅲ」と同じ。

芸術学研究Ⅴ（春学期）

美術と先端技術

講師 布山 毅

授業科目の内容：

美術分野の研究やプロジェクトにおける、デジタルメディアの利用方法の解説と、基礎技術の習得。特にデジタル画像や映像の扱い方についてワークショップ形式の演習を通じて学ぶ。また、時間軸を持つ視覚芸術分野が、デジタル技術の進化に呼応してどのように変容しているかをテーマに、さまざまな作品の事例紹介を行う。

芸術学研究Ⅵ（秋学期）

新しいメディアと美術の実践

講師 内田 まほろ

授業科目の内容：

本講義では新しいメディア、マテリアルがもたらす美術（空間、写真、デザインを含む）の枠組み、作品、アーカイヴ、キュレーションのあり方を実践的なレベルでとらえる知識、技術、能力を身につけることを目的とする。

講義では、デジタルメディアの基本概念を理解するとともに、それを利用した作品とそのキュレーション、批評方法を、具体的な例や実践的なワークショップを通して身につける。後半は履修者の専門研究対象をもとにアーカイヴの作成、キュレーション、プレゼンテーションを行なう。

アート・マネジメント特殊講義Ⅰ（春学期）

日本における芸術パトロネージの様態と公共性の在処

教授 美山良夫

授業科目の内容：

今日の日本において、芸術支援の理路は確立し、それが社会全体で共有されていると言えるだろうか。実績や予算額といった事実のなかに、脆弱な構造が潜んではいないだろうか。このような問題意識から、近代日本の、所謂芸術パトロネージにあたる、ないし隣接した事例とくに公共性の視座から検証する。そこに共時的、通時的に共通する要素をみつけながら、芸術支援の理路は、いまいかにあるべきかを考察するのがこの講義の目的と内容である。

アート・マネジメント特殊講義Ⅱ（春学期）

美術館・博物館は生き残れるか？

講師 鈴木 隆 敏

授業科目の内容：

美術界及び国立、公立、私立美術館、博物館の現状とさまざまな問題点を検討し、指定管理者制度、独立行政法人、公益法人などの改革の中で、生き残る道をさぐる。

アート・マネジメント特殊講義Ⅲ（春学期）

休 講

アート・マネジメント特殊講義Ⅳ（春学期）

休 講

アート・マネジメント特殊講義演習Ⅰ（春学期）

教 授 美 山 良 夫

授業科目の内容：

この演習は、アート・マネジメント、アート・マーケティング、芸術資源デザイン、知的資産の科目群を学びながら、その知識の確認と実践的な展開をトレーニングする場として位置づけられます。各自具体的なプロジェクトを調査（国内外）ないし構想し提案、その提案についてさまざまな角度から検討し、各人あるいはグループでケースあるいはその予稿を執筆します。

この演習は、修士論文のテーマ策定にもつながります。

アート・マネジメント特殊講義演習Ⅱ（春学期）

パブリック Vs. プライベート

講 師 岩 淵 潤 子

講 師 片 山 泰 輔

授業科目の内容：

片山担当分については、公的文化施設を取り巻く厳しい環境の中での政策動向、施設設置者、運営管理者のアカウンタビリティ、評価のあり方、市民との連携の可能性などを、具体的事例に基づいて検証する。

岩淵担当分については、産業としての芸術市場に光を当て、富裕層向け嗜好品マーケティングとの比較や、芸術施設のホスピタリティ・マネージメント、資金調達のためのイベント企画のあり方など、民間の手法を注進に検証する。

いずれの担当ぶんにおいても、学生諸君の積極的な議論への参加、及び、各個人の経験を活かしたフィールド・スタディへの参加が求められる。

アート・マネジメント特殊講義演習Ⅲ（春学期）

休 講

アート・マネジメント特殊講義演習Ⅳ（秋学期）

休 講

アート・マーケティング特殊講義Ⅰ（秋学期）

アートをめぐる自律と連携のマーケティング

名誉教授 井 関 利 明

授業科目の内容：

「マーケティング」の発想と方法は過去 30 年の間に大

きく変貌した。他方、ビジネス以外のさまざまな分野において、新たにマネジメントやマーケティングへの需要が発生してきた。そのなかから、ソーシャル・マーケティングやアート・マーケティングが形成されてきている。その経緯を辿りながら、アート、ホール、劇場、ミュージアムなどの再生とその方向を探りたい。

アート・マーケティング特殊講義Ⅱ（春学期）

休 講

アート・マーケティング特殊講義演習Ⅰ（秋学期）

地域活性化とアート・マーケティング

名誉教授 井 関 利 明

授業科目の内容：

アート・マーケティング特殊講義Ⅰと関連して、テキストの輪読と事例研究を行う。主として履修者からの報告とディスカッション。ときに講義も行う。

アート・マーケティング特殊講義演習Ⅱ（春学期）

休 講

知的資産特殊講義（春学期）

アートのリスクマネジメントと保険

講 師 箱 守 栄 一

授業科目の内容：

美術展、舞台芸術、オペラ等のアートに係るリスクマネジメントと保険につき解説します。特にリスクマネジメント手法の確立されている美術展を中心に解説します。契約書の中の Liability 条項につき理解し、保険条件との関係を解説します。

知的資産特殊講義演習（春学期）

著作権及び周辺領域に関する発展的検討

講 師 伊 藤 真

授業科目の内容：

著作権やその周辺領域（主にミュージアム・グッズで問題となりやすい肖像権やパブリシティ権を含む）について、いわば発展的・応用問題的な検討を行う。

講義の進め方については、通常の講義形式のほか、事前に架空の具体的な事例を設定した課題を事前に出題し、それについて順番に数名の受講者に報告（レポート）していただき、受講者の間で討議・検討を行う形を考えている。

また、後半では、事例演習として、屋外モニュメントの製作依頼契約を想定して、発注者と作者との間の契約書の作成を試みる。受講者に発注者と制作者との間に立つディレクター的立場に立っていただき、私が仮想の発注者やアーティストを演じて、どのような事柄に注意を

払って交渉を進め、契約書にまとめていくかを模擬体験していただく形で講義を進行させてみたい。

いずれも、答えの存在する問題を学習するのではなく、受講者間の討議・検討を通じて、著作権法等の理解を進めるとともに問題解決のための思考能力を身につけていくことを目標とする。

芸術著作権演習Ⅰ（春学期）

著作権に関する基礎

講師 北村 行夫
講師 大井 法子

授業科目の内容：

著作権及び著作隣接権について基本的な理解を身につけることを本講義の目標とします。

芸術著作権演習Ⅱ（春学期）

芸術著作権に関する契約

講師 大井 法子

授業科目の内容：

一般的な契約の基礎をふまえて、アートマネジメントにおいて必要な契約を理解することを本講義の目標とします。

芸術資源デザイン演習Ⅰ（春学期）

休講

芸術資源デザイン演習Ⅱ（秋学期）

休講

芸術資源デザイン演習Ⅲ（秋学期）

近代芸術資料研究とアーカイブ運用

名誉教授 前田 富士男
教授 林 温
教授 三宅 幸夫

授業科目の内容：

芸術家自身の手になる制作品（たとえば絵画、楽譜、原稿、手稿、書簡、日記、ノート、メモなど）は、ひろく一次資料と呼ばれる。制作論の関心に立つと、こうした一次資料とともに、制作活動を支えた資料（たとえば収集品、蔵書、定期刊行物記事、写真など）、すなわち制作関連資料も見落とせない。本授業は、一次資料と制作関連資料を統括するアーカイブ・デザインの構築をめぐる講義、討論、見学を行う。

芸術資源デザイン演習Ⅳ（秋学期）

教授 美山 良夫

授業科目の内容：

美術及び舞台芸術とそれらの運営研究に必要な情報（統

計データ、内外の研究論文その他）、データベース、資料アーカイブおよび研究機関アクセスなどについての実習。また芸術作品の目録（カタログレゾネ）の種類とその理解についての演習をおこなう。また論文の執筆に必要な要素と準備についての演習を含む。

芸術に関連した情報資源の所在と活用、および二次資料とその構成、評価、修士論文の方法論的な基盤と構成についての理解が目的である。

アート・プロジェクト総合演習Ⅰ（秋学期）

教授 美山 良夫
講師 金子 哲理
講師 桜井 武

授業科目の内容：

アートを社会にひらき、その力を活かすとともに、アートの創造につなげるためには、さまざまなフェーズで、リソース（資源）のより高度なマネジメントが必要で、ここではそのリソースを、人と組織、場と施設、ファイナンス、情報とコミュニケーションに集約し、これらの柱のひとつにかかわる、あるいはこの4つの柱を横断するマネジメントの基本と今日的課題、その克服について検討します。

文化装置としての美術館・劇場の運営／経営、プログラム評価の理念と実践、各セクターによるアート支援の根拠とプログラムの更新、文化施設・団体の会計管理、パブリック・リレーションとコミュニケーション戦略などが切り口になります。

基本的な文献と事例の理解と検討のほか、ゲストを招聘して討論を予定しています。具体的な内容は、学生のバックグラウンドを勘案して決定します。

アート・プロジェクト総合演習Ⅱ（秋学期）

教授 美山 良夫
講師 金子 哲理
講師 桜井 武

授業科目の内容：

「アート・プロジェクト総合演習Ⅰ」と同じ。

アート・プロジェクト総合演習Ⅲ（秋学期）

休講

アート・プロジェクト総合演習Ⅳ（秋学期）

休講

史学専攻

史学特殊講義Ⅰ（春学期）

教授 神崎 忠 昭

授業科目の内容：

ヨーロッパ中近世のラテン語文献などを講読します。
なおテキストについては、受講者と相談して決めます。

史学特殊講義Ⅱ（秋学期）

教授 神崎 忠 昭

授業科目の内容：

「史学特殊講義Ⅰ」と同じ。

史学特殊講義Ⅲ（春学期）

18世紀フランス社会における諸変化

教授 藤田 苑 子

授業科目の内容：

「18世紀フランス社会における諸変化」を中心テーマとして、論文、文献の講読をする。

史学特殊講義Ⅳ（秋学期）

18世紀フランス社会における諸変化

教授 藤田 苑 子

授業科目の内容：

「18世紀フランス社会における諸変化」を中心テーマとして、論文、文献の講読をする。

古文書学特殊講義Ⅰ（春学期）

教授 田代 和 生

授業科目の内容：

江戸時代古文書の解読、特に初見での「速読能力」を高めることを目的にしている。加えて、未整理文書の分類、整理法などを実習する。

本授業でテキストとする『伊丹家文書』は、津山藩大坂藩邸の文書で、一紙文書だけである。特に難解な近世書状の解読能力を高める指導を行う。

古文書学特殊講義Ⅱ（秋学期）

教授 田代 和 生

授業科目の内容：

江戸時代古文書の解読、特に初見での「速読能力」を高めることを目的にしている。加えて、未整理文書の分類、整理法などを実習する。

本授業でテキストとする『伊丹家文書』は、津山藩大坂藩邸の文書で、一紙文書だけである。特に難解な近世

書状の解読能力を高める指導を行う。

日本史特殊講義ⅠA（春学期）

教授 長谷山 彰

授業科目の内容：

『令集解』の講読を中心に律令制の成立過程や諸制度の運用の実態について考える。

日本史特殊講義ⅠB（春学期）

准教授 中島 圭一

授業科目の内容：

中世史料の講読を進めながら、中世社会の特質について考えていきます。

日本史特殊講義ⅡA（秋学期）

教授 長谷山 彰

授業科目の内容：

「日本史特殊講義ⅠA」と同じ。

日本史特殊講義ⅡB（秋学期）

准教授 中島 圭一

授業科目の内容：

「日本史特殊講義ⅠB」と同じ。

日本史特殊講義ⅢA（春学期）

休 講

日本史特殊講義ⅢB（春学期）

教授 井奥 成彦

授業科目の内容：

近代日本の社会経済史関係文献及び史料の講読。

日本史特殊講義ⅢC（春学期）

近世日本における史学理論の系譜

講師 佐藤 正幸

授業科目の内容：

古代中国の歴史叙述方法をもとに8世紀に始まった日本の歴史叙述は、近世において独自の発展を遂げ、日本固有の「過去に根ざす歴史文化」をつくり上げた。この歴史文化を基盤にして、19世紀中頃から近代西洋史学の受容が行われ、今現在の日本型歴史研究が誕生した。

この講義は、近世期を中心にして、日本の歴史家が「歴史とは何か」をどのように考察してきたかを検討する。講義の進め方は、原文テキストの講読を中心とし、歴史とは何かに関する主要な歴史家の思考に直接ふれることを主眼とする。

日本史特殊講義ⅣA（秋学期）

休 講

日本史特殊講義ⅣB（秋学期）

教 授 井 奥 成 彦

授業科目の内容：

「日本史特殊講義ⅢB」と同じ。

日本史特殊講義ⅣC（秋学期）

近世日本における史学理論の系譜

講 師 佐 藤 正 幸

授業科目の内容：

古代中国の歴史叙述方法をもとに8世紀に始まった日本の歴史叙述は、近世において独自の発展を遂げ、日本固有の「過去に根ざす歴史文化」をつくり上げた。この歴史文化を基盤にして、19世紀中頃から近代西洋史学の受容が行われ、今現在の日本型歴史研究が誕生した。

この講義は、近世期を中心にして、日本の歴史家が「歴史とは何か」をどのように考察してきたかを検討する。講義の進め方は、原文テキストの講読を中心とし、歴史とは何かに関する主要な歴史家の思考に直接ふれることを主眼とする。

日本史特殊講義演習ⅠA（春学期）

教 授 三 宅 和 朗

授業科目の内容：

昨年度に引き続き、『風土記』を講読する。本年度は『風土記』逸文を扱い、古代の地域社会や伝承世界を具体的に点検していきたい。

日本史特殊講義演習ⅠB（春学期）

講 師 末 柄 豊

授業科目の内容：

既刊・未刊を取り合わせ中世後期の史料を講読し、史料に関する理解を深めつつ、中世社会の特質について考えていきます。

日本史特殊講義演習ⅡA（秋学期）

教 授 三 宅 和 朗

授業科目の内容：

「日本史特殊講義演習ⅠA」と同じ。

日本史特殊講義演習ⅡB（秋学期）

講 師 末 柄 豊

授業科目の内容：

同ⅠBに同じ

日本史特殊講義演習ⅢA（春学期）

教 授 田 代 和 生

授業科目の内容：

受講者による研究進行状況の報告と修士論文作成に向けての指導を行う。

日本史特殊講義演習ⅢB（春学期）

近代民衆のアイデンティティ形成

教 授 柳 田 利 夫

授業科目の内容：

近代における民衆意識の生成について共同研究を行なう。

日本史特殊講義演習ⅣA（秋学期）

教 授 田 代 和 生

授業科目の内容：

受講者による研究進行状況の報告と修士論文作成に向けての指導を行う。

日本史特殊講義演習ⅣB（秋学期）

近代民衆のアイデンティティ形成

教 授 柳 田 利 夫

授業科目の内容：

近代における民衆意識の生成について共同研究を行なう

東洋史特殊講義ⅠA（春学期）

『国語』の講読

教 授 桐 本 東 太

授業科目の内容：

『国語』の講読を通して中国古代人の理念・思考を考察する。

東洋史特殊講義ⅠB（春学期）

アジア移民研究の現在

教 授 吉 原 和 男

授業科目の内容：

日本をはじめ、世界各地に住むアジア出身の国際移動者の移動過程とその背景を考察する。中国人、韓国人、東南アジア・南アジア各国の人々を中心にみてゆく。

東洋史特殊講義ⅠC（春学期）

『尚書』禹貢の検討

講 師 原 宗 子

授業科目の内容：

昨年度に引き続き、『尚書』を講読してゆきます。今年度は、受講生の皆様のご希望に従い、「禹貢」篇を読みます。

御承知のように、『尚書』は、その成立年代が問題となる文献ですが、一定程度、先秦期の自然地理や社会経済

についての認識が反映しているとの推定のもとで、検討を進めます。無論、各地の神話や民俗に関する情報にも注目してゆきます。

なお、『禹貢』は特に、農業史分野からの研究も進んでいる文献ですので、その初期の古典的業績として、辛樹幟『禹貢新解』を参照しつつ、現代的見地からのチェックをしてゆく予定です。

東洋史特殊講義Ⅱ A (秋学期)

『国語』の講読

教授 桐本 東太

授業科目の内容：

『国語』の講読を通して中国古代人の理念・思考を考察する。

東洋史特殊講義Ⅱ B (秋学期)

アジア移民研究の現在

教授 吉原 和男

授業科目の内容：

「東洋史特殊講義Ⅰ B」と同じ。

東洋史特殊講義Ⅱ C (秋学期)

『尚書』禹貢の検討

講師 原 宗子

授業科目の内容：

「東洋史特殊講義Ⅰ C」と同じ。

東洋史特殊講義Ⅲ A (春学期)

近代イランの法制改革

講師 近藤 信彰

授業科目の内容：

19世紀を通じてなされたイランの法制改革を理想と現実の両面から跡づけ、立憲革命にいたる流れを明らかにする。主に当時著されたペルシア語の政論の講読を行なう。

東洋史特殊講義Ⅲ B (春学期)

オスマン帝国における宗教と民族

講師 石丸 由美

授業科目の内容：

本年度はオスマン支配下のアルバニアに焦点を絞り、アルバニア人意識形成と宗教とのかかわりを探っていきたい。バルカンのキリスト教徒がナショナリズムに目覚め新たなアイデンティティを獲得する際、実は宗教の共通性が大きな役割を担っていたことは事実である。ところがアルバニア人においては宗教的な共通性を持たない中で、共通のアルバニア人としてのアイデンティティを獲得していった。新たなアイデンティティ獲得の中で、彼らの宗教的差異はどのように解決づけられていったのか、

特に彼らの文化活動を通じて考察していきたい。

東洋史特殊講義Ⅲ C (春学期)

古代末期からイスラームの時代へ

言語文化研究所 教授 野元 晋

授業科目の内容：

昨年度に引き続き、周辺の諸宗教からイスラームの宗教、文明の特質を考察する授業を行います。今期はイスラームが様々な一神教が古代末期に成立していった中東の宗教的風土からいかにして自己を確立し、発展して行ったかを初期ムスリム国家や社会の状況の中から探ります。具体的にはイラク、シリアの社会において、キリスト教、ユダヤ教などのアブラハム的一神教、ゾロアスター教、グノーシス主義、マーニー教などがせめぎあう中、大征服後のムスリムが支配を確立していくプロセス(8世紀中頃まで)を見て行くことを考えています。その際にはムスリム国家、諸宗教共同体、社会、文化状況などの相互関係に注目していきます。

東洋史特殊講義Ⅳ A (秋学期)

近代イランの法制改革

講師 近藤 信彰

授業科目の内容：

「東洋史特殊講義Ⅲ A」と同じ。

東洋史特殊講義Ⅳ B (秋学期)

講師 石丸 由美

授業科目の内容：

「東洋史特殊講義Ⅲ B」と同じ。

東洋史特殊講義Ⅳ C (秋学期)

イスラーム史におけるユダヤ教徒とイスラーム教徒

言語文化研究所 教授 野元 晋

授業科目の内容：

昨年度と今年度の前期から続く周辺の諸宗教からイスラームの宗教、文明の特質を考察するシリーズの一つです。また昨年に引き続きカイロのシナゴグで11世紀から13世紀を中心に蓄積された「ゲニーザ文書」の記念碑的研究、S. D. Goiteinの『地中海社会』を読みますが、今回は日常生活と個人の生活を扱った第4巻と第5巻を取り上げます。ユダヤ教徒の生活を通じて、中世の地中海世界、中東世界の社会と宗教共同体の歴史を再構成していく試みを模索していきます。Goiteinのこの書は極めて詳細に中世エジプトなどのユダヤ教徒共同体、またその国家や経済活動との関わりを描いて行きますが、それを読むにつれて当時のムスリム、キリスト教徒、さらにヨーロッパのユダヤ教徒についての探求心とイマジネーションをかきたてられるという独特な体験を与えてくれます。

東洋史特殊講義演習ⅠA（春学期）

清代西南地域の政治と社会Ⅰ

講師 武内房司

授業科目の内容：

中国の内陸世界にあって今日も多くの民族が共生する西南中国世界。本講義では、これまでの研究状況や問題関心のあり方をふりかえりつつ、主として18—19世紀に焦点をあて、今日の西南中国世界に大きな影響を与えた社会変動の性格を検討していくことにしたいと思います。

東洋史特殊講義演習ⅠB（春学期）

清代地方文献の研究

教授 山本英史

授業科目の内容：

本講は清代の地方文献の読解訓練を中心にして、受講者各自の史料読解能力を涵養するとともに、修士論文作成のための問題意識や理論をつけるための訓練を行う予定です。

東洋史特殊講義演習ⅠC（春学期）

歴史地域学の試み—紅河デルタ一村の空間と時間

講師 桜井由躬雄

授業科目の内容：

講師は1994年から現在までベトナム紅河デルタの小村、バックコックムラの歴史地域学総合調査を主宰している。15回の調査に日本人がのべ300人が参加し、参加ディシプリンは歴史学、社会学、考古学、農学、生態学、水利学、地質学、政治学、経済学など文理諸分野に幅広くひろがっている。本講義では変貌するアジア諸地域社会を時間軸を通じて理解する歴史地域学の目的及び固有の方法論からはじまり、紅河デルタ村落の地形分類、紅河デルタの農業特性、村落測量法、村落微地形、村落景観観察を概説する。ついでバックコック研究に即して、以上の目的の現実化の過程を説明する。まず90年代、ドイモイ経済の農村浸透以前の農村の社会的経済的状况を分析し、農民の生産構造が生存のための「食べるための経済」と「稼ぐための経済」の2部門からなりたち、前者は合作社を中心とする社会システムが、後者は家庭経済がになっていることを実証し、ドイモイ経済とは2部門の相互依存を深めていくこととする。次に、この2部門の形成を、17世紀にはじまる村落成立期から、考古学資料、碑文研究、家譜分析など伝統的な東洋史方法によりこれを理解していく。本講義は1年間4単位の取得を前提としており、聞き取りによる現代史以降の分析については後期の課題とする。また講義はパワーポイントによって進行する。

東洋史特殊講義演習ⅡA（秋学期）

清代西南地域の政治と社会Ⅱ

講師 武内房司

授業科目の内容：

「清代西南地域の政治と社会Ⅰ」の継続です。秋学期のこの授業では、雲南、四川地域に対して赴任した経験を持つ官僚の日記を読み進めながら、アヘン戦争前後の時期の西南中国の民族問題について検討していきたいと思っています。

東洋史特殊講義演習ⅡB（秋学期）

清代地方文献の研究

教授 山本英史

授業科目の内容：

春学期に同じ。

東洋史特殊講義演習ⅡC（秋学期）

歴史地域学の試み—紅河デルタ一村の現代の形成

講師 桜井由躬雄

授業科目の内容：

前期で説明したベトナム紅河デルタの小村バックコックの現代が形成された過程を論ずる。今期は老人数百名の聞き取りと、1995年、2000年、2005年の1集落140戸の悉皆調査の結果を分析する。バックコックムラは19世紀に入りいわゆる「伝統的」なムラ社会を形成した。この社会の構造を老人の聞き取りから上層、中層上位、中層下位、下層に4分類し、「伝統的」村落共有田の受給権が村民の経済的、社会的意味を決定するとする。さらに近代的初等教育の導入により、中層上位と中層下位に決定的な亀裂が生じ、これが革命後の個人行動を規制していく。1945年の大飢饉は食べるための経済の意味を決定的にし、これがムラの社会主義の形成を推進していく。本講義ではこれをドメスティックソーシャリズムとよぶ。土地改革、互助組、初級合作社の展開をこのムラの社会主義で説明する。しかし、ベトナム戦争の激化と、国家的な社会主義（本講義ではステートコレクティヴィズムとよぶ）の浸透により、国家目的に従属した高級合作社が組織される。過大な目標のために農民は疲弊し、これが80年代以降の合作社の解体をもたらす。しかし、農地の平等分割と、水利、植物防衛の集団管理を基礎とする合作社主導の食べるための社会的生産はゆるがない。90年代以降、現金支出が大幅に拡大し、これに対応して農業面では個人家庭の野菜生産、養豚、集団管理農業ではジャガイモ生産が拡大する。2000年代では非農業部門が拡大するが、労働市場はいちじるしく制限されていた。2003年暮れから近郊に工業区が設置され、青年労働力を大幅に吸収した。2008年調査では中年以降が担当する食べるための経済と青年たちの稼ぐための経済が融合の過

程にあることがうかがわれる。

東洋史特殊講義演習Ⅲ A (春学期)

近世アラブ都市社会史研究 (I)

教授 長谷部 史 彦

授業科目の内容 :

下記の近世アラブ都市社会史に関する1次資料, 2次資料を講読し, 研究の現状に関する理解を深めながら, 新たな可能性の所在を探りたいと思います。

東洋史特殊講義演習Ⅲ B (春学期)

中東イスラーム世界史の諸問題

教授 坂 本 勉

授業科目の内容 :

同じ中東イスラーム世界の歴史を研究するといっても大学院生ともなると, 当然のことながら各自, 専門をもっている。地域, 時代, 関心の有りようも多様である。しかし, この授業では自分の殻に閉じこもるのではなく, それを越えて中東イスラーム世界とは何かということと比較関係史の視点からみていくことを目標としている。本年度も昨年度に引き続いて近代におけるイスラーム知識人が書き残した回想録, 自伝に焦点をあてながら個人の目を通して中東イスラーム世界の近代史の諸問題について考えていくことにしたい。

東洋史特殊講義演習Ⅲ C (春学期)

休 講

東洋史特殊講義演習Ⅲ D (春学期)

近代イスラーム史関係の史料講読

教授 坂 本 勉

授業科目の内容 :

トルコ語で書かれた研究書, 史料の講読。

東洋史特殊講義演習Ⅳ A (秋学期)

近世アラブ都市社会史研究 (II)

教授 長谷部 史 彦

授業科目の内容 :

春学期に引き続き, 下記の近世アラブ都市社会史に関する1次資料, 2次資料を講読し, 研究の現状に関する理解を深めながら, 新たな可能性の所在を探りたいと思います。

東洋史特殊講義演習Ⅳ B (秋学期)

中東イスラーム社会史自由研究

教授 坂 本 勉

授業科目の内容 :

受講者がそれぞれの研究テーマに応じて実際に読み進

めている史料を訳出し, それをレジュメに切って紹介するというかたちで授業を進めていくことにしたい。歴史研究を志す者にとって何よりも重要なのは自分の頭で原典史料を解釈し, オリジナルな構想を打ちだしていくことである。この授業ではこれまでの研究史, その蓄積を無視するわけではないが, 実証的な事実をまず大事にし, それを踏まえて自分の言葉で歴史を語り, 理論について考えていくことをめざしたい。

東洋史特殊講義演習Ⅳ C (秋学期)

休 講

東洋史特殊講義演習Ⅳ D (秋学期)

近代イスラーム史関係の史料講読

教授 坂 本 勉

授業科目の内容 :

春学期の「東洋史特殊講義演習Ⅲ D」を引き継いで近代史に関するトルコ語史料を講読する。

※「**斯道文庫書誌学講座Ⅲ (春学期) 漢籍目録著録法**」に関しては67ページを参照してください。

西洋史特殊講義演習Ⅰ (春学期)

教授 吉 武 憲 司

授業科目の内容 :

Guibert de Nogent, Autobiographie (Paris, 1981) のラテン語テキストを講読します。

西洋史特殊講義演習Ⅱ (秋学期)

教授 吉 武 憲 司

授業科目の内容 :

「西洋史特殊講義演習Ⅰ」と同じ。

西洋史特殊講義演習Ⅲ A (春学期)

教授 神 田 順 司

授業科目の内容 :

本年度は三月前期ドイツにおけるフランス社会主義思想の受容史を, 特に『ライン新聞』期から『独仏年誌』の諸論文に至るまでのマルクスとヘーゲル左派を中心に考察する。

さしあたって, フランス社会主義共産主義についてのローレンツ・シュタインの報告, およびその反響を考察の対象とする。

西洋史特殊講義演習Ⅲ B (春学期)

教授 清 水 祐 司

授業科目の内容 :

私がこの授業を担当するのは本年度が最後です。それ

と昨年度までのように、16・17世紀のイングランドに関する学生を対象として16・17世紀の史料を読むこととはしません。

今年度はB.Coward, The Stuart Age, 1994を共通のテキストとして読み、イギリス革命について認識を深めてもらうかたわら、履修者全員に修論の構想や内容を発表してもらい、いわばかつての「合同ゼミ」のようにするつもりです。

西洋史特殊講義演習ⅣA（秋学期）

教授 神田 順 司

授業科目の内容：

本年度は三月前期ドイツにおけるフランス社会主義思想の受容史を、特に『ライン新聞』期から『独仏年誌』の諸論文に至るまでのマルクスとヘーゲル左派を中心に考察する。

さしあたって、フランス社会主義共産主義についてのローレンツ・シュタインの報告、およびその反響を考察の対象とする。

西洋史特殊講義演習ⅣB（秋学期）

教授 清水 祐 司

授業科目の内容：

春学期と同じ。

西洋史特殊講義Ⅰ（春学期）

スペイン近現代政治文化史

教授 山 道 佳 子

授業科目の内容：

スペイン近現代史に関するスペイン語の研究書を一年間かけて講読します。テキストを読みながら、各自が関連事項を調べることを通して、スペイン史の基礎知識を身につけること、スペイン史を専門に研究するために必要な語学力をつけること、文献や史料の探し方を学ぶことを目標とします。スペイン史で修論を作成する場合には、論文作成のための個別指導も行います。

西洋史特殊講義Ⅱ（秋学期）

スペイン近現代政治文化史

教授 山 道 佳 子

授業科目の内容：

春学期の「西洋史特殊講義Ⅰ」の内容を継続。

西洋史特殊講義Ⅲ（春学期）

休 講

西洋史特殊講義Ⅳ（秋学期）

休 講

民族学考古学特殊講義Ⅰ（春学期）

休 講

民族学考古学特殊講義Ⅱ（秋学期）

休 講

民族学考古学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

教授 杉 本 智 俊

授業科目の内容：

民族学・考古学をテーマとした修士論文の作成指導を行なう。研究会形式で、各自の発表に対して建設的な討論を行い、論文を育てていく。また、自分の研究以外にも視野を広げ、方法論、知識両面での幅を広げることも目標とする。

民族学考古学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

教授 杉 本 智 俊

授業科目の内容：

「民族学考古学特殊講義演習Ⅰ」と同じ。

民族学考古学特殊講義演習Ⅲ（春学期）

教授 阿 部 祥 人

授業科目の内容：

この50年間に膨大な資料を蓄積してきた日本の先史時代研究は、同時に多くの問題点を抱えている。それら今日的な問題点を受講者と共に取り上げ、その解決策・今後の有効な分析方法について、検討していく。同時に先史文化等の研究者を志す人の論文指導や共同研究を行う。

民族学考古学特殊講義演習Ⅳ（秋学期）

教授 阿 部 祥 人

授業科目の内容：

「民族学考古学特殊講義演習Ⅲ」と同じ。

地理学特殊講義Ⅰ（春学期）

土地の履歴に関する地理学的解析（基礎）

経済学部 教授 松 原 彰 子

授業科目の内容：

先史時代から今日まで、人間活動の土台となってきた土地の自然環境変化（地形変化、気候変化、植生変化など）、および人間による土地の改変過程について、それぞれを復元するために用いられる地理学的解析方法の基礎を解説します。

また、受講者各自の研究成果に関して、それぞれの調査対象地域の地理学的特徴を口頭で発表してもらい、討論を行います。

地理学特殊講義Ⅱ（秋学期）

土地の履歴に関する地理学的解析（応用）

経済学部 教授 松原 彰子

授業科目の内容：

先史時代から今日まで、人間活動の土台となってきた土地の自然環境変化（地形変化、気候変化、植生変化など）、および人間による土地の改変過程について、それぞれを復元するために用いられる地理学的解析方法の具体例を紹介します。

また、受講者各自の研究成果に関して、夏休みの調査報告を口頭で発表してもらい、討論を行います。

国文学専攻

国文学研究Ⅰ（春学期）

万葉集歌研究

教授 藤原 茂樹

授業科目の内容：

万葉集はおおよそ4500あまりの歌が集まる歌集で、日本の古い時代の息吹を広く深く宿す最大の存在である。

昨年に引き続き、今年も正月から12月までの一年間NHK教育テレビ「日めくり万葉集」（朝5:00～5:05）を放映している。履修者においては、専門家ではない選者の判断と、注釈書や研究論文・研究所における歌の理解とのあいだに揺れを見出すことが多くなると考えられる。

こうした事態を好い機会ととらえて、どのようにして万葉びとのことばやこころを正確に理解してゆけるか、学んでいくことがあってよいと考える。授業の中で各人多くの歌を担当して、調査研究をする。なお、「日めくり万葉集」（月刊）を題材にして、流れだす情報の何を評価し、また流れだした情報の不備をどうみつけて、処理してゆくか。万葉にかかわる学識を養う方法を探る。

国文学研究Ⅱ（秋学期）

教授 藤原 茂樹

授業科目の内容：

「国文学研究Ⅰ」と同じ。

国文学研究Ⅲ（春学期）

教授 川村 晃生

授業科目の内容：

古典文学と近代文学とを問わず、わが国の文学作品を対象として、自然や環境について、受講者のレポートを中心に考察する。

国文学研究Ⅳ（秋学期）

教授 川村 晃生

授業科目の内容：

「国文学研究Ⅲ」と同じ。

国文学研究Ⅴ（春学期）

古典学者の自筆書状を読む

准教授 小川 剛生

授業科目の内容：

中世・近世の学者・歌人の自筆書状のうち、当代の文学史と係わりの深いものを中心に精読し、各種史料を用いて、その内容をできるだけ正確に把握する。

国文学研究Ⅵ（秋学期）

准教授 小川 剛生

授業科目の内容：

「国文学研究Ⅴ」と同じ。

国文学研究Ⅶ（春学期）

古典資料研究

教授 石川 透

授業科目の内容：

古典文学の資料を、写本を翻刻し、読み進めていく。

国文学研究Ⅷ（秋学期）

古典資料研究

教授 石川 透

授業科目の内容：

「国文学研究Ⅶ」と同じ。

国文学研究Ⅷ（春学期）

近代文学作品の注釈

教授 松村 友視

授業科目の内容：

近代日本文学作品の綿密な注釈を通じて、作品の分析と立論のための基礎的な作業のあり方を確認・検討する。対象とする作品は履修者との合議によって決定する。

国文学研究Ⅸ（秋学期）

近代文学を対象とする論文批判

教授 松村 友視

授業科目の内容：

受講者各自が40枚程度の論文を提出・発表し、出席者間の厳密な批判と討議によって、さまざまな角度から詳細に分析・検討する。

国文学研究Ⅹ（春学期）

休講

国文学研究Ⅻ（秋学期）

休 講

国文学研究ⅩⅢ（春学期）

読本を読む

講 師 内 田 保 廣

授業科目の内容：

未翻刻読本を読む。

『忠孝比玉伝』『僊窟史』『三山草紙』『左刀奇談』の内一作品を複製して通読する。一部は原本から複製するが受講生は他所蔵の原本を探し比較して見る事。又、読本の書誌をとる事。

国文学研究ⅩⅣ（秋学期）

読本を読む

講 師 内 田 保 廣

授業科目の内容：

未翻刻読本を注釈する。

『忠孝比玉伝』『三山草紙』『左刀奇談』『僊窟史』の内一作品を国文学研究ⅩⅢで選び複製を作成し翻刻し注釈・口訳を行う。この作業を通じて近世後期読本の構成方法を理解する。

国文学研究ⅩⅤ（春学期）

プロレタリア文学を読む

講 師 島 村 輝

授業科目の内容：

1920～30年代の日本プロレタリア文学の代表的な作家と作品を講読と研究発表を折りまぜながら読んでいく。基本的には作家の解説と代表作1～2についての解説を講義形式で、その他の作品についての発表を学生が分担して行なうという形の授業を交互に行なっていくことを考えている。その過程でこの時代の文学が持っているテーマ上・方法上の問題を浮き上がらせていきたい。

国文学研究ⅩⅥ（秋学期）

1932年の「改造」

講 師 島 村 輝

授業科目の内容：

1920～30年代の文化状況において、総合雑誌の果たす役割は大きかった。この授業ではその代表的なものの一つである「改造」をとりあげ、1932年という1年間に絞って、この雑誌が歴史的な出来事をどのような論調で採り上げているかをレビューし、併せて文藝領域ではどのような作品を世に送り出していたかについて述べていく。

国文学研究ⅩⅦ（春学期）

近代日本の一人称体小説読む

講 師 鈴 木 啓 子

授業科目の内容：

森鷗外の『舞姫』にはじまり、鏡花・独歩・漱石、写生文小説、自然主義、谷崎・芥川、いわゆる「私小説」を通過して、川端・太宰・三島・村上春樹に至るまで、一人称体の小説は、日本近現代の小説史において、多くの名作を生み出している。もっとも、ひとくちに一人称体といっても、その表現様式や文体は、作家・作品によって多種多様であり、描きだされる世界観もまた大きく異なっている。また、そもそも、小説文体や視点を考える上で、「一人称体／三人称体」という分別が有効かという問題も浮上しよう。本授業では、演習形式で、近代日本の「一人称体」を用いた小説を取り上げ、研究史をふまえた作品分析を通して、一人称体の成立と展開、一人称体の可能性と限界を、日記・能楽など古典文芸との関わりを視野に入れながら考察していきたい。一人称という枠組みの中で作家の文学的特質が浮上するはずである。

前期は、引き続き、2008年度と同じテーマに取り組みたい。

国文学研究ⅩⅧ（秋学期）

近代日本の文学者における鏡花受容

講 師 鈴 木 啓 子

授業科目の内容：

反近代の作家と評される泉鏡花は、芥川・谷崎・三島・川端等々、多くの近代文学者の崇敬を集めた。

鏡花の受容・評価の様相を、主たる近代文学者の批評や、あるいは鏡花作品を受容したと目される作品との比較検証を通して考察したい。

高山樗牛・森鷗外・夏目漱石・正宗白鳥・谷崎潤一郎・芥川龍之介・志賀直哉・川端康成・三島由紀夫・中上健次等を対象に考えている。

国文学研究ⅩⅧ（春学期）

休 講

国文学研究ⅩⅨ（秋学期）

休 講

国文学研究ⅩⅩ（春学期）

中世散文読解法演習

名誉教授 岩 松 研吉郎

授業科目の内容：

12～17世紀の散文テキスト諸種につき、調査・分析の演習をおこなう。あわせて、履修者各自の研究主題の発表・

討論を随時おこなう。春・秋学期継続履修のこと。

国文学研究XVII（秋学期）

中世散文読解法演習

名誉教授 岩 松 研吉郎

授業科目の内容：

「国文学研究X XI」と同じ。

国語学研究 I（春学期）

日本語研究の諸問題

教 授 屋 名 池 誠

授業科目の内容：

各出席者は日本語（時代・地域・分野は問わない）に関して各自の興味・関心によって設定したテーマについておこなう研究・発表を行い、それをめぐって、出席者全員で検討・討議する。

国語学研究 II（秋学期）

日本語研究の諸問題

教 授 屋 名 池 誠

授業科目の内容：

「国語学研究 I」と同じ。

芸能史 I（春学期）

東シナ海祭祀芸能史論序説

教 授 野 村 伸 一

授業科目の内容：

東シナ海周辺地域の祭祀と芸能を歴史と現在伝承の両面から考察します。

そのことはまた次のことを意味します。日本人の目を沖縄、台湾、朝鮮、中国に開くこと、そして、折口芸能史の原点に帰ることです。本塾の「芸能史」という講義は折口信夫がはじめました。そして故池田彌三郎、故井口樹生の両氏が適確に折口学を継承しました。この間、折口学は数多くの研究者に支持され、日本の人文分野、とくに日本文学、歴史学、民俗学などで不動の地位を形成しました。しかし、それが外に開かれていないのもまた確かです。これは折口の学の継承に根本的な問題があることを意味します。すなわち、かつて折口は沖縄に日本の「境界」をみだし、その体験から日本のヤマトを照射しました。そこでなされたことは、文献を中心とした日本のいわゆる権威的な文学研究に風穴を開けたことです。

おそらく、折口学の根源的な新しさは「懐手の学問」を絶えず遠ざける視点を維持したことにあるでしょう。ところが、今や、その視点が時間と共に褪せていくかのようです。

この授業では日本に接する「異域」がけっして異域ではないことを祭祀芸能の面から確かめようとしています。東

シナ海とその周辺地域は一国民俗学、一国文学、一国史が成立しえないことを教えてくれるでしょう。わたしたちの人文学はこの地域の文化と社会を統一的にみる視点を形成しなければならない。このことを実感できるようにすることを目指します。

芸能史 II（秋学期）

東シナ海祭祀芸能史論序説

教 授 野 村 伸 一

授業科目の内容：

「芸能史 I」と同じ。

演劇史 I（秋学期）

日本演劇史

教 授 石 川 透

授業科目の内容：

日本の古典演劇について、具体的な作品を取り上げて、さまざまな種類の演劇の姿を考察する。

演劇史 II（春学期）

西洋演劇史概説

理工学部 教 授 小 菅 隼 人

授業科目の内容：

西洋演劇史のテキストを輪読します。

斯道文庫書誌学講座 I（春学期）

斯道文庫 教 授 川 上 新一郎

授業科目の内容：

和歌、物語及びその注釈書を中心とする日本古典書誌学概説。写本の他、版本もとり上げる。

斯道文庫書誌学講座 II（秋学期）

斯道文庫 教 授 川 上 新一郎

授業科目の内容：

和歌、物語及びその注釈書を中心とする日本古典書誌学演習。具体的に書誌のとり方を学ぶ。

斯道文庫書誌学講座 III（春学期）

漢籍目録著録法

斯道文庫 教 授 山 城 喜 憲

授業科目の内容：

書誌学の基礎的な知識を修得した上で、出来るだけ広く漢籍（中国人の著作）、準漢籍（漢籍に対する日本人の注釈書類）の多様な伝本に接しながら、調査の方法・著録の要領を習得することを目標として、実修を行います。受講者各自の研究状況に応じて、対象書目を選択することも可能です。実修と平行して、日本における漢籍の受容と伝流について概述します。

斯道文庫書誌学講座Ⅳ（秋学期）

漢籍目録著録法

斯道文庫 教授 山城 喜 憲

授業科目の内容：

春学期の内容に準じます。

斯道文庫書誌学講座Ⅴ（春学期）

校べ勘える

斯道文庫 教授 大沼 晴 暉

授業科目の内容：

書誌学とはどういう学問か、その基盤となる考え方を説明します。

斯道文庫書誌学講座Ⅵ（秋学期）

校べ勘える

斯道文庫 教授 大沼 晴 暉

授業科目の内容：

書誌学とはどういう学問か、その基盤となる考え方を説明します。

日本漢文学Ⅰ（春学期）

平安時代の駢文についての研究Ⅰ

教授 佐藤 道 生

授業科目の内容：

『本朝文粹』、『本朝続文粹』などに収められている駢文作品を受講者の会読というかたちで読み進める。

日本漢文学Ⅱ（秋学期）

平安時代の駢文についての研究Ⅱ

教授 佐藤 道 生

授業科目の内容：

『本朝文粹』、『本朝続文粹』などに収められている駢文作品を受講者の会読というかたちで読み進める。

日本語学特殊講義Ⅰ（春学期）

日本語の音声

名誉教授 野澤 素 子

授業科目の内容：

本講義では、日本語学習者の音声における誤りの発見と適切な矯正を行うため、日本語教師に求められる日本語の音声の知識と技能について、演習を交えながら概観する。

日本語学特殊講義Ⅱ（秋学期）

日本語の文法Ⅱ

日本語・日本文化教育センター 准教授 大場 美穂子

授業科目の内容：

日本語の動詞についてさまざまな観点から考察を加え

る。下記の寺村秀夫（1982）を基に、それ以降の研究成果を見ていくこととする。

日本語学特殊講義Ⅲ（春学期）

言語教授法の歴史・日本語教授法

講師 松岡 弘

授業科目の内容：

主にヨーロッパにおける第二言語教育の歴史と主要な教授法の具体的な内容を、現代から17世紀チェコの教育学者・思想家ヤン・アモス・コメンスキー（コメニウス）にまで遡りながら解説し、それらと近現代の日本語教育並びにその教授法との方法的・思想的関連について考えます。

日本語学特殊講義Ⅳ（秋学期）

日本語教育史・日本事情

講師 松岡 弘

授業科目の内容：

主に明治以降、国内および海外植民地や占領地での日本語教育で用いられた教科書を中心に取り上げ、同時代の欧州の多言語社会における言語教育事情とも比較しながら、文法や語彙、テーマや内容、教育理念や教授法を分析・検討します。このような戦前期の日本語教育の経験を踏まえ、現在及びこれからの言語教育の中の「日本事情」または「日本文化」のあり方についても考えます。

日本語教育学特殊講義Ⅰ（春学期）

日本語の文法Ⅰ

日本語・日本文化教育センター 准教授 木村 義 之

授業科目の内容：

日本人が公教育で学ぶ学校文法の体系を再確認し、日本語文法としての問題点を考える。

日本語教育学特殊講義Ⅱ（秋学期）

日本語の談話研究

日本語・日本文化教育センター 准教授 田中 妙 子

授業科目の内容：

日本語教育における会話能力の育成について、特に初級段階での指導内容・指導方法を学ぶ。

日本語教育学特殊講義Ⅲ（春学期）

日本語初級文型研究Ⅰ

日本語・日本文化教育センター 教授 村田 年

授業科目の内容：

直接日本語教授法の実践的能力の養成を目標とする。大学レベルの学習者を対象とする初級教材の分析を通じて、言語要素の構築方法ならびに当該レベルの指導上の問題点を概観する。また、教案作成を行うことによって、

文型教育を柱とした授業の方法、教材、教具の扱い方について学ぶ。この科目では、初級レベルの前半段階（第1課～第12課あたりまで）に焦点を当てる。

日本語教育学特殊講義Ⅳ（秋学期）

日本語初級文型研究Ⅱ

日本語・日本文化教育センター 教授 村田 年
授業科目の内容：

日本語教育学特殊講義Ⅲの知識、内容を踏まえた上で、初級後半レベルの教材分析を行い、言語要素の体系的な構築方法ならびに直接教授法の指導上の問題点を概観する。また、教案作成を通じて文型教育を柱とした授業の展開方法、教材、教具の扱い方について学び、同時に中・上級レベルへとつながる問題点を考える。この科目では初級レベルの後半段階（第13課～第28課）に焦点を当てる。

日本語教育学特殊講義Ⅴ（春学期）

日本語の文字・表記

日本語・日本文化教育センター 准教授 木村 義之
授業科目の内容：

日本語の文字・表記に関する諸問題を扱う。日本語では字種の混交した使用がみられるが、特にその中で漢字使用の位置について考察する。

日本語教育学特殊講義Ⅵ（秋学期）

語彙論・意味論

講師 山崎 誠

授業科目の内容：

本授業では、言葉の意味の変化を比喻と多義という2つの面から考察します。例えば「危険水域」という言葉はマスコミでは本来の意味ではなくもっぱら比喩的に使われます。「ハードル（が高い）」「決定打」「落とし穴」「最終兵器」などの語句も比喩的な用法で多く使われます。このような比喩的な用法をコーパス等の具体例に基づいて考察し、元の意味から比喩が発生する過程を分析します。また、比喩的な用法が定着して多義語になることもあります。そこで、国語辞典の多義語を例にして過去にどのような比喩が定着したのかを調査し、現代の用例等も含めて意味変化のタイプを探っていきます。

日本語教育学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

教育実習

日本語・日本文化教育センター 教授 村田 年
授業科目の内容：

この科目では13週間にわたって日本語・日本文化教育センターにおいて演習（教育実習）を行う。

演習は「演習準備」「演習（実習）」「演習評価」の3つの段階に分かれている。詳細については、第一回目の授

業の時に担当者が履修者に対してオリエンテーションを行う。

日本語教育学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

日本語・日本文化教育センター 准教授 木村 義之
授業科目の内容：

近年の日本語学・日本語教育学の論文を読み、討論を行う。また、履修者の研究テーマに即した指導も行う。

日本語辞書史Ⅰ（春学期）

節用集の世界

名誉教授 関場 武

授業科目の内容：

江戸時代から明治中期にかけて数多く編纂・刊行された節用集を取り上げ、その内容や編集形態を、書誌的事項を含めて考察する。

日本語辞書史Ⅱ（秋学期）

漢和・漢語辞典の世界

名誉教授 関場 武

授業科目の内容：

中国の字典・韻書類に大きな影響を受けて成立した漢和辞典・作詩用辞書および、幕末・明治期に数多く出版された漢語字引類を取り上げ、その変容の様を辿る。

古典語と日本文学Ⅰ（春学期）

名誉教授 岩松 研吉郎

授業科目の内容：

日本語・日本文化教育に必要な古典語の基礎知識、およびその習得・研究法を整理する。対象とする「(日本)古典語」は、日本語史でいう古代語、および近代語のうち江戸期までのもので書記語の範囲。講義・演習形式を併用してすすめる。

古典語と日本文学Ⅱ（秋学期）

名誉教授 岩松 研吉郎

授業科目の内容：

日本語・日本文化教育に必要な古典語の基礎知識、およびその習得・研究法を整理する。対象とする「(日本)古典語」は、日本語史でいう古代語、および近代語のうち江戸期までのもので書記語の範囲。講義・演習形式を併用してすすめる。

中国文学専攻

中国文学研究Ⅰ（春学期）

『聯珠詩格』を読む

講師 詹 満 江

授業科目の内容：

『聯珠詩格』は中国で編纂された詩集であるが、本家本元の中国では散逸し、海をへだてた日本に将来され、今日まで伝えられてきた。中国で亡んでしまったのは、異民族王朝である元に仕えなかった南宋の詩人たちの作を採り、元に仕えた武臣の作は採らなかったため、元の世にときめく者たちから支持されなかったゆえだとも言われるが、ただ単にその内容が蕪雑だったために後世の人に受け入れられなかったゆえだとも言われている。

この日本に残った詩集は、日本の漢詩人たちにどのように受容されたのだろうか。その内容を検討するとともに、日本における受容の有様をも考えてみたい。

中国文学研究Ⅱ（秋学期）

『聯珠詩格』を読む

講師 詹 満 江

授業科目の内容：

「中国文学研究Ⅰ」と同じ。

中国文学研究Ⅲ（春学期）

教授 杉 野 元 子

授業科目の内容：

『新史学』第一巻所収論文を読み、批判的に検討する。

あわせて、随時受講生の研究主題の発表・検討をおこなう。

中国文学研究Ⅳ（秋学期）

教授 杉 野 元 子

授業科目の内容：

「中国文学研究Ⅲ」と同じ。

中国文学研究Ⅴ（春学期）

中国古白話文献を読む（変文から明清白話小説）

教授 洪 谷 誉 一 郎

授業科目の内容：

本講はいわゆる古白話文献をあつかう際の基礎知識を習得することを目的として、敦煌変文から宋元平話・明清小説にいたるまでの文学作品を選んで講読します。今年度は敦煌変文・宋・元・明の短篇小説から選んで読む予定。まず、古白話の史的展開の概述を聴講することによ

てそのアウトラインを理解し、その上で実際に作品を精読し、古白話の特徴や問題点等を把握してもらいます。

作品は輪番で読み進めます。担当者は事前に担当箇所について、テキスト上の問題点・語句の解釈・翻訳等を含めた詳細なレジュメを準備してください。授業時にはそのレジュメに基づいて内容の検討を行います。

中国文学研究Ⅵ（秋学期）

中国古白話文献を読む（変文から明清白話小説）

教授 洪 谷 誉 一 郎

授業科目の内容：

「中国文学研究Ⅴ」と同じ。

中国文学研究Ⅶ（春学期）

詩経注釈精読

商学部 教授 種 村 和 史

授業科目の内容：

本授業では、唐・孔穎達等撰『毛詩正義』と南宋・朱熹撰『詩集伝』を精読する。経学は、儒教の經典に対する注釈の撰述を、研究の中心とし、学者の研究成果も經典の注釈というスタイルで表現された。注釈はまた、先人の研究成果を選択的に受容し踏襲した記述の中から、各学者の独自の見解が浮かび上がるように書かれている。このような注釈を読解する訓練を行うことによって、中国における学問の伝統を体感し、古典文学研究のための確かな基盤を作り上げることを目的とする。

中国文学研究Ⅷ（秋学期）

詩経注釈精読

商学部 教授 種 村 和 史

授業科目の内容：

「中国文学研究Ⅶ」と同じ。

中国文学研究Ⅸ（春学期）

『聊齋志異』講読

教授 八 木 章 好

授業科目の内容：

清朝の怪異小説『聊齋志異』を読む。

任篤行輯校『全校会注集評聊齋志異』を用いて、特定の数篇を清人の注評を含めて精読する。

中国文学研究Ⅹ（秋学期）

『聊齋志異』講読

教授 八 木 章 好

授業科目の内容：

「中国文学研究Ⅸ」と同じ。

中国文学研究XI (春学期)

巴金批判の系譜

講師 山口 守

授業科目の内容 :

巴金はアナーキストと作家という二面を持ち、思想と文学の往復運動に似た創作や思想の軌跡を描いてきたが、この講義ではその振幅の中で彼がどのように文学的主体性を表現してきたか、他の文学者との批判・反批判の文章を例として考えてみたい。今学期はまず民国時代の巴金批判と巴金からの反論を中心に学習するが、具体的には施蛰存、李健吾、沈從文との論争を取り上げる予定である。

中国文学研究XII (秋学期)

巴金批判の系譜

講師 山口 守

授業科目の内容 :

巴金はアナーキストと作家という二面を持ち、思想と文学の往復運動に似た創作や思想の軌跡を描いてきたが、この講義ではその振幅の中で彼がどのように文学的主体性を表現してきたか、他の文学者との批判・反批判の文章を例として考えてみたい。今学期はまず民国時代の巴金批判と巴金からの反論を中心に学習するが、具体的には前半は国防文学論戦を中心に学習し、後半は朱光潜、阿英、郭沫若との論争を取り上げる予定である。

中国文学研究XIII (春学期)

中国 30 年代都市のメディアと文学

教授 関根 謙

授業科目の内容 :

昨年までに引き続き、現代中国 1920 年代後期から 30 年代の都市部で刊行された文学雑誌を読んでいく。今期は「新月」3 号以降の小説を中心に、評論なども含めて読んでいく。

中国文学研究XIV (秋学期)

中国 30 年代都市のメディアと文学

教授 関根 謙

授業科目の内容 :

「中国文学研究XIII」と同じ。

中国語学研究 I (春学期)

中国文法論 I

講師 内藤 正子

授業科目の内容 :

王力、呂叔湘、高名凱、趙元任等の著作を読みながら、中国語の文法や表現について、ホリスティックに考察してゆきます。

中国語学研究 II (秋学期)

中国文法論 II

講師 内藤 正子

授業科目の内容 :

「中国語学研究 I」と同じ。

中国語学研究 III (春学期)

中国語を言語学的に考える

教授 山下 輝彦

授業科目の内容 :

中国語研究で重要と思われる文献を読み、それについてディスカッションをする。中国語で研究発表をする力を身につけるために議論はすべて中国語で行う。

中国語学研究 IV (秋学期)

中国語を言語学的に考える

教授 山下 輝彦

授業科目の内容 :

「中国語学研究 III」と同じ。

中日比較文学研究 I (春学期)

講師 胡 志昂

授業科目の内容 :

弦に付して歌われた詩三百の後を継ぐ漢魏の楽府歌曲は、六朝に至って呉声西曲と合流して清商楽と称され、隋・唐の清楽の源流となった。日本の雅楽に組み込まれる唐楽の伝来も隋・唐を溯るものがあると考えられる。この時間では当時中日の知識人の必読の書であり、日本の漢詩や和歌文学と深い関係が見られる『文選』に収められた楽府詩を取り上げ、楽府歌曲の音楽的性格を考慮に入れつつ、その由来と移り変わりを読んでいく。

中日比較文学研究 II (秋学期)

講師 胡 志昂

授業科目の内容 :

「中日比較文学研究 I」と同じ。

*「斯道文庫書誌学講座 III (春学期) 漢籍目録著録法」に関しては 67 ページを参照してください。

英米文学専攻

中世英語英文学特殊講義ⅠA（春学期）

休 講

中世英語英文学特殊講義ⅠB（春学期）

写本と初期印刷本

名誉教授 高 宮 利 行

授業科目の内容：

中世英語写本と初期刊本に関する書物史的書誌学的序論と演習

中世英語英文学特殊講義ⅡA（春学期）

休 講

中世英語英文学特殊講義ⅡB（秋学期）

写本と初期印刷本

名誉教授 高 宮 利 行

授業科目の内容：

「中世英語英文学特殊講義ⅠB」と同じ。

中世英語英文学特殊講義演習ⅠA（春学期）

教 授 松 田 隆 美

授業科目の内容：

Middle English のテキストを精読し、中世研究の方法論を実践的に学ぶ。特に14-15世紀のナラティブ作品を対象として、写本およびヴァージョン間の異同に注目しつつ比較研究をおこなう。

中世英語英文学特殊講義演習ⅠB（春学期）

教 授 松 田 隆 美

授業科目の内容：

中世研究の様々な方法論を示唆する近年の文献を讀んで、批判的に検討する。後期博士課程「中世英文学特殊研究Ⅰ」と併設。

中世英語英文学特殊講義演習ⅡA（秋学期）

教 授 松 田 隆 美

授業科目の内容：

Middle English のテキストを精読し、中世研究の方法論を実践的に学ぶ。特に14-15世紀のナラティブ作品を対象として、写本およびヴァージョン間の異同に注目しつつ比較研究をおこなう。

中世英語英文学特殊講義演習ⅡB（秋学期）

教 授 松 田 隆 美

授業科目の内容：

中世研究の様々な方法論を示唆する近年の文献を讀んで、批判的に検討する。後期博士課程「中世英文学特殊研究Ⅱ」と併設。

近代英米文学特殊講義Ⅰ（春学期）

18世紀英文学におけるゴシックの系譜

講 師 原 田 範 行

授業科目の内容：

イギリス18世紀は、詩、小説、伝記、批評など、さまざまな文学ジャンルが、変化・分化・確立してくる時代であり、またジャーナリズムや著作権論争も含め、印刷出版文化が今日的な相貌を帯び始める時期でもあります。本講義の目的は、こうした18世紀の英文学作品を精読しながら、作品解釈と研究のための基礎的事項を確認し、その方法論を検討していくことにあります。本年度は、ゴシックの系譜に焦点をあてて、小説、演劇、詩および関連する絵画や建築について考察します。特殊講義Ⅰ（春学期）には小説を中心に扱います。

近代英米文学特殊講義Ⅱ（秋学期）

18世紀英文学におけるゴシックの系譜

講 師 原 田 範 行

授業科目の内容：

イギリス18世紀は、詩、小説、伝記、批評など、さまざまな文学ジャンルが、変化・分化・確立してくる時代であり、またジャーナリズムや著作権論争も含め、印刷出版文化が今日的な相貌を帯び始める時期でもあります。本講義の目的は、こうした18世紀の英文学作品を精読しながら、作品解釈と研究のための基礎的事項を確認し、その方法論を検討していくことにあります。本年度は、ゴシックの系譜に焦点をあてて、小説、演劇、詩および関連する絵画や建築について考察します。特殊講義Ⅱ（秋学期）には、詩および演劇を中心に扱います。

近代英米文学特殊講義演習ⅠA（春学期）

イギリス・ルネサンス演劇研究

教 授 井 出 新

授業科目の内容：

この演習では前・後期を通して初期近代イギリスの演劇作品を精読するとともに、受講者にブックレビューを行ってもらい、最近の研究動向を追う。また歴史史料や古文書解読のための基礎力習得も目指したい。

近代英米文学特殊講義演習 I B (春学期)

近代以前の文芸批評史

准教授 高橋 勇

授業科目の内容 :

文学作品を理解するためには(現代文学理論とならんで)たいへん重要となる, 同時代の文学理論を概観します。全専攻共通科目「文芸批評史」の「前」の時代を扱う科目です。

近代英米文学特殊講義演習 II A (秋学期)

イギリス・ルネサンス演劇研究

教授 井出 新

授業科目の内容 :

「近代英米文学特殊講義演習 I A」と同じ。

近代英米文学特殊講義演習 II B (秋学期)

近代以前の文芸批評史

准教授 高橋 勇

授業科目の内容 :

「近代英米文学特殊講義演習 I B」を参照。

現代英米文学特殊講義 I A (春学期)

Approaches to Literary History: Canon, Tradition and Modernity

講師 ティンク, ジェイムズ M.

授業科目の内容 :

In this course, students will read, discuss and give presentations on topics in English literary studies, combining selected works of British Literature with various examples of literary criticism and critical approaches to literature. In this semester, the class will focus on drama and poetry and to consider the development of the institution of British Literature since the Renaissance. Students will study Shakespeare's *Hamlet* to examine how it has inspired many subsequent approaches to literature and criticism. Other primary texts will include British Romantic poetry and criticism (including S.T. Coleridge's 'The Rime of The Ancient Mariner') and T.S. Eliot's poem 'The Waste Land'. Topics for discussion will include the idea of Modernity, the representation of subjectivity and the self in poetry and drama, the formation of the literary canon (and particularly the status of Shakespeare), and other theories of literary interpretation and evaluation. Students will be asked to read both primary texts and secondary criticism and contribute to the class through presentation and discussion.

現代英米文学特殊講義 I B (春学期)

休講

現代英米文学特殊講義 I C (春学期)

Emotion and Sentimentality in American Literature I

准教授 大串 尚代

授業科目の内容 :

アメリカ文学において, 感情あるいは感傷がどのような概念として捉えられ, 文学的・文化的装置としてどのように機能してきたかを概観する。春学期は Jane Tompkins, Karen Sanchez-Eppler, Shirley Samuels などの論を踏まえた上で, Lauren Berlant による文化史的な研究を考察する。

現代英米文学特殊講義 II A (秋学期)

Modern Fiction and Narrative Criticism

講師 ティンク, ジェイムズ M.

授業科目の内容 :

In this course students will read, discuss and give presentations on topics in English literary studies, combining selected works of British Literature with various examples of literary criticism and critical approaches to literature. In this semester we will look at modern fiction and critical studies of fiction and narrative. We will read Joseph Conrad's novella *Heart Of Darkness*, Virginia Woolf's *Mrs Dalloway*, selected short stories by Angela Carter and the novel *Atonement* by Ian McEwan. Topics for discussion will include ideas of the novel, postcolonial criticism, feminist criticism and postmodernism. Students will be asked to read both primary texts and secondary criticism and contribute to the class through presentations and discussion.

現代英米文学特殊講義 II B (秋学期)

休講

現代英米文学特殊講義 II C (秋学期)

Emotion and Sentimentality in American Literature II

准教授 大串 尚代

授業科目の内容 :

アメリカ文学において, 感情あるいは感傷がどのような概念として捉えられ, 文学的・文化的装置としてどのように機能してきたかを概観する。秋学期は, 通常女性性との関連性を想起されがちな sentimentality が, 男性性とどのような共謀関係にあるのかを考察する。

現代英米文学特殊講義演習 I A (春学期)

異端のモダニズム

教授 河内 恵子

授業科目の内容 :

モダニズム文学の多様性の魅力をイギリスのみならず, ヨーロッパ全体から考察する。

現代英米文学特殊講義演習 I B (春学期)

戦争と文学

教授 河内 恵子

授業科目の内容 :

「現代英米文学特殊研究 I」と併設。

現代英米文学特殊講義演習 II A (秋学期)

異端のモダニズム

教授 河内 恵子

授業科目の内容 :

「現代英米文学特殊講義演習 I A」を参照。

現代英米文学特殊講義演習 II B (秋学期)

戦争と文学

教授 河内 恵子

授業科目の内容 :

「現代英米文学特殊研究 II」と併設。

英語学特殊講義 I A (春学期)

Elementary Old English

教授 スカヒル, ジョン・デミエン

授業科目の内容 :

This course introduces the pronunciation, spelling and grammar of Old English through reading simple prose.

英語学特殊講義 I B (春学期)

社会言語学

教授 井上 逸兵衛

授業科目の内容 :

社会言語学の文献を講読する。

英語学特殊講義 I C (春学期)

認知言語学研究 (文法と意味)

講師 西村 義樹

授業科目の内容 :

文法と意味の関係というテーマを中心に認知言語学の理論的基盤を多角的に検討する。

英語学特殊講義 I D (春学期)

休講

英語学特殊講義 I E (春学期)

休講

英語学特殊講義 I F (春学期)

言語の認知科学

言語文化研究所 教授 大津 由紀雄

授業科目の内容 :

言語の認知科学の主要論点のいくつかをとりあげ、文献を読んだり、議論したりする。認知言語学の講義ではないので誤解のないよう。受講予定者は第一回目の講義に必ず出席のこと。やむをえない都合で出席できない場合は、必ず事前に担当者に連絡のこと。

英語学特殊講義 I G (春学期)

社会言語学

教授 井上 逸兵衛

授業科目の内容 :

受講者の研究発表、話題提供をもとに全員で議論する。

英語学特殊講義 I H (春学期)

Beowulf

教授 スカヒル, ジョン・デミエン

授業科目の内容 :

This course will combine close reading of part of *Beowulf* with a study of the poem as a whole, paying particular attention to metre, paleography and Germanic legend.

英語学特殊講義 II A (秋学期)

Elementary Old English

教授 スカヒル, ジョン・デミエン

授業科目の内容 :

In this course, we shall read Old English prose and verse from a variety of genres.

英語学特殊講義 II B (秋学期)

言語人類学

教授 井上 逸兵衛

授業科目の内容 :

言語人類学の文献を講読する。

英語学特殊講義 II C (秋学期)

認知言語学研究 (文法と意味)

講師 西村 義樹

授業科目の内容 :

春学期の続き。

英語学特殊講義 II D (秋学期)

休講

英語学特殊講義 II E (春学期)

休講

英語学特殊講義Ⅱ F (秋学期)

言語の認知科学

言語文化研究所 教授 大津 由紀雄

授業科目の内容:

「英語学特殊講義Ⅱ F」の継続

英語学特殊講義Ⅱ G (秋学期)

言語人類学

教授 井上 逸兵衛

授業科目の内容:

受講者の研究発表、話題提供をもとに全員で議論する。

英語学特殊講義Ⅱ H (秋学期)*Beowulf*

教授 スカヒル, ジョン・デミエン

授業科目の内容:

「英語学特殊講義Ⅱ H」と同じ。

英語学特殊講義演習Ⅰ (春学期)

Informed Argument

教授 アーマー, アンドルー J.

授業科目の内容:

This course is primarily designed for students who are preparing to write M.A. dissertations. It will focus on the techniques required to produce a logical, concise presentation of an academic argument. After receiving any necessary instruction in the theory and practice of English rhetoric, students will be expected to present papers for discussion in class.

英語学特殊講義演習Ⅱ (秋学期)

Informed Argument

教授 アーマー, アンドルー J.

授業科目の内容:

「英語学特殊講義演習Ⅰ」と同じ。

英語史特殊講義演習Ⅰ (春学期)

史的資料による英語の通時的研究

講師 小倉 美知子

授業科目の内容:

Old English *Andreas* を読む。精読を心がけることと、スタイル、特に direct speech を導く formula や variation に注意しながら読んでいく。

英語史特殊講義演習Ⅱ (秋学期)

史的資料による英語の通時的研究

講師 小倉 美知子

授業科目の内容:

古英詩の中で、あまり読まれていないものを取り上げる。*Riming Poem* は韻律の関点から、*Maxims I* はその hypermetric verse 多用の理由を探る目的で読む。

米文学特殊講義Ⅰ (春学期)

休講

米文学特殊講義Ⅱ (秋学期)

アメリカ文学思想史

教授 巽 孝之

授業科目の内容:

旧来の文学史的言説を意識しながらアメリカ文学思想史の可能性を考える。

米文学特殊講義演習Ⅰ (春学期)

精神分析批評の古典とアメリカ古典小説

講師 折島 正司

授業科目の内容:

精神分析批評的であり、かつ今日の批評に深い影響を与えた古典的な研究書を精密に読解する。あわせて、言及される古典的アメリカ小説を読む。

精神分析とアメリカ古典小説は、共通のトポスをめぐる近代の言説装置として、同じ male paranoid gothic 的な物語を語っていることを確認する。

米文学特殊講義演習Ⅱ (秋学期)

精神分析批評の古典とアメリカ古典小説

講師 折島 正司

授業科目の内容:

精神分析批評的であり、かつ今日の批評に深い影響を与えた古典的な研究書を精密に読解する。あわせて、言及される古典的アメリカ小説を読む。

精神分析とアメリカ古典小説は、共通のトポスをめぐる近代の言説装置として、同じ male paranoid gothic 的な物語を語っていることを確認する。

比較文学Ⅰ (春学期)

小説はどのように書かれているかⅠ

講師 菅原 克也

授業科目の内容:

比較文学研究のひとつのありかたとして、文学作品を広く一般的な立場から分析、考察するという態度がある。本講義では、欧米の小説や日本の小説を小説の書き方—一般的な技法という観点から横断的に考察する。すなわち、小

説という文学形式について、その思想やメッセージの側からではなく、「かたち」の側から読んでゆくと、どのようなことが分かるか、あるいは小説という文学ジャンルはどのような書かれ方をしているのかも考えてみる。様々な批評理論を参照しつつ、具体的な例に即して解説する。

比較文学Ⅱ（秋学期）

小説はどのように書かれているかⅡ

講師 菅原 克也

授業科目の内容：

春学期に続いて、小説の「かたち」についての考察を行う。秋学期には、小説の技法に加えて、一般的な修辞技法についても講義する。

古典文学ⅠA（春学期）

教授 西村 太良

授業科目の内容：

西洋古典について受講者の関心と興味に応じて幅広く検討することを目的とする。教材としてはとりあえず下記のものなど考えているが、相談の上決めたい。

D.T.Steiner: Images in Mind (2001)

C.Sourvinou-Inwood: Tragedy and Athenian Religion (2003)

古典文学ⅠB（春学期）

教授 中川 純男

授業科目の内容：

キケロの *De inventione* 『弁論術』を読む。『発想論』あるいは『構想論』と訳されるこの書は弁論術にかかわる創作論である。テキストはラテン語であるが近代語訳による参加も歓迎する、最低二カ国語の近代語訳（日本語訳を含む）を用意することが望ましい。

古典文学ⅡA（秋学期）

教授 西村 太良

授業科目の内容：

「古典文学ⅠA」と同じ。

古典文学ⅡB（秋学期）

教授 中川 純男

授業科目の内容：

「古典文学ⅠB」と同じ。

文芸批評史Ⅰ（春学期）

休講

文芸批評史Ⅱ（秋学期）

教授 巽 孝之

授業科目の内容：

文学批判理論はきわめて学際的な分野である。現代に限っても、ロシア、フォルマリズムや新批評、脱構築、ひいては構造主義から新歴史主義やポスト・コロニアリズム、クイア・リーディングへ至る歴史において、文学批評は何よりも自らの属する枠組み自体をたえまなく再検討し、その結果、今日では文学史と文化史を切り離して考えることはできなくなっている。そこには、いかなる文芸批評史の流れが作用していたのかを、根本に立ち戻って考え直す。

言語学特殊講義Ⅰ（春学期）

生成文法と機能的構文論

講師 高見 健一

授業科目の内容：

本講義では英語や日本語のいくつかの構文（例えば、結果構文、二重目的語構文、中間構文、場所句倒置構文など）を取り上げ、生成文法による分析と機能的構文論による分析を比較、検討し、言語分析にとってどのようなアプローチや分析が必要かを把握する。

言語学特殊講義Ⅱ（秋学期）

生成文法と機能的構文論

講師 高見 健一

授業科目の内容：

春学期に引き続き、英語や日本語の諸構文を取り上げ、生成文法による分析と機能的構文論による分析を比較、検討する中で、言語研究の分析やアプローチを理解、把握する。

独文学専攻

ドイツ文学研究Ⅰ（春学期）

ゲーテ時代研究 XX 「ゲーテ時代の文化史」

名誉教授 柴田 陽弘

授業科目の内容：

「ゲーテ時代」の精神史を、以下のような主題をめぐって考えます。表象文化論といってもいいでしょう。

- 1 崇高と美の観念（バーク、カント、雰囲気の美学）
- 2 地球観光旅行（博物学の黄金時代、熱帯の自然、緑の魔界の探検者、リンネとその使徒たち、探検博物学の夜明け、アレクサンダー・フォン・フンボルト、キルヒャー、ケンペル、ゲスナー、シーボルト、レディ・

- トラベラー 旅する女たち, 探検地図, クック船長)
- 3 風景の発見 (風景の生産, 風景の解放, 神聖自然学, 空間の世紀, 征服の修辞学, 野蛮の博物誌)
 - 4 自然誌の終焉 (十八世紀の文人科学者たち, コレクション, ナチュラリストの誕生, 自然の死)
 - 5 視覚と近代 (五感の優位)
 - 6 天才の子供時代 (ゲーテ, モーツァルト, ベートーベン, シューベルト)
 - 7 自伝・回想録・日記 (聖から俗へ)
 - 8 無限への憧憬 (ロマン主義の美学と芸術観, 魔術的観念論, フリードリヒとルンゲ)
 - 9 ゲーテ時代の日常生活 (十八世紀の文化と社会, 遍歴職人の世界)
 - 10 百科全書の起源 (ノヴァーリスの百科全書)
 - 11 天国と地獄 (天使学大全, 悪魔の系譜, 飛翔論, 象徴としての庭園, ユートピア)
 - 12 イシス探求
 - 13 洪水伝説 (水の征服, 地下世界, 地質学と地球生成論)
 - 14 聴衆の誕生 (サロン, 演奏会, 楽器の進化)
 - 15 消費社会の誕生 (作家・パトロン・書籍商・読者)
 - 16 鉄道旅行の歴史 (蒸気機関からエントロピーへ)
 - 17 フリーメーソン
 - 18 コーヒーハウス (クラブとサロン)
 - 19 フランソワとマルグリット (未婚の母と子供たち, 女の皮膚の下, 胎児へのまなざし, 母権論, 妻と夫の歴史, 女のエクリチュール, 結婚と家族, 路地裏の女性たち, ジェンダーと権力)
 - 20 変身の神話

まずはゲーテの『ファウスト』を読むことから始めます。

ドイツ文学研究Ⅱ (秋学期)

ゲーテ時代研究 XX 「ゲーテ時代の文化史」

名誉教授 柴田陽弘

授業科目の内容:

「ドイツ文学研究Ⅰ」と同じ。

ドイツ文学研究Ⅲ (春学期)

メタヒストリー

教授 和泉雅人

授業科目の内容:

今期は Haydon White の Metahistory を中心として、フィクションとしての歴史と物語の生産プロセスについて考えていく予定ですが、テーマについては受講生諸君と相談する余地もあります。また受講生と相談しながら、受講生それぞれの研究分野にかかわる文献も視野に入れていきたいと思っています。いずれにせよ、受講生諸君と話し合っ

ドイツ文学研究Ⅳ (秋学期)

教授 和泉雅人

授業科目の内容:

「ドイツ文学研究Ⅲ」と同じ。

ドイツ文学研究Ⅴ (春学期)

ゲーテ的自然観の可能性 (1)

教授 桑川麻里生

授業科目の内容:

昨年度に引き続き、ゲーテの自然科学論, 思想的エッセイを読みながら, その思想がどこからやってきたのか, またどのように現代まで伝わってきたかを研究します。ゲーテの思想の継承者として, カッシーラー, ジンメル, ベンヤミン, ヴィトゲンシュタインなどのテキストも読みつつ, 思想史的文脈をたどっていきたいと思います。

ドイツ文学研究Ⅵ (秋学期)

ゲーテ的自然観の可能性 (2)

教授 桑川麻里生

授業科目の内容:

ドイツ文学研究Ⅴの続編です。

ドイツ文学演習Ⅰ (春学期)

Germanistische Propädeutik

教授 フュルンケース, ヨーゼフ

授業科目の内容:

Das Schreiben von Examensarbeiten, z.B. Magisterarbeiten, will gelernt und geübt sein. Es genügt nicht, das Thema zu bedenken, die Werke zu lesen, die Literatur zu konsultieren, den eigenen Interpretationsideen zu folgen. Es geht auch darum, sich den Standards und Normen zu stellen, die mit dem Anspruch auf wissenschaftliches Schreiben verbunden sind. Germanistische Propädeutik will hier gezielt Hilfen anbieten. Examenskandidaten wird die Möglichkeit gegeben, den Fortschritt ihrer Arbeiten durch konstruktive Kritik kontinuierlich überprüfen zu lassen.

ドイツ文学演習Ⅱ (秋学期)

Germanistische Propädeutik

教授 フュルンケース, ヨーゼフ

授業科目の内容:

Das Schreiben von Examensarbeiten, z.B. Magisterarbeiten, will gelernt und geübt sein. Es genügt nicht, das Thema zu bedenken, die Werke zu lesen, die Literatur zu konsultieren, den eigenen Interpretationsideen zu folgen. Es geht auch darum, sich den Standards und Normen zu stellen, die mit dem Anspruch auf wissenschaftliches Schreiben verbunden sind. Germanistische Propädeutik will hier gezielt Hilfen anbieten.

Examenskandidaten wird die Möglichkeit gegeben, den Fortschritt ihrer Arbeiten durch konstruktive Kritik kontinuierlich überprüfen zu lassen.

ドイツ文学演習Ⅲ (春学期)

Medienwechsel: Schriftsteller über Kunstwerke

講師 ループレヒター, ヴァルター

授業科目の内容:

In diesem Seminar werden literarische Texte gelesen, die anlässlich von Kunstwerken entstanden sind. Es werden also Kunstwerke (Gemälde, Skulpturen) als Quellen literarischen Schaffens untersucht. Dabei sind sehr verschiedene Zugangsweisen von Schriftstellern zu beobachten, die von einfachen Bildbeschreibungen über Erlebnisberichte, freie Phantasien und Assoziationen zu Experimenten mit literarischen Strukturanalogien reichen und auf diese Weise auch neue literarische Genres kreieren. Darüber hinaus soll die Frage gestellt werden, welche Einsichten solche Medienwechsel in die verschiedenen Systeme Kunst und Literatur ermöglichen.

Die Auswahl von Bildern und Texten beschränkt sich auf die Zeit vom 18. Jahrhundert bis heute. Die folgende Zusammenstellung zeigt einige Namen von Schriftstellern und *Künstlern*, die sich in solchen Vertextungen von Kunstwerken begegnet sind:

Ludwig Tieck – *Michelangelo, Raffael, Dürer*
Heinrich von Kleist – *Caspar David Friedrich*
Hugo von Hofmannsthal – *Jan van Eyck*
Joris-Karl Huysmans – *Matthias Grünewald*
Robert Walser – *Vincent van Gogh*
Rainer Maria Rilke – *Paul Cezanne, Auguste Rodin*
Oscar Wilde – *James Whistler*;
Gertrude Stein – *Pablo Picasso*
Elias Canetti – *Rembrandt*;
Wolfgang Hildesheimer – *Francis Bacon*
Thomas Bernhard – *Tintoretto*
Inger Christensen – *Andrea Mantegna*
Hugo Loetscher – *Anselm Feuerbach*
Ferdinand Schmatz – *Adalbert Stifter*
Ilma Rakusa – *Caspar David Friedrich*
Christoph Ransmayer – *Anselm Kiefer*; usw.

ドイツ文学演習Ⅳ (秋学期)

講師 ループレヒター, ヴァルター

授業科目の内容:

「ドイツ文学演習Ⅲ」と同じ。

ドイツ文学演習Ⅴ (春学期)

パウル・ツェラン研究

教授 大宮 勘一郎

授業科目の内容:

詩人パウル・ツェランは難解という評判と、特定の歴史的出来事の実現者という先入見とに埋もれている。どちらも間違った見方ではないが、むしろそれで全てが片付くわけではない。いずれにしてもツェランを読む場合大事なのは、一語一語、あるいは一音一音、さらには一文字一文字読んでゆく、という基礎的作業であろう。この授業はその練習である。

ドイツ文学演習Ⅵ (秋学期)

パウル・ツェラン研究

教授 大宮 勘一郎

授業科目の内容:

ドイツ文学演習Ⅴの続きです。(以下同)

ドイツ語学研究Ⅰ (春学期)

教授 中山 豊

授業科目の内容:

Jetzt stehe ich hier という文はどのような「意味」をもつのか。Dienst ist Dienst, Schnaps ist Schnaps という同語反復はどうして無意味な文ではないのか。5人の子持ちの親が Ich habe zwei Kinder と言っただけで嘘をついているとみなされるのか。結婚式で聖職者の問いに Ja, ich will と言うだけでなぜ諸々の社会的責任を引き受けるか、等々の問いに興味がある方の参加を期待します。

ドイツ語学研究Ⅱ (秋学期)

教授 中山 豊

授業科目の内容:

「ドイツ語学研究Ⅰ」と同じ。

ドイツ語学研究Ⅲ (春学期)

中高ドイツ語入門

教授 香田 芳樹

授業科目の内容:

中高ドイツ語は1050年頃から1500年頃までにドイツ中西部や上部ドイツで話されていた言葉です。『ニーベルンゲンの歌』や『トリスタンとイゾルデ』、『パルチヴァール』といった珠玉の作品はすべてこれによって書かれています。この演習では、中高ドイツ語の初級文法を簡単に解説しながら、ドイツ中世の文学作品を原典で少しずつ読んでいきます。ドイツ語の古型に触れることで、言葉の発展史も勉強できるでしょう。現代ドイツ語の知識を使えば、古語もそれほど苦勞せず読みとれるようになる喜びを実感して下さい。新しい(古い?)言葉にふ

れば、いにしへのゲルマン人の心意気もきっと身近になるはず。

ドイツ語学研究Ⅳ（秋学期）

中高ドイツ語入門

教授 香田 芳樹

授業科目の内容：

春学期に引き続き、中高ドイツ語を学んでいきます。初級文法のおさらいをした後で、秋学期では少し背伸びをして、『トリスタンとイゾルデ』を原文で読んでみましょう。

ドイツ語学演習Ⅰ（春学期）

Interkulturelle Literatur in Deutschland I

訪問准教授（招聘） ドウツペルータカヤマ、メヒティルド

授業科目の内容：

Seit Jahrhunderten gibt es im deutschen Sprachraum Autoren, die auf Deutsch schreiben, aber von mehreren Kulturen geprägt sind. Adelbert von Chamisso, Franz Kafka und Elias Canetti gehören dazu, und heute sind dies zum Beispiel Schriftsteller wie Feridun Zaimoglu, Wladimir Kaminer oder Yoko Tawada. Die zeitgenössische deutschsprachige Minderheitenliteratur – als „Gastarbeiterliteratur“ oder „Ausländerliteratur“ bezeichnet – war lange kein Thema in der Germanistik. Erst in den 90er Jahren fand sie neues Interesse im Zusammenhang mit dem internationalen Diskurs über Migration, Multikulturalität und postkoloniale Literatur. In der Veranstaltung beschäftigen wir uns zunächst mit der Geschichte der interkulturellen Literatur und ihrer Entwicklung seit den 70er Jahren. Dabei steht die deutsch-türkische und die deutsch-arabische Literatur im Mittelpunkt.

ドイツ語学演習Ⅱ（秋学期）

Interkulturelle Literatur in Deutschland II

訪問准教授（招聘） ドウツペルータカヤマ、メヒティルド

授業科目の内容：

Fortsetzung der Veranstaltung des Sommersemesters. Im Mittelpunkt steht nun die Lektüre repräsentativer Werke deutsch-türkischer, deutsch-arabischer und deutsch-russischer Autoren sowie von Yoko Tawada.

比較文学Ⅰ（春学期）

小説はどのように書かれているか

講師 菅原 克也

授業科目の内容：

比較文学研究のひとつのありかたとして、文学作品を広く一般的な立場から分析、考察するという態度がある。本講義では、欧米の小説や日本の小説を小説の書き方一

般的な技法という観点から横断的に考察する。すなわち、小説という文学形式について、その思想やメッセージの側からではなく、「かたち」の側から読んでゆくと、どのようなことが分かるか、あるいは小説という文学ジャンルはどのような書かれ方をしているのかも考えてみる。様々な批評理論を参照しつつ、具体的な例に即して解説する。

比較文学Ⅱ（秋学期）

小説はどのように書かれているかⅡ

講師 菅原 克也

授業科目の内容：

春学期に続いて、小説の「かたち」についての考察を行う。秋学期には、小説の技法に加えて、一般的な修辞技法についても講義する。

古典文学ⅠA（春学期）

教授 西村 太良

授業科目の内容：

西洋古典について受講者の関心と興味に応じて幅広く検討することを目的とする。教材としてはとりあえず下記のものなど考えているが、相談の上決めたい。

D.T.Steiner: Images in Mind (2001)

C.Sourvinou-Inwood: Tragedy and Athenian Religion (2003)

古典文学ⅠB（春学期）

教授 中川 純男

授業科目の内容：

キケロの *De inventione* 『弁論術』を読む。『発想論』あるいは『構想論』と訳されるこの書は弁論術にかかわる創作論である。テキストはラテン語であるが近代語訳による参加も歓迎する、最低ニカ国語の近代語訳（日本語訳を含む）を用意することが望ましい。

古典文学ⅡA（秋学期）

教授 西村 太良

授業科目の内容：

「古典文学ⅠA」と同じ。

古典文学ⅡB（秋学期）

教授 中川 純男

授業科目の内容：

「古典文学ⅠB」と同じ。

文芸批評史Ⅰ（春学期）

休講

文芸批評史Ⅱ（秋学期）

教授 巽 孝 之

授業科目の内容：

文学批判理論はきわめて学際的な分野である。現代に限っても、ロシア、フォルマリズムや新批評、脱構築、ひいては構造主義から新歴史主義やポスト・コロニアリズム、クイア・リーディングへ至る歴史において、文学批評は何よりも自らの属する枠組み自体をたえまなく再検討し、その結果、今日では文学史と文化史を切り離して考えることはできなくなっている。そこには、いかなる文芸批評史の流れが作用していたのかを、根本に立ち戻って考え直す。

言語学特殊講義Ⅰ（春学期）

生成文法と機能的構文論

講師 高 見 健 一

授業科目の内容：

本講義では英語や日本語のいくつかの構文（例えば、結果構文、二重目的語構文、中間構文、場所句倒置構文など）を取り上げ、生成文法による分析と機能的構文論による分析を比較、検討し、言語分析にとってどのようなアプローチや分析が必要かを把握する。

言語学特殊講義Ⅱ（秋学期）

生成文法と機能的構文論

講師 高 見 健 一

授業科目の内容：

春学期に引き続き、英語や日本語の諸構文を取り上げ、生成文法による分析と機能的構文論による分析を比較、検討する中で、言語研究の分析やアプローチを理解、把握する。

仏文学専攻

中世仏語仏文学特殊講義Ⅰ（春学期）

中世フランス語入門（1）

教授 川 口 順 二

授業科目の内容：

13世紀の散文を使って、中世フランス語への入門をしますが、これは同時に中世文学への入門でもあります。

中世仏語仏文学特殊講義Ⅱ（秋学期）

中世フランス語入門（2）

教授 川 口 順 二

授業科目の内容：

春学期に学習した中世フランス語の知識を広げて、12

世紀韻文を取り上げ、聖杯伝説の最初のテキストであるChrestien de TroyesのPercevalを読んでいます

中世仏語仏文学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

教授 荻 野 安 奈

授業科目の内容：

16世紀のフランス語に慣れることから始めます。ラブレール、デュ・ファイユ、モンテーニュなど散文作品が中心となります。

中世仏語仏文学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

教授 荻 野 安 奈

授業科目の内容：

前期の続きですが、韻文にも手を伸ばしたいと思います。

近代仏語仏文学特殊講義Ⅰ（春学期）

ベルギーのシュルレアリスム（1）

教授 宮 林 寛

授業科目の内容：

ベルギーでは第1次世界大戦後の1920年代に首都ブリュッセルで、1930年代にはエノー地方の都市ラ・ルーヴィエールでシュルレアリスム運動が起こりました。文学と造形芸術の世界で注目すべき成果をあげながら、なぜか正当な評価を受けてこなかったベルギー・シュルレアリストたちの再評価を試みるのが、この授業の主たる目的です。春学期はブリュッセルで活動した文学者のうち、グループの理論的支柱だったポール・ヌジェの仕事を紹介しながら、画家ルネ・マグリットとの「共同作業」についても考えてみたいと思います。

近代仏語仏文学特殊講義Ⅱ（秋学期）

ベルギーのシュルレアリスム（2）

教授 宮 林 寛

授業科目の内容：

エノー地方のグループをとりあげ、特に詩人フェルナン・デュモン再評価を試みる予定です。

近代仏語仏文学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

18世紀フランス文学入門

名誉教授 鷲 見 洋 一

授業科目の内容：

「啓蒙時代」と呼ばれる18世紀フランス文学の世紀を、代表的な作家のテキストを抜粋して読みながら、著者、作品、背景のすべてについて、なるべく多角的に考察する。

近代仏語仏文学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

准教授 喜田 浩平

授業科目の内容：

17世紀のフランス語の文章を読む訓練をします。

現代仏文学特殊講義Ⅰ（春学期）

Explication de texte

訪問准教授（招聘） ブランクール、ヴァンサン

授業科目の内容：

- Ce cours a pour objectif d'entraîner les étudiants à la pratique de l'explication de texte littéraire. L'accent sera mis les spécificités techniques de cet exercice. Les étudiants auront à présenter oralement durant le semestre une ou deux explications de texte.
- Le semestre de printemps sera consacré à l'acquisition des notions et du vocabulaire nécessaires à l'explication de textes à travers l'étude de divers extraits.

現代仏文学特殊講義Ⅱ（秋学期）

Explication de texte

訪問准教授（招聘） ブランクール、ヴァンサン

授業科目の内容：

- Ce cours a pour objectif d'entraîner les étudiants à la pratique de l'explication de texte littéraire. L'accent sera mis les spécificités techniques de cet exercice. Les étudiants auront à présenter oralement durant le semestre une ou deux explications de texte.
- Le semestre d'automne sera consacré à l'étude d'une œuvre littéraire.
- Cette année, nous étudierons deux cours textes de Bernard-Marie Koltès (1948-1989), dramaturge qui domine la scène théâtrale des années 80 : *La Nuit juste avant les forêts* et *Dans la solitude des champs de coton*. Les deux pièces seront étudiées en rapport avec l'ensemble de l'œuvre de Koltès.

現代仏文学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

教授 小倉 孝誠

授業科目の内容：

1年かけて次の二つの主題について、具体的なテキストを読みながら考察する。

1) 自己を語るエクリチュール：自己について語るというのは、誰もが経験したはずの一見したところ平凡な行為である。その行為をきわめて意識的な言説として構築するところに生まれるのが自伝、回想録、「自分史」、日記などである。ヨーロッパと日本の代表的な自伝、回想録、日記を素材に、人はなぜ、どのようにして自己を語るのか考えてみたい。

2) オリエントの表象：18世紀末から19世紀にかけて、オリエントへの旅が文学者にとって特権的な身振りとして生きられた。それは自己を発見するために他者と出会う旅、という側面を持つ。ヴォルネー、シャトーブリアン、ネルヴァル、ロティらが書いた東方旅行記や東洋を舞台にした小説をつうじて、オリエントの表象について考えてみる。

現代仏文学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

教授 小倉 孝誠

授業科目の内容：

春学期の続き。

仏語仏文学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

休講

仏語仏文学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

休講

仏語仏文学特殊講義演習Ⅲ（春学期）

准教授 市川 崇

授業科目の内容：

Georges Bataille の哲学的エッセー、*Le Coupable* を読みます。テキストの生成過程、時代背景、バタイユの思想の大まかな解説を行いながら、担当箇所を決めて読んで行きます。バタイユが関わっていた1930年代の政治運動、社会学、神話学の諸論考からの影響などにも言及する予定です。

仏語仏文学特殊講義演習Ⅳ（秋学期）

准教授 市川 崇

授業科目の内容：

Georges Bataille の哲学的エッセー、*Le Coupable* を読みます。テキストの生成過程、時代背景、バタイユの思想の大まかな解説を行いながら、担当箇所を決めて読んで行きます。バタイユが関わっていた1930年代の政治運動、社会学、神話学の諸論考からの影響などにも言及する予定です。

仏語仏文学特殊講義演習Ⅴ（春学期）

教授 牛場 暁夫

授業科目の内容：

Antoine Compagnon, *Les antimodernes*, de Joseph de Maistre a Roland Barthes, Gallimard, 2005 を読みつつ、春学期は、ジョルジュ・プーレ、アルベール・チボーデの系譜を追ってゆきたい。

秋学期には、その延長として、文学史の新傾向についても考察したい。

受講生には、発表などを適宜課してゆきます。

仏語仏文学特殊講義演習Ⅵ (秋学期)

教授 牛場 暁 夫

授業科目の内容：

「仏語仏文学特殊講義演習Ⅴ」と同じ。

古典文学ⅠA (春学期)

教授 西村 太 良

授業科目の内容：

西洋古典について受講者の関心と興味に応じて幅広く検討することを目的とする。教材としてはとりあえず下記のものなど考えているが、相談の上決めたい。

D.T.Steiner: *Images in Mind* (2001)

C.Sourvinou-Inwood: *Tragedy and Athenian Religion* (2003)

古典文学ⅠB (春学期)

教授 中川 純 男

授業科目の内容：

キケロの *De inventione* 『弁論術』を読む。『発想論』あるいは『構想論』と訳されるこの書は弁論術にかかわる創作論である。テキストはラテン語であるが近代語訳による参加も歓迎する。最低二カ国語の近代語訳（日本語訳を含む）を用意することが望ましい。

古典文学ⅡA (秋学期)

教授 西村 太 良

授業科目の内容：

「古典文学ⅠA」と同じ。

古典文学ⅡB (秋学期)

教授 中川 純 男

授業科目の内容：

「古典文学ⅠB」と同じ。

言語学特殊講義Ⅰ (春学期)

生成文法と機能的構文論

講師 高見 健 一

授業科目の内容：

本講義では英語や日本語のいくつかの構文（例えば、結果構文、二重目的語構文、中間構文、場所句倒置構文など）を取り上げ、生成文法による分析と機能的構文論による分析を比較、検討し、言語分析にとってどのようなアプローチや分析が必要かを把握する。

言語学特殊講義Ⅱ (秋学期)

生成文法と機能的構文論

講師 高見 健 一

授業科目の内容：

春学期に引き続き、英語や日本語の諸構文を取り上げ、生成文法による分析と機能的構文論による分析を比較、検討する中で、言語研究の分析やアプローチを理解、把握する。

図書館・情報学専攻

情報学特殊講義Ⅰ (春学期)

教授 田村 俊 作

授業科目の内容：

Rayward W.B. “The development of library and information science.” *The Study of Information*, ed. by F. Machlup; U. Mansfield. New York, Wiley, 1983, p.343-363 および関連文献を講読することを通じて、図書館情報学の歴史、「図書館学」と「情報学」、関連分野、最近の動向とその背景などについて考えたい。

情報学特殊講義Ⅱ (秋学期)

教授 田村 俊 作

授業科目の内容：

Annual Review of Information Science and Technology 所収のレビュー論文、および、Fisher, K. E. *et al. ed. Theories of Information Behavior*. Information Today, 2005. の中からいくつかの項目を選んで講読することを通じ、情報行動論の動向を追ってみたい。

情報学特殊講義Ⅲ (秋学期)

教授 田村 俊 作

授業科目の内容：

三田メディアセンターとの連携の下に、図書館利用者サービスの実施に係わる諸問題を、実習を交え実際に即して検討するインターンシップ科目である。

情報学特殊講義Ⅳ (秋学期)

休 講

情報学特殊講義演習Ⅰ (春学期)

教授 田村 俊 作

授業科目の内容：

図書館情報サービスに関連する諸問題について、論文作成の指導を行う。

情報学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

教授 田村俊作

授業科目の内容：

情報学特殊講義Ⅰに引き続き、図書館情報サービスに関連する諸問題について、論文作成の指導を行う。

情報メディア特殊講義Ⅰ（春学期）

教授 上田修一

授業科目の内容：

第二次大戦以後の国際書誌コントロールの枠組の中で行われてきた目録は、現在、大きく変わりつつあります。ここでは、FRBR、『国際目録原則覚書』、『RDA』などの動向を踏まえ、目録の現代的課題を取り上げます。

情報メディア特殊講義Ⅱ（秋学期）

教授 上田修一

授業科目の内容：

大学図書館を中心として、資料保存を取り上げます。

情報メディア特殊講義Ⅲ（春学期）

学術情報流通の電子化

教授 倉田敬子

授業科目の内容：

学術情報流通、特に学術出版における電子化の影響に関して、最近出版されたテキストの講読と議論を通して考えていく。

情報メディア特殊講義Ⅳ（秋学期）

学術コミュニケーションとオープンアクセス

教授 倉田敬子

授業科目の内容：

学術コミュニケーションの電子化を、eScienceならびにオープンアクセスの観点から検討する。関連する図書の輪読と討論を行う。概念と動向理解のために、適宜必要な資料や情報を提供する。

情報メディア特殊講義演習ⅠA（春学期）

教授 上田修一

授業科目の内容：

情報メディア、情報検索、学術情報などにかかわる研究指導を行います。

情報メディア特殊講義演習ⅠB（春学期）

情報メディアに関する研究会

教授 倉田敬子

授業科目の内容：

情報メディアに関する調査研究の実践的な指導を行います。研究テーマの設定、基本文献の講読と主要内容

の発表、調査計画、調査の実施、成果の発表を行ってまいります。

情報メディア特殊講義演習ⅡA（秋学期）

教授 上田修一

授業科目の内容：

情報メディア、情報検索、学術情報などにかかわる研究指導を行います。

情報メディア特殊講義演習ⅡB（秋学期）

情報メディアに関する研究会

教授 倉田敬子

授業科目の内容：

情報メディア特殊講義Ⅰで行った調査研究のまとめを行うとともに、修士論文作成に向けての指導を行う。

情報検索特殊講義Ⅰ（春学期）

教授 岸田和明

授業科目の内容：

情報検索の基本的な理論や技法を、文献の講読を通じて身に付けることを目的とします。

情報検索特殊講義Ⅱ（秋学期）

教授 岸田和明

授業科目の内容：

情報検索システムの実装の方法、およびそのシステムの性能を評価・検証するための検索実験の方法を身に付けることを目的とします。

情報検索特殊講義Ⅲ（春学期）

休講

情報検索特殊講義Ⅳ（秋学期）

休講

情報検索特殊講義演習Ⅰ（春学期）

教授 岸田和明

授業科目の内容：

情報検索およびその周辺領域に関する研究の指導を行います。

情報検索特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

教授 岸田和明

授業科目の内容：

「情報検索特殊講義演習Ⅰ」と同じ。

情報システム特殊講義Ⅰ（秋学期）

高等教育システムと大学・学術図書館

教授（有期）三浦逸雄

授業科目の内容：

現在、さまざまな形で進行している大学改革に大学図書館はどのように対応すべきなのか、またデジタル時代に大学図書館は生き残っていけるのであろうか。あたらしい時代における図書館員にはいかなる知識や技能が求められているのであろうか。このような問題意識から大学・学術図書館にかかわる諸問題を高等教育システムという広いコンテキストの中で、構造的に検討する。さらに日米比較という視点から歴史的・制度的な考察も加える。

情報システム特殊講義Ⅱ（秋学期）

休講

情報システム特殊講義Ⅲ（秋学期）

図書館の〈公共性〉

教授 糸賀雅児

授業科目の内容：

今年度も図書館＝無料貸本屋批判や図書館民営化論をうけて、図書館がもつ〈公共性〉とは何かを、引き続き考えることにします。

館種を問わず、多くの図書館には公的な資金が投入されていますし、「無料の原則」も貫かれています。船橋市立図書館での蔵書廃棄事件をめぐる最高裁判決は、司書による選書や廃棄という行為に一定の〈公共性〉を認めています。また、図書館資料の複製に関しても、著作権法第31条は図書館における著作権者の権利制限を認めています。これらは、図書館が〈公共性〉を有していることの端的な表れと考えることができます。

ところが、昨年11月に起きた元厚生労働官僚の連続殺傷事件で犯人が図書館で自宅住所を突きとめていたことから、改めて図書館の〈公共性〉も問い直されようとしています。

また一方では、図書館経営に民間活力の導入が叫ばれ、業務のアウトソーシングはもとより、運営面での住民（利用者）参加や大学図書館の地域開放が自明とされる時代です。図書館をはじめとする各種の公共施設のあり方や公共政策の実施過程への住民の関与 public involvement の考え方は、広く浸透しているように見えます。

そこでこの授業では、ハーバーマスの「公共圏」ないし「公共空間」に依拠しながら、現代日本における図書館の〈公共性〉の再構築を試みることにします。

情報システム特殊講義Ⅳ（秋学期）

休講

情報システム特殊講義演習Ⅰ（春学期）

修士論文の研究指導

教授 糸賀雅児

授業科目の内容：

修士論文の執筆に向けて、テーマの選択、研究の進め方、論文執筆の技術的な助言などを、逐次行なっていきます。

情報システム特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

修士論文の研究指導

教授 糸賀雅児

授業科目の内容：

「情報システム特殊講義演習Ⅰ」と同じ。

調査研究法Ⅰ（春学期）

図書館・情報学の基本的な研究方法を学ぶ

教授 糸賀雅児

授業科目の内容：

図書館・情報学の基本的な研究方法について学びます。国内外の具体的な研究事例をもとに、主な研究方法の概要、意義、限界などを検討する予定ですが、特に「統計的方法」について、有意差検定の基本的な考え方が修得できることを目的とします。また、図書館・情報学の主要な専門雑誌についても、それぞれの特徴を理解してもらいたいと考えています。

調査研究法Ⅱ（秋学期）

休講

情報分析論Ⅰ（春学期）

教授 上田修一

授業科目の内容：

図書館・情報学の最近の海外研究論文の中から履修者各自が選択したものについて、その概要を発表し、全員で討議します。秋学期の情報分析論Ⅱとあわせて連続して履修することを原則とします。

情報分析論Ⅱ（秋学期）

教授 上田修一

授業科目の内容：

情報分析論Ⅰと同じ内容です。Ⅰとあわせて連続して履修することを原則とします。

情報資源管理特殊講義Ⅰ（秋学期）

図書館マネジメントの理論と実践

教授（有期）三浦逸雄

授業科目の内容：

現在、大学図書館や公共図書館など各種図書館は社会環境の変化および情報通信技術の進展によりその存立基

盤を含め絶えざる変革を求められている。このような内外の環境変化に直面している図書館にとってマネジメント機能は従来にも増してその重要性が高まっている。こうした認識に立って、図書館マネジメントをめぐるさまざまな問題を取り上げ、理論的な考察と事例の批判的検討を加える。どのような問題を取り上げるかは履修者の問題関心を考慮して決めたい。

情報資源管理特殊講義Ⅱ（春学期）

休 講

情報資源管理特殊講義Ⅲ（春学期）

公共図書館の経営管理上の諸問題

教授 糸 賀 雅 児
法学部 教授 大 山 耕 輔
商学部 准教授 齋 藤 通 貴

授業科目の内容：

公共図書館の経営管理上の諸問題を取り上げて、その解決に向けた方策を互いに検討します。今年度は大きく次の三つのテーマを用意しています。

- (1) 図書館法改正に伴う図書館運営評価（糸賀 担当）
- (2) ガバナンス論から見た公共図書館（大山 担当）
- (3) 公共図書館におけるマーケティング（齋藤 担当）

これらの他にも以下のようなテーマが考えられますので、履修者の要望も最初の授業でお聞かせください。

- ・司書の養成と研修のあり方
- ・住民参加とボランティア
- ・公共図書館における危機管理
- ・国の図書館行政・図書館政策の動向
- ・各種課題解決支援サービス（ビジネス支援、子育て支援、等）
- ・レファレンス・サービスの普及戦略
- ・図書館と学校の連携・協力
- ・図書館利用促進のための情報リテラシー教育

情報資源管理特殊講義Ⅳ（秋学期）

講 師 平 野 美 恵 子

授業科目の内容：

日本十進分類法9版の問題点が10版改訂試案においてどの程度解決されているかを検証するとともに、デジタル時代における分類法改訂の意義と改訂作業のあり方を考える。

情報資源管理特殊講義Ⅴ（春学期）

休 講

情報資源管理特殊講義Ⅵ（秋学期）

電子メディア論

教 授 倉 田 敬 子

授業科目の内容：

これまで長年の間、情報や知識の流通の媒体となってきた印刷物が電子メディアによるものへと変化しつつある。この情報メディアの変化は、人々のコミュニケーションの形態の変化をもたらし、図書館においても、単にサービス提供方法の変化だけでなく、組織のあり方やさらには図書館の機能や役割の再検討の必要性さえも主張されだしている。この授業では主として学術コミュニケーションにおける情報メディアの電子化がもたらした動向と影響を考える。

情報資源管理特殊講義Ⅶ（秋学期）

休 講

情報資源管理特殊講義Ⅷ（秋学期）

休 講

情報資源管理特殊講義Ⅸ（秋学期）

情報検索

教 授 岸 田 和 明

授業科目の内容：

インターネットの普及に伴い、理論的にも、実用的にも、情報検索およびそのシステムは多様化しています。この講義では、情報検索に関わる諸側面を、その原理から実際まで、幅広く学んでいきます。

情報資源管理特殊講義Ⅹ（秋学期）

利用者サービス論

教 授 田 村 俊 作

授業科目の内容：

レファレンス・サービスを中心とする利用者サービスを提供する際に課題となる事項について、実際に即して検討します。それにより、図書館員としての知識・技能の向上をめざします。

情報資源管理特殊講義ⅩⅠ（春学期）

講 師 池 内 淳

授業科目の内容：

図書館情報学の調査研究を行う際に必要とされる基本的な情報リテラシーを修得するとともに、電子図書館サービスに関連する基礎的な技術や知識について、講義と演習を行います。

情報資源管理特殊講義Ⅱ (春学期特定期間集中)

講師 安形 輝

授業科目の内容 :

前半では図書館サービスを提供するために必要な情報技術・ネットワーク技術を取り上げ、先進的な事例の紹介やインターネット上で情報サービスを展開するさいの基盤となる技術や規格の解説などを行います。後半は、履修者の関心ある技術を応用し、実際にウェブ上の情報サービスを構築する小規模な演習を行います。なお、履修人数に応じてグループ分けを行うことがあります。

情報資源管理特殊講義Ⅲ (秋学期)

休 講

情報資源管理特殊講義Ⅳ (春学期)

休 講

情報資源管理特殊講義Ⅴ (春学期)

休 講

情報資源管理特殊講義Ⅵ (春学期)

教授 上田 修一

授業科目の内容 :

この科目はオムニバス形式であり、大学図書館に関わるトピックを毎回設定し、それぞれについて専門知識や経験をお持ちの方々に講義をお願いします。テーマとしては、図書館の運営全般、情報リテラシー教育、選書、資料組織、機関レポジトリなどです。

情報資源管理特殊講義Ⅶ (春学期)

休 講

情報資源管理特殊講義Ⅷ (春学期)

学術論文の書き方

教授 倉田 敬子

授業科目の内容 :

学術論文の書き方および成果の発表に関して、講義と演習を行い、最終的に修士論文や学会発表ができるようなスキルを身につけること目標とする。

情報資源管理特殊講義演習ⅠA (春学期)

教授 上田 修一

授業科目の内容 :

大学図書館と学術情報に関する基本的問題を扱います。また、論文指導を行います。

情報資源管理特殊講義演習ⅠB (春学期)

教授 田村 俊作

授業科目の内容 :

レファレンスサービスを中心とする利用者サービスおよび情報探索行動を主なテーマに、院生の論文指導をします。

情報資源管理特殊講義演習ⅠC (春学期)

修士論文の研究指導

教授 糸賀 雅児

授業科目の内容 :

修士論文の執筆に向けて、テーマの選択、研究の進め方、論文執筆の技術的な助言などを、逐次行なっていきます。主要な指導領域は、公共図書館政策、公共図書館経営、図書館の測定・評価などを中心とした公共図書館の諸問題になりますが、その他のテーマについては、その都度検討させていただきます。

情報資源管理特殊講義演習ⅠD (春学期)

教授 岸田 和明

授業科目の内容 :

情報検索の技術やサービスをテーマとした論文執筆の指導を行います。

情報資源管理特殊講義演習ⅡA (秋学期)

教授 上田 修一

授業科目の内容 :

「情報資源管理特殊講義演習ⅠA」と同じ。

情報資源管理特殊講義演習ⅡB (秋学期)

教授 田村 俊作

授業科目の内容 :

レファレンスサービスを中心とする利用者サービスおよび情報探索行動を主なテーマに、ⅠBに引き続き院生の論文指導をします。

情報資源管理特殊講義演習ⅡC (秋学期)

修士論文の研究指導

教授 糸賀 雅児

授業科目の内容 :

情報資源管理特殊講義演習ⅠCに引き続いて、修士論文の執筆に向けたテーマの選択、研究の進め方、論文執筆の技術的な助言などを、逐次行なっていきます。

情報資源管理特殊講義演習ⅡD (秋学期)

教授 岸田 和明

授業科目の内容 :

「情報資源管理特殊講義演習ⅠD」と同じ。

情報資源管理特殊講義演習Ⅲ（春学期）

抄読会

教授 倉田敬子

授業科目の内容：

毎回3人程度の受講生に図書館情報学分野の最新の論文に関して読んできたものを発表してもらい、出席者全員で討論を行う。

情報資源管理特殊講義演習Ⅳ（秋学期）

抄読会

教授 倉田敬子

授業科目の内容：

「情報資源管理特殊講義演習Ⅲ」と同じ。

後期博士課程設置科目

哲学・倫理学専攻

哲学特殊研究 I A (春学期)

Selected Topics in Transcendental Idealism and
Contemporary Metaphysics

教授 飯田 隆
准教授 エアトル, ヴォルフガング

授業科目の内容:

In recent years Kant's transcendental idealism has been investigated by those with an interest in contemporary metaphysics and this development has produced a number of quite challenging claims, like the one which takes transcendental idealism to be essentially an account of fundamentally different types of properties. These discussions provide us with the opportunity to look at a number of key metaphysical topics such as (1) the distinction of primary and secondary qualities, in analogy to which some commentators try to interpret transcendental in the first place, (2) the ontology of causal powers and along with it, (3) the status of laws of nature, (4) the notorious and in a sense ubiquitous issue of supervenience and many more.

Although the interaction of Kantian and contemporary metaphysics has turned out to be rather productive, it is indispensable to keep an eye on the historical setting of Kant's claims. As we shall see, Kant needs to be understood as moving within the framework of classical ontology, sometimes of course fine tuning it to a considerable extent.

That said, the guiding idea of the seminar is to move from contemporary metaphysical accounts back to Kant and vice versa in order to mutually elucidate them in terms of the other. In the course of this procedure, we will also take a look at Kant's philosophy of space and time, contemporary accounts of the ontology of spatio-temporal objects and possibly, even the transcendental deduction of the categories.

哲学特殊研究 I B (春学期)

プラトン『国家』講読

教授 堀江 聡
教授 納富 信留
講師 栗原 裕次

授業科目の内容:

『国家』はプラトン中期の代表作であり、正義論から教育論、文芸批評、心理学、存在論、認識論、政治学、学問論、

快樂論ときわめて幅広いテーマを論じる、全10巻の大著である。本演習では、2010年夏に慶應大学で開催される、第9回国際プラトン学会シンポジウム(『国家』がテーマ)をにらんで、数年前からS.R.Slingsの新しい校訂版を読み進めており、昨年度までで第7巻後半まで進んでいる。本年度は第7巻の残り(数学教育)と第8巻以降の国制墮落論に入る。ギリシア語の基本的な読解と内容の理解を柱とし、毎回2章ずつ(4~5ページ)のギリシア語テキストを読みながら議論していく。

『国家』については、新プラトン主義者プロクロスによる註釈が残っており、本文と並行して関連箇所にあたる必要がある。Procli dialochi, *In Platonis Rem Publicam Commentarii*, ed., G. Kroll, vol.1, Amsterdam, 1965 (Leipzig, 1898). その翻訳・訳註として, Proclus, *Commentaire sur la République*, traduction et notes par A.J. Festugière, tome II, Proclo, *Commento alla Repubblica di Platone*, a cura di Michele Abbate, Testo Greco a fronte, Milano, 2004を参照する。

哲学特殊研究 II A (秋学期)

Selected Topics in Transcendental Idealism and
Contemporary Metaphysics

教授 飯田 隆
准教授 エアトル, ヴォルフガング

授業科目の内容:

「哲学特殊研究 I A」と同じ。

哲学特殊研究 II B (秋学期)

プラトン『国家』講読

教授 堀江 聡
教授 納富 信留
講師 栗原 裕次

授業科目の内容:

春学期に引き続いて、プラトン『国家』を読み進める。詳細は担当者に問い合わせること。

哲学特殊研究 III A (春学期)

教授 斎藤 慶典
理工学部 専任講師 荒金 直人

授業科目の内容:

Emmanuel Levinas と Jacques Derrida によって提起された「他者」にかかわる問題を、彼らの原著にあたりながら議論します。昨年度に引きつづき、Jacques Derrida, *Psyché—Inventions de l'autre* (Galilée, 1987) 所収の論考からいくつかを読みつつ、議論を重ねたいと思います。

哲学特殊研究Ⅳ A (秋学期)

教授 斎藤 慶典
理工学部 専任講師 荒金 直人

授業科目の内容：

「哲学特殊研究Ⅲ」と同じ。

哲学特殊研究Ⅳ B (秋学期)

教授 飯田 隆

授業科目の内容：

参加者による研究発表と討論から成る授業です。

哲学特殊研究演習Ⅰ A (春学期)

古典的世界観

教授 西脇 与作

授業科目の内容：

古典力学を基礎につくられた古典的世界観を検討し、認識論の新しい可能性を探ってみたい。

哲学特殊研究演習Ⅰ B (春学期)

教授 中川 純男

授業科目の内容：

修士課程の「哲学原典研究Ⅲ」と共通。講義内容は修士課程の項、参照。

哲学特殊研究演習Ⅰ C (春学期)

イスラーム哲学の源流から完成形まで

教授 堀江 聡

授業科目の内容：

9世紀バグダードにおいてギリシア哲学の移入を先導した、アラブ最初の哲学者アル=キンディーの主著『第一哲学』をアラビア語原典で講読します。アラビア語をまったく知らない学生にアラビア文字のイロハと、テキストを読む上で必要最低限の文法の手ほどきをしたあとは、教室で一緒に辞書を繙いて、手取り足取りそれぞれ家庭教師のごとく教え導くことになるでしょう。

哲学特殊研究演習Ⅱ A (秋学期)

古典的世界観

教授 西脇 与作

授業科目の内容：

春学期の続きとして、量子力学の認識論について議論したい。

哲学特殊研究演習Ⅱ B (秋学期)

教授 中川 純男

授業科目の内容：

修士課程の「哲学原典研究Ⅲ」と共通。講義内容は修士課程の項、参照。

哲学特殊研究演習Ⅱ C (秋学期)

イスラーム哲学の源流から完成形まで

教授 堀江 聡

授業科目の内容：

「哲学特殊研究演習Ⅰ C」(春学期)と同様

哲学特殊研究演習Ⅲ (春学期)

論理学・論理学研究

教授 岡田 光弘

授業科目の内容：

論理学を専門とする学生に対して論理学関係の研究論文の作成の指導を演習形式で行う。

哲学特殊研究演習Ⅳ (秋学期)

論理学・論理学研究

教授 岡田 光弘

授業科目の内容：

「哲学特殊研究演習Ⅲ」と同じ。

倫理学特殊研究Ⅰ (春学期)

教授 谷 寿美

授業科目の内容：

ロシア・ソフィオロジーの文献を講読する。扱う思想家はP. フロレンスキー、S. ブルガーコフら。

倫理学特殊研究Ⅱ (秋学期)

教授 谷 寿美

授業科目の内容：

「倫理学特殊研究Ⅰ」と共通

倫理学特殊研究Ⅲ (春学期)

中世の存在論と倫理学

教授 山内 志朗

授業科目の内容：

Étienne Gilson, *L'être et l'essence*, seconde éd., J. Vrin, 1987. を購読していく。

倫理学特殊研究Ⅳ (秋学期)

中世の存在論と倫理学

教授 山内 志朗

授業科目の内容：

「倫理学特殊研究Ⅲ」の続講。

倫理学特殊研究演習 I A (春学期)

教授 樽 井 正 義
教授 谷 寿 美
教授 山 内 志 朗
准教授 エアトル, ヴォルフガング
准教授 柘 植 尚 則
准教授 奈 良 雅 俊

授業科目の内容 :

倫理学専攻のすべての教員と大学院生が参加し、学生による報告と全員による討論という形で授業を行う。学生は、論文の作成に向けた中間発表を行い、その成果を論文として提出することが求められる。

倫理学特殊研究演習 I B (春学期)

カント政治哲学研究

教授 樽 井 正 義

授業科目の内容 :

Immanuel Kant: Zum ewigen Frieden. 1795 を講読する。

倫理学特殊研究演習 II A (秋学期)

倫理学の諸問題

教授 樽 井 正 義
教授 谷 寿 美
教授 山 内 志 朗
准教授 エアトル, ヴォルフガング
准教授 柘 植 尚 則
准教授 奈 良 雅 俊

授業科目の内容 :

「倫理学特殊講義演習 I A」と同じ。

倫理学特殊研究演習 II B (秋学期)

社会哲学・生命倫理学研究

教授 樽 井 正 義

授業科目の内容 :

履修者が設定する社会哲学・生命倫理学の個別課題について、基本文献の購読とレポートの報告・討論を通じて、論文作成指導を行う。

美学美術史学専攻

美学特殊研究 I A (春学期)

古典詩論研究 5

講師 藤 田 一 美

授業科目の内容 :

古代哲学における文藝の位置を確認するために主としてプラトンの『国家』やアリストテレスの『詩学』『弁論術』

を細かく読んでゆきます。

なお、古典語未習者の参加を認めます。場合によっては日本語文献を主たるテキストとして用います。

美学特殊研究 I B (春学期)

教授 大 石 昌 史

授業科目の内容 :

美学に関する一定のテーマについて専門的な内容の講義を行う。大学院生を対象とする講義の目的は、定説化した知識の整理や伝達ではなく、参考文献の批判的な紹介やテキスト解釈上の問題点の指摘を通じて、美学研究の具体例を示すことにある。修士論文の作成については随時指導する。

本年度のテーマは、ガイダンスおよび第1回目の授業時に説明する。

美学特殊研究 II A (秋学期)

古典詩論研究 6

講師 藤 田 一 美

授業科目の内容 :

春学期につづき、古代哲学における文藝の位置を確認するために主としてプラトンの『国家』やアリストテレスの『詩学』『弁論術』を細かく読んでゆきます。

なお、古典語未習者の参加を認めます。場合によっては日本語文献を主たるテキストとして用います。

美学特殊研究 II B (秋学期)

教授 大 石 昌 史

授業科目の内容 :

美学・芸術学における基本的な文献の講読・注釈演習、および、参加者による各自の研究テーマに関する口頭発表という授業形態をとる。参加者各人の関心を考慮しながら、美学および芸術学諸分野から著作・論文を選択し、その講読を通じて、翻訳・注釈の実践的な訓練を行う。また、各人の論文のテーマに即した口頭発表の原稿作成に際して、事前事後に、その主張・構成・表現等に関する助言・添削指導を行う。

美学特殊研究演習 I (春学期)

名誉教授 前 田 富士男

授業科目の内容 :

「美術史特殊講義 V」と同じ。

美学特殊研究演習 II (秋学期)

名誉教授 前 田 富士男

授業科目の内容 :

「美術史特殊講義 VI」と同じ。

美術史特殊研究Ⅰ（春学期）

准教授 内藤 正人

授業科目の内容：

「美術史特殊研究Ⅱ」を参照のこと。

美術史特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 林 温

授業科目の内容：

博士論文作成を目指す学生を対象に、美術史学の研究方法を講義します。

美術史特殊研究演習Ⅰ（春学期）

休 講

美術史特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

休 講

美術史特殊研究演習Ⅲ（春学期）

コレクションニズム研究

教授 遠山 公一

授業科目の内容：

14世紀末から始まると考えられるコレクションは、聖遺物、自然物、古代遺物、同時代美術作品などの雑多な蒐集物の混在から始まった。基本的にそれは、長くWunderkammerと呼ばれる珍品気品展示室の状態であった。そこからどのようにアート・コレクション、ひいては美術館の成立につながっていくのかを考える。関わる問題は多数広範囲に及ぶ。宗教物・自然物からのアートの分離（アート概念の成立）、展示・開示の方法と制度、財産目録の記述や分類（美術史学の萌芽）、宮廷や教会における蒐集行為にまつわる政治性、作家の再発見再評価、美術館博物館の成立などである。問題意識を研ぎ澄ませることを目的とする。

美術史特殊研究演習Ⅳ（秋学期）

コレクションニズム研究

教授 遠山 公一

授業科目の内容：

14世紀末から始まると考えられるコレクションは、聖遺物、自然物、古代遺物、同時代美術作品などの雑多な蒐集物の混在から始まった。基本的にそれは、長くWunderkammerと呼ばれる珍品気品展示室の状態であった。そこからどのようにアート・コレクション、ひいては美術館の成立につながっていくのかを考える。関わる問題は多数広範囲に及ぶ。宗教物・自然物からのアートの分離（アート概念の成立）、展示・開示の方法と制度、財産目録の記述や分類（美術史学の萌芽）、宮廷や教会における蒐集行為にまつわる政治性、作家の再発見再評価、

美術館博物館の成立などである。問題意識を研ぎ澄ませることを目的とする。

美術史特殊研究演習Ⅴ（春学期）

コロキウム

教授 美山 良夫

教授 大石 昌史

教授 遠山 公一

教授 三宅 幸夫

准教授 金山 弘昌

准教授 内藤 正人

准教授 西川 尚生

准教授 後藤 文子

授業科目の内容：

博士課程は、各自の専門的研究を深めるとともに、ひろく近似した研究主題や隣接する学問領域の方法論などにふれ、互いに切磋琢磨して、自分自身の観点、問題提起、対象分析、作品解釈、論証、表現方法などをたえず改善し、磨きあげるコースにほかならない。この授業は、本専攻が、理論研究としての美学、歴史研究としての日本東洋美術史・西洋美術史・音楽史、実践研究としての芸術運用学（アート・マネジメント）の、いわば三位一体で構成される特性をふまえ、博士課程院生と教員の全員が参加し、各回、博士課程在学大学院生による、学会全国大会口頭研究発表かそれに準じる発表をおこない、それをもとに討議をおこなう。教員、招聘講師の発表が織り込まれる場合もある。

美術史特殊研究演習Ⅵ（秋学期）

コロキウム

教授 美山 良夫

教授 大石 昌史

教授 遠山 公一

教授 三宅 幸夫

教授 林 温

准教授 金山 弘昌

准教授 内藤 正人

准教授 西川 尚生

准教授 後藤 文子

授業科目の内容：

「美術史特殊研究演習Ⅴ」と同じ。

音楽学特殊研究Ⅰ（春学期）

音楽学の実践

教授 三宅 幸夫

授業科目の内容：

「音楽学特殊研究」は博士論文を書くための研究会です。受講生の選択した研究題目にしたがって、口頭発表、質

疑応答，そして意見交換をおこないます。

音楽学特殊研究Ⅱ（秋学期）

音楽学の実践

教授 三宅幸夫

授業科目の内容：

「音楽学特殊研究Ⅰ」（春学期）と同じ。

音楽学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

音楽学の口頭発表と論文執筆

教授 三宅幸夫

授業科目の内容：

「音楽学特殊研究演習」は博士論文を書くための研究会です。受講生の選択した研究題目にしたがって、具体的に学会における口頭発表，および学会誌への投稿についてサポートします。

音楽学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

音楽学の口頭発表と論文執筆

教授 三宅幸夫

授業科目の内容：

「音楽学特殊研究演習Ⅰ」（春学期）と同じ。

史学専攻

日本史特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 三宅和朗

授業科目の内容：

日本古代史の諸問題に関して，史料や論文を通して具体的に検討していきたい。

日本史特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 三宅和朗

授業科目の内容：

「日本史特殊研究Ⅰ」と同じ。

日本史特殊研究ⅢA（春学期）

教授 田代和生

授業科目の内容：

博士論文作成のための指導を行う。受講者個々の研究発表を中心に，近世史研究についての諸問題を討論する。史料収集・調査の方法や分析，整理法，さらに専門誌への発表を前提とする論文指導も行う。

日本史特殊研究ⅢB（春学期）

教授 井奥成彦

授業科目の内容：

近代日本の社会経済史関係文献及び史料の講読。

日本史特殊研究ⅣA（秋学期）

教授 田代和生

授業科目の内容：

「日本史特殊研究ⅢA」と同じ。

日本史特殊研究ⅣB（秋学期）

教授 井奥成彦

授業科目の内容：

「日本史特殊研究ⅢB」と同じ。

日本史特殊研究演習Ⅰ（春学期）

教授 長谷山 彰

授業科目の内容：

受講者による研究報告をもとに，日本古代史上の諸問題について検討する。

日本史特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

教授 長谷山 彰

授業科目の内容：

「日本史特殊研究演習Ⅰ」と同じ。

日本史特殊研究演習Ⅲ（春学期）

近代移住史

教授 柳田利夫

授業科目の内容：

近代における人の移動とアイデンティティ生成について考察する

日本史特殊研究演習Ⅳ（秋学期）

近代移住史

教授 柳田利夫

授業科目の内容：

「日本史特殊研究演習Ⅲ」と同じ。

東洋史特殊研究ⅠA（春学期）

中国近代史の諸問題

教授 山本英史

授業科目の内容：

本講は受講者による研究報告とそれに対する質疑討論を主として行い，研究者としての資質を高めることを目的とします。併せて博士学位請求論文の指導も行います。

東洋史特殊研究ⅠB（春学期）

アジア移民についての考察

教授 吉原 和 男

授業科目の内容：

受講者の現地調査報告に関連した研究文献や史料の講読を行う。

東洋史特殊研究ⅡA（秋学期）

中国近代史の諸問題

教授 山本 英 史

授業科目の内容：

「東洋史特殊研究ⅠA」と同じ。
春学期に同じ。

東洋史特殊研究ⅡB（秋学期）

アジア移民についての考察

教授 吉原 和 男

授業科目の内容：

「東洋史特殊研究ⅠB」（春学期）と同じです。

東洋史特殊研究演習ⅠA（春学期）

近代イスラーム史関係の史料講読

教授 坂本 勉

授業科目の内容：

トルコ語で書かれた研究書、史料の講読。

東洋史特殊研究演習ⅠB（春学期）

『穆天子伝』の講読

教授 桐本 東 太

授業科目の内容：

『穆天子伝』の講読を通して中国古代人の世界観を考察する。

東洋史特殊研究演習ⅡA（秋学期）

近代イスラーム史関係の史料講読

教授 坂本 勉

授業科目の内容：

春学期の「東洋史特殊研究演習Ⅰ」を引き継いで近代史にかかわるトルコ語史料を講読する。

東洋史特殊研究演習ⅡB（秋学期）

『穆天子伝』の講読

教授 桐本 東 太

授業科目の内容：

『穆天子伝』の講読を通して中国古代人の世界観を考察する。

西洋史特殊研究演習ⅠA（春学期）

教授 神田 順 司

授業科目の内容：

ドイツ三月前期の思想史に関する研究
詳細は受講者と相談の上、決定。

西洋史特殊研究演習ⅠB（春学期）

休 講

西洋史特殊研究演習ⅡA（秋学期）

教授 神田 順 司

授業科目の内容：

「西洋史特殊研究演習ⅠA」と同じ。

西洋史特殊研究演習ⅡB（秋学期）

休 講

西洋史特殊研究演習ⅢA（春学期）

初期ステュアート朝期の準男爵について

教授 清水 祐 司

授業科目の内容：

昨年度整理した準男爵に関するデータの解釈が中心となります。社会学関係の社会移動等に関する文献をたくさん読み、論文の目安をつけるつもりです。

西洋史特殊研究演習ⅢB（春学期）

フランス、アンシアン・レジーム社会論

教授 藤田 苑 子

授業科目の内容：

フランス、アンシアン・レジーム期にかかわるフランス語文献を講読する。

西洋史特殊研究演習ⅢC（春学期）

教授 吉武 憲 司

授業科目の内容：

Guibert de Nogent, Autobiographie (Paris 1981) のラテン語テキストを講読します。

西洋史特殊研究演習ⅣA（秋学期）

初期ステュアート朝期の準男爵について

教授 清水 祐 司

授業科目の内容：

昨年と本年度春学期の蓄積を踏まえて、論文を執筆します。

西洋史特殊研究演習ⅣB（秋学期）

フランス、アンシアン・レジーム社会論

教授 藤田 苑子

授業科目の内容：

春学期にひき続き、フランス語文献を講読する。

西洋史特殊研究演習ⅣC（秋学期）

教授 吉武 憲司

授業科目の内容：

Guibert de Nogent, Autobiographie (Paris 1981) のラテン語テキストを講読します。

民族学考古学特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 杉本 智俊

授業科目の内容：

民族学・考古学をテーマとした博士論文の作成指導を行なう。研究会形式で、各自の発表に対して建設な討論を行い、論文を育てていく。また、自分の研究以外にも視野を広げ、方法論、知識両面での幅を広げることも目標とする。

民族学考古学特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 杉本 智俊

授業科目の内容：

民族学・考古学をテーマとした博士論文の作成指導を行なう。研究会形式で、各自の発表に対して建設な討論を行い、論文を育てていく。また、自分の研究以外にも視野を広げ、方法論、知識両面での幅を広げることも目標とする。

民族学考古学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

教授 阿部 祥人

授業科目の内容：

この50年間に膨大な資料を蓄積してきた日本の先史時代研究は、同時に多くの問題点を抱えている。それら今日的な問題点を受講者と共に取り上げ、その解決策・今後の有効な分析方法について、検討していく。同時に先史文化等の研究者を志す人の論文指導や共同研究を行う。

民族学考古学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

教授 阿部 祥人

授業科目の内容：

この50年間に膨大な資料を蓄積してきた日本の先史時代研究は、同時に多くの問題点を抱えている。それら今日的な問題点を受講者と共に取り上げ、その解決策・今後の有効な分析方法について、検討していく。同時に先史文化等の研究者を志す人の論文指導や共同研究を行う。

国文学専攻

国文学特殊研究Ⅰ（春学期）

古代文学の中、散文の研究

教授 藤原 茂樹

授業科目の内容：

「風土記・祝詞などの演習」

国文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

古代文学の中、散文の研究

教授 藤原 茂樹

授業科目の内容：

「国文学特殊研究Ⅰ」に同じ。

国文学特殊研究Ⅲ（春学期）

教授 川村 晃生

授業科目の内容：

古典文学と近代文学とを問わず、わが国の文学作品を対象として、自然や環境について、受講者のレポートを中心に考察する。

国文学特殊研究Ⅳ（秋学期）

教授 川村 晃生

授業科目の内容：

「国文学特殊研究Ⅲ」と同じ。

国文学特殊研究Ⅴ（春学期）

名誉教授 岩松 研吉郎

授業科目の内容：

院政期の寺社巡礼記、寺社縁起もしくは説話・物語とその関連資料をよみながら、中世文芸の基盤を検討する。研究史・研究方法に留意しつつ、履修者各自の研究主題の発表・討論を随時まじえつつすすめる。

春・秋学期継続履修のこと。

国文学特殊研究Ⅵ（秋学期）

名誉教授 岩松 研吉郎

授業科目の内容：

「国文学特殊研究Ⅴ」と同じ。

国文学特殊研究Ⅶ（春学期）

古典資料特殊研究

教授 石川 透

授業科目の内容：

古典文学の資料を翻刻しながら、読み進めていく。

国文学特殊研究Ⅷ（秋学期）

古典資料特殊研究

教授 石川 透

授業科目の内容：

「国文学特殊研究Ⅶ」と同じ。

国文学特殊研究Ⅸ（春学期）

統一テーマに基づく論文の相互批判

教授 松村 友視

授業科目の内容：

年間の統一テーマにもとづく論文発表・相互批判の形式で進める。

テーマおよび具体的手順については履修者との合議によって決定する。

国文学特殊研究Ⅹ（秋学期）

統一テーマに基づく論文の相互批判

教授 松村 友視

授業科目の内容：

年間の統一テーマにもとづく論文発表・相互批判の形式で進める。

テーマおよび具体的手順については履修者との合議によって決定する。

国語学特殊研究Ⅰ（春学期）

往来物の世界

名誉教授 関場 武

授業科目の内容：

江戸時代に大量に出版され、明治・大正・昭和前期の書簡・作文作法書に繋がって行く往来物を取り上げ、実物を使ってその内容や書誌的事項について考察する。

国語学特殊研究Ⅱ（秋学期）

参考文献・注釈辞典の諸相

名誉教授 関場 武

授業科目の内容：

日本の古典文芸作品を読み解くための参考文献・注釈書を取り上げ、その内容・諸本等につき考察する。その際、書誌学的研究方法、情報整理の仕方についても触れ、受講生諸君の論文作成について助言を与える。

中日比較文学特殊研究Ⅰ（春学期）

詩序の研究Ⅰ

教授 佐藤 道生

授業科目の内容：

宮内庁書陵部蔵『詩序集』を受講者の会読というかたちで読み進める。

中日比較文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

詩序の研究Ⅱ

教授 佐藤 道生

授業科目の内容：

宮内庁書陵部蔵『詩序集』を受講者の会読というかたちで読み進める。

中国文学専攻

中国文学特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 関根 謙

授業科目の内容：

修士課程「中国文学研究ⅩⅢ」と同じ。

中国文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 関根 謙

授業科目の内容：

修士課程「中国文学研究ⅩⅣ」と同じ。

中国文学特殊研究Ⅲ（春学期）

教授 渋谷 誉一郎

授業科目の内容：

修士課程「中国文学研究ⅩⅤ」と同じ。

中国文学特殊研究Ⅳ（秋学期）

教授 渋谷 誉一郎

授業科目の内容：

修士課程「中国文学研究ⅩⅥ」と同じ。

中国文学特殊研究Ⅴ（春学期）

教授 八木 章好

授業科目の内容：

修士課程「中国文学研究ⅩⅦ」と同じ。

中国文学特殊研究Ⅵ（秋学期）

教授 八木 章好

授業科目の内容：

修士課程「中国文学研究ⅩⅧ」と同じ。

中国文学特殊研究Ⅶ（春学期）

講師 山口 守

授業科目の内容：

修士課程「中国文学研究ⅩⅧⅠ」と同じ。

中国文学特殊研究Ⅷ（秋学期）

講師 山口 守

授業科目の内容：

修士課程「中国文学研究ⅩⅡ」と同じ。

中国語学特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 山下 輝彦

授業科目の内容：

修士課程「中国語学研究Ⅲ」と同じ。

中国語学特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 山下 輝彦

授業科目の内容：

修士課程「中国語学研究Ⅳ」と同じ。

中日比較文学特殊研究Ⅰ（春学期）

講師 胡 志昂

授業科目の内容：

修士課程「中日比較文学研究Ⅰ」と同じ。

中日比較文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

講師 胡 志昂

授業科目の内容：

修士課程「中日比較文学研究Ⅱ」と同じ。

英米文学専攻

中世英文学特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 松田 隆美

授業科目の内容：

中世研究の様々な方法論を示唆する近年の文献を読んで、批判的に検討する。

中世英文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 松田 隆美

授業科目の内容：

中世研究の様々な方法論を示唆する近年の文献を読んで、批判的に検討する。

中世英文学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

写本と初期印刷本

名誉教授 高宮 利行

授業科目の内容：

中世英語写本と初期刊本に関する書物史的書誌学的序論と演習

中世英文学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

写本と初期印刷本

名誉教授 高宮 利行

授業科目の内容：

中世英語写本と初期刊本に関する書物史的書誌学的序論と演習

近代英文学特殊研究Ⅰ（春学期）

商学部 教授 英 知明

授業科目の内容：

写本時代の中世からシェイクスピアが活躍したエリザベス朝にかけての最新の書誌学研究について、論文及び研究書を輪読して考察を深める。また学会における優れた研究発表のための研鑽の場と位置づけ、リサーチの質の向上とプレゼンテーション能力の養成も行う。

近代英文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

商学部 教授 英 知明

授業科目の内容：

「近代英文学特殊研究Ⅰ」の内容を継続して行う。

近代英文学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

休講

近代英文学特殊研究演習Ⅱ（春学期）

休講

現代英文学特殊研究Ⅰ（春学期）

戦争と文学

教授 河内 恵子

授業科目の内容：

第一次世界大戦と第二次世界大戦を軸に20世紀のイギリス小説を考察する。

戦争というエネルギーが創り出した文化とさまざまな芸術作品を検討する。

現代英文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

戦争と文学

教授 河内 恵子

授業科目の内容：

「現代英文学特殊研究Ⅰ」を参照

現代英文学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

休講

現代英文学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

休講

米文学特殊研究 I (春学期)

休 講

米文学特殊研究 II (秋学期)

教 授 巽 孝 之

授業科目の内容 :

博士号請求論文執筆中の者を中心に、論文作成法を徹底指導する。その結果出来上がる論文は、あらゆる意味で模範的でなくてはならない。仮に模範を根底から転覆する方法論を採るものであっても、それは例外ではない。博士1年には年間50冊程度の代表的批評書・研究書を課し、年間2本の英文レポート(2,000~2,500語程度)提出を要求する。博士2年には全国規模の学会での発表に向けた計画を立てさせる。最終的には、博士3年の段階にて、レフェリー制度を持つ内外の代表的学術誌の審査をゆうに通過する高水準の論文が輩出することを望む。学位論文をいかに一冊の研究書にまとめあげ出版するか、その際の具体的な編集技術についても、根本的に再検討する。

米文学特殊研究演習 I (春学期)

休 講

米文学特殊研究演習 II (秋学期)

教 授 巽 孝 之

授業科目の内容 :

文学研究と文化研究の交差する地点を扱った古典的著作に親しむ。テキストは追って指示する。

英語学特殊研究 I (春学期)

言語人類学

講 師 唐 須 教 光

授業科目の内容 :

言語人類学に関する論文を読む。

英語学特殊研究 II (秋学期)

講 師 唐 須 教 光

授業科目の内容 :

「英語学特殊研究 I」と同じ。

英語学特殊研究演習 I (春学期)

Beowulf

教 授 スカヒル, ジョン・デミエン

授業科目の内容 :

This course will combine close reading of part of *Beowulf* with a study of the poem as a whole, paying particular attention to metre, paleography and Germanic legend.

英語学特殊研究演習 II (秋学期)

Beowulf

教 授 スカヒル, ジョン・デミエン

授業科目の内容 :

「英語学特殊研究演習 I」と同じ。

独 学 専 攻

ドイツ文学特殊研究 I (春学期)

ゲーテ時代研究 XX 「ゲーテ時代の文化史」

名誉教授 柴 田 陽 弘

授業科目の内容 :

「ゲーテ時代」の精神史を、以下のような主題をめぐって考えます。表象文化論といってもいいでしょう。

- 1 崇高と美の観念 (バーク, カント, 雰囲気の美学)
- 2 地球観光旅行 (博物学の黄金時代, 熱帯の自然, 緑の魔界の探検者, リンネとその使徒たち, 探検博物学の夜明け, アレクサンダー・フォン・フンボルト, キルヒャー, ケンペル, ゲスナー, シーボルト, レディ・トラベラー 旅する女たち, 探検地図, クック船長)
- 3 風景の発見 (風景の生産, 風景の解放, 神聖自然学, 空間の世紀, 征服の修辞学, 野蛮の博物誌)
- 4 自然誌の終焉 (十八世紀の文人科学者たち, コレクション, ナチュラリストの誕生, 自然の死)
- 5 視覚と近代 (五感の優位)
- 6 天才の子供時代 (ゲーテ, モーツァルト, ベートーベン, シューベルト)
- 7 自伝・回想録・日記 (聖から俗へ)
- 8 無限への憧憬 (ロマン主義の美学と芸術観, 魔術的観念論, フリードリヒとルング)
- 9 ゲーテ時代の日常生活 (十八世紀の文化と社会, 遍歴職人の世界)
- 10 百科全書の起源 (ノヴァーリスの百科全書学)
- 11 天国と地獄 (天使学大全, 悪魔の系譜, 飛翔論, 象徴としての庭園, ユートピア)
- 12 イシス探求
- 13 洪水伝説 (水の征服, 地下世界, 地質学と地球生成論)
- 14 聴衆の誕生 (サロン, 演奏会, 楽器の進化)
- 15 消費社会の誕生 (作家・パトロン・書籍商・読者)
- 16 鉄道旅行の歴史 (蒸気機関からエントロピーへ)
- 17 フリーメーソン
- 18 コーヒーハウス (クラブとサロン)
- 19 フランソワとマルグリット (未婚の母と子供たち, 女の皮膚の下, 胎児へのまなざし, 母権論, 妻と夫の歴史, 女のエクリチュール, 結婚と家族, 路地裏

の女性たち、ジェンダーと権力)

20 変身の神話

まずはゲーテの『ファウスト』を読むことから始めます。

ドイツ文学特殊研究Ⅱ (秋学期)

ゲーテ時代研究 XX 「ゲーテ時代の文化史」

名誉教授 柴田陽弘

授業科目の内容:

「ドイツ文学特殊研究Ⅰ」と同じ。

ドイツ文学特殊研究Ⅲ (春学期)

メタヒストリー

教授 和泉雅人

授業科目の内容:

今期は Haydon White の Metahistory を中心として、フィクションとしての歴史と物語の生産プロセスについて考えていく予定ですが、テーマについては受講生諸君と相談する余地もあります。また受講生と相談しながら、受講生それぞれの研究分野にかかわる文献も視野に入れていきたいと思います。いずれにせよ、受講生諸君と話し合っ

ドイツ文学特殊研究Ⅳ (秋学期)

メタヒストリー

教授 和泉雅人

授業科目の内容:

「ドイツ文学特殊研究Ⅲ」と同じ。

ドイツ文学特殊研究Ⅴ (春学期)

中世ドイツ神秘思想

教授 香田芳樹

授業科目の内容:

この演習ではキリスト教の基本概念を学ぶことを目的としています。その際中世ドイツの代表的神秘思想家マイスター・エックハルト (1260-1327) の著作を取り上げるのは、ここにキリスト教のはらむさまざまな問題が表れているからです。キリスト教は一般民衆の宗教生活を支える信仰である一方、中世人の世界観を支配する科学思想でもありました。アウグスティヌスによって頂点に達したキリスト教神学は諸科学の上に君臨するグローバルサイエンスを目指して、中世を通して発展してきましたが、それは哲学や自然科学や異端信仰とのたえざる抗争でもありました。中世後期はイエスの時代に並ぶキリスト教の「第二の受難の時」であったといえます。宗教的混乱の中で生きたエックハルトも、その神学者や市井の説教師としての名声にもかかわらず晩年異端の嫌疑を受けて不遇うちに亡くなります。中世思想の集大成とも

いうべき彼の著作を読むことで当時のキリスト教哲学のさまざまな潮流に触れることができ、同時にヨーロッパを席卷した異端思想がどのようなものであったのかを知ることができるでしょう。演習では、アリストテレスや新プラトン主義の諸著作や教父の著作も参照します。

ドイツ文学特殊研究Ⅵ (秋学期)

中世ドイツ神秘思想

教授 香田芳樹

授業科目の内容:

「ドイツ文学特殊研究Ⅴ」を参照。

ドイツ文学特殊演習Ⅰ (春学期)

Anthropologie nach Hannah Arendt

教授 フュルンケース, ヨーゼフ

授業科目の内容:

Das Phänomen totaler Herrschaft (Nationalsozialismus, Stalinismus) bestimmt vor dem Hintergrund der eigenen Herkunft aus dem assimilierten deutschen Judentum gewiß die politische Theorie von Hannah Arendt (geb. 1906 in Hannover, gest. 1975 in New York). Das Seminar beschäftigt sich jedoch weniger mit ihrem bekanntesten Buch „The Origins of Totalitarianism“ (New York 1951, dt. „Elemente und Ursprünge totaler Herrschaft“, Frankfurt am Main 1955), vielmehr mit ihrem anthropologischen Hauptwerk „Vita activa oder Vom tätigen Leben“ (zuerst unter dem Titel „The Human Condition“, Chicago 1958), dessen ursprünglicher Titel „Amor mundi“ („Liebe zur Welt“) lauten sollte. Arendts systematische wie historische Frage, „was wir eigentlich tun, wenn wir tätig sind“, führt – durchaus mit Rücksicht auf das kontemplative Leben („vita contemplativa“) und im Rückblick auf die Antike – zur erneuerten Unterscheidung von „Arbeit“, „Herstellen“ und „Handeln“. Inwiefern Arendts offene Frage nach einer geglückten menschlichen Existenz auch die heute sich global ausbreitende Arbeits- und Konsumgesellschaft kritisch betrifft, sollen Lektüre, historischer Kommentar und systematische Kritik extrapolieren.

ドイツ文学特殊演習Ⅱ (秋学期)

Anthropologie nach Hannah Arendt

教授 フュルンケース, ヨーゼフ

授業科目の内容:

Das Phänomen totaler Herrschaft (Nationalsozialismus, Stalinismus) bestimmt vor dem Hintergrund der eigenen Herkunft aus dem assimilierten deutschen Judentum gewiß die politische Theorie von Hannah Arendt (geb. 1906 in Hannover, gest. 1975 in New York). Das Seminar beschäftigt sich jedoch weniger mit ihrem bekanntesten Buch „The

Origins of Totalitarianism“ (New York 1951, dt. „Elemente und Ursprünge totaler Herrschaft“, Frankfurt am Main 1955), vielmehr mit ihrem anthropologischen Hauptwerk „Vita activa oder Vom tätigen Leben“ (zuerst unter dem Titel „The Human Condition“, Chicago 1958), dessen ursprünglicher Titel „Amor mundi“ („Liebe zur Welt“) lauten sollte. Arendts systematische wie historische Frage, „was wir eigentlich tun, wenn wir tätig sind“, führt – durchaus mit Rücksicht auf das kontemplative Leben („vita contemplativa“) und im Rückblick auf die Antike – zur erneuerten Unterscheidung von „Arbeit“, „Herstellen“ und „Handeln“. Inwiefern Arendts offene Frage nach einer geglückten menschlichen Existenz auch die heute sich global ausbreitende Arbeits- und Konsumgesellschaft kritisch betrifft, sollen Lektüre, historischer Kommentar und systematische Kritik extrapolieren.

ドイツ文学特殊演習Ⅲ (春学期)

休 講

ドイツ文学特殊講習Ⅳ (秋学期)

休 講

ドイツ文学特殊演習Ⅴ (春学期)

パウル・ツェラン研究

教 授 大 宮 勘 一 郎

授業科目の内容：

詩人パウル・ツェランは難解という評判と、特定の歴史的出来事の表現者という先入見とに埋もれている。どちらも間違った見方ではないが、むしろそれで全てが片付くわけではない。いずれにしてもツェランを読む場合大事なのは、一語一語、あるいは一音一音、さらには一文字一文字読んでゆく、という基礎的作業であろう。この授業はその練習である。

ドイツ文学特殊演習Ⅵ (秋学期)

パウル・ツェラン研究

教 授 大 宮 勘 一 郎

授業科目の内容：

「ドイツ文学特殊演習Ⅴ」の続きです。(以下同)

ドイツ語学特殊研究Ⅰ (春学期)

教 授 中 山 豊

授業科目の内容：

Jetzt stehe ich hier という文はどのような「意味」をもつのか。Dienst ist Dienst, Schnaps ist Schnaps という同語反復はどうして無意味な文ではないのか。5人の子持ちの親が Ich habe zwei Kinder と言ったらなぜ嘘をついているとみなされるのか。結婚式で聖職者の問いに Ja, ich will と

言うだけでなぜ諸々の社会的責任を引き受けるか、等々の問いに興味がある方の参加を期待します。

ドイツ語学特殊研究Ⅱ (秋学期)

教 授 中 山 豊

授業科目の内容：

「ドイツ語学特殊研究Ⅰ」と同じ。

仏文学専攻

中世仏文学特殊研究Ⅰ (春学期)

文献解説, 学会発表・博士論文などの準備

教 授 川 口 順 二

授業科目の内容：

受講者と相談して決めます。

中世仏文学特殊研究Ⅱ (秋学期)

文献解説, 学会発表・博士論文などの準備

教 授 川 口 順 二

授業科目の内容：

「中世仏文学特殊研究Ⅰ」と同じ。

近代仏文学特殊研究Ⅰ (春学期)

教 授 小 倉 孝 誠

授業科目の内容：

取りあげるテーマとテキストは、受講生と相談のうえ決定します。

近代仏文学特殊研究Ⅱ (秋学期)

教 授 小 倉 孝 誠

授業科目の内容：

「近代仏文学特殊研究Ⅰ」と同じ。

近代仏文学特殊研究演習Ⅰ (春学期)

休 講

近代仏文学特殊研究演習Ⅱ (秋学期)

フランス『百科全書』研究

名誉教授 鷲見 洋 一

授業科目の内容：

近年充実のめざましい『百科全書』研究の流れに倣って、基本文献を丁寧に読破することを目的とする。春学期に続いて、Marie Leca-Tsiomis, *Ecrire l'Encyclopédie* を取り上げる。

現代仏文学特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 宮 林 寛

授業科目の内容：

フランス語での論文執筆，学術的な場での口頭発表の練習など，研究者に必要な技術を学んでいただく予定です。

現代仏文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 宮 林 寛

授業科目の内容：

「現代仏文学特殊研究Ⅰ」と同じ。

現代仏文学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

仏文学と近代Ⅰ

教授 牛 場 暁 夫

授業科目の内容：

マルセル・プルースト『失われた時を求めて』の，従来あまり論じられてこなかった斬新なロマネスクの世界を明らかにしたい。原書で3000ページあるが，特有の筋がやはり全編にわたって張りめぐらされている。細部を把握しつつも，そのダイナミズムを味読したい。

現代仏文学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

仏文学と近代Ⅱ

教授 牛 場 暁 夫

授業科目の内容：

「現代仏文学特殊研究演習Ⅰ」と同じ。

仏語学特殊研究Ⅰ（春学期）

Cours de dissertation française

訪問准教授（招聘） ブランクール，ヴァンサン

授業科目の内容：

Ce cours sera consacré à la pratique de la dissertation littéraire. Au long du trimestre, les étudiants se verront proposer plusieurs sujets de dissertation qui seront préparés en classe en commun à travers la lecture de textes relatifs au sujet tirés de la littérature française ainsi que d'extraits de la littérature critique. Les sujets proposés seront pour la plupart tirés des annales du Concours des Bourses du Gouvernement Français.

Ce cours doit être considéré comme une opportunité offerte aux étudiants de rédiger en langue française sur des questions de littérature générale. Les aspects techniques de l'exercice spécifique que constitue la dissertation feront l'objet d'une attention particulière.

仏語学特殊研究Ⅱ（秋学期）

Cours de dissertation française

訪問准教授（招聘） ブランクール，ヴァンサン

授業科目の内容：

Ce cours sera consacré à la pratique de la dissertation littéraire. Au long du trimestre, les étudiants se verront proposer plusieurs sujets de dissertation qui seront préparés en classe en commun à travers la lecture de textes relatifs au sujet tirés de la littérature française ainsi que d'extraits de la littérature critique. Les sujets proposés seront pour la plupart tirés des annales du Concours des Bourses du Gouvernement Français.

Ce cours doit être considéré comme une opportunité offerte aux étudiants de rédiger en langue française sur des questions de littérature générale. Les aspects techniques de l'exercice spécifique que constitue la dissertation feront l'objet d'une attention particulière.

図書館・情報学専攻

情報学特殊研究Ⅰ（春学期）

学術コミュニケーションに関する研究指導

教授 倉 田 敬 子

授業科目の内容：

学術コミュニケーションに関する博士論文指導を行う。

情報学特殊研究Ⅱ（秋学期）

学術コミュニケーションに関する研究指導

教授 倉 田 敬 子

授業科目の内容：

学術コミュニケーションに関する博士論文指導を行う。

情報学特殊研究Ⅲ（春学期）

教授 上 田 修 一

授業科目の内容：

図書館・情報学の最近の海外研究論文の中から履修者各自が選択したものについて，その概要を発表し，全員で討議します。秋学期の情報学特殊研究Ⅳとあわせて連続して履修することを原則とします。

情報学特殊研究Ⅳ（秋学期）

教授 上 田 修 一

授業科目の内容：

情報学特殊研究Ⅲと同じです。Ⅲとあわせて連続して履修することを原則とします。

情報学特殊研究Ⅴ（春学期）

教授 田村 俊作

授業科目の内容：

後期博士課程（夜間）の院生を対象に、図書館情報サービスに関する諸問題の検討と、論文作成の指導を行う。なお、本科目は「情報資源管理特殊講義演習ⅠB」との併設である。

情報学特殊研究Ⅵ（秋学期）

教授 田村 俊作

授業科目の内容：

「情報学特殊研究Ⅴ」に引き続き、後期博士課程（夜間）の院生を対象に、図書館情報サービスに関する諸問題の検討と、論文作成の指導を行う。なお、本科目は「情報資源管理特殊講義演習ⅡB」との併設である。

情報学特殊研究Ⅶ（春学期）

抄読会

教授 倉田 敬子

授業科目の内容：

毎回3人程度の受講生に図書館情報学分野の最新の論文に関して読んできたものを発表してもらい、出席者全員で討論を行う。なお、本科目は「情報資源管理特殊講義演習Ⅲ」との併設である。

情報学特殊研究Ⅷ（秋学期）

抄読会

教授 倉田 敬子

授業科目の内容：

毎回3人程度の受講生に図書館情報学分野の最新の論文に関して読んできたものを発表してもらい、出席者全員で討論を行う。なお、本科目は「情報資源管理特殊講義演習Ⅲ」との併設である。

情報メディア特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 上田 修一

授業科目の内容：

図書館・情報学をテーマとする学位論文のための研究指導を行います。

情報メディア特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 上田 修一

授業科目の内容：

「情報メディア特殊研究Ⅰ」と同じ。

情報メディア特殊研究Ⅲ（春学期）

教授 田村 俊作

授業科目の内容：

図書館情報サービスに関連する諸問題の検討と、論文作成の指導を行う。

情報メディア特殊研究Ⅳ（秋学期）

教授 田村 俊作

授業科目の内容：

「情報メディア特殊研究Ⅲ」に引き続き、図書館情報サービスに関連する諸問題の検討と、論文作成の指導を行う。

情報メディア特殊研究Ⅴ（春学期）

学術コミュニケーションに関する研究指導

教授 倉田 敬子

授業科目の内容：

学術コミュニケーションに関する博士論文指導を行う。

情報メディア特殊研究Ⅵ（秋学期）

学術コミュニケーションに関する研究指導

教授 倉田 敬子

授業科目の内容：

学術コミュニケーションに関する博士論文指導を行う。

情報検索特殊研究Ⅰ（春学期）

休講

情報検索特殊研究Ⅱ（秋学期）

休講

情報検索特殊研究Ⅲ（春学期）

休講

情報検索特殊研究Ⅳ（秋学期）

教授 田村 俊作

授業科目の内容：

三田メディアセンターとの連携の下に、図書館の経営・サービスに関する特定の問題を、実習を交え実際に即して研究するインターシップ科目である。

情報検索特殊研究Ⅴ（春学期）

教授 上田 修一

授業科目の内容：

図書館・情報学をテーマとする学位論文のための研究指導を行います。

情報検索特殊研究Ⅵ（秋学期）

教授 上田 修一

授業科目の内容：

「情報検索特殊研究Ⅴ」と同じ。

情報システム特殊研究Ⅰ（春学期）

博士論文の研究指導

教授 糸賀 雅児

授業科目の内容：

博士論文の執筆に向けて、テーマの選択、研究の進め方、論文執筆の技術的な助言などを、逐次行っていきます。

情報システム特殊研究Ⅱ（秋学期）

博士論文の研究指導

教授 糸賀 雅児

授業科目の内容：

「情報システム特殊研究Ⅰ」と同じ。

情報システム特殊研究Ⅲ（春学期）

教授 岸田 和明

授業科目の内容：

修士課程「情報資源管理特殊講義演習ⅠD」と同じ。

情報システム特殊研究Ⅳ（秋学期）

教授 岸田 和明

授業科目の内容：

修士課程「情報資源管理特殊講義演習ⅡD」と同じ。

情報システム特殊研究Ⅴ（春学期）

博士論文の研究指導

教授 糸賀 雅児

授業科目の内容：

博士論文の執筆に向けて、テーマの選択、研究の進め方、論文執筆の技術的な助言などを、逐次行っていきます。

情報システム特殊研究Ⅵ（秋学期）

博士論文の研究指導

教授 糸賀 雅児

授業科目の内容：

博士論文の執筆に向けて、テーマの選択、研究の進め方、論文執筆の技術的な助言などを、逐次行っていきます。

修士課程・後期博士課程共通

プロジェクト科目Ⅰ，Ⅱ（修士課程・博士課程共通，社会学研究科・文学研究科共通）

平成19年度より社会学研究科，文学研究科の共通科目としてのプロジェクト科目が開設されました。これはグローバルCOE「論理と感性の先端的教育研究拠点形成」によるもので，複数の教員の指導のもとで研究活動に参加する授業科目です。半期ずつの科目となっていますが，併せて通年での登録を原則とします。

（修士課程，後期博士課程で登録番号が異なりますので注意してください。）

プロジェクト(A)：脳と進化

このプロジェクト科目は論理と感性を，実験心理学，機能脳画像，動物実験による系統発生的比較研究から解明しようとするを目的としています。したがって，実験を主にした研究ということになります。心理学や脳科学の予備知識のない大学院生でも履修できるように個別指導を行います。また，GCOEの教育講座などでも必要な知識・技術を身につけられます。

（担当者：渡辺茂，小嶋祥三，梅田聡）

プロジェクト(B)：遺伝と発達

このプロジェクト科目では，双生児研究による論理的判断と感性的判断の遺伝的素因の研究を行います。また，発達，とくに発達障害研究による論理的判断と感性的判断の獲得過程の問題に取り組めます。したがって，実験による研究が主になります。青年期・成人期の双生児コホートから，ゲノム研究のための縦断データを収集することも行います。機能脳画像による実験も積極的に行います。

（担当者：安藤寿康，山本淳一，藤澤啓子）

プロジェクト(C)：言語と認知

このプロジェクト科目では人間の記憶や判断における分析的・論理的過程と非分析的・感性的過程の働き方について認知心理学的手法によって研究し，また，言語知識の獲得・使用が論理と感性にどのような効果を持つか，母語の特性とどのように相互作用するのかなども研究します。担当教員と共同研究をしている海外の大学，研究機関との連携した実験も行います。実験的な研究以外に，言語についての理論的な研究も行い，言語機能の初期状態と安定状態の予備的モデルを構築することも行います。また，成人と乳児を対象にした事象関連電位による研究，成人を対象としたfMRIによる脳研究も行う予定です。

（担当者：伊東裕司，大津由紀雄，今井むつみ）

プロジェクト(D)：哲学・文化人類学

このプロジェクト科目では，倫理判断，美的判断における論理と感性の役割を分析・研究します。そのうちのひとつでは，絵画における立体や位置の認知・推論，特に陰影についての文化的歴史的要因による偏りについての理論を構築することを目指します。また，文化人類学的研究では，科学と合理性と伝統的世界観，心の病等の問題の検討を通じて，どのような環境で論理と感情が破綻をきたし，また調和するのか，その条件を文化的多様性と関連づけて考察します。したがって，この科目には，分析的な研究，実験的な研究，ならびに，調査および現地事例観察を主体とする研究が含まれます。

（担当者：飯田隆，宮坂敬造，樽井正義，遠山公一，北中淳子）

プロジェクト(E) : 論理・情報

このプロジェクト科目では、日常の推論の論理モデルに言語的情報・図形的情報・感性情報がどのように反映できるのかを解析します。また、感性的直観と論理思考との関係、および図形的推論と言語的推論の論理研究について理論モデルを構築し、これまでの認知や情報科学・人工知能分野におけるモデルと比較検討します。これらは理論的な研究ですが、メンタルモデル理論とメンタルロジック理論等の認知心理学的データに対する批判的検討を試みたり、機能脳画像研究を通じて近年明らかにされてきた脳内デュアルシステムに対する論理的考察を行う等の実験科学的観点の研究も取り入れます。論理と直観、論理と感性、エピステーメーとしての論証的知識とドクサや実践的知識、等の伝統的な対立項に対して現代的な観点から再検討を加えます。

(担当者：岡田光弘，西脇与作，納富信留，エアトル ヴォルフガング)

プロジェクトに登録するには担当教員の許可が必要です。研究内容の詳細は本科目のガイダンスに参加して説明を聞いてください。

開設学期：2009年度秋学期（2単位） 土曜日4限

＜履修申告方法＞（P14～17参照）

認定科目（B欄分野番号：12）もしくは自由科目（B欄分野番号：99）で申告してください（A欄申告はできません）。

登録番号：【修士課程】18283，【後期博士課程】18298

講座の趣旨：

近代社会は、人間と世界のあるべき姿を文明という名に託して追求しつづけてきた。近代社会を支えた古典的教養は、この文明をサイエンスすることを根元的課題としていたともいえる。しかし現代において、世界観の混迷にもかかわらず、学問は、細分化と技術化により、時としてその課題を忘れがちである。

そのような現状の中で、人文・社会科学に蓄積された高度な古典的教養の力は、今、あらためて見直さなければならない。さまざまな国や地域で蓄積されてきた伝統は、文化の多様性の源泉であるとともに、人類協調のよりどころとなるべき共通の財産である。人文・社会科学はそのような人類の蓄積を研究領域としてきたのである。

福澤諭吉は『文明論之概略』において、文明を「外あらわるる事物」と「内に存する精神」の二面から見た。「外にあらわるる事物」は、鉄道、通信、医学、工業技術のような、主に自然科学が生み出す成果である。しかし、求めるのがより難しいものは「内に存する精神」であり、その分析と追求こそが科学すなわち福澤の発音で言う「サイエンス」の喫緊の課題であると考えた。現代の人文・社会科学は、福澤の提起したこの課題にどこまで答えられているのだろうか。

以上のような観点から本講義においては、文明を「サイエンス」するに当たっての古典的教養の意味を、人文・社会科学の多様な分野における最先端の知見を通して問い直したい。

講義は、比較的分野の近い、海外から招聘した講師と国際的に評価されている日本人研究者とが関連して講義を担当することで、義塾における人文・社会科学の研究が学問の国際的ネットワークに連なるものであることをあらためて見直す機会を提供するとともに、若い学徒が学問を志すことの歴史的社会的な意味を自覚する機会となることを期待している。

講座の構成と履修形態：

講座は、オムニバス形式の2単位科目。各講師は2コマないし3コマを担当し、合計で18～20コマを開講する。履修者はそのうちから12コマ以上を履修することによって、単位を申請することができる。

講義は、土曜日4時限に設定されているが、特に海外から講師を招聘する日程上の都合により、必ずしもその時間に関講されるとは限らず、金曜日・土曜日と連続して開講される場合などがある。

主な講義担当者：

Alain Corbin（ソルボンヌ大学教授）

主領域：人文科学・社会科学にまたがる総合的な視点からの感性の歴史学など

小倉孝誠（慶應義塾大学文学部教授）

主領域：19世紀フランスにおける文学と社会、アラン・コルバンの訳もある。

鷺見洋一（慶應義塾大学名誉教授）

主領域：百科全書派など、フランスやイタリアにおける18世紀啓蒙時代における知

Alan McFarlane（ケンブリッジ大学教授 Fellow of King's College）

主領域：民俗学的手法を援用したイギリス史、文明史。福澤諭吉についても考察。

斎藤修（一橋大学経済研究所教授）

主領域：比較経済史、歴史人口学

Bertram Schefold（ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ大学教授）

主領域：ヨーロッパ経済学史。日本や中国を含む世界の前近代の経済思想。

池田幸弘（慶應義塾大学経済学部教授）

主領域：オーストリア経済学史

Neil McLynn（オックスフォード大学教授、元慶應義塾大学法学部教授）

主領域：西洋古典学。古代教会史、とくに東西教会におけるキリスト教と政治。

西村太良（慶應義塾大学教授・常任理事）

主領域：西洋古典学、ギリシア文学

大芝芳弘（首都大学東京・教授）

主領域：西洋古典学、ラテン文学

慶應義塾大学国際センター 在外研修プログラム

全学部・研究科在籍生を対象に、夏季・春季休業期間中に開催されます。単なる語学研修でなく、講義やディスカッションのほか大学内の寮生活をはじめとする多彩な諸活動を通して様々な異文化交流を体験することで国際性豊かな学生を育成することを目的としており、短期間で集中して国外学習を経験できる貴重な機会になっています。

現地への出発前には事前研修を数回実施します。(事後研修を実施する場合があります。)

新たなプログラムが追加されることもありますので、国際センターホームページを参照してください。

なお、プログラムは、自然災害、戦争、航空機等交通機関にかかわる事故ならびに前記以外の人為的、不慮不可抗力による事故などのために中止する可能性があることをあらかじめご了承ください。

【問合せ先】 三田国際センター

URL: <http://www.ic.keio.ac.jp/index.html> 「海外に関心のある塾生へ」の「短期プログラム」

詳細や変更は、随時ホームページ等で発表します。春季講座の詳細は10月ごろホームページで発表します。

【夏季講座ガイダンス】 4月2日(木) SFC Ω11 番教室 16:30~18:00 4月6日(月) 三田 526 番教室 10:45~12:15
4月4日(土) 矢上 12-211 番教室 12:00~13:00 4月6日(月) 日吉 33 番教室 16:30~18:00

【夏季講座応募について】(すべて予定)

- (1) オンラインレジストレーション期限 4月12日(日)
- (2) 募集期間 4月13日(月), 14日(火)
- (3) 一次合格発表 4月22日(水)
- (4) 面接審査 4月25日(土)
- (5) 選考結果発表 5月1日(金)

【単位について】

各講座の単位は、卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは、各学部・研究科によって異なりますので各自確認してください。ただし、春季講座は次年度春学期設置科目として認定のため、参加時に最終学年の場合は対象外となります。

① ケンブリッジ大学ダウニングコレッジ夏季講座

ケンブリッジ大学教員による6つの講義の中から3つを自由に選択する方式のため、自分の専攻分野の学習を深めるだけでなく、知識の幅を広げることができます。

【現地研修期間】2009年8月3日(月)~9月2日(水)(予定)

【研修内容】講義(午前)、ケンブリッジ大生(TA)をまじえてのディスカッション(午後)。エッセイ作成(週末)。

【開講予定科目】(予定)

English Literature, British Art, Ancient Greece and Western Civilization, Astronomy: Unveiling the Universe, The Science of Chaos, Evolution and Behavior.

【単位数】4単位

【募集人数】60名

② ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座

ウィリアム・アンド・メアリー大学は1693年創立の州立大学で、教育・研究で高い評価を得ています。両校の学生が混在する小グループで日米文化をめぐるトピックを研究します。

【現地研修期間】2009年7月29日(水)~8月13日(木)(予定)

【研修内容】ダイアログクラス、ウィリアム・アンド・メアリー大生をまじえてのグループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーションなど。

【単位数】4単位

【募集人数】40名

③ ワシントン大学夏季講座

シアトルの豊かな自然を活かしたフィールドトリップを織り込みながら「環境」を多面的な視点から学びます。この講座にはAPRU(環太平洋大学協会)に加盟している海外大学からも数名の学生が参加する予定です。

【現地研修期間】2009年8月3日(月)~8月22日(土)(予定)

【研修内容】講義/ワークショップ、ディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーション、体験宿泊旅行

【単位数】4単位

【募集人数】30名

④ オックスフォード大学リンカーンコレッジ夏季講座

ディベート、演劇のワークショップなどを織り込みながら、イギリスの歴史・政治・文化を学びます、また、800年に亘り英国エリートを輩出してきたオックスフォード教育を体験できます。

〔現地研修期間〕2009年8月21日（金）～9月5日（土）（予定）

〔研修内容〕講義、ディベート、ディスカッション、ワークショップ、観劇など

〔単位数〕4単位

〔募集人数〕20名

⑤ パリ政治学院春季講座

拡大するEUの政治・経済・社会・文化の諸問題、EU対諸外国との国際関係等、ヨーロッパをめぐる様々なテーマを学びます。フランス語の研修もあり、2カ国語を同時に磨く機会となります。講義はすべて英語で行われます。

〔現地研修 2008年度参考〕2009年2月16日～2009年3月13日

〔講義内容 2008年度参考〕共通ブロック1つと、選択ブロックの中から2つの計3ブロックを履修。

共通ブロック

“Europe: what are we talking about?”

選択ブロック

“Economics of the Euro area”

“Europe and its external relations”

“Migration and identities”

〔単位数〕4単位

〔募集人数〕定員：20名

⑥ 延世大学春季講座

政治・経済・社会・文化についての講義、韓国語の授業や延世大学学生との交流、慶州へのツアー、テコンドー教室などがあり、韓国を全般的に理解することができます。講義はすべて英語で行われます。

〔現地研修 2008年度参考〕2009年2月9日～2009年2月21日

〔講義内容 2008年度参考〕

- 1 Japan-Korea Relationship: Current Issues and Prospects
- 2 Contemporary Korean Pop Culture and the Cultural Wave of "Hallyu"
- 3 Environmental Protection and the Role of NGOs in Korea
- 4 North-South Korean Relations: Challenges and Opportunities
- 5 Political Economy of Korean Development

〔単位数〕2単位

〔募集人数〕20名（学部生対象）

国際センター設置講座

国際研究講座ならびに日本研究講座受講希望者へ

国際センターでは、外国および日本の文化や社会、国際関係を理解するための英語による講座を開講しています。本年度国際研究講座で取扱う国／地域は、アジア・オセアニア、北米・南米、ヨーロッパからアフリカにおよぶほか、国際社会、異文化理解をうながす講座もあります。一方日本研究講座では、社会、経済、ビジネス、政治をはじめ歴史、文学、芸術、思想・宗教など幅広い側面から日本を探求します。

海外からの外国人留学生と共に英語で学ぶ授業としてユニークなものであり、学問を通しての国際交流の場として日本人学生の積極的な参加を歓迎します。

なお、本講座の履修単位の取扱いは各学部・研究科により異なりますので、所属する学部・研究科の履修案内に従ってください。

1. 対象 大学学部生、大学院生、別科生および特別短期留学生（原則として学部の新入生を除く）

2. 単位 各科目 2 単位
(なお、医学部・医学研究科および法務研究科ではすべての授業科目が履修の対象となりません)

3. 手続方法

履修申告をしてください。国際センターに出向く必要はありません。

学部・大学院が設置主体の科目については、学部・大学院の登録番号を使用してください。

所属する学部・研究科で履修対象とならない場合は、三田、日吉の国際センターで相談してください。

4. 受講料 無料

5. 掲示 休講などの連絡事項は、三田の国際センター掲示板および以下の WEBSITE の掲示板に掲示されます。

6. WEBSITE

この講義要綱には、各科目の概要（Course Description）しか掲載していません。「テキスト」「参考書」「授業の計画」「担当教員から履修者へのコメント」「成績評価方法」等については以下の WEBSITE を参照してください。

<http://www.ic.keio.ac.jp/iccourse/index.html>

2009-2010 Keio University International Center: International Studies Courses (2009年度 慶應義塾大学国際センター国際研究講座)

(*)This course is a graduate level course, and is not open to undergraduate students. (**)のついた科目は学部生履修不可
Unless otherwise indicated, classes are offered by the International Center. (特に記載がないものは国際センター設置科目)

Field	Semester	Day	Slot	Course Title	Lecturer	Course Title(Japanese)	Lecturer(Japanese)	Offered by
	Spring	Fri	5	CONTEMPORARY CHINESE SOCIETY	Farrar, Gracia	現代中国社会	ファーラー, グラシア	
	Fall	Thu	3	SPECIAL STUDY OF INTERNATIONAL RELATIONS IN THE EAST ASIA 2	Soeya, Yoshihide	東アジアの国際関係特殊研究 II	森谷 芳秀	F(Law)
Area Study: Asia, Oceania	Spring	Fri	1	SPECIAL COLLOQUIUM ON INTERNATIONAL RELATIONS(*)	Yamamoto, Nobuto	国際政治論特殊研究(*)	山本 健人	GS(Law)
	Spring	Wed	4	DEVELOPMENT AND SOCIAL CHANGE	Kurasawa, Aiko	開発と社会変容	倉沢 愛子	
	Fall	Mon	4	WORLD OF SOUTHEAST ASIA	Nonura, Toru	東南アジア世界の諸相	野村 亨	
	Spring	Wed	4	CONSTRUCTING INDIA	Williams, Mukesh	インドをソウゾウする	ウィリアムス, ムケーシュ	
	Fall	Thu	5	INDIA TODAY	Nishimura, Yuko	現代インド事情	西村 祐子	
	Spring	Thu	4	INDIAN MUSIC	Hoffman, T.M.	体系等としてのインド音楽	ホッフマン, T-M	
	Fall	Wed	4	LISTENING TO ASIA	Hoffman, T.M.	アジアの音楽	ホッフマン, T-M	
	Spring	Wed	5	AUSTRALIA AND THE ASIA-PACIFIC REGION	Ackland, Michael	オーストラリアとアジア太平洋地域	ア克蘭ド, マイケル	
	Spring	Mon	4	AREA STUDIES (THE UNITED STATES)	Okuda, Akiyo	地域文化論(アメリカ)	奥田 暎代	
	Area Study: North America, South America	Fall	Wed	4	AMERICAN STUDIES	Williams, Mukesh	アメリカ研究, アメリカの歴史, 文化と外交政策	ウィリアムス, ムケーシュ
Area Study: Europe, Russia	Fall	Tue	5	CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE	Yellowlees, James	カナダという国とカナダの国際的な役割	イエローリース, ジェームズ	
	Spring	Tue	5	LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS	Antolinez, Mario	世界政治におけるラテンアメリカ	アントリネス, マリオ	
	Fall	Thu	5	PROJECT 2: SEMINAR ON EUROPEAN INTEGRATION (*)	Tanaka, Toshiro	プロジェクトII-欧州統合(*)	田中 俊郎	GS(Law)
	Fall	Thu	5	EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS	Hayashi, Hideki	EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS	林 秀敏	F(Economics)
	Spring	Fri	4	AFRICAN ISSUES: THE MEANING OF MODERNITY AND CRISES IN AFRICA	Kondo, Hidetoshi	アフリカン イシューズ: アフリカにおける近代と危機の意味	近藤 英後	
	Fall	Tue	4	BUILDING THE GLOBAL VILLAGE	Freeman, David	グローバルヴィレッジ構築に向けて	フリードマン, デビッド	
	Spring	Fri	3	COMPREHENSIVE STUDIES OF INTERNATIONAL RELATIONS	Abe, Tadahiro	国際関係概論	安部 忠宏	
	Fall	Thu	3	CONTEMPORARY GLOBAL ISSUES AND THE ROLE OF THE UNITED NATIONS	Malik, Rabinder	現代の国際問題と国連の役割	マリク, ラビンダー	
	Fall	Fri	4	INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION	Goto, Kazumi	国際開発協力論	後藤 一美	
	Global Community	Fall	Wed	3	LAW AND DEVELOPMENT	Matsuo, Hiroshi	開発法学	松尾 弘
Fall		Wed	5	THIRD WORLD DEVELOPMENT AND THE POOR	Bockmann, David	第三世界の開発と貧困	ボックマン, デイヴ	
Spring		Fri	3	INTERNATIONAL HUMAN RIGHTS LAW	Hosotani, Akiko	国際人権法	細谷 明子	
Spring		Thu	3	INTRODUCTION TO PRINT JOURNALISM	Holley, David	プリントジャーナリズム入門	ホーリー, デイヴィッド	
Fall		Thu	4	COMMUNISM'S COLLAPSE	Holley, David	共産主義の崩壊	ホーリー, デイヴィッド	
Spring		Wed	2	SPECIAL LECTURE OF ETHICS 3B(*)	Ertl, Wolfgang	倫理学特殊講義III B(*)	エアトル, ヴォルフガング	GS(Letters)
Fall		Wed	2	SPECIAL LECTURE OF ETHICS 4B(*)	Ertl, Wolfgang	倫理学特殊講義IV B(*)	エアトル, ヴォルフガング	GS(Letters)
Fall		Tue	2	ADVANCED STUDY OF FINANCE(*)	Fukao, Mitsuhiro	金融特論(*)	深尾 光洋	GS(Business&Commerce)
Spring		Thu	2	INTERNATIONAL ECONOMY(*)	Kashiwagi, Shigeo	国際経済(*)	柏木 茂雄	GS(Business&Commerce)
Fall		Wed	3	ADVANCED STUDIES OF INTERNATIONAL RELATIONS(*)	Kashiwagi, Shigeo	国際関係特論(*)	柏木 茂雄	GS(Business&Commerce)
Culture, Cross-cultural Understanding	Spring	Mon	5	LITERATURE AS HISTORY	Chandra, Elizabeth	歴史としての文学	チャンドラ, エリザベス	
	Fall	Mon	5	VISIONS OF THE PAST	Ainge, Michael W.	比較映画論	エインジ, マイケル	
	Spring	Wed	5	CULTURE, CULTURAL ADJUSTMENT, AND IDENTITY	Yokokawa, Mariko	文化-文化適応とアイデンティティ	横川 真理子	
	Fall	Wed	5	DISCOVERING CULTURE THROUGH OBSERVATION	Yokokawa, Mariko	文化観察による発見と理解	横川 真理子	

(*)This course is a graduate level course, and is not open to undergraduate students. (※)のついた科目は学部生履修不可
 Unless otherwise indicated, classes are offered by the International Center. (特に記載がないものは国際センター設置科目)

Field	Semester	Day	Slot	Course Title	Lecturer	Course Title(Japanese)	Lecture(Japanese)	Offered by
Culture, Cross-cultural Understanding	Spring	Tue	4	CULTURE AND THE UNCONSCIOUS	Shaules, Joseph	異文化と自己理解	ショールズ, ジョセフ	
	Fall	Tue	3	LEARNING FROM LIFE ABROAD	Shaules, Joseph	海外生活から学ぶ	ショールズ, ジョセフ	
Science	Spring	Mon	5	HUMAN ENGINEERING	Waniek, Jacqueline	人間工学	ワニエク, ヤクリーン	
	Fall	Mon	5	HUMAN RESOURCE MANAGEMENT FROM A PSYCHOLOGICAL PERSPECTIVE	Waniek, Jacqueline	心理学的観点から見る人材管理	ワニエク, ヤクリーン	

2009-2010 Keio University International Center: Japanese Studies Courses (2009年度 慶應義塾大学国際センター日本研究講座)

(*)This course is a graduate level course, and is not open to undergraduate students. (※のついた科目は学部生履修不可)
Unless otherwise indicated, classes are offered by the International Center. (特に記載がないものは国際センター設置科目)

Field	Semester	Day	Slot	Course Title	Lecturer	Course Title(Japanese)	Lecturer(Japanese)	Offered by
	Spring	Mon	5	LANGUAGE BEYOND GRAMMAR	Kim, Angela	日本語の話ことばと書外の意味	キム, アンジェラ	
	Spring	Wed	4	TWENTIETH-CENTURY JAPANESE AND WESTERN SHORT FICTION	Raeiside, James M.	20世紀の日本と欧米の小説	レイサイド, ジェイムス	
	Spring	Wed	3	JOURNEY THROUGH THE FLOATING WORLD	Armour, Andrew	浮世と道行き	アーマー, アンドルー	
	Fall	Wed	3	JAPANESE LITERATURE	Armour, Andrew	日本の文学	アーマー, アンドルー	
Culture	Fall	Mon	3	INTRODUCTION TO MODERN JAPANESE ARTS AND VISUAL CULTURE	Murai, Noriko	日本の近現代美術	村井 剛子	
	Spring	Tue	4	INTRODUCTION TO JAPANESE ART HISTORY	Shirahara, Yukiko	日本美術史入門	白原 由紀子	
	Fall	Thu	6	ARTS/ART WORKSHOP THROUGH CROSS-CULTURAL EXPERIENCE	Hishiyama, Yuko	アートワークショップ/日本のアートと文化	篠山 裕子	
	Spring	Mon	4	JAPANESE CINEMA	Ainge, Michael W.	日本映画入門	エインジ, マイケル	
	Spring	Thu	3	GEISHA	Graham, Fiona	「芸者」	グラハム, フiona	
	Fall	Tue	2	SCIENCE, TECHNOLOGY AND CULTURE (*)	Inoue, Kyoko	科学技術文化特論 (*)	井上 京子	GS(Science&Technology) Note: YAGAMI Campus
Thought, Religion	Spring	Fri	4	JAPANESE BUDDHISM AND SOCIAL SUFFERING	Watts, Jonathan	日本仏教と現代社会	ワッツ, ジョナサン	
	Fall	Mon	5	SEMINAR (Seminar in Intellectual History)	Sakamoto, Tatsuya	演習 (権澤論吉田学問のすすめ)を讀む	坂本 達哉	F(Economics)
History	Fall	Tue	5	JAPANESE DIPLOMACY IN THE MEIJI ERA	Iikura, Akira	政策決定, 歴史的記憶, 人種から見る明治期日本外交	飯倉 暁	
	Fall	Mon	4	MODERN HISTORY OF DIPLOMATIC AND CULTURAL RELATIONS BETWEEN JAPAN AND THE WORLD	Ota, Akiko	近代日本の対外交流史	太田 昭子	
	Spring	Tue	3	JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION	Kinmonth, Earl H.	英国と米国のマスコミに描かれた日本	キンモンズ, アール	
	Fall	Tue	3	A SOCIAL HISTORY OF POST-WAR JAPAN	Kinmonth, Earl H.	戦後日本の社会史	キンモンズ, アール	
	Fall	Fri	4	POPULAR MUSIC AND THE CULTURAL HISTORY OF POSTWAR JAPAN	Dorsey, James	日本の戦後史とポピュラーミュージック	ドーシー, ジェームズ	
Society	Spring	Thu	5	IN SEARCH OF NEW CIVIC SOCIETIES	Bockmann, David	新市民社会論	ボックマン, デイヴ	
	Fall	Tue	4	MULTIETHNIC JAPAN	Kashiwazaki, Chikako	多民族社会としての日本	柏崎 千佳子	
	Fall	Fri	5	THE FAMILY IN HISTORICAL PERSPECTIVE	Notter, David	家族の近代	ノッター, デビッド	
	Spring	Mon	3	INTERCULTURAL COMMUNICATION 1	Tezuka, Chizuko	異文化コミュニケーション1	手塚 千鶴子	
	Fall	Mon	3	INTERCULTURAL COMMUNICATION 2	Tezuka, Chizuko	異文化コミュニケーション2	手塚 千鶴子	
	Spring	Thu	4	JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (1)	Tezuka, Chizuko	日本人の心理学(1)	手塚 千鶴子	
	Fall	Thu	4	JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (2)	Tezuka, Chizuko	日本人の心理学(2)	手塚 千鶴子	
Politics	Spring	Fri	5	INTRODUCTION TO POLITICS IN JAPAN	Aoki, Hiroko	日本政治論	青木 裕子	
	Fall	Thu	5	JAPANESE FOREIGN POLICY	Nobori, Amiko	日本の対外政策	昇 亜美子	
	Fall	Thu	2	JAPANESE ECONOMY	Kashiwagi, Shigeo	ジャパニーズ・エコノミー	柏木 茂雄	GS(Business&Commerce)
Economy, Business	Spring	Mon	5	FOREIGN COMPANIES IN JAPAN	Harris, Graham	日本における外資系企業	ハリス, グレアム	F(Business&Commerce)
	Spring	Thu	5	MANAGEMENT IN JAPAN	Haghirian, Parissa	日本のビジネスマネジメント	ハギリアン, パリッサ	
	Fall	Thu	3	INTERNATIONAL COMPARISON OF MANAGEMENT SYSTEMS	Yoshida, Fumikazu	国際経営比較	吉田 文一	
	Fall	Fri	3	JAPANESE SOCIETY AND BUSINESS	Umezui, Mitsuhiro	日本の経営	梅津 光弘	
Economy, Business	Spring	Fri	3	LEADING CREATIVE BUSINESS IN JAPAN	Tobin, Robert	日本の最先端創造的ビジネス	トビン, ロバート	
	Fall	Fri	3	ARTISANRY IN JAPAN'S SMALL BUSINESS	Tobin, Robert	日本の中小企業における職人芸	トビン, ロバート	
Law	Fall	Fri	5	INTRODUCTION TO JAPANESE LAW	Kobayashi, Satsuo	日本法の制度と変遷	小林 節	

国際研究講座 (INTERNATIONAL STUDIES)

CONTEMPORARY CHINESE SOCIETY

(Spring)

現代中国社会

Farrer, Gracia

ファラー, グラシア

Lecturer, International Center

国際センター講師

Course Description:

This course surveys the post-1978 Chinese society, focusing on social issues under the market reform and conditions of increasingly globalized economy. China's transition to a market-oriented society has effected fundamental changes in the lives of its citizens. Topics include regional economic disparities, changing patterns of employment and unemployment, gender inequality, and both internal and international migration. We will ask: How are women and men faring differently in China's new labor market and workplaces? Are rural peasants and the emerging underclass of urban laid-off workers being left behind by market transition? How are minorities faring in China's transition? How does the emerging digital divide play into the dichotomies of east-west and urban-rural in China? What is the plight of millions of "floaters" migrating into China's cities, with minimal legal rights and protections? How has the one-child policy affected women, children, and society in China? The objectives of the course are 1) to offer exposure to a broad overview of social issues in contemporary China, and 2) to familiarize students with available resources for learning about Chinese society. The class will combine lectures, academic readings, narrative accounts, films, and discussions.

SPECIAL STUDY OF INTERNATIONAL RELATIONS IN THE EAST ASIA 2

(Fall)

東アジアの国際関係特殊研究Ⅱ

Soeya, Yoshihide

添谷 芳秀

Professor, Faculty of Law

法学部教授

Course Description:

This course is offered primarily as an introductory course for the "Three-Campus Comparative East Asian Studies Program," a collaborative program among the Underwood International College of Yonsei University, the Faculty of Social Sciences of the University of Hong Kong, and the International Center of Keio University.

The aim of the course is to give a general overview to the postwar history of international relations in East Asia as well as to more recent post-Cold War developments therein, including Japan's role and external relations in the region. It begins with an overview of the postwar evolution of East Asian politics and security, and proceeds to the discussions of U.S.-China-Japan relations after the Cold War, followed by the examination of the roles of the three countries represented by the three-campus program, i.e., China, Korea and Japan.

The course is thus divided into three parts. In **Part 1 and Part 2**, students are expected to read assigned articles for each week (30-50 pages in English) in order to familiarize themselves with the major issues and themes of postwar and post-Cold War international relations in East Asia. For these parts, **the enrolled students other than those in the three-campus program** are required to present a list of questions for discussion based on the assigned readings, both in writing (one page) and orally (5 minutes), at least once during the course.

Then, we will move on to **Part 3**, where **the students of the three-campus program** will take the role of leading the discussions relevant to the roles of their respective countries in contemporary East Asia.

DEVELOPMENT AND SOCIAL CHANGE

(Spring)

開発と社会変容

Kurasawa, Aiko

倉沢 愛子

Professor, Faculty of Economics

経済学部教授

Sub Title:

Effect of Development Policy and Social Change at Grass-roots Community in Indonesia

Course Description:

I will describe social changes brought by rapid and heavy development policy, taking a case of Indonesia. My analysis is based on field research in two sites (one urban and another rural) where I have been watching since 1996. I will focus on changes on such aspects as human relations within the community, flow of information and changes in communication mode, religious piety, life-style etc. I will show you video which I recorded at the research sites.

Through this course first of all I want you to get clear image on people's life in a relatively "unknown" world, and so doing, to reconsider such questions as what is "development" and what is "prosperity. Does economic development really bring you prosperity and happiness ?

Critical analysis and evaluation are most welcome.

WORLD OF SOUTHEAST ASIA

(Fall)

東南アジア世界の諸相

Nomura, Toru

野村 亨

Professor, Faculty of Policy Management

総合政策学部教授

Sub Title:

Understanding Contemporary & Historical Aspects

Course Description:

In this class, students are exposed to contemporary as well as historical aspect of Southeast Asia. The information acquired in this lecture will surely be quite useful for those who want to be engaged in business in this fast-developing region.

Sub Title:

Indian Identities and Japanese Policies

Course Description:

In August 2007, the Japanese prime minister Shinzo Abe, visited India as part of an emerging policy of building a bilateral relationship between India and Japan. He gave a speech outlining his concepts entitled, "Futatsu no umi no majiwari."

(<http://www.mofa.go.jp/region/asia-paci/pmv0708/speech-2.html>) The speech was replete with Indian cultural references as the title of speech came from a 17th century book *Confluence of the Two Seas* by a Mughal prince and a "history" of Japan-India contacts over the centuries. Some commentators saw the speech as a "paradigm shift" in Japan's foreign policy with South Asia. (<http://japanfocus.org/products/details/2514>) As part of this visit and policy, Japan became an official partner in the Delhi-Mumbai Industrial Corridor Project (DMIC) agreeing to finance 30 billion USD of the project. (http://commerce.nic.in/PressRelease/pressrelease_detail.asp?id=2090)

Yet there is a wide gap between public policy and public knowledge, particularly as it relates to the multi-ethnic nature of Indian histories and societies. To bridge this gap, there is a need within Japanese academic context, to focus on the multiplicity of identities that have emerged in India since the last century and their impact on the contemporary political world, especially Japan. This course will use an interdisciplinary approach to explore the varieties of India's past, the development of Indian identities through literature and language, and how all of this goes to form fragments of a nation and its multiplicities, rather than a "grand" unified narrative. Beginning with an examination of the histories of an Indian past, the course will proceed through lectures by representatives of the India Embassy, Indian multinational companies, Keio University and Sophia University faculties and the Japanese Foreign Service to develop a more comprehensive perspective of India and the historical and cultural connections that inform Japan's policies today.

The class will be conducted in English and reading and writing will be primarily in English.

Grades are also based on attendance classroom participation.

INDIA TODAY

(Fall)

現代インド事情

Nishimura, Yuko

西村 祐子

Lecturer, International Center (Professor, Komazawa University)

国際センター講師 (駒澤大学教授)

Sub Title:

An Introduction to Social and Cultural Studies of Post-Modern India

Course Description:

This course is aimed at describing India through the 'the middle class', studying the post-colonial socio-cultural history and current problems/burning issues of Indian society. In this course, participants will learn where India's new middle class is at, how globalization influences Indian people (including the diasporas). We will study how caste, class, kinship and gender are inter-related. We will also study the cultural difference between the North, the South, and the West and the East. The emergence of Indian civic sector such as NGOs and grassroots organizations will be discussed and we will study the collaborative efforts between the local government and the grassroots civic organizations. We will also discuss how increasing earning power of women is changing the social relationships. Students are encouraged to study issues from cross-cultural perspective. Essay writing and discussion will focus on understanding such issues as the modernity in Asia, the subalterns (marginalized communities), development and untouchability. Handouts are to be distributed as essential reading materials, and some internet websites are to be suggested for reading. Guest speakers will be invited from time to time.

INDIAN MUSIC

(Spring)

体系学としてのインド音楽

Hoffman, T. M.

ホッフマン, T. M.

Lecturer, International Center (Director, Indo - Japanese Music Exchange Association)

国際センター講師 (日印音楽交流会会長)

Sub Title:

Systematics, Mathematics, Linguistics and Poetics in Indian Music: Practical and theoretical studies in creative expression

数学・言語学・詩学・音楽学をむすぶ理論と実践

Course Description:

While Western music studies train individuals to follow a written script (notation) in a group situation featuring harmony, in Indian classical music the student is trained to improvise based on principles of melody and rhythm. This resembles the process of speech in language, where information and ideas are given form in verbal communication through spontaneous combination of phonetics and grammar. Proficiency in speech can also be nurtured through applying the time-tested theories and practices of Indian music. This is best achieved through the enjoyable study and practice of rhythm, melody and text in vocal music. This course will examine structural features of Indian music and apply them in experiencing the process of improvisation. Systematic exercises in rhythm and melody will introduce sophisticated concepts of time and space. Indian vocal music compositions will present language in relation to melody and emotion. Exercises for group, pair and individual will be introduced, and participants will be encouraged and assisted in composing and improvising upon their own creations. This course will promote understanding of the world of creative arts in general.

No prior experience in music or performing arts is required.

LISTENING TO ASIA

(Fall)

アジアの音楽

Hoffman, T. M.

ホッフマン, T. M.

Lecturer, International Center (Director, Indo - Japanese Music Exchange Association)

国際センター講師 (日印音楽交流会会長)

Sub Title:

Sounds Divine and Mundane in Nature, Language and Music

音楽・言葉・自然の音の構成・神性・魅力

Course Description:

We will become familiar with the sound culture of Asia, focusing on the various natural environments, languages and musics in the region with a view to discovering both distinctions and universalities that may also aid us in understanding other disciplines and regions. From their origins in classical India, Greece and China and evolution in other places and times, we will trace influences of sound in health, religion, society, politics, and material worlds of traditional and contemporary culture. Examining principles and examples of instruments, rhythm, melody, improvisation and composition, we will approach music as both art and science, and discuss its interface with mathematics and linguistics. We will try to be aware of cultural and economic development, regional identity and globalization, and gender and other factors facing the makers and consumers of sound culture, and recognize East-West and North-South exchanges that have shaped our respective musical and linguistic identities.

We will begin with a survey of the nature of sound and its use as a means of communication and expression, then travel through the sound cultures of Asia with the aid of audio-visual materials, live music demonstrations, and whatever other resources are available. Students will find opportunities for active participation, and to share their perceptions and experiences in class.

AUSTRALIA AND THE ASIA-PACIFIC REGION

(Spring)

オーストラリアとアジア太平洋地域

Ackland, Michael

アクランド, マイケル

Lecturer, International Center (Guest Professor, Center for Pacific and American Studies, University of Tokyo / Professor, Monash University)

国際センター講師 (東京大学アメリカ太平洋地域研究センター客員教授, モナッシュ大学教授)

Sub Title:

Records of a changing relationship in short fiction and film

Course Description:

This course introduces students to changing Australian attitudes to our common region, and to relevant, recent influential theories of racial and national interaction such as 'Orientalism'. It begins by examining notions of white supremacy and their origins, investigates the impact of successive waves of Asian immigration on Australian society, the development and eclipse of the White Australia policy, Australia's fluctuating attempts to engage with its region, and the growth of internal criticism of racist and paternalistic attitudes, as presented in a variety of short fiction and film. The first part of the course will trace these issues in the period up to, and including the First World War, the latter part will focus in particular on post-war Australia-Japan relations.

AREA STUDIES (THE UNITED STATES)

(Spring)

地域文化論 (アメリカ)

Okuda, Akiyo

奥田 暁代

Professor, Faculty of Law

法学部教授

Sub Title:

Multicultural History of the United States

Course Description:

One in three Americans is now a member of a minority group. The heated national debate on how government should respond to illegal immigration reveals the country's anxiety about the changing face of America. Yet the United States has always been multiracial/multicultural and indeed shaped by the presence of diverse groups. The objective of this course is to promote the student's understanding of American history and culture by exploring the diverse experiences of these "minorities" in the United States. The approach is primarily historical and assumes that the culture we describe as American derives its special characteristics from the presence of multiracial/ multicultural Americans. Emphasis will be placed on contemporary public issues as well as on historical events. We will examine specifically the continuities and changes in the lives of Native Americans, African Americans, Japanese Americans, and Mexican Americans, and see how their experiences relate to the history of the United States. By means of discussion, lectures, reading, writing, and class presentation, this course will provide new insights and perspectives into American history and culture.

AMERICAN STUDIES

(Fall)

アメリカ研究: アメリカの歴史・文化と外交政策

Williams, Mukesh K.

ウィリアムス, ムケーシュ

Lecturer, International Center

国際センター講師

Sub Title:

American History, Culture and Foreign Policy

Course Description:

Rationale: After the collapse of the Soviet Union in 1991 the United States emerged as the most important nation in the world. Every nation has some kind of relationship with the United States, which is either profitable or unprofitable. No nation can ignore the United States or fail to understand its history, culture and foreign policy. Most nations therefore include American Studies as a part of their academic, bureaucratic and administrative orientation. Since the nineteenth century nation states especially America have tried to define key words and ideas relating to freedom, welfare, civil

rights, sovereignty, representation, democracy and religion to create a composite intellectual and political culture. The American Studies Program will introduce students to the integrated disciplinary study of American history, culture and foreign policy and help them to understand how Americans and non-Americans think about America. The students will get an opportunity to:

1. acquire presentation and negotiation skills
2. learn new concepts, methods and vocabulary
3. understand stereotypes of knowledge, reason/critical thinking, culture, gender and politics (bias, manipulation, prejudice, discrimination and hegemony)
4. synthesize diverse opinions and perspectives from within and outside America
5. develop skills to write/think purposefully and strategically
6. acquire the habit to pursue knowledge independently and scientifically

CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE

(Fall)

カナダという国とカナダの国際的な役割

Yellowlees, James

Lecturer, International Center (Director-Japan, Canadian Education Alliance)

イエローリーズ, ジェームズ

国際センター講師 (カナダ教育連盟日本代表)

Sub Title:

Canada's Vast Potential

Course Description:

We will learn about the various key aspects of Canada as a nation, including the history, economy, society and international role of Canada. It is an interactive class so participants will be expected to contribute each class.

LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS

(Spring)

世界政治におけるラテンアメリカ

Antolinez, Mario

Lecturer, International Center

アントリネス, マリオ

国際センター講師

Course Description:

The countries of Latin America and the Caribbean form a vast and complex part of the Western Hemisphere. Although the strategic geopolitical relevance of the region has been recognized, Latin American values and attitudes regarding politics, business and life in general remain profoundly misunderstood, if not totally unknown by many. Not surprisingly, what people think they know about the region is based on unfair stereotypes and generalizations generated by some dramatic event covered by the world media.

Thus, the main objective of this course is to foster a greater understanding of the region's realities. The course is designed as a multidisciplinary study focusing on Latin American politics, economics and foreign policy, and it is divided in two parts. Part I deals with the main features of Latin America as a region, while Part II consists mainly of a country-by-country approach.

EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS

(Fall)

Hayashi, Hideki

Lecturer, Faculty of Economics (Global Strategist, Mizuho Financial Group/Shinko Securities Co., Ltd.)

林 秀毅

経済学部講師 (みずほフィナンシャルグループ・新光証券グローバルストラテジスト)

Course Description:

This course is offered in English. The goal is to broaden and deepen students' knowledge in EU-Japan relations, mainly on the economic aspects, as well as on the political and social aspects.

Whole lecture is divided into two parts: in part1, each lecture will be based on different chapters of Gilson(2000) and in part2, the national economy of EU countries and its relations with Japan will be discussed. Related statistics and case studies are also introduced in both parts.

In each lecture, Powerpoint will be used for exposition.

As it is expected to be a small class composed of Japanese and non-Japanese students, active questions and comments by students are welcome.

Students are supposed to submit a report on one of the questions based on each lecture and submit it at the beginning of the next lecture.

AFRICAN ISSUES : THE MEANING OF MODERNITY AND CRISES IN AFRICA

(Spring)

アフリカン イシューズ : アフリカにおける近代と危機の意味

Kondo, Hidetoshi

Lecturer, International Center (Associate Professor, Kansai Gaidai University)

近藤 英俊

国際センター講師 (関西外国語大学准教授)

Sub Title:

Social and Cultural Aspects of AIDS Epidemic in Africa

Course Description:

Children, who are emaciated with protruding bellies and fly-infested faces, are crying for food, or worse, already motionless in their mothers' arms. For many, such a shocking scene is typically associated with Africa. This popular imagery has its origin in mass media that are often sensationalistic as to African coverage. The truth is that Africa is the continent of wonderfully rich and diverse cultures, where people live their vibrant everyday life. Yet, from this, it does not immediately follow that Africa is a trouble-free region. Just as Japan and other industrial countries have many social problems, Africa does have critical issues to be pursued.

This course is intended to explore some of the major problems that Africa is currently facing. This year we will focus on the issues of HIV and AIDS in Africa. Using wide range of academic disciplines, we will explore the social and cultural aspects of African AIDS epidemic. Thus, the topics we deal with include: (1) history of HIV and AIDS in Africa, (2) popular conceptions and therapy management of AIDS, (3) AIDS epidemic in the context of urbanization and social mobility, (4) AIDS and gender relations, (5) AIDS and children, (6) The role of the state, international organizations and NGO, (7) AIDS and pharmaceutical industry.

Sub Title:

Sub-Saharan Africa

Course Description:

Focus: Japanese Policies in Southern Africa: Trans-National Issues/ Individual Response

In an increasingly connected world, there are no specialty areas. Integration into a growing global economy encompasses both economic and trans-economic issues. At the Davos World Economic Forum 2001, the term “culturnomics” was coined to define how various intellectual disciplines needed to be combined in order to gain a more complete view of the issues facing a “global” economy. This course will focus on a particular area, Sub-Saharan Africa and the various issues: political, cultural, economic and environmental, that the people of this region face as they look to integrate into the “global village.” Speakers from the various embassies of the region will be invited to speak on the theme of global economy, culture and change and the impact of Japanese policies within the region.

As the countries of sub-Saharan Africa attempt to formulate policies in areas such as HIV care and education, sustainable development, conflict management and the growth of open societies, these policies connect with similar policies and issues around the world. Japan has made aid for African nations and support for the New Partnership for Africa's Development a major part of its international policy. In 2004, Japanese Prime Minister Junichiro Koizumi pledged \$1 billion for education and health care in Africa making Japan one of the major aid donors for Africa. Next year at the fourth Tokyo International Conference on African Development these efforts will face a renewed evaluation.

(<http://www.jica.go.jp/english/resources/field/2007/aug30.html>) Yet, there is an “information gap” between the policies and intents of the Japanese government and business community and the response and knowledge of the Japanese citizen as to the recent history, the varied cultures and issues in Africa today, and the goals and effects of the Japanese policies themselves.

This is course will be an introduction for students interested in issues affecting global governance and Africa. Through a series of lectures offered by ambassadors and embassy officials from the S.A.D.C. group, (<http://www.mbeni.co.za/orsadc.htm>) students will explore the variety of links diplomatic, educational, economic and cultural that tie Japan to contemporary Africa, and the possibilities of active response by the individual Japanese consumer.

Each student will be expected to join a study group that will focus one of the African countries represented by the speakers. The groups will research and present on the ties and programs between their “study” country and Japan on the focus issue of the course. This year, the focus will be on the individual consumer as an active participant in development policies.

COMPREHENSIVE STUDIES OF INTERNATIONAL RELATIONS

(Spring)

国際関係概論

Abe, Tadahihiro

安部 忠宏

Ambassador extraordinary and plenipotentiary, Ministry of Foreign Affairs of Japan

外務省特命全権大使

Sub Title:

Multi-Faceted International Relations

Course Description:

At the outset of the 21st century, people expected that they could enjoy real peace and prosperity in the new century as a member of the international community where the global structure turned into the post-Cold-War regime from the Cold-War regime. The reality, however, was to the contrary as we see various incidents taking place in the international arena: From terrorist attacks to the alleged nuclear arms development in the supposedly war-less world with the prevailing Non Proliferation Treaty and so forth. Prospect of economic development in one country is more hinged upon politically maneuverable supply of energy and natural resources in the international markets, etc.

People are living in the age of uncertainty. It is becoming more important for us, under these circumstances, to understand international relations in a more comprehensive manner. We need to think about our future based on an accurate knowledge on the reality of the multi faceted international relations built upon various kinds of causality among various factors such as economy, politics and security considerations.

So, in my lecture, I would like to focus on major playing factors and mechanisms supporting the multi-layer international/regional relations, such as ASEAN, APEC, NATO, OSCE, NPT, WTO as well as Japanese bilateral relations with the US, North-Eastern/South-Eastern Asian countries and European countries. I also intend to touch on horizontal issues such as International Economy/Trade, Human Security, Development Assistance, etc. Eventual target of my lecture is to explore the possibility of working together with students a kind of global mechanism which may help us to materialize real peace and stability for the people in the future generation.

CONTEMPORARY GLOBAL ISSUES AND THE ROLE OF THE UNITED NATIONS

(Fall)

現代の国際問題と国連の役割

Malik, Rabinder N.

マリク, ラビンダー

Lecturer, International Center

国際センター講師

Sub Title:

Multi-disciplinary approach to the study of major global issues that confront the world community in the 21st century, and the role of the United Nations and International Organizations in addressing these issues.

Course Description:

A critical review and assessment will be undertaken of the origin and present condition of the major global issues and problems and how these are being addressed by the national governments and the international community. Special attention will be paid to the role of the United Nations and other International Organizations as a tool of global governance in addressing these issues. We shall also explore ideas and concepts of peace and security, human rights, coexistence among peoples of different cultures and other critical global issues such as poverty eradication, environmental degradation, aging society and gender issues.

The objective of the course, which is suitable for students from all faculties, is to enable the students to gain a better understanding of the world around them and about the role of the United Nations so that they are able to evaluate current and future international trends and formulate their own well thought-out opinions based on facts. It should help enhance the trans-cultural literacy and competence and enable them to interact with confidence with peoples of different cultural backgrounds and orientations in an interdependent and interlinked world.

Group discussions will be an important part of the course, which will be conducted in English.

The course is open to students from all faculties.

INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION

(Fall)

国際開発協力論

Goto, Kazumi

後藤 一美

Lecturer, International Center (Professor, Hosei University)

国際センター講師 (法政大学教授)

Course Description:

The twenty-first century is an era of global governance. The realm of contemporary international relations has seen the commencement of new political attempts to gradually reform existing systems in complex governance with different players and multi-tiered networks for the creation of a convivial global society, in which the common values of peace, prosperity and stability are pluralistically shared, overcoming the risks of asymmetry and tit-for-tat sequences. In this new political initiative towards an unknown world, there are some critical challenges, including the pursuit of public goals in the international community and of effective measures to reach them. In the new world of international development cooperation, aid donors and aid recipients have different dreams yet lie in the same bed with a dynamic and tense relationship. By reviewing frontline efforts in international development cooperation with a view towards sustainable growth and poverty reduction from the perspective of cooperation policies, this course is intended to provide some basic foundations and applications for the management of international development cooperation with students that are interested in the main issues of poverty and development in the developing regions, and that wish to be involved in the world of international development cooperation in the future. Several guest speakers shall be invited from international aid agencies.

LAW AND DEVELOPMENT

(Fall)

開発法学

Matsuo, Hiroshi

松尾 弘

Professor, Law School

法務研究科教授

Sub Title:

Institutional Reform through Law to Get the Good Governance

Course Description:

This course aims to provide with the basic knowledge of Law and Development from a practical as well as a theoretical aspect. Development can be regarded as a comprehensive institutional reform of a society, in which a number of informal rules have been binding and restricting the attitudes and behaviors of its members. However, it is sometimes difficult for societies to reform their institutions for themselves when they are heavily burdened by the conventions maintained by the strict regimes. As the international societies have been more and more globalizing, it is becoming duties for each society to assist others to undertake their institutional reform.

Although it would be hard for us to expect the international societies to establish the world government, we should be able to keep our security by getting the global governance, which consists of the good governance of each state in the world. Good governance may be obtained through the institutional reform led by the good government, markets and firms, and civil societies, which are mutually assisted and assisting in their own functions. Law may be a strong measure to facilitate such an institutional reform to get good governance, and the legal assistance activities among nations should promote the global governance, which might be the only path to the international security and peace. In this context, we should explore the indicators of governance and the way by which developed countries can cooperate with developing countries to accomplish their legal reform that actually leads to development.

THIRD WORLD DEVELOPMENT AND THE POOR

(Fall)

第三世界の開発と貧困

Bockmann, Dave

ボックマン, デイヴ

Lecturer, International Center (Consultant)

国際センター講師 (コンサルタント)

Sub Title:

Lessons from the Developing World

Course Description:

This course is designed to increase the student's awareness of third-world communities and the challenges they face in overcoming poverty. The U.N. Millennium Development Goals promise to end poverty by 2015. The goals are lofty and costly, but will they actually help the poor? Based on the lecturer's 30 years of community development experience in the U.S. and India, another approach, that of small locally based projects bringing real and immediate change to real people's lives will be examined. In this course, students will learn about:

- **Self Help Groups (SHGs):** How SHGs are organized and why. How the SHGs improve the financial stability of families and enhance the status of women.
- **Micro-Finance:** How small loans, often times of less than \$100, can move whole families out of poverty.
- **Appropriate Technology:** How, when the poor themselves are involved, appropriate technologies can be successfully conceived, designed and implemented by developing communities. Learn some of the skills required to help implement actual projects.
- **Culture and social-economic** factors that must be taken into account in planning and implementing development projects.
- **Hands-On Case-Study:** Working in small groups, the students will identify real 'problems' facing poor people in the developing world and propose a plan to solve the problem.

Sub Title:

Issues, procedures, and advocacy strategies regarding the promotion and protection of human rights worldwide

Course Description:

Students will study five different aspects of international human rights including:

(1) Procedures for implementing international human rights involving state reporting to treaty bodies; individual complaints; thematic, country rapporteurs, and other U.N. emergency procedures for dealing with gross violations; humanitarian intervention; criminal prosecution and procedures for compensating victims; diplomatic intervention; state v. state complaints; litigation in domestic courts; the work of nongovernmental organizations; etc.

(2) Major international institutions including the human rights treaty bodies; the U.N. Commission on Human Rights and its Sub-Commission on the Promotion and Protection of Human Rights; the U.N. Security Council; international criminal tribunals; the International Criminal Court; U.N. field operations authorized by the U.N. Security Council or under the authority of the U.N. High Commissioner for Human Rights; the Inter-American Commission on and Court of Human Rights; the European Court of Human Rights and other parts of the European human rights system; the U.N. High Commissioner for Refugees; and the International Labor Organization

(3) Human rights situations in various countries such as South Africa, Iran, Myanmar, East Timor, Kosovo, Cambodia, former Yugoslavia, the Democratic Republic of Congo, Japan, the United States, Europe, Sudan, Ghana, and India

(4) Substantive human rights problems related to the rights of the child, economic rights, the right to development, torture and other ill-treatment, minority rights, the right to a free and fair election, human rights in armed conflict, crimes against humanity, arbitrary killing, indigenous rights, self-determination, discrimination against women, the rights of refugees, etc.

(5) Learning methods such as advising a client, role-playing, the dialogue methods, drafting, and advocacy in litigation

INTRODUCTION TO PRINT JOURNALISM

(Spring)

プリントジャーナリズム入門

Holley, David

ホーリー, デイヴィッド

Lecturer, International Center

国際センター講師

Sub Title:

Reporting on the World Around You

Course Description:

This course will cover the basics of journalistic writing. Students will get practice in writing both in a wire-service style and in the kind of feature approach favored by many newspapers and magazines for longer articles. Students will write articles both as quick in-class exercises and as homework assignments that require interviews. Journalistic ethics will be addressed, as will trends in the media business. The course will help students improve their writing and give them increased confidence in approaching and interviewing strangers.

COMMUNISM'S COLLAPSE

(Fall)

共産主義の崩壊

Holley, David

ホーリー, デイヴィッド

Lecturer, International Center

国際センター講師

Sub Title:

States in Transition

Course Description:

This course will examine three models of how political systems can change. South Korea and Taiwan will be viewed as examples of transition from the authoritarianism of several decades ago to today's democracy. Post-1989 Eastern Europe will be studied as an example of Communist states quickly becoming democratic. China and Russia will be examined as cases where Communism has mutated into capitalist authoritarianism with many political features similar to Taiwan and South Korea of the 1970s and 1980s. Particular attention will be paid to the 1980 Kwangju Incident in South Korea, the 1989 Tiananmen Square protests and subsequent crackdown in China, and the role of Mikhail Gorbachev in the collapse of Communism in the Soviet Union and Eastern Europe. Students will consider what can be learned from these transitions of past decades in thinking about possible future paths for China and Russia. What factors might cause China and Russia to follow the same type of path to democracy as South Korea and Taiwan, and what might cause them to develop in other directions?

LITERATURE AS HISTORY

(Spring)

歴史としての文学

Chandra, Elizabeth

チャンドラ, エリザベス

Lecturer, International Center

国際センター講師

Sub Title:

The Colonial Experience

Course Description:

This course will consider issues in historiography, particularly the use of fiction as source. Filling in the gaps in the so-called conventional historiography, literary works provide what institutional libraries, judicial/criminal proceedings, church records, civil registry, and state archives fail to capture. They have the capacity to represent the fine curves of the political landscape, the nuances of cultural connotations, the minute features in social relations, and the complexity of human emotions.

The colonial experience is precisely a context that calls for such “sensitive” historical inquiries due to the cultural gap between our Western intellectual tradition and the colonized people’s particular schemes of culture. The fact that most records from the colonial period were produced by and spoke from the point of view of “power” further complicates historical reconstruction of the encounter.

For this course we shall consider novels, short stories and films, and attempt to catch glimpses of the colonial experience as diverse and intimate as the domestic order, racial negotiation, sexual taboos, humor, paranoia, and melancholia.

VISIONS OF THE PAST: REPRESENTING HISTORY ON FILM

(Fall)

比較映画論

Ainge, Michael W.

エインジ, マイケル W.

Associate Professor, Faculty of Economics

経済学部准教授

Course Description:

Films about the past are often dismissed by historians as trifles. In this course, we will consider the conventions of representing history on film, starting with mainstream Hollywood historical drama, and then consider alternatives which have arisen in opposition to the dominant American mode, in various countries around the world. Readings in film criticism and in History will complement the films whose viewing constitutes the main homework for the class. No previous experience in Film Studies is required. Students will be introduced to basic critical and technical language to discuss films, and thus will learn to distinguish between personal taste (“I liked this film,” “I hated it.”) and analytic evaluation (using various intellectual and artistic standards to judge a film). Needless to say, issues related to cultural differences will arise throughout the semester, and no doubt form an important part of class discussions.

CULTURE, CULTURAL ADJUSTMENT, AND IDENTITY

(Spring)

文化・文化適応とアイデンティティ

Yokokawa, Mariko

横川 真理子

Lecturer, International Center

国際センター講師

Sub Title:

How communication and understanding are affected by culture

文化がコミュニケーションと相互理解に与える影響

Course Description:

This course examines the impact of cultural values and beliefs, the process of cultural adjustment, the formation of cultural identity, and the relationship between language and culture. Third Culture Kids (Global Nomads) and returnees will be studied along with other topics related to culture, cultural adjustment, and communication across cultures.

In addition to the readings, students will be given opportunities to discuss critical incidents on instances of cultural misunderstanding, do presentation, as well as other projects.

DISCOVERING CULTURE THROUGH OBSERVATION

(Fall)

文化観察による発見と理解

Yokokawa, Mariko

横川 真理子

Lecturer, International Center

国際センター講師

Sub Title:

Doing Observational/Ethnographic Studies to Understand Culture

観察研究により文化理解を深める

Course Description:

When one encounters different behaviors and assumptions in a different culture, often the immediate reaction is one of irritation and confusion. “What is wrong with THESE people?”, we ask. Actually, people in a particular society are behaving according to patterns that make sense within the larger framework of their culture. This course is designed to discover those patterns through conducting observational/ethnographic studies on the behavior of people in different settings.

After explaining the concepts of culture and subculture, the methods used in observational studies will be introduced. Students will be given an opportunity to do observational studies on their own or in groups, discovering both behavioral patterns and the cultural patterns that underlie those behavioral patterns.

Students will be asked to come up with tentative behavioral and cultural patterns gleaned from their observations, and present their findings to the class, opening their study to discussion. They will then be asked to go back and reaffirm or modify their observations, which will result in a final report.

Through their own study and those of the others, students are expected to gain a deeper understanding of both the culture they observe and of their own unconscious cultural patterns.

CULTURE AND THE UNCONSCIOUS

(Spring)

異文化と自己理解

Shaules, Joseph

ショールズ, ジョセフ

Lecturer, International Center (Director, Japan Intercultural Institute)

国際センター講師 (異文化教育研究所所長)

Sub Title:

Looking for the hidden roots of deep cultural difference

Course Description:

Culture has two sides, a visible side – food, clothing, architecture – and a hidden side of unconscious beliefs, values and assumptions. In this course we will learn the story of the discovery of hidden culture. We will explore culture’s unconscious influence over us, and see how hidden cultural difference creates conflict in relationships and communication. This will involve learning hidden patterns of cultural difference related to things like:

time, personal space, cooperation, independence, fairness, equality, emotion. Students will discuss their intercultural experiences, share their opinions and give presentations. The ultimate goal of this course is a deeper self-understanding.

LEARNING FROM LIFE ABROAD

(Fall)

海外生活から学ぶ

Shaules, Joseph

ショールズ, ジョセフ

Lecturer, International Center (Director, Japan Intercultural Institute)

国際センター講師 (異文化教育研究所所長)

Sub Title:

Internationalism and the cultural learning process

Course Description:

Traveling, living abroad and dealing with people from other cultures sometimes leads to understanding, tolerance and rich human relations. At other times, it increases stereotypes, creates conflict, causes culture shock and even identity crises. In this course, we will study this process of cultural learning. We will look at the stages that sojourners (travelers, expatriates etc.) go through when adapting to new environments, including how one's view of the world, values, and even identity can change. We will try to understand what it means to be "international" or "bi-cultural". The emphasis will be on the personal cultural learning experience, rather than geopolitical issues. There will strong emphasis on student discussion, student presentations, and students' intercultural experiences.

HUMAN ENGINEERING

(Spring)

人間工学

Waniek, Jacqueline

ワニェク, ヤクリーン

Lecturer, International Center

国際センター講師

Sub Title:

Human Factors

Course Description:

The ergonomic design of products, working systems and interfaces focuses on designing a comfortable environment, and aims to prevent damages and accidents. Goal of the course is to provide an overview of the interdisciplinary field ergonomics. Furthermore the course intends to help students to understand what impact ergonomic product design has for our environment and in our everyday life. The course introduces various aspects of ergonomic design such as "Universal Design", "Accessibility" or "Emotional Design", demonstrates methods for the evaluation of products and systems, and discusses future trends. By means of practical examples students will experience the importance of an ergonomic design of products and systems. Discussions will help participants to clarify the goals of ergonomic design, and to understand its potential and its feasibility.

HUMAN RESOURCE MANAGEMENT FROM A PSYCHOLOGICAL PERSPECTIVE

(Fall)

心理学的観点から見る人材管理

Waniek, Jacqueline

ワニェク, ヤクリーン

Lecturer, International Center

国際センター講師

Course Description:

Human Resources are the most valued assets in an organization and a critical success factor in business. Goal of Human Resource Management (HRM) from a Psychological Perspective is to enable employees to contribute to the enterprise productively. This course focuses on HRM from a psychological perspective. The employee is seen as an individual person with own motives, attitudes, emotions and goals that have to be considered in business management. Basic HRM topics such as Leadership, Recruitment, and Training are discussed as well as factors that affect employees' well-being and performance. The course intends to prepare students for their later working life and helps them to understand how to create a working environment that ensures employee well-being and enhances productivity.

Sub Title:

Security Issues in Southeast Asia

Course Description:

This seminar offers a comprehensive understanding of Southeast Asia's international relations from the standpoint of non-traditional security. Non-traditional security broadens the scope of security analysis from traditional politico-military affairs to embrace non-traditional security issues like environmental degradation, global circulation, and socio-economic stability. It points out the importance of considering multiple security referents – the state, civil society, individuals, and transnational cooperation. By referring to various case studies, the seminar helps explain how specific issues become framed as matters of national security. The course thus identifies the spectrum of forces that shape security discourse and practice in Southeast Asia.

PROJECT 2: SEMINAR ON EUROPEAN INTEGRATION

(Fall)

プロジェクト科目Ⅱ・欧州統合

Tanaka, Toshiro Professor, Jean Monnet Chair

田中 俊郎 ジャン・モネチェア教授

Course Description:

The European Union strives to establish a new order in Europe. While the EU attempts to deepen its construction through the Maastricht Treaty, the Amsterdam Treaty, the Nice Treaty and the Lisbon Treaty, it has enlarged its scope to South and East, from 15 to 27 member states by January 2007.

This year, the seminar will focus on the enlargement and the deepening of the EU, trying to shed more lights on the historical development, to analyze its problems and outline future perspectives on the subject.

SPECIAL LECTURE OF ETHICS 3B

(Spring)

倫理学特殊講義 III B

Ertl, Wolfgang Associate Professor, Faculty of Letters

エアトル, ヴォルフガング 文学部准教授

Course Description:

In the opinion of many commentators, the spirit of Kant's philosophy is anti-metaphysical, anti-theological and diametrically opposed to a religious point of view. Taking a look into Kant's writings, however, it becomes clear rather quickly that the frequent remarks about God cannot be a mere concession to the feeble minded readers, as Heine and Schopenhauer wanted to make us believe. Rather, for Kant religion is an integral element in the realization of the demands of morality. But in order to be compatible with the autonomy of practical reason, religion itself needs to be subjected to the process of enlightenment and philosophical critique.

This is precisely what Kant is doing in his late work under consideration. As it will turn out he (rather than Hegel) is giving us something like a rational reconstruction of Christianity. This reconstruction provides us with the full picture of Kant's moral theory, which can only be fully understood in the overall framework of his practical philosophy.

In this respect, the following features of his moral theory are of particular interest: 1) its anti-individualistic nature, 2) the reconciliation of a cosmopolitan dimension with the particularity of political entities, 3) the interplay of ethics and law in bringing about perpetual peace, 4) the role of the rationally reconstructed theological virtues in moral, motivation.

We will also take a fresh look at the famous royal reprimand which this work provoked and which forced Kant to promise not to publish anything dealing with religious questions again. Usually, this incident is seen as a close parallel to the cases of Wolff's dismissal from Halle earlier and Fichte's removal from Jena later. As we shall see, though, this standard interpretation is highly questionable.

In the spring term we will look at the first and the second "piece" of the text which deal with the notion of radical evil in human nature – a doctrine which many commentators find rather irritating – and with the doctrine of Christ as the personified idea of the principle of good respectively.

倫理学特殊講義 IVB

Ertl, Wolfgang Associate Professor, Faculty of Letters

エートル, ヴォルフガング 文学部准教授

Course Description:

In the autumn term we turn to pieces three and four. Piece three deals with the role of the ethical community, i.e. the enlightened universal church — encompassing all Christian and possibly also non-Christian creeds — in the realization of the highest good. Piece four consists of an account of the requirements religion must meet in order to be in accordance with critical philosophical principles. This involves rather straightforward claims about which aspects of established religion need urgent reform or even abolishment.

ADVANCED STUDY OF FINANCE

(Fall)

金融特論

Fukao, Mitsuhiro Professor, Faculty of Business and Commerce

深尾 光洋 商学部教授

Course Description:

Corporate Governance and Financial System

The governance structure of limited liability companies that stipulates the relationship among the management, stockholders, creditors, employees, suppliers and customers is important in determining the performance of the economy. Although the OECD countries are generally characterized as market economies, there are considerable differences among these countries in the organizational structure of the economy.

One of the major aims of this course is to understand the institutional differences in corporate-governance structures of companies in major industrial countries including the United States, Japan, Germany, France and the United Kingdom. The differences in the corporate-governance structure have a number of implications for the performance of companies. For example, the cost of capital and the effective use of human resources would be affected by this structure.

In recent years, the deepening international integration of economic activities has heightened awareness of cross-country differences in corporate-governance structure and putting strong pressures for convergence in some aspects of corporate governance systems. The course will also survey these trends.

1. General Concept

Fukao, Mitsuhiro, *Financial Integration, Corporate Governance, and the Performance of Multinational Companies*, Brookings, 1995.

2. Hostile Takeovers

Shleifer, Andrei, and Lawrence H. Summers, "Breach of Trust in Hostile Takeovers," in *Corporate Takeovers: Causes and Consequences*, edited by Alan J. Auerbach, University of Chicago Press, 1988.

Roe, Mark J. "Takeover Politics," in *Deal Decade*, edited by M. Blair, 1993.

3. Elements of Governance

Kaplan, Steven N., "Top Executive Rewards and Firm Performance: A Comparison of Japan and the United States," *JPE*, Vol. 102, No. 3, June 1994.

Christine Pochet, "Corporate Governance and Bankruptcy: a Comparative Study," *Cahier de recherche no. 2002 - 152*, Centre de Recherche en Gestion, IAE de Toulouse.

Naoto Osawa, Kazushige Kamiyama, Koji Nakamura, Tomohiro Noguchi, and Eiji Maeda, "An Examination of Structural Changes in Employment and Wages in Japan," *Bank of Japan Monthly Bulletin*, August 2002.

Black, Bernard, "Creating Strong Stock Market by Protecting Outside Shareholders," remarks at OECD/KDI conference on Corporate Governance in Asia: A Comparative Perspective, Seoul, March 3-5, 1999.

Jolene Dugan, Fahad Kamal, David Morrison, Ali Saribas and Barbara Thomas, *Board Practices/Board Pay 2006 Edition*, Institutional Shareholder Services, 2006.

William C. Powers, Jr., Raymond S. Troubh, and Herbert S. Winokur, Jr., "Report of Investigation by the special investigative committee of the board of directors of Enron corp.," February, 2002.

4. Financial System

Fukao, Mitsuhiro, "Japanese Financial Instability and Weaknesses in the Corporate Governance Structure," *Seoul Journal of Economics*, Vol. 11, No. 4, 1998.

Fukao, Mitsuhiro, "Financial Crisis and the Lost Decade," in *Asian Economic Policy Review*, Vol.2 No.2, Blackwell, 2007, pp. 273-297.

INTERNATIONAL ECONOMY

(Spring)

国際経済

Kashiwagi, Shigeo Professor, Graduate School of Business and Commerce

柏木 茂雄 商学研究科教授

Course Description:

The objective of this course is to discuss and understand how international economic issues are being addressed by policy makers around the world.

The course will take up issues such as those related to global economic situations and various policy issues that have recently arisen in the international context. Students will have the opportunity to study and discuss the challenges imposed on policy makers in the current globalized world. The focus of the discussions will be on issues that are particularly relevant to developing countries and will be discussed from the perspective of policy makers. The class discussions will enable students to familiarize themselves with these issues and to engage in discussions in a more informed and effective manner.

There will be no textbooks. Handouts and/or copies of background material will be distributed from time to time. Students are expected to make presentations on his/her assigned papers and engage in active class discussions.

Issues to be covered include the following (subject to change)

- Introductory discussions
- The world economic outlook
- The global financial crisis
- The global imbalance
- The role of the IMF
- Climate change and economic policies
- Poverty reduction and economic development
- Aid effectiveness
- Foreign direct investment
- The role of effective institutions

This course will be organized as a combination of lectures and seminars, and will be conducted in English. The emphasis of this course will be more on what is happening in the real world and less on theoretical aspects of the issues. There are no pre-requisites for this course, but it would be preferable and advisable for students to have strong interest in and basic knowledge about international economics.

Evaluation will be based on attendance, class participation and presentation of a term paper to be prepared on a relevant topic towards the end of the semester.

ADVANCED STUDIES OF INTERNATIONAL RELATIONS

(Fall)

国際関係特論

Kashiwagi, Shigeo Professor, Graduate School of Business and Commerce

柏木 茂雄 商学研究科教授

Course Description:

The objective of the course is to discuss and understand the policy implications of economic globalization.

The course will provide opportunities for students to examine various aspects of policy issues that have arisen from the increased integration of economies and the emergence of many global issues. Students will review the challenges imposed on policymakers from globalization and explore ways to enhance international cooperation to meet these challenges. Classroom discussions will enable students to follow and understand the discussions that are taking place at various international meetings and to engage in more informed and effective discussions on various issues related to economic globalization. The focus of the discussions will be on issues that are particularly relevant to developing countries and will be discussed from the perspective of policy makers. The emphasis will be more on what is happening in the real world and less on theoretical aspects of the issues.

The course will be organized as a combination of lectures and seminars, and will be conducted in English. There will be no textbooks. Handouts and copies of background material will be distributed from time to time. Students are expected to make presentations on his/her assigned papers and engage in active classroom discussions.

Issues to be covered include the following (subject to change):

- Introductory discussions
- Globalization and macroeconomic policies
- Globalization and fiscal policies
- Financial globalization
- Globalization of labor
- Globalization and trade policies
- Globalization and income inequality
- Policy coherence for development
- Globalization and regional integration
- Global governance

Evaluation will be based on attendance, class participation and presentation of a final report to be prepared on a relevant topic towards the end of the semester.

日本研究講座 (JAPANESE STUDIES)

LANGUAGE BEYOND GRAMMAR

(Spring)

日本語の話しことばと言外の意味

Kim, Angela A-Jeoung

Assistant Professor, Center for Japanese Studies

キム, アジョン

日本語・日本文化教育センター専任講師

Sub Title:

Expressing 'something else' beyond information— markers and functions in spoken Japanese

Course Description:

Mastering the grammar of a particular language does not guarantee a successful communication with a native speaker of that language. This is because language not only functions as a medium through which information can be conveyed, but also as a conduit for the speaker's attitude/emotions. The objective of this course is to encourage a more profound understanding of the functions of language that exist beyond referential meaning, with particular attention given to markers and their uses in Japanese. An understanding of this aspect of language, and the function of particular markers, will lead to a deeper understanding of communication in Japanese in general. This course comprises three main parts: (i) general review of the non-referential function of language; (ii) the case of English briefly reviewing markers such as *you know, I mean, like*; and just and (iii) the case of Japanese which will include markers such as *ne, yo, -janai, datte, maa, nan(i), no*, and *yappari* etc.

TWENTIETH-CENTURY JAPANESE AND WESTERN SHORT FICTION

(Spring)

20世紀の日本と欧米の小説

Raeseide, James

Professor, Faculty of Law

レイサイド, ジェイムス

法学部教授

Sub Title:

Comparative Readings

Course Description:

In these classes we will attempt to understand something of the nature of Japanese fiction writing by comparative close reading of Japanese texts with those by Western (European and American) writers. Evidence of influence and assimilation may be observable from West to East, particularly in the early years of the 20th century, but in all cases we will attempt to identify both what is distinctive, and what the different traditions have in common. By close reading and comparative analysis we should be afforded some useful insights into Japanese prose fiction writing—particularly that of the short story.

Each class will focus on a pair of texts: one by a Japanese and one by an American or European writer. The texts chosen will be relatively short: wherever possible, complete short stories. All texts will be discussed on the basis of their English language translations and the language of discussion will be English. However, the original Japanese texts will also be distributed and native speakers of Japanese are particularly encouraged to use their knowledge of the original language to add to the discussion. Those students with knowledge of European languages other than English are also welcome to use this knowledge in discussion, where appropriate. However, the original versions of texts in languages other than Japanese will not be provided. In any case, it is imperative to the functioning of the class that all participants make time to read the set texts beforehand, and be prepared to talk about them in detail. Only those who have made this effort will be able to participate usefully in the discussion.

JOURNEY THROUGH THE FLOATING WORLD

(Spring)

浮世と道行き

Armour, Andrew

Professor, Faculty of Letters

アーマー, アンドルー

文学部教授

Course Description:

This course focuses on the pre-modern Japanese literature of the Edo period (1600-1867). Marking a contrast with both the war tales of the samurai and the contemplative works of the solitary priests, much of the literature of this period reflects the concerns and tastes of the common townspeople. It was their prosperity and vitality that spurred the growth of printed literature and popular drama, encouraging men like Saikaku, Bashō, Chikamatsu and Akinari. As well as the "floating world" of prose fiction, we shall be covering such topics as haiku poetry and love suicides in the puppet theatre.

JAPANESE LITERATURE

(Fall)

日本の文学

Armour, Andrew

Professor, Faculty of Letters

アーマー, アンドルー

文学部教授

Course Description:

This course is intended to cover the history of Japanese literature from earliest times up to the modern era. Starting with the writing system, we will trace the conspicuous developments in poetry, prose and drama through the Nara, Heian, Kamakura, Muromachi and Edo periods.

Included are such works as the *Manyōshū*, *Genji monogatari*, *Heike monogatari*, *Oku-no-hosomichi* and *Sonezaki shinjū*.

INTRODUCTION TO MODERN JAPANESE ART AND VISUAL CULTURE

(Fall)

日本の近現代美術

Murai, Noriko

村井 則子

Lecturer, International Center (Assistant Professor, Temple University)

国際センター講師 (テンブル大学専任講師)

Sub Title:

Introduction to Modern Japanese Art and Visual Culture

Course Description:

This course explores the history of Japanese art from the mid-nineteenth century to the present. Visual culture has played a central role in providing modern Japan with a cultural, social, and psychological identity. We will study the significance of modernity and modernism in various media including painting, sculpture, photography, performance and architecture. We will also consider issues related to gender, imperialism, and commodity consumption in the context of visual representation.

INTRODUCTION TO JAPANESE ART HISTORY

(Spring)

日本史美術入門

Shirahara, Yukiko

白原 由起子

Lecturer, International Center (Chief Curator, Nezu Museum)

国際センター講師 ((財)根津美術館学芸部課長)

Sub Title:

From Ancient to the Medieval Periods

古代—中世

Course Description:

This course explores the history of Japanese art from the mid sixth century to the early seventeenth century. How religious imagery, decorative styles and techniques were introduced from the continent, transformed to be Japanese own? Each class will focus on one of a few artworks, about which the function, iconology, technique and artistic significance will be discussed.

ARTS / ART WORKSHOP THROUGH CROSS - CULTURAL EXPERIENCE

(Fall)

アートワークショップ／日本のアートと文化

Hishiyama, Yuko

菱山 裕子

Lecturer, International Center

国際センター講師

Sub Title:

With a focus on Japanese Art

Course Description:Course Description:

This is a course designed to provide both international and Japanese students who are interested in art from comparative culture or intercultural communication perspectives with student-centered learning experience of Japanese art. Thus students in this course will engage in diverse activities both in and outside of class within this multicultural student body. The activities include workshops, field trips, and research. The goal of this workshop is to give students a firm grounding in cultural, social, historical, and practical aspects of art in contemporary Japan.

Final Project:

After accumulating various experiences in Japan, students make a self-portrait in any media in 2D, 3D or as an installation.

JAPANESE CINEMA

(Spring)

日本映画入門

Ainge, Michael W.

エインジ, マイケル W.

Associate Professor, Faculty of Economics

経済学部准教授

Course Description:

This is an introductory course that examines Japanese cinema from the perspectives of history, authorship, genre, and film art. Though by no means comprehensive due to the restriction of time, this course will allow students to gain an overview of a century of Japanese film, become familiar with a selection of major directors and film genres, as well as acquire a fundamental critical and technical language to discuss films. They will learn to distinguish between personal taste ("I liked this film," "I hated it") and evaluative judgment (using various intellectual and artistic standards to judge a film). Needless to say, issues related to cultural differences will arise throughout the semester, and no doubt form an important part of class discussions.

GEISHA

(Spring)

「芸者」

Graham, Fiona

グラハム, フィオナ

Lecturer, International Center

国際センター講師

Course Description:

This course will start with the narrow topic of geisha and spread out from there to consider the topic on a deeper anthropological level: how the West views the East, history, myth and tourism, the changing roles of women, and traditional culture, who decides what is traditional, how and why does this change, what is lost and what retained, and who controls the process?

This class will make use of DVDs and other visual resources and may have a class research trip. Students won't be able to passively rely on a single textbook, but will need to actively participate in collecting their own research materials from books, media, video and internet.

The course lecturer is an actively working geisha in one of Tokyo's geisha districts.

JAPANESE BUDDHISM AND SOCIAL SUFFERING

(Spring)

日本仏教と現代社会

Watts, Jonathan

ワッツ, ジョナサン

Lecturer, International Center (Research Fellow, International Buddhist Exchange Center,
Research Fellow, Jodo Shu Research Institute)

国際センター講師 ((財) 国際仏教交流センター研究員・浄土宗総合研究所研究員)

Sub Title:

Priests and Temples Reviving Human Relationship and Civil Society

僧侶と寺による人間関係と市民社会の再生

Course Description:

This course will look at Buddhism in Japan in a very different way – through the actions of Buddhist priests and followers to confront the real life problems and suffering of people in Japan today. We will look at such issues as: 1) human relationships (alienation, depression, suicide, *hikikomori*, and NEET); 2) development (social and economic gaps, aging society, community breakdown and depopulation of the countryside); 3) the environment and consumption; 4) politics and peace; and 5) gender. The creative solutions some individual Buddhists are developing in response to these problems mark an attempt to revive Japanese Buddhism, which is now primarily associated with funerals and tourism. These efforts are trying to remake the temple as a center of community in an increasingly alienated society.

This course will use a variety of teaching methods from homework readings, games and group processes, in-class videos and guest speakers, and occasional field trips. This course will attempt to be as interactive as possible, so students should be ready to reflect on the issues personally as they experience them as residents of Japan, and to express these reflections not only intellectually but emotionally as well.

SEMINAR (Seminar in Intellectual History)

(Fall)

演習 (福澤諭吉『学問のすすめ』を読む)

Sakamoto, Tatsuya

坂本 達哉

Professor, Faculty of Economics

経済学部教授

Sub Title:

Reading Yukichi Fukuzawa's "Encouragement of Learning"

Course Description:

This course will center on the theme of Keio University's founder Yukichi Fukuzawa (1835-1901), his thought and its legacy to our time. Among his numerous works, both academic and popular, is included "Encouragement of Learning" (『学問のすすめ』), as the single most famous and influential. This course will read this classical text on chapter-by-chapter basis in English translation from a variety of perspectives, historical, philosophical and social. Prospective students will be welcome who are seriously interested in the overall character and the precise details of one of the greatest intellectual leaders of the time. Any prior knowledge of Fukuzawa's life and work will not be required.

This course will also be offered at International Center for international students. I truly hope that the course will present an opportunity for intellectual exchanges between Japanese and non-Japanese students. Official language of this course will be English, but some subsidiary use of Japanese will be allowed.

JAPANESE DIPLOMACY IN THE MEIJI ERA

(Fall)

政策決定, 歴史的記憶, 人種から見る明治期日本外交

Iikura, Akira

飯倉 章

Lecturer, International Center (Professor, Josai International University)

国際センター講師 (城西国際大学教授)

Sub Title:

Decision-making, historical memory and race

Course Description:

This course aims to examine Japanese diplomacy in the Meiji era from diverse angles and provide students with some new perspectives on the historical events in the period such as the triple intervention, the Anglo-Japanese alliance, and the Russo-Japanese War. Students will gain an understanding of Japanese diplomacy in the Meiji era and learn how to analyze historical events through decision-making historical memory, and the concept of race.

MODERN HISTORY OF DIPLOMATIC AND CULTURAL RELATIONS BETWEEN JAPAN AND THE WORLD

(Fall)

近代日本の対外交流史

Ohta, Akiko

太田 昭子

Professor, Faculty of Law

法学部教授

Course Description:

The course aims to provide an introductory and comprehensive view of the history of diplomatic and cultural relations between Japan and the World in the latter half of the nineteenth century and the beginning of the twentieth century. A basic knowledge of Japanese history is desirable, but no previous knowledge of this particular subject will be assumed. A small amount of reading will be expected each week.

Students are expected to make a short report on a research project of their own choosing and hand in a term paper of about 3,000 words (at least five pages, A4, double space) in January, and take the final examination.

JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION

(Spring)

英国と米国のマスコミに描かれた日本

Kinmonth, Earl H.

Lecturer, International Center (Professor, Taisho University)

キンモンズ, アール

国際センター講師 (大正大学教授)

Course Description:

This course examines foreign (primarily Anglo-American) views of Japan, both contemporary and historical. Materials used and discussed range from Hollywood films to academic works by Ivy League professors. Knowing the common and often highly distorted images of Japan and the Japanese, both positive and negative, presented in foreign mass media and popular culture is important to both Japanese and foreign students. These images have been and continue to be significant in Japan's diplomatic and economic relations with other countries. Moreover, the mechanisms that distort the foreign view of Japan also work to distort the Japanese view of foreign countries. Teaching students how to recognize distorted images of foreign countries and peoples is a major goal of this course.

A SOCIAL HISTORY OF POST-WAR JAPAN

(Fall)

戦後日本の社会史

Kinmonth, Earl H.

Lecturer, International Center (Professor, Taisho University)

キンモンズ, アール

国際センター講師 (大正大学教授)

Course Description:

More than a half-century has elapsed since the end of the Pacific War. For most university students, this war is part of a distant past and references to prewar and postwar carry no special significance. In contrast, for those old enough to have experienced the Pacific War or its immediate aftermath, the terms prewar and postwar are very evocative and are part of the historical consciousness of many Japanese. This course attempts to answer three basic questions: 1) why is a distinction made between prewar and postwar Japan; 2) how was Japan changed by the Pacific War; 3) what has changed in the fifty-plus years the end of the war. To give students additional perspective on the Japanese experience, the course will make explicit comparisons with Germany and the United Kingdom.

POPULAR MUSIC AND THE CULTURAL HISTORY OF POSTWAR JAPAN

(Fall)

日本の戦後史とポピュラーミュージック

Dorsey, James

Lecturer, International Center (Associate Professor, Dartmouth College)

ドーシー, ジェームズ

国際センター講師 (ダートマス大学准教授)

Course Description:

Crucial issues in Japan's postwar cultural history can be examined through its music:

- shifting social taboos are revealed in the songs banned from the airwaves
- Japan-U.S. tensions are visible in musical adaptations, imitations and subversions
- the values and aspirations of an age are apparent in its choice of musical stars and genres (including sentimental *enka*, breezy "group sounds," political folk and cutesy pre-pubescent "idol" singers)
- attitudes towards race and history come forth in groups singing in blackface, the embrace of hip-hop culture, the treatment of non-Japanese musicians, and the "invasion" of J-Pop throughout Asia
- technological advances and trends in consumer electronics, many of them pioneered by Japanese companies, have altered the world's experience of culture; much can be learned by pondering the cultural significance of karaoke, the walkman, and the digital sound file
- the changing attitudes concerning gender, love, sex and marriage inevitably appear in song

Using theories from the Frankfurt school and more recent work in cultural studies, this course will introduce students to the history of postwar Japan (with special focus on the 1960s and 1970s) as well as coach them in the interpretation of music as a window onto the workings of culture.

IN SEARCH OF NEW CIVIC SOCIETIES

(Spring)

新市民社会論

Bockmann, Dave

Lecturer, International Center (Consultant)

ボックマン, デイヴ

国際センター講師 (コンサルタント)

Sub Title:

How NGOs and NPOs are changing society and the environment

Course Description:

"Civic engagement" refers to the participation of individuals and voluntary organizations (NGOs and NPOs) in the political and the public sectors, including governmental decision-making. "Civic Engagement" and "Civil Society" are sometimes used interchangeably and in this sense, civil society is well established in the U.S., less so in Japan. We will find out why.

In this course, we will examine civic engagement from several perspectives, globally and locally. We will examine civic engagement in the U.S. as well as Asia where the focus will be on Japan, India and China. We will see how the struggles by minorities, women and the poor for human rights alter the relationships of power and how environmental organizations are playing a leading role in the efforts to stop global warming.

MULTIETHNIC JAPAN

多民族社会としての日本

(Fall)

Kashiwazaki, Chikako

柏崎 千佳子

Associate Professor, Faculty of Economics

経済学部准教授

Course Description:

This course introduces students to 'multiethnic Japan'. Although Japanese society is often portrayed as ethnically homogeneous, its members include diverse groups of people such as the Ainu, Okinawans, zainichi Koreans, and various 'newcomer' immigrants. In this course, students will learn about minority groups in Japan and their relations with the majority 'Japanese' population. The goal of this course is to acquire basic knowledge and analytic tools to discuss issues concerning ethnic relations in Japan and elsewhere.

THE FAMILY IN HISTORICAL PERSPECTIVE

家族の近代

(Fall)

Notter, David

ノッター, デビット

Associate Professor, Faculty of Economics

経済学部准教授

Course Description:

Over the past 40 years or so, new work in the field of social history combined with new research on the family conducted by social scientists has produced a 'new history of the family'. In this course we will draw on this body of research to examine the institution of the family in historical and comparative perspective. The book we will use as our main text is a sociological study of the family system in postwar Japan. Lectures, by contrast, will focus on the emergence of the 'modern family' and modern family arrangements in nineteenth- and twentieth-century America. Some consideration will also be given to Europe, the emergence of the modern family in Japan, and traditional family arrangements.

INTERCULTURAL COMMUNICATION 1

異文化コミュニケーション1

(Spring)

Tezuka, Chizuko

手塚 千鶴子

Professor, Center for Japanese Studies

日本語・日本文化教育センター教授

Sub Title:

Seen from Japanese communication patterns

Course Description:

This course has three interrelated purposes. The first is to help students learn some essential elements of Japanese psychology and culture, and their implications for communication patterns of Japanese people both among themselves and in intercultural settings. The second is to help students to examine both difficulties/challenges and excitements/joys of intercultural communication by learning key concepts and issues of intercultural communication. The third is to facilitate both Japanese and international students' on-going intercultural communication both by increasing self-awareness of how their respective cultures affect their communication patterns and by arranging them to learn to work together successfully on group projects which will serve as testing grounds for their intercultural communication.

INTERCULTURAL COMMUNICATION 2

異文化コミュニケーション2

(Fall)

Tezuka, Chizuko

手塚 千鶴子

Professor, Center for Japanese Studies

日本語・日本文化教育センター教授

Sub Title:

Identity of Japanese Sojourners

Course Description:

The first purpose is to help students learn how Japanese people have been experiencing exciting as well as confusing encounters with cultures different from their own and how such cross cultural encounters in and outside of Japan have been affecting their sense of identity and communication styles as an individual (and as people) from the times of Japan's First Opening to the world in the late Edo Period up to the present from the three perspectives: history, cultural adjustment, and intercultural communication, utilizing case studies. The second purpose is to help both Japanese and international students who are brought together to Mita campus by the globalization and internationalization to make best use of this class to communicate effectively through discussion and other student-centered activities.

JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN(1)

日本人の心理学 (1)

(Spring)

Tezuka, Chizuko

手塚 千鶴子

Professor, Center for Japanese Studies

日本語・日本文化教育センター教授

Sub Title:

Conflict Management

Course Description:

This course is designed to explore how Japanese manage interpersonal conflict both among themselves as well as in interaction with foreigners, and its implications for Japanese society which is becoming more multicultural in this accelerated globalization age. Though a Western notion of conflict claims that conflict is inevitable yet not necessarily bad, the Japanese society has been described to believe in its selfimage as a conflict-free society and to abhor and avoid interpersonal conflicts as any cost. With this apparent contrast in mind, students will learn characteristics of Japanese conflict management strategies, their cultural and social psychological background, and the challenges for both Japanese and foreigners in trying to creatively

deal with intercultural conflicts. And students will be asked to take some psychological measures related to conflict for self-understanding.

JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (2)

(Fall)

日本人の心理学 (2)

Tezuka, Chizuko

手塚 千鶴子

Professor, Center for Japanese Studies

日本語・日本文化教育センター教授

Sub Title:

'*Amae*' Reconsidered

Course Description:

This course is designed to reconsider comprehensively the concept of '*Amae*' which was first introduced as a key concept for understanding Japanese psychology by Dr. Doi, as the Japanese society itself has undergone a considerable change under the influence of the globalization since then, and because there has been the accumulated theoretical, speculative or empirical research including cross cultural one which shows the existence of *Amae* outside of Japan. Therefore, this course will explore answers to the following questions: 1) is *Amae* still a key concept for understanding Japanese psychology?, 2) how the expression and satisfaction of *Amae* needs is transformed in contemporary Japan, 3) to what extent and in what form *Amae* is found among people across cultures, and 4) what kind of challenges and/or benefits this Japanese concept can give to those people who do not find the exact equivalent in their mother tongues.

INTRODUCTION TO POLITICS IN JAPAN

(Spring)

日本政治論

Aoki, Hiroko

青木 裕子

Lecturer, International Center

国際センター講師

Sub Title:

The history of Japanese politics after World War II

Course Description:

The aim of this lecture is to acquire knowledge and thinking ability for problems that beset modern Japanese society by studying history of Japanese politics after WWII and reading newspaper articles on current affairs.

JAPANESE FOREIGN POLICY

(Fall)

日本の対外政策

Nobori, Amiko

昇 亜美子

Lecturer, International Center

国際センター講師

Course Description:

This course is a general introduction to postwar Japanese history with a focus on foreign policy; it also addresses important aspects of Japanese domestic politics as well as cultural issues. It will also deal with international relations of the Asia-Pacific region while offering an overview of Japan's evolving relations with a number of important actors in the region, such as the U.S., China and the ASEAN countries.

Also throughout the course, contemporary issues within the post-Cold War global environment as well as controversial issues within Japan, such as constitutional revision and Yasukuni issue, will be discussed using a historical perspective.

The class will combine lectures, academic readings, films, students' presentations and discussions in order to cover these areas noted above.

JAPANESE ECONOMY

(Fall)

ジャパニーズ・エコノミー

Kashiwagi, Shigeo

柏木 茂雄

Professor, Graduate School of Business and Commerce

商学研究科教授

Course Description:

The objective of this course is to discuss and understand the developments in the Japanese economy and its policies from a global perspective.

The course will provide opportunities for students, especially for those coming from abroad, to examine various policy issues that have arisen in Japan in the last three decades. The focus will be to understand the economic as well as political and social background of the specific economic actions taken during these years. Efforts will be made to enable students to understand the recent economic and political developments in Japan, based on my 34 years of experience with the Japanese government.

FOREIGN COMPANIES IN JAPAN

(Spring)

日本における外資系企業

Harris, Graham

ハリス, グレアム

Lecturer, Faculty of Business and Commerce (President, Harris Consultancy)

商学部講師 (ハリス・コンサルタンシー社長)

Sub Title:

A Success or a Failure?

Understanding the True situation of foreign companies in Japan

Course Description:

This course will explain the role of foreign companies in Japan since the Meiji Restoration, through the "Bubble era" and up to the present day. Students will learn the reasons why foreign companies choose Japan; to what degree they have been successful; and to what extent foreign investment is good for Japan.

The Course which will be conducted in English will be a combination of lectures, discussions, student group presentations; case studies and research assignments.

MANAGEMENT IN JAPAN**(Spring)**

日本のビジネスマネジメント

Haghirian, Parissa

ハギリアン, パリッサ

Lecturer, International Center (Assistant Professor, Sofia University)

国際センター講師 (上智大学専任講師)

Sub Title:

The Kaisha in the 21st Century

Course Description:

The course introduces the characteristics of the Japan as a place of business and the main aspects of Japanese management. The course starts with a theory lecture on culture and its relevance for international management and business communication. After this an overview of the modern Japanese business environment is given. Major points of discussion are the most prominent aspects of Japanese management, such as production management, distribution as well as human resource and knowledge management within Japanese corporations.

The course aims to:

- provide an overview of the modern Japanese business environment
- explain the most important social concepts in Japanese society and their relevance for Japanese management and Japanese business culture
- discuss the most prominent aspects of Japanese management, such as production management, distribution and management activities within a Japanese corporation
- present the latest developments in the Japanese management environment

INTERNATIONAL COMPARISON OF MANAGEMENT SYSTEMS**(Fall)**

国際経営比較

Yoshida, Fumikazu

吉田 文一

Lecturer, International Center (Professor, Sanno University)

国際センター講師 (産業能率大学教授)

Sub Title:

Pros and Cons of Japanese and American Management Systems

Course Description:

This course aims to clarify the differences between the Japanese management system and the American system. Over the last two decades, the appraisal of Japanese management has fallen sharply from a high level during the 1980s, while the evaluation of American management has risen equally sharply. In particular, in the "post-bubble" period in Japan, there is a strong tendency to criticize the domestic management system, and praise American-style management nationwide. This raises a major question: how can the appraisal of a well-established management system change so uncritically in a stable and peaceful society? We will discuss this issue in order to understand the significance of management systems.

Based on this understanding, we examine the current issues that both systems face today.

JAPANESE SOCIETY AND BUSINESS**(Fall)**

日本の経営

Umezu, Mitsuhiro

梅津 光弘

Associate Professor, Faculty of Business and Commerce

商学部准教授

Course Description:

Goal:

In this course, we will analyse contemporary Japanese society and business from an ethical perspective.

Through lecture and case discussion, I would like to find a balancing point of culturally contextualized management and globally acceptable norms for future international business. Also, I would like to discuss the strong points of Japanese Style Management which could be transferable to other cultures, and the weak points which would be universally unacceptable.

Method:

First, I will highlight the historical and theoretical aspects fundamental to analyzing Japanese society and business from an ethical perspective. Then I will assign you to read short cases which describe recent incidents that have caused public controversy both in Japan and elsewhere.

LEADING CREATIVE BUSINESS IN JAPAN**(Spring)**

日本の最先端創造的ビジネス

Tobin, Robert I.

トビン, ロバート

Professor, Faculty of Business and Commerce

商学部教授

Course Description:

This course will provide students with an understanding of the unique challenges of starting and leading creative businesses in Japan. The focus will be on Japan-based businesses in fashion, art, music, food, advertising, and design.

Students will understand what is involved in starting and leading a company in one of these fields. We will examine some of the ways of doing business in Japan that are unique, such as the barriers of language and trade, agent arrangements, cultural aspects of creative businesses, consumer expectations, as well as recent efforts at pan-Asian alliances and the impact of globalization.

An important part of this course will be individual research projects to gain a greater understanding of a particular industry and a career plan that includes elements of starting a creative business.

Students will enhance their communication and leadership skills on group projects with other students.

Course Description:

This course will focus on selected Japanese small businesses that have developed world class products. The focus will be decidedly on low tech businesses with an examination of industries such as sporting goods, stationery goods, pharmaceuticals, and traditional Japanese sweets and cultural products. Among the companies we will examine will be Olfa, Pilot, and Molten.

Students will explore the economic history of Japan, the motivation for entrepreneurs in Japan, consumer expectations, the compelling stories for starting certain types of businesses here, the focus on quality, the relationships between entrepreneurs and the larger trading companies, the challenges of globalization for these companies, and the efforts of revival of selected industries.

An important part of this course will be individual research projects to gain a greater understanding of particular industries and companies.

Students will enhance their communication and leadership skills on group projects with other students.

Course Description:

1. Outline of Japanese Legal System
 - (1) Constitutional Law
 - (2) Civil Law
 - (3) Commercial Law & Corporation Law
 - (4) Security Exchange Law
 - (5) Bank Law
 - (6) Real Estate Law
 - (7) Intellectual Property
 - (8) Civil Procedure
 - (9) Labor Law
 - (10) Criminal Law
 - (11) Criminal Procedure
2. How to associate with Japanese People and Legal Professions on Legal Matters
 - (1) Characteristics of Japanese People
 - (2) Attitude of Japanese Officials and Lawyers
 - ①Administration
 - ②Judges and Public Prosecutors
 - ③Attorneys and Law Firms
 - (3) Clients
 - (4) Taboos
 - (5) Languages

Sub Title:

Science and Technology in Space and Time

Course Description:

This course is intended for students from various backgrounds. The main purpose of the course is to introduce students to the cultural bases that the development of science and technology stands on.

In the first half of each class hour, a topic from the latest Japanese news in science or technology fields will be selected for discussion. Here, the instructor will provide some materials to refer to, but students are encouraged to throw in their ideas, insights, and interpretations of the Japanese cultural context to which the topic is related.

In the second half of each class hour, students will take turns and give presentations on the place science and technology hold in the past, present, and future of their own home countries.

The topics will depend on students' special fields as well as current topics, but will probably include issues such as:

- entertainment business/technology in music; movies; games
- robots
- communication technology: mobile phones; MP3 players; Internet
- environmental problems: ecology; energy
- architecture/industrial design
- economics/politics
- language and culture

アート・センター

アート・センターはこれまでに、身体表現・美術・環境デザイン・音楽・評論にまたがる四つのアート・アーカイヴ、すなわち土方巽、瀧口修造、ノグチ・ルーム、油井正一のアーカイヴを構築してきました。本講座は、その実績をふまえ、また世界のアート・アーカイヴの実践活動を参照しつつ、アート・アーキヴィストの養成およびリカレント的な教育を目的として開設されました。アート・アーキヴィストとは、美術資料の収集・保存・調査・研究・公開・普及を目的とする学芸員の活動にくわえ、対象とする資料の範囲を音楽、演劇、舞踊、身体表現、文学などの芸術領域とし、またデジタル情報化を中心に知的財産、公共財、社会受容の視点から資料の研究と活用を行う専門家です。現代社会は、文化活動を支える創造的なコンテンツ・デザイン、コンテナー・デザインを要請しています。この講座は、そうした求めに対応しうる新しいアーキヴィスト概念を追究し、人材の育成をめざします。

1. 履修上の取り扱い
慶應義塾大学大学院生が対象です。受講資格・条件等はありませんが、履修の取り扱いについて各研究科の履修案内で確認の上、履修申告をしてください。
2. ガイダンス
履修希望者は、4月7日（火）12:30～13:00（524番教室）に出席してください。秋学期にはガイダンスは行いません。

アート・アーカイヴ特殊講義（春学期）2単位

アート・センター 准教授（有期） 渡部 葉子
講師 前田 富士男
講師 上崎 千

授業科目の内容：

講義、購読、討論を行う。芸術の諸領域における様々な事象を「アーカイヴ」の水準において扱う本講座の射程には、「アーカイヴ」という知の在り方それ自体への方法論的な関心が含まれている。アーカイヴとは何か。いかにしてアーカイヴは可能となるのか。本講座が標榜する「アート・アーカイヴ」は、アーカイヴとして実現される知のカルトグラフィを芸術学の範疇において捉え、アーカイヴについて思考すること（さらに、アーキヴィストとして思考すること）と、「芸術作品とは何か」という根源的な問いとの接続を図るものである。

テキスト：

ヴァルター・ベンヤミン「エドゥアルト・フックス——蒐集家と歴史家」（1937年）、『ベンヤミン・コレクション2: エッセイの思想』、浅井健二郎編訳（ちくま学芸文庫、1996年）所収。
ミシェル・フーコー『言葉と物——人文科学の考古学』（1966年）、渡辺一民・佐々木明訳（新潮社、1974年）。
ミシェル・フーコー「汚辱に塗れた人々の生」（1977年）、丹生谷貴志訳、『フーコー・コレクション6: 生政治・統治』、小林康夫・松浦寿輝・石田英敬編（ちくま学芸文庫、2006年）所収。
前田富士男「アーカイヴと生成論（Genetics）——『新しさ』と『似ていること』の解説にむけて」、『Booklet 06: ジェネティック・アーカイヴ・エンジン——デジタルの森で踊る土方巽』（慶應義塾大学アート・センター、2000年）所収。
ジョルジュ・ディディ＝ユベルマン『残存するイメージ: アビ・ヴァールブルクによる美術史と幽霊たちの時間』（2002年）、竹内孝宏・水野千依訳（人文書院、2005年）。
上崎千「アーカイヴと表現（a whole list of things）」、『ARTLET』28号（慶應義塾大学アート・センター、2007年9月）所収。
その他、適宜指示、配布する。

参考書：

適宜指示する。

授業の計画：

- ①基本概念の検討（ミュージアム、ライブラリー、アーカイヴ、造形（美術工芸）資料、音響資料、書写資料ほか）
- ②芸術資料論（収集・分類・記録・保存・公開、および各プロセスにおける調査の方法、システム論、情報化の手法、データベース概念）
- ③制度としてのアーカイヴ論（博物館法・文化財保護法・著作権法関連、IT環境など）
- ④価値概念の検証（情動的価値と芸術的価値、文化情報と公共性デザイン）

履修者へのコメント：

履修希望者は、ガイダンスおよび初回の授業には必ず出席すること。アート・アーカイヴ特殊講義演習（秋学期）とあわせて履修するのが望ましい。

成績評価方法：

レポートによる評価ならびに平常点

アート・アーカイヴ特殊講義演習（秋学期）2単位

アート・センター 准教授（有期） 渡部 葉子
講師 前田 富士男
講師 上崎 千

授業科目の内容：

ケース・スタディ、実習、討論を行う。

テキスト：

適宜指示する。

参考書：

適宜指示する。

授業の計画：

- ①芸術資料調査（資料の分類、形状、性質の検討、調書作成法、データ化手法）
- ②研究アーカイヴ特殊資料論（制作関連資料、二次資料の運用、造形系資料・音響系資料・身体表現系資料・言語系資料の分類）
- ③ケース・スタディ（絵画資料、楽譜資料、書写資料、写真資料、動画像資料、録音資料）
- ④アート・アーカイヴの設計と構築と運用

履修者へのコメント：

原則として10名程度とする。履修希望者がこれを大きく超える場合には履修者数を制限するので、ガイダンスおよび春学期初回の授業には必ず出席すること。アート・アーカイヴ特殊講義（春学期）とあわせて履修するのが望ましい。

成績評価方法：

レポートによる評価ならびに平常点

他大学大学院との相互科目履修に関する協定

慶應義塾大学大学院文学研究科修士課程および学習院大学大学院人文科学研究科博士前期課程における相互科目履修に関する協定書

昭和48年12月1日締結
平成14年11月1日改正

記

第1条 両研究科の学生は、昭和49年4月より、相互に相手側研究科設置科目を修士課程または博士前期課程在学中に計8単位を限度として履修することができる。

第2条 第1条に該当する学生は大学院交流学生と称する。

第3条 第1条に規定する履修科目については、受入側研究科はその学則にもとづいて成績を評価し、単位を認定して相手側研究科に通知する。相手側研究科は修士課程または博士前期課程の単位としてこれを認めるものとする。

第4条 相手側研究科の設置科目を履修する学生は自己の属する研究科指導教員の承認をうけ、かつ相手側研究科の担当教員の許可をうけなければならない。ただし、担当教員は学生数その他の都合からこれを許可しないことがある。

第5条 本制度の運用について協議の必要を生じた時は、直ちに両研究科間で協議し、常に円滑な運用と将来の発展に努力するものとする。

第6条 本制度は昭和47年度および48年度を試行期間として、昭和47年4月より実施してきたものであるが、昭和49年4月より正規に発足させるものである。

第7条 本制度に関する内規は別に定める。

附 則

この協定は昭和48年12月1日から施行する。

附 則 (平成14年11月1日)

この協定は平成15年4月1日から施行する。

以 上

慶應義塾大学大学院文学研究科および早稲田大学大学院文学研究科の修士課程における相互科目履修に関する協定書

昭和48年12月1日締結
平成14年11月1日改正

記

第1条 両研究科の学生は、昭和49年4月より、相互に相手側研究科設置科目を修士課程在学中に計8単位を限度として履修することができる。

第2条 第1条に該当する学生は大学院交流学生と称する。

第3条 第1条に規定する履修科目については、受入側研究科はその学則にもとづいて成績を評価し、単位を認定して相手側研究科に通知する。相手側研究科は修士課程の単位としてこれを認めるものとする。

第4条 相手側研究科の設置科目を履修する学生は自己の属する研究科指導教員の承認をうけ、かつ相手側研究科の担当教

員の許可をうけなければならない。ただし、担当教員は学生数その他の都合からこれを許可しないことがある。

第5条 本制度の運用について協議の必要を生じた時は、直ちに両研究科間で協議し、常に円滑な運用と将来の発展に努力するものとする。

第6条 本制度は昭和47年度および48年度を試行期間として、昭和47年4月より実施してきたものであるが、昭和49年4月より正規に発足させるものである。

第7条 本制度に関する内規は別に定める。

附 則

この協定は昭和48年12月1日から施行する。

附 則 (平成14年11月1日)

この協定は平成15年4月1日から施行する。

以 上

(単位互換協定)

慶應義塾大学大学院文学研究科と早稲田大学大学院教育学研究科の学生交流に関する協定書

慶應義塾大学大学院文学研究科と早稲田大学大学院教育学研究科は、教育の一層の充実を目指して、両大学大学院研究科の学生が受入大学大学院研究科の授業科目を履修することについて協定を締結する。

(受 入)

第1条 両大学大学院研究科は、受入大学大学院研究科の授業科目の履修および単位の修得を希望する学生を、相互に受け入れることができる。

2 学生を受け入れるための手続は、別に定める。

(受入学生の身分)

第2条 両大学大学院研究科は、前条によって受け入れる学生を交流学生と称する。

(学生数)

第3条 当該年度の交流学生数は、原則として両大学大学院研究科双方同数とする。

(履修期間)

第4条 交流学生の履修期間は、当該学生の履修科目の設置期間とする。

(履修科目の範囲および単位数)

第5条 交流学生が履修できる授業科目および単位数は、別に定める。

(履修方法・単位の授与・成績評価等)

第6条 交流学生の履修方法、単位の授与および成績評価等については、受入大学の大学院研究科の定めるところによる。

2 交流学生が修得した単位の認定に関わる事項は、当該学生の所属する大学の大学院研究科が定めるところによる。

(学費等)

第7条 交流学生の学費等は、相互に徴収しないものとする。

(覚 書)

第8条 本協定書の実施に必要な事項について定めるために、覚書を締結する。

(その他)

第9条 本協定書は、双方の署名によって発効し、2003年4月1日より実施する。ただし、発効日より3年を経過した後に見直しを行う。

2002年12月1日

慶應義塾大学大学院文学研究科と早稲田大学大学院教育学研究科の学生交流に関する覚書

慶應義塾大学大学院文学研究科と早稲田大学大学院教育学研究科は、「慶應義塾大学大学院文学研究科と早稲田大学大学院教育学研究科の学生交流に関する協定書」(2002年12月1日付)に基づき本覚書を締結する。

1. 対象者

両大学大学院研究科に在学する修士課程正規学生を対象とする。

2. 申請および承認手続

交流学生として科目の履修を希望する学生は、所定の申請手続をとり、所属大学大学院研究科の指導教員の承認を受け、受入大学の大学院研究科の履修希望科目担当教員の許可を得るものとする。

3. 履修可能科目および単位数

- (1) 交流学生が履修できる授業科目は、学生を受け入れる大学の大学院研究科が定め、それぞれ相手大学の大学院研究科へ通知する。
- (2) 交流学生が履修できる単位数の上限は、在学中8単位とする。

4. 施設利用の便宜

交流学生が履修に必要な施設・設備の利用については、便宜を供与する。

5. 学費等

協定第7条の学費の内訳は、授業料・施設費・演習料・実験実習費等とする。

6. その他

本覚書に定めるもののほか、本協定の実施に関し必要な事項は、両大学大学院研究科の協議によって定める。

2002年12月1日

慶應義塾大学大学院文学研究科※哲学専攻(哲学・倫理学分野)および上智大学大学院哲学研究科における大学院特別聴講生制度に関する協定

※平成13年度新生より哲学専攻が哲学・倫理学専攻に改組されました。

1. 慶應義塾大学大学院文学研究科※哲学専攻(哲学・倫理学分野)および上智大学大学院哲学研究科に在籍する学生が、研究上の必要により相手側研究科設置の授業科目の履修を希望する場合、所属研究科の定める範囲内で履修することができる。
2. 第1項に該当する学生は大学院特別聴講生と称する。
3. 定められた手続きを経て、相手側研究科生の履修申込みを受けたときは、当該研究科は正規の授業に支障のないかぎり、履修を許可する。
4. 履修が許可された科目については、受入側研究科は相手側

研究科の学則に基づいて、成績を評価し、単位を認定して相手側研究科に通知する。相手側研究科は修士課程の単位としてこれを認めるものとする。但し、後期博士課程の学生については、聴講のみとし、単位・成績の認定は行わないこととする。

5. 本制度に関する諸手続は別に定める。

6. 本制度に関する内規は別に定める。

7. 本制度の実施に関する変更は両研究科間の協議により行うものとする。

附 則

本制度は1995年4月1日より施行する。

大学院特別聴講生制度に関する諸手続について

1. 大学院特別聴講生届(所属大学の学事担当部署にあり)に必要な事項を記入して、指導教員の承認をうける。次に相手校に赴き、講義担当者の当該授業に出席して承認を受けた後、相手校学事担当部署へ提出すること。
2. 履修が許可された場合、指定の期間内に各学事担当部署窓口にて特別聴講生届用紙本人控と引換えに特別聴講生証を交付する。
3. 相手校の授業科目の履修を希望する場合は、履修決定以前の聴講の段階でも必ず講義担当者の許可を得ること。
4. 万一、履修を途中でやめるようなときは、速やかに講義担当者、相手校学事担当部署および所属大学の学事担当部署に連絡すること。
5. 相手校の授業に関する連絡事項は、所属大学に掲示するので充分注意すること。

関係規程抜粋

文学研究科在籍者に特に関わりの深い規程について抜粋してありますので、履修要項と合わせて参照してください。なお、大学院学則については、入学時に配付する慶應義塾大学大学院学則を参照してください。

〈1 学 位〉

- 1-1 学位規程（抜粋）
- 1-2 学位の授与に関する内規

〈2 奨 学 金〉

- 2-1 大学院奨学規程
- 2-2 小泉信三記念大学院特別奨学金規程
- 2-3 小泉信三記念大学院特別奨学金規程施行細則

〈3 授業料減免〉

- 3-1 授業料等減免規程
- 3-2 留学期間中の学費の取り扱いに関する規程
- 3-3 大学院生が私費により留学した場合の学費の取り扱いに関する内規

〈4 そ の 他〉

- 4-1 大学院在学期間延長者取扱い内規
- 4-2 大学院在学期間延長者並びに年度途中の修了者に対する在学料その他の学費に関する取扱内規

学位請求論文製本表紙見本

1 学 位

1-1 学位規程 (抜粋)

昭和31年2月17日制定
平成20年6月4日改正

(目的)

第1条 本規程は、慶應義塾大学学部学則（大正9年5月5日制定）および慶應義塾大学大学院学則（大正9年5月5日制定）に規定するもののほか、慶應義塾大学が授与する学位について必要な事項を定めることを目的とする。

(学位)

第2条 ① 本大学において授与する学位は次のとおりとする。

1 学 士

文 学 部

人文社会学科

哲学専攻	学士 (哲学)
倫理学専攻	学士 (哲学)
美学美術史学専攻	学士 (美学)
日本史学専攻	学士 (史学)
東洋史学専攻	学士 (史学)
西洋史学専攻	学士 (史学)
民族学考古学専攻	学士 (史学)
国文学専攻	学士 (文学)
中国文学専攻	学士 (文学)
英米文学専攻	学士 (文学)
独文学専攻	学士 (文学)
仏文学専攻	学士 (文学)
図書館・情報学専攻	学士 (図書館・情報学)
社会学専攻	学士 (人間関係学)
心理学専攻	学士 (人間関係学)
教育学専攻	学士 (人間関係学)
人間科学専攻	学士 (人間関係学)

経済学部

法 学 部

商 学 部

医 学 部

理工学部

機械工学科	学士 (工学)
電子工学科	学士 (工学)
応用化学科	学士 (工学)
物理情報工学科	学士 (工学)
管理工学科	学士 (工学)
数理科学科	
数学専攻	学士 (理学)
統計学専攻	学士 (工学)
物理学科	学士 (理学)
化学科	学士 (理学)
システムデザイン工学科	学士 (工学)
情報工学科	学士 (工学)
生命情報科	学士 (理学) または 学士 (工学)

総合政策学部

環境情報学部

看護医療学部

	学士 (総合政策学)
	学士 (環境情報学)
	学士 (看護学)

薬学部

薬学科	学士 (薬学)
薬科学科	学士 (薬科学)
薬学科 (旧課程)	学士 (薬学)
医療薬学科 (旧課程)	学士 (薬学)

2 修 士

文学研究科

哲学・倫理学専攻	修士 (哲学)
美学美術史学専攻	修士 (美学)
史学専攻	修士 (史学)
国文学専攻	修士 (文学) または 修士 (日本語教育学)

中国文学専攻	修士 (文学)
英米文学専攻	修士 (文学)
独文学専攻	修士 (文学)
仏文学専攻	修士 (文学)
図書館・情報学専攻	修士 (図書館・情報学)

経済学研究科

法学研究科

	修士 (経済学)
	修士 (法学), 修士 (公共政策) または修士 (ジャーナリズム)

社会学研究科

社会学専攻	修士 (社会学)
心理学専攻	修士 (心理学)
教育学専攻	修士 (教育学)
商学研究科	修士 (商学)

医学研究科

医科学専攻	修士 (医科学)
-------	----------

理工学研究科

基礎理工学専攻	修士 (理学) または 修士 (工学)
総合デザイン工学専攻	修士 (理学) または 修士 (工学)

開放環境科学専攻	修士 (工学)
----------	---------

経営管理研究科

政策・メディア研究科

政策・メディア専攻	修士 (政策・メディア)
-----------	--------------

健康マネジメント研究科

看護・医療・スポーツ マネジメント専攻	修士 (看護学) または 修士 (健康マネジメント学)
------------------------	--------------------------------

システムデザイン・ マネジメント研究科

システムデザイン・ マネジメント専攻	修士 (システムエンジニアリ ング学) または修士 (システ ムデザイン・マネジメント学)
-----------------------	---

メディアデザイン研究科

メディアデザイン専攻	修士 (メディアデザイン学)
------------	----------------

薬学研究科

薬学専攻	修士 (薬学) または 修士 (医療薬学)
医療薬学専攻	修士 (薬学) または 修士 (医療薬学)

3 博 士

文学研究科

哲学・倫理学専攻	博士 (哲学)
美学美術史学専攻	博士 (美学)
史学専攻	博士 (史学)

国文学専攻	博士（文学）
中国文学専攻	博士（文学）
英米文学専攻	博士（文学）
独文学専攻	博士（文学）
仏文学専攻	博士（文学）
図書館・情報学専攻	博士（図書館・情報学）
経済学研究科	博士（経済学）
法学研究科	博士（法学）
社会学研究科	
社会学専攻	博士（社会学）
心理学専攻	博士（心理学）
教育学専攻	博士（教育学）
商学研究科	博士（商学）
医学研究科	博士（医学）
理工学研究科	
基礎理工学専攻	博士（理学）または 博士（工学）
総合デザイン工学専攻	博士（理学）または 博士（工学）
開放環境科学専攻	博士（工学）
経営管理研究科	博士（経営学）
政策・メディア研究科	
政策・メディア専攻	博士（政策・メディア）
健康マネジメント研究科	
看護・医療・スポーツ マネジメント専攻	博士（看護学）または 博士（健康マネジメント学）
システムデザイン・ マネジメント研究科	
システムデザイン・ マネジメント専攻	博士（システムエンジニアリ ング学）または博士（システ ムデザイン・マネジメント学）
メディアデザイン研究科	
メディアデザイン専攻	博士（メディアデザイン学）
薬学研究科	
薬学専攻	博士（薬学）または 博士（医療薬学）
医療薬学専攻	博士（薬学）または 博士（医療薬学）

4 専門職学位

法務研究科

法務専攻

法務博士（専門職）

- ② 前項第3号に定めるほか博士（学術）の学位を授与することができる。

（学士学位の授与要件）

第2条の2 学士の学位は、大学を卒業した者に与えられる。

（修士学位の授与要件）

第3条 修士の学位は、大学院前期博士課程を修了した者に与えられる。

（課程による博士学位の授与要件）

第4条 博士の学位は、大学院博士課程を修了した者に与えられる。

（論文による博士学位の授与要件）

第5条 博士の学位は、研究科委員会の承認を得て学位論文を提出して論文の審査に合格し、かつ大学院博士課程の修了者と同等以上の学識があることを確認（以下「学識の確認」という。）された者に与えられる。

（専門職学位の授与要件）

第5条の2 専門職学位は、専門職大学院の課程を修了した者に与えられる。

（学識の確認の特例）

第6条 ① 大学院博士課程における教育課程を終え、学位論文を提出しないで退学した者のうち、退学の日から起算して研究科委員会が定める年限以内に論文による博士学位を申請した者については、研究科委員会が適当と認めた場合、学識の確認の一部もしくはすべてを行わないことができる。

② 学位論文以外の業績および経歴の審査によって、研究科委員会が学識の確認の一部もしくはすべてを行う必要がないと認めた場合には、当該審査をもって学識の確認の一部もしくはすべてに代えることができる。

（課程による学位の申請）

第7条 ① 第3条の規定に基づき修士学位を申請する者は、学位論文3部を指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。

② 第4条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部および所定の書類を添え、指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。

（論文による学位の申請）

第8条 第5条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部および所定の書類を添え、その申請する学位の種類を指定して、学長に提出しなければならない。

（審査料）

第9条 第5条の規定に基づき博士学位を申請する者に対する審査料は、次のとおりとする。

- | | |
|--------------------------------------|----------|
| 1 本大学大学院博士課程の教育課程を終え学位論文を提出しないで退学した者 | 50,000円 |
| 2 本大学学士、修士または専門職の学位を与えられた者で前号の定め以外の者 | 70,000円 |
| 3 前2号のいずれにも該当しない者 | 100,000円 |
| 4 本塾専任教職員である者 | 20,000円 |
- （医学研究科については40,000円）

（審査ならびに期間）

第10条 ① 修士および博士の学位論文の審査ならびにこれに関連する試験等の合否は、当該研究科委員会が判定する。

② 博士の学位論文の審査ならびにこれに関連する試験および学識の確認等は、論文受理後1年以内に終了するものとする。

（審査委員会）

第11条 研究科委員会は、学位論文の審査ならびにこれに関連する試験等を行うために、関係指導教授および関連科目担当教授2名以上からなる審査委員会（主査および副査）を設置しこれに当たらせる。ただし、必要がある場合は准教授または専任講師・講師（非常勤）等を特に審査委員会に加えることができる。

（審査結果の報告・判定方法）

第12条 ① 審査委員会は、論文審査の要旨ならびに試験の成績等を記録して研究科委員会に報告し、かつ、その意見を開陳する。

② 研究科委員会は、委員の3分の2以上の出席により成立し、その3分の2以上の賛同をもって学位論文の審査ならびに試験の合否を決定する。

③ 前項の議決は、無記名投票をもって行う。

（学位授与）

第13条 ① 修士または博士の学位は、研究科委員会において

学位論文の審査ならびに試験に合格した者に対し、学長が当該研究科委員会の報告に基づき授与する。

- ② 専門職学位は、当該研究科の修了要件を満たした者に対し、学長が当該研究科委員会の報告に基づき授与する。

(学位論文要旨の公表)

第14条 本大学は博士の学位を授与したとき、当該博士の学位を授与した日から3月以内にその論文の内容の要旨および論文審査の結果の要旨を公表する。

(学位論文の公表)

第15条 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位の授与を受けた日から1年以内にその論文を印刷公表し「慶應義塾大学審査学位論文」と明記するものとする。ただし、学位の授与を受ける前にすでに印刷公表したときはこの限りではない。

(学位の表示)

第16条 学位の授与を受けた者が学位の名称を用いるときは、学位の後にこれを授与した本大学名を「(慶應義塾大学)」と付記するものとする。

(学位の取消)

第17条 不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したとき、または学位を得た者がその名誉を汚辱する行為があったときは、当該研究科委員会および大学院委員会の議を経てその学位を取消すものとする。

(学位記および書類)

第18条 学位記および学位授与申請関係書類の様式は、別表1から別表6までのとおりとする。

(規程の改廃)

第19条 この規程の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。ただし、第2条第1項第1号および第2条の2については大学評議会の議を経てこれを行う。

附 則 (平成20年6月4日)

この規程は平成21年4月1日から施行する。

1-2 学位の授与に関する内規

昭和59年3月16日制定

平成12年5月16日改正

第1条 慶應義塾大学学位規程第13条(学位授与)に関する取り扱いは、この内規の定めるところによる。

第2条 論文博士の学位授与および博士課程単位修得退学者で、再入学しない者に対する課程博士の学位授与に関しては、次の通り行うものとする。

- 1 学位授与日は、研究科委員会の議決日とする。
- 2 研究科委員会が学位論文審査合格を議決した日以降、「学位取得証明書」を発行できるものとする。
- 3 学位の授与手続きは、次の通りとする。
 - イ 研究科委員会の合否判定議決に基づき、研究科委員長はその結果を速やかに学長に報告する。
 - ロ 学長は、研究科委員長の報告に基づき合格者に学位を授与する。
- 4 学位記は、学位授与式において授与する。

第3条 修士の学位授与および博士課程に在学している者に対する課程博士の学位授与に関しては、前第2条第3号と同様の手続きを経て、当該年度末(3月23日)をもって学位を授

与する。

② 前項の規定にかかわらず、修士課程においてあらかじめ研究科委員会の承認を得て、学位論文を提出締切期日までに提出せず、次年度も引き続き在学している者が、研究科委員会の特に認めた期日までに学位論文を提出し、課程修了を認定された場合には、春学期末日をもって学位を授与することができる。

③ 第1項の規定にかかわらず、後期博士課程(医学研究科にあっては博士課程)に在学する者で、大学院学則第109条第3項のただし書(医学研究科については同条第4項のただし書)の適用を受け、春学期末日をもって課程修了を認定された場合には、当該春学期末日をもって学位を授与することができる。

④ 前項の規定にかかわらず後期博士課程(医学研究科にあっては博士課程)に在学する者で、大学院学則第109条第3項のただし書(医学研究科については同条第4項のただし書)の適用を受け、在学する年度途中において特に課程修了を認定された場合には、認定された日をもって学位を授与することができる。

⑤ 第1項の規定にかかわらず、「大学院在学期間延長者取扱内規」により在学する者が、春学期末日をもって課程修了を認定された場合には、当該春学期末日をもって学位を授与することができる。

⑥ 前項の規定にかかわらず、「大学院在学期間延長者取扱内規」により在学する者が、在学する年度途中において、特に課程修了を認定された場合には、認定された日をもって学位を授与することができる。

⑦ 学位記は、学位授与式において授与する。

第4条 学長は、学位を授与した者の氏名その他必要事項を取りまとめて、年2回大学院委員会の各委員に報告しなければならない。

第5条 この内規の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。

附 則 (平成12年5月16日)

この内規は、平成12年4月1日から実施する。

2 奨学金

2-1 大学院奨学規程

平成2年4月13日制定

平成20年3月11日改正

第1章 総 則

(根拠)

第1条 慶應義塾大学は、慶應義塾大学大学院学則(大正9年5月5日制定。以下「大学院学則」という。)第16節奨学制度に基づき、貸費および給費の奨学制度を置く。

(奨学金の種類・金額)

第2条 ① 奨学金の種類は、次のとおりとする。

1 貸費奨学金(無利子) 修士課程(前期博士課程)学生対象(ただし、外国人留学生を除く。)

2 給費奨学金 後期博士課程(以下「博士課程」という。)学生、医学研究科博士課程学生、私費外国人留学生対象

② 前項に定める奨学金の年額は、次のとおりとする。ただし、

私費外国人留学生は半額とする。

- | | |
|--|-----------|
| 1 文, 経済, 法, 社会, 商学研究科 | 400,000 円 |
| 2 医学, 経営管理, 健康マネジメント,
システムデザイン・マネジメント,
メディアデザイン研究科 | 600,000 円 |
| 3 理工学, 政策・メディア, 薬学研究科 | 500,000 円 |

第2章 貸費生

(資格)

第3条 貸費生の資格は、大学院修士課程の学生（ただし、外国人留学生を除く。）とし、次の条件を備えていなければならない。

- 1 研究の意欲を持ち、経済的に修学が困難であること。
- 2 学業成績・人物共に優秀で健康であること。
- 3 原則として、修士課程1年生であること。

(期間)

第4条 貸費の期間は、大学院学則に定める修士課程標準修業年限の2か年とする。ただし、修士課程2年生が貸費生に採用された場合は、1か年とする。

(申請)

第5条 貸費を受けようとする者は、所定の申請書に学業成績証明書、健康診断書および連帯保証人等の所得証明書を添えて、学生総合センターに申請するものとする。

(選考)

第6条 貸費生は、第3条の条件により選考する。

(決定)

第7条 前条による選考は、別に定める大学院奨学委員会（以下「委員会」という。）において行い、塾長がこれを決定する。（家計急変者に対する救済措置等）

第8条 天災その他の災害および家計支持者の死亡、失職等のため家計が急激に変化し、学費の納入が困難になった者等若干名については、第3条第3号の規定にかかわらず、貸費生として追加採用することができる。

(誓約書)

第9条 貸費生として決定された者は、所定の誓約書を連帯保証人と連署の上、学生総合センターに提出しなければならない。

(身分等変更の届出)

第10条 貸費生は、次の各号に該当する場合は、直ちに学生総合センターに届け出なければならない。ただし、本人の病気・死亡などの場合は、連帯保証人が代わって届け出なければならない。

- 1 休学, 留学, 就学, 退学
- 2 本人および連帯保証人の氏名, 住所, その他重要事項の変更

(貸与の休止)

第11条 委員会は、貸費生が休学・留学した場合、その間貸費生の資格を休止することができる。

(貸与の復活)

第12条 前条の規定により貸費生の資格を休止された者が、休止の理由となったものが消滅した場合、委員会は、申請により貸与を復活することができる。ただし、休止された時から3か年を経過したときは、この限りではない。

(失格)

第13条 委員会が次の各号により不適格と認めた場合、貸費生はその資格を失う。

- 1 大学院学則に基づく退学, 停学の場合

- 2 申請書および提出書類の記載内容に虚偽があった場合
- 3 正当な理由がなく第10条に定める届け出を怠った場合
- 4 その他貸費生として不適当と認められた場合

(貸与の辞退)

第14条 貸費生は、いつでも貸与を辞退することができる。この場合には、連帯保証人と連署の届出書を、学生総合センターに提出しなければならない。

(貸与金借用証書の提出)

第15条 貸費生が次の各号に該当する場合は、貸与金借用証書に貸与金返還総額等を記載し、連帯保証人および保証人と連署の上、学生総合センターに提出しなければならない。連帯保証人および保証人の使用する印鑑については、印鑑証明を必要とする。

- 1 貸与期間が満了した場合
- 2 貸与を期間中に辞退した場合
- 3 第13条による失格の場合

(貸与金の返還)

第16条 ① 貸与金の返還は、原則として貸与が終了した年の12月から毎年1回の年賦とし、貸与年数の4倍の年数以内に全額を返還するものとする。ただし、貸与金はいつでも繰り上げ返還することができる。

② 第13条による失格者については、貸与金の全額を直ちに返還しなければならない。

(返還猶予)

第17条 ① 貸費生であった者が次の各号に該当する場合には、委員会は、本人の申請により貸与金の返還を猶予することができる。

- 1 災害または疾病により返済が困難となった場合
- 2 貸与期間終了後、引き続き修士課程に在学している場合
- 3 修士課程修了後、博士課程進学を目指している場合

② 前項の規定にかかわらず、委員会は、その理由が相当であると認めるときは、申請により貸与金の返還を猶予することができる。

③ 返還猶予期間は1か年とするが、返還猶予の理由が存続する場合は、第1項第3号に基づく場合を除いて、申請により1年ごとに延長することができる。ただし、原則として3か年を超えて延長することはできない。

(返還免除)

第18条 ① 貸費生であった者が次の各号に該当する場合には、委員会は、本人または連帯保証人の申請により、貸与金の全部または一部の返還を免除することができる。

- 1 博士課程に進学し、学位を取得した場合、あるいは博士課程に3年以上在学して所定の単位を取得し退学した場合。ただし、博士課程を途中で退学した者については免除を認めない。
- 2 貸与金返還完了前に死亡した場合。この場合には、連帯保証人または相続人は、死亡時から6か月以内に、貸与金返還免除申請書を、死亡診断書または戸籍抄本を添えて、学生総合センターに提出しなければならない。

② 前項の規定にかかわらず、委員会は、その理由が相当であると認めるときは、申請により貸与金の全部または一部の返還を免除することができる。

第3章 給費生

(資格)

第19条 給費生の資格は、大学院博士課程学生および私費外国人留学生とし、次の条件を備えていなければならない。

- 1 研究の意欲を持ち、経済的に修学が困難であること。
- 2 学業成績・人物共に優秀で健康であること。

(期間)

第20条 給費の期間は、1か年とする。引き続き給費を希望する場合、再申請は妨げないが、3か年（医学研究科は4か年）を超えて給費を受けることはできない。

(申請)

第21条 給費を受けようとする者は、所定の申請書および必要書類により、学生総合センターに申請するものとする。

(選考)

第22条 給費生は、第19条の条件により選考する。

(決定)

第23条 前条による選考は、委員会において行い、塾長がこれを決定する。

(身分等変更の届出)

第24条 給費生は、次の各号に該当する場合は、直ちに学生総合センターに届け出なければならない。ただし、本人の病気・死亡などの場合は、保証人が代わって届け出なければならない。

- 1 休学、留学、退学
- 2 本人および保証人の氏名、住所、その他重要事項の変更

(失格)

第25条 委員会が次の各号により不適格と認めた場合、給費生はその資格を失う。

- 1 大学院学則に基づく休学、退学、停学の場合
- 2 申請書および提出書類の記載内容に虚偽があった場合
- 3 正当な理由がなく前条に定める届け出を怠った場合
- 4 その他給費生として不適当と認められた場合

(返還)

第26条 ① 給費生が前条の規定により給費生としての資格を失った場合は、すでにその年度に給付された金額の全部または一部を返還しなければならない。委員会は、この場合の返還方法を、審査の上で定める。

② 前項の規定にかかわらず、次の各号に該当する場合は、委員会は、申請によりすでに給付された奨学金の全部または一部を返還を免除することができる。

- 1 死亡した場合
- 2 前条第1号の規定により、給費生として資格を失った場合

(事務)

第27条 本制度の運営事務は、学生総合センターの所管とする。

(規程の改廃)

第28条 この規程の改廃は、委員会の議を経て、塾長が行う。

附 則（平成20年3月11日）

- ① この規程は、平成20年4月1日から施行する。
- ② 旧・慶應義塾大学大学院奨学規程は、平成20年3月31日をもって廃止する。

2-2 小泉信三記念大学院特別奨学金規程

昭和52年4月12日制定

平成16年3月15日改正

第1条 小泉信三記念奨学金規程（昭和52年4月12日制定）第2条第1号に基づき、研究者の養成を目的として大学院に特別奨学金による奨学研究生を置く。

第2条 奨学研究生は、学部第4学年に在学し大学院への進学を志願する学生、または大学院に在学する学生の中から、これを選考する。

第3条 奨学研究生の選考は、各研究科委員会の推薦により、小泉基金運営委員会の議を経て学長がこれを決定する。

第4条 奨学研究生には特別奨学金として、月額30,000円を給付し、その期間は1年とする。ただし、審査の上、この期間を更新することができる。

第5条 この特別奨学金規程に関する事務は、研究支援センター本部が担当する。

第6条 この規程に関する細則は別に定める。

附 則（平成16年3月15日）

この規程は、平成16年3月15日から施行する。

2-3 小泉信三記念大学院特別奨学金規程施行細則

昭和52年4月12日制定

平成16年3月15日改正

第1条 小泉基金運営委員会委員長は、毎年奨学研究生を公募する。

第2条 奨学研究生は、大学院に在学し、次に掲げる各号の条件を備えていなければならない。

- 1 学業成績・人物共に優秀であること。
- 2 将来、研究者たり得る資質ありと認められること。
- 3 健康であること。

第3条 奨学研究生を志望する者は、次の書類を整えて、保証人連署の上、研究支援センター本部に提出しなければならない。

- 1 願 書
- 2 履歴書
- 3 成績証明書 大学学部1年から申請時までの成績証明書
- 4 健康診断書

第4条 各研究科委員会は、奨学研究生を志望した者について審議し、順位を付して小泉基金運営委員会に推薦しなければならない。

第5条 奨学研究生は、次の理由により身分に変更を生じた場合は、保証人連署の上、直ちに学長に届け出なければならない。

- 1 休学・復学・退学
- 2 本人および保証人の身分・住所その他重要事項の変更。ただし、本人が病気・死亡等の場合は、保証人が代って届け出なければならない。

第6条 小泉基金運営委員会が、次の理由により不適格と認めた場合は、奨学研究生としての資格を失うものとし、すでに支給した奨学金の全部もしくは一部を返還させることがある。

- 1 この奨学金設定の趣旨に反し、かつ塾生としての本分にもとる行為があった場合
- 2 提出書類に虚偽の記載をした場合
- 3 正当な理由なく前条に定める届け出を怠った場合

第7条 奨学研究生が退学した場合は、給付を打ち切るものとする。

附 則（平成16年3月15日）

この細則は、平成16年3月15日から施行する。

3 授業料減免

3-1 授業料等減免規程

平成元年7月18日制定

平成20年12月16日改正

（目的）

第1条 慶應義塾大学は、疾病・傷害によって授業を長期にわたり休学している学部学生ならびに大学院生で、経済上授業料等（大学院にあつては在学科等。以下「授業料等」という。）の納入が著しく困難な学生に対し、審査のうえ、一定の期間授業料等を減免することができる。

（対象）

第2条 ① 減免を受けようとする者は、1年以上の長期にわたり入院または通院している者ならびに自宅療養をしている者で、休学の2年目以降の者でなければならない。

② 母国において兵役義務により休学する者。この場合に限り1年目から減免する。

③ 法務研究科（法科大学院）については別に定める。

（申請）

第3条 前条に該当する者が減免を申請する場合は、所定の申請書に休学許可書、診断書ならびに家計支持者の所得を証明する書類を添えて、学生総合センター長に提出しなければならない。

（減免額）

第4条 ① 減免を認められた者の減免額は、文学部、経済学部、法学部、商学部、文学研究科、経済学研究科、法学研究科、社会学研究科、商学研究科、政策・メディア研究科、システムデザイン・マネジメント研究科およびメディアデザイン研究科については当該休学期間の授業料等の半額、医学部、理工学部、総合政策学部、環境情報学部、看護医療学部、薬学部、医学研究科、理工学研究科、経営管理研究科、健康マネジメント研究科および薬学研究科については当該休学期間の授業料等の半額および当該休学期間の実験実習費の半額とする。

② 正課または課外活動中の事故による傷害で休学している場合、その事由を斟酌し、減免額を全額とすることができる。

③ 母国において兵役義務により休学する場合は、当該休学期間の授業料等の全額を免除する。

（審査）

第5条 第1条による審査は、大学学部生については大学奨学委員会、大学院生については大学院奨学委員会が行い、塾長が決定する。

（減免の取消し）

第6条 休学者が虚偽の申請その他不正の方法で減免を受けた場合には、減免の措置を取り消すとともに、すでに減免を受

けた授業料等の全部または一部を納入させることができる。

（就学の届出）

第7条 休学者が就学した時は、速やかに書面をもってその旨学生総合センター長に届け出なければならない。

（規程の改廃）

第8条 この規程の改廃は、大学奨学委員会ならびに大学院奨学委員会の議を経て、塾長が決定する。

（所管）

第9条 この規程の運営事務は、学生総合センターの所管とする。

附 則（平成20年12月16日）

① この規程は、平成21年度以降学部に入学者（第2学年編入学については平成22年度以降、第3学年編入学については平成23年度以降に入学者）には適用しない。

② この規程は、平成21年4月1日から施行する。

3-2 留学期間中の学費の取り扱いに関する規程

平成元年5月23日制定

平成21年1月13日改正

第1条 慶應義塾大学学部学則（大正9年5月5日制定）第153条および慶應義塾大学大学院学則（大正9年5月5日制定）第124条により外国の大学に留学する学生の学費に関する取り扱いは、この規程の定めるところによる。

第2条 留学期間中の学費の取り扱いは、次のとおりとする。

1 留学の始まる日（以下「留学開始日」という。）の属する年度の学費は納入するものとする。ただし、留学の奨励を図るため、別に定めるところにより、留学に要する経費の一部を補助することがある。

2 留学の延長が認められ、その許可された延長期間が留学開始日から起算して1年6か月以上2年以内（医学研究科博士課程は2年6か月以上3年以内）の場合は、留学開始日から1年（医学研究科博士課程は2年）を経過した日の属する年度の授業料（在学科）および実験実習費の半額を免除する。

3 留学の再延長が認められ、その許可された延長期間が留学開始日から起算して2年6か月以上3年以内（医学研究科博士課程は3年6か月以上4年以内）の場合は、留学開始日から2年（医学研究科博士課程は3年）を経過した日の属する年度の授業料（在学科）および実験実習費の半額を免除する。

第3条 前条にかかわらず、学部または大学院在学中に私費により留学する場合は別に定める。

第4条 学費の相互免除が含まれる交換協定による留学（ダブルディグリープログラムを含む）については、第2条第2号および第3号は適用しない。

第5条 留学生在が留学の許可を取り消された場合は、その間に免除した学費の一部または全額を納入させることがある。

第6条 この規程の適用に当たり疑義を生じた場合は、その都度塾長が決定する。

第7条 この規程の改廃は、塾長がこれを決定する。

附 則（平成21年1月13日）

① この規程は、平成21年4月1日から施行する。

- ② この規程は、大学院生および平成20年度以前学部に入学者（第2学年編入学については平成21年度以前、第3学年編入学については平成22年度以前に入学者）に適用する。ただし、平成20年9月入学者については平成21年9月から適用する。
- ③ 平成21年4月1日以前に留学が開始した学部在学中の者については、第3条は適用外とする。

3-3 大学院生が私費により留学した場合の学費の取り扱いに関する内規

平成18年3月24日制定

第1条 「留学期間中の学費の取り扱いに関する規程」第3条については、この内規の定めるところによる。

第2条 大学院生が私費により留学した場合の学費の取扱いは次のとおりとする。

〈取扱単位〉

1 留学期間は学期（春学期・秋学期）を単位として取り扱う。

〈対象学期〉

2 減免の対象となる学期とは留学により在学しなかった学期とする。

〈減免額〉

3 前項で減免の対象となった学期の属する年度の在学科および実験実習費について、年額の4分の1を各学期において免除する。

〈減免期間〉

4 免除される期間は最長6学期までとする。ただし、留学期間中に交換または奨学金による留学が含まれる場合は、その期間に該当する学期を含んで6学期までとする。

第3条 この内規の改廃は、大学院委員会の議を経て塾長がこれを決定する。

附 則

- ① この内規は平成18年4月1日から施行する。
- ② この内規は、留学開始日が平成18年4月1日以降の者に適用する。
- ③ この内規の施行前、すでに留学を許可され留学している者の学費については、「留学期間中の学費の取り扱いに関する規程」第2条第1項～3項を適用する。

4 その他

4-1 大学院在学期間延長者取扱い内規

昭和59年3月16日制定

第1条 本塾大学大学院後期博士課程（医学研究科にあっては博士課程）において、当該課程修了要件のうち学位論文の審査並びに最終試験を除き所定の教育課程を終えた後、引続き博士學位取得のため在学する者の取扱いは、この内規の定めるところによる。

第2条 在学期間延長を希望する者は、指導教授の許可を得て研究科委員会に「在学期間延長許可願」を提出し、承認を得なければならない。

第3条 研究科委員会は、研究継続の必要性等在学を延長する

十分な理由があると認め、かつ教育並びに研究に支障のない場合、大学院学則第128条に定める在学最長年限を超えない範囲で、引続き1年間（4月1日～翌年3月31日）の在学を許可できるものとする。

第4条 在学期間延長者が延長期間終了後も引続き在学を希望するときには、新たに「在学期間延長許可願」を提出し、研究科委員会の承認を得なければならない。

第5条 学則定員その他の理由から延長が認められない場合は、大学院学則第153条に定める研究生として受け入れることができる。

附 則

第1条 この内規は、昭和59年4月1日から施行する。

第2条 この内規は、昭和58年度以降に医学研究科博士課程に入学者並びに昭和60年度以降に後期博士課程に入学者又は進学した者に適用する。

第3条 附則第2条の規定にかかわらず、博士課程所定単位修得退学者に対して課程による学位論文提出年限を「博士學位に関する内規」に沿って定めている研究科に在学する者については、昭和59年4月1日からこの内規を適用することができる。

第4条 この内規の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。

4-2 大学院在学期間延長者並びに年度途中の修了者に対する在学科その他の学費に関する取扱内規

昭和59年3月30日制定

平成8年3月8日改正

第1条 本塾大学大学院において「学位の授与に関する内規」第3条第2項若しくは第3項により第1学期末日をもって課程修了する者の学費は、次の通りとする。

1 在学科（毎年）

大学院学則第131条に定める金額の2分の1に相当する額

2 施設設備費（毎年）

大学院学則第131条に定める金額

3 実験実習費（毎年）

大学院学則第132条に定める金額

第2条 本塾大学大学院後期博士課程（医学研究科にあっては博士課程）において「大学院在学期間延長者取扱い内規」による在学期間延長者の学費は、次の通りとする。

1 在学科（毎年）

大学院学則第131条に定める金額の4分の3

2 施設設備費（毎年）

免除

3 実験実習費（毎年）

大学院学則第132条に定める金額

② 在学期間延長者が「学位の授与に関する内規」第3条第4項および第5項により年度途中の日をもって課程修了する場合の在学科は、その課程修了の日が第1学期末日までの者に限り、前項に定める金額の2分の1に相当する額。

第3条 「大学院在学期間延長者取扱い内規」第5条による研究生は、大学院学則第153条第2項に定める登録料を免除し、

初年度に限り選考料を徴収しない。

附 則

第1条 この内規は、平成8年4月1日から施行する。

第2条 この内規の修士課程に係る本則第1条については、昭和59年4月1日から適用する。

第3条 この内規の後期博士課程（医学研究科にあつては博士課程）に係る本則第2条及び第3条については、昭和58年度以降に医学研究科博士課程に入学した者並びに昭和60年度以降に後期博士課程に入学又は進学した者に適用する。

② 前項の規定にかかわらず、博士課程所定単位修得退学者に対して課程による学位論文提出年限を「博士学位に関する内規」に沿って定めている研究科に在学する者については、昭和59年4月1日からこの内規を適用することができる。

第4条 この内規の改廃は、塾長が決定する。

学位請求論文製本表紙見本

(1) 表紙

〇〇論文 平成〇年度 (20〇〇)
論 題
慶應義塾大学 大学院 文学研究科 〇〇〇専攻 〇〇〇分野
氏 名

(2) 背表紙

	} 1.0 cm
20〇〇	
	} 1.0 cm
〇 〇 論文	
	} 1.0 cm
論 題	
氏 名	} 5.0~6.0 cm

※ 論文を提出される際は、「第8 履修要項」の「2 学位請求論文の提出について」も参照してください。

塾生、保護者・保証人の方々にかかわる個人情報の取扱い

- 1 義塾の学生・生徒・児童等の主な個人情報は、次のとおりです。
 - ① 塾生本人の氏名・住所・電話番号・生年月日・出身校等
 - ② 保護者・保証人の氏名・住所・電話番号(自宅および緊急連絡先)・本人との続柄等
 - ③ 塾生等の学籍・成績・健康診断・在学中のその他の活動履歴情報、寄付金・慶應カードの申し込みデータなど
- 2 個人情報を取り扱うに当たっては、あらかじめ利用目的を特定し、明示いたします。特定した利用目的以外には利用しません。また、利用目的を変更する場合は、本人に通知するか、義塾のホームページへの掲載、所定掲示板への掲示等により公表いたします。
- 3 個人情報は、以下の諸業務遂行のために利用します。
 - ① 入学手続および学事に関する管理、連絡および手続
 - ② 学生生活全般に関する管理、連絡および手続き
 - ③ 大学内の施設・設備利用に関する管理、連絡および手続
 - ④ 寄付金、維持会・慶應カードの募集等に関する書類発送およびその他の連絡
 - ⑤ 本人および保護者・保証人に送付する各種書類の発送
 - ⑥ 卒業後の刊行物の発送、評議員選挙および寄付金・維持会・慶應カードの募集等に関する各種書類送付とこれらに付随する事項
- 4 上記3の業務のうち、一部の業務を慶應義塾から当該業務の委託を受けた受託業者において行います。業務委託に当たり、受託業者に対して委託した業務を遂行するために必要となる範囲で、個人情報を提供することがあります。
- 5 三田会または同窓会から要請があったときは、当該三田会または同窓会に所属する者の個人情報を当該組織の活動に必要な範囲で提供することがあります。
- 6 慶應義塾は、上記3～5の利用目的の他には、特にお断りする場合を除いて個人情報を利用もしくは第三者への提供をいたしません。ただし、法律上開示すべき義務を負う場合や、塾生本人または第三者の生命、身体、財産その他の権利利益を保護するために必要であると判断できる場合、その他緊急の必要があり個別の承諾を得ることができない場合には、例外的に第三者に個人情報を提供することがあります。
- 7 慶應義塾の個人情報保護に関する規程は、URL(http://www.keio.ac.jp/ja/personal_information/index.html)でご覧頂くことができます。